

博士論文

デザイン要素分析による
杉本貴志の商環境デザイン作品のインテリア特性研究
Research on Interior Characteristics of Takashi Sugimoto's Commercial Environmental
Design Works Through Design Element Analysis

2024年

安井秀夫

凡例

- (1) 本論文は、序説（第1章）、本論（第2章～第5章）、結論（第6章）からなる。
- (2) 各章ごとに注記、図、表を挿入し、注記は章末にまとめた。
- (3) 文中の図、表は次の様に [] に示す。

章番 図番

図 [図1-1]

表 [表1-1]

- (4) 年代表記は、西暦を主とした。
- (5) 参考文献からの引用は、文末にまとめた。
- (6) 図における説明図は参考文献から引用したものは、筆者が作成したものとは、区別して特記した。

デザイン要素分析による 杉本貴志の商環境デザイン作品のインテリア特性研究

論文要旨

現代の日本において、インテリアデザインは人々の生活に深く根付き、生活環境全体にまで影響を及ぼす重要な要素となっている。その中で、日本のインテリアデザインは、世界的にも高い評価を受け、国際的な舞台でその存在感を増している。しかし、この進化と拡大に伴い、インテリアデザインの本質と役割についての理解が深まっていない現実も存在しているのが現実であり、「モノ」のデザインから「コト」のデザインへの変革が進行し、単なる物理的な空間や家具のデザインにとどまらず、人々の経験やライフスタイルに焦点を当てたデザインが求められてきている。これにより、インテリアデザインの職能が従来の枠組みを超えて拡大し、その存在が社会的に重要視されていくと考える。

インテリアデザインは、単なる美的な要素であることを超えて、人々の生活や社会に対する深い影響力を持つ重要な分野であると認識されている。その本質を明らかにし、適切に活用することにより、より持続可能で意味のある生活環境を創り出すことが可能となると考える。

しかしながら、この急速な発展に対応するインテリアデザインの研究や理論の整備において「住環境デザイン」に関する研究は深まっているが、商業施設全体の「商環境デザイン」に関しての研究は進んでいない。このような課題を解決するためには、日本のインテリアデザインの歴史を詳細に検証し、「商環境デザイン」の本質を分析し、その価値を明確にすることが重要であると考えられる。

よって本研究では、日本のインテリアデザイナーの職能が成立し、急速な成長に対してカンブリア紀と呼ぶに相応しい高度成長期から現在までの半世紀に渡ってインテリアデザイン界を先導してきたインテリアデザイナー杉本貴志に着目し、商環境作品を研究対象とする。研究対象とする作品には、研究が遅れている「商環境デザイン」の分野に絞り、作品のインテリア特性を明らかにし研究することを目的とした。インテリア雑誌『商店建築』に、1972年から2018年までに杉本が作品を発表した全作品117作品を研究対象とし、空間構成、素材、照明および環境生成化の視点から作品の構成要素を抽出し、そのデータを用いて作品分類を行う。

本篇は第1章から第6章までで構成されている。

第1章「序説」では、インテリアデザインの概要、歴史的背景、日本のインテリアデザイナーの世代分けによる杉本の位置付け、先行研究について述べ、本研究の目的を示し、その意義を明らかにした。研究の対象を杉本の商環境デザイン作品とする理由を説明し、商業施設は経済との関係が強いことを鑑み、研究の対象時期をバブル経済崩壊の前期と後期に分けて研究することを述べた。

第2章「方法」では、研究対象と研究方法について述べた。杉本がインテリアデザイン専門誌『商店建築』誌に商環境デザイン作品を発表した全117作品のデータを収集して整理したうえでデータシートを作成し、商環境デザイン作品のデザイン要素を抽出した。抽出するデザイン要素は「空間構成要素」「空間仕上要素」「空間設計要素」の3つの要素とし、これらの出現頻度を用いて作品特性の把握、クロス集計・多変量解析による作品分類を行い、杉本作品の類型化と時代的特性および商環境での位置付けを試みた。

第3章の「結果」では、抽出したデザイン要素の出現表の一覧表を前期、後期に分けて分析結果を得た。すなわち、要素出現表を用い数量化Ⅲ類による分析を行い得点化し、クラスター分析を行った。その結果、分類された前期作品は5群、後期作品は10群に分類され、その作品群ごとにデザイン要素との影響関係を示した。

第4章の「考察」では、クラスター分析により分類された作品群ごとに作品のインテリア特性について考察を行い、杉本の商環境デザイン作品の持つ特性を、前期と後期について明らかにした。前期はグリッドを採用したデザインから始まり、それからの離反や芸術家との協働などの手法を経て、独創的手段や材料による独自の編集手法に至ることを示した。後期にはバブル経済崩壊の影響を受け、既存や経済的素材など多様な要素を用いた新しい編集手法が展開され、大規模な空間への適用手法としても明らかになった。さらに作品群の時代推移とインテリア特性との関係も示した。

第5章の「総合的考察」では、杉本の商環境デザイン作品の時代的に3つの大きな分岐点があることを導き、4つの期間に分類して、杉本が影響を受けたと思われる事象とそれに関わるインテリア特性を解明した。さらに、杉本が半世紀に渡って第一線のインテリアデザイナーで君臨できた要因を示し、杉本の至ったインテリアデザイナーの職能について考察した。

第6章では、各章で得られた知見を総括し結論とし、本研究の課題と今後の展望を述べている。

目次

第1章 序説	1
第1節 背景	2
1. 1 日本のインテリアデザインについての概要	2
1. 2 日本のインテリアデザインの歴史的背景	4
1. 3 インテリアデザイナーの世代分けによる杉本貴志の位置付け	7
第2節 研究の目的	9
第3節 先行研究	11
第2章 研究方法	17
第1節 研究対象作品の抽出方法および研究範囲の定義	18
第2節 研究対象作品データの収集と整理	19
第3節 商環境デザインを構成するデザイン要素	24
2. 3. 1 商環境デザインを構成する要素の抽出方法	24
2. 3. 2 空間構成要素	26
2. 3. 3 空間仕上要素	30
2. 3. 4 空間設計要素	33
第4節 デザイン要素の出現状況による作品の分析方法	36
第5節 第2章のまとめ	37
第3章 結果	39
第1節 1972年～1989年までの前期作品（作品番号P1～P62）	40
3. 1. 1 研究対象作品	40
3. 1. 2 デザイン要素抽出結果	54
3. 1. 3 クラスタ分析による作品分類	57
3. 1. 4 分類された前期作品の各群のデザイン要素	63
第2節 1990年～2018年までの後期作品（作品番号L1～L55）	67
3. 2. 1 研究対象作品	67
3. 2. 2 デザイン要素抽出結果	79
3. 2. 3 クラスタ分析による作品分類	82

3. 2. 4 分類された後期作品の各群のデザイン要素	90
第3節 第3章のまとめ	95
第4章 前期作品と後期作品の比較考察	97
第1節 1972年～1989年までの前期作品(作品番号P1～P62)	98
4. 1. 1 分類された前期作品の特性	98
4. 1. 2 前期作品 分類された群の年代的位置付けとデザイン特性	110
第2節 1990年～2018年までの後期作品(作品番号L1～L55)	114
4. 2. 1 分類された後期作品の特性	114
4. 2. 2 後期作品 分類された群の年代的位置付けとデザイン特性	126
第3節 1989年バブル経済崩壊前後の前期、後期作品の比較検討	130
4. 3. 1 バブル経済崩壊前後の前期、後期作品の比較と位置付け	130
4. 3. 2 各作品ごとのデザイン要素数による時代的比較	130
4. 3. 3 前期作品と後期作品の比較と相違点	134
第4節 第4章のまとめ	136
第5章 商環境デザインとしての考察	141
第1節 杉本作品の商環境デザインとしての考察	142
5. 1. 1 杉本作品の商環境デザインの時代的位置付けと意義	142
5. 1. 2 1989年バブル経済崩壊前後の前期、後期作品の総合的考察	142
5. 1. 3 バブル経済崩壊後の経済低迷期における杉本の商環境デザイン 作品の考察	150
5. 1. 4 バブル経済崩壊後の景気回復におけるインテリアデザイナー のデザイン領域、職能の変化	153
第2節 第5章のまとめ	156
第6章 結論	159
第1節 総括	160
第2節 今後の課題と展望	163

参考文献一覽	165
既発表論文一覽	170
謝辞	171
資料編		

第1章
序説

第1節 背景

1. 1 日本のインテリアデザインについての概要

現在の日本のインテリアデザインは、人々の生活を豊かにし、暮らしの質の向上に寄与するものとして一般に重視されるようになってきている。

戦後の高度成長期を経て豊かになった生活に密着した今日のインテリアデザインの領域は広く、インテリアデザインが対象とする空間の範囲は、住宅をはじめオフィス、ホテル、学校、公共施設、レストラン、店舗等に留まらず電車、船、航空機、自動車など、人の生活に密着した空間全てに及んでいる¹⁾。インテリアデザインの領域を表1-1にて示す。

各種建築の外観、環境デザイン同様に、内部空間のデザインであるインテリアデザインは住環境を豊かにするだけでなく、生活を取り巻く環境の向上のために各種施設の機能と一体化したインテリアデザインが重要になっている。

また、ハウスメーカーの商品としての住宅やマンションのインテリアデザインは、顧客の購買のための商品価値を高める重要な要素にもなっており、働くオフィス環境に於けるインテリアデザインは、労働環境の快適化や生産性の向上なども含めオフィスランドスケープの形成や働き方改革などとの関係も重視されている。

内堀（2010）によれば、「今日のインテリアデザインでは、多様化した現代生活に於いて、生活を文化的に向上させ、機能的で快適なインテリア空間を演出することが大切である」と、空間のデザインとしてインテリアデザインの重要性を説いている²⁾。

また、インテリアデザインの教科書（1993）では、日本でインテリアデザインが必要になった理由を「高度成長期を経て我々の生活は物質的、経済的に豊かになり、衣生活、食生活の次いで住生活が注目されるようになった。画一化に対する個性化への要求が、インテリアや設備の充実より住まいの内部に向けられるようになった」と説明し、生活が量より質へと変わり、生活への感性がもためられるようになったことを教えている³⁾。

建築の一部として求められてきたインテリアデザインは、今では生活の質の向上と共に、美的な装飾や一般的な機能を満たすだけでなく、図1-1に示すように建築と一体となってデザインされることが求められている。また、持続可能な社会では、建築家の職能と同様にインテリアデザイナーの職能の向上が重要となっている。

商環境デザインの概念は、建築空間全般の内部空間を機能的、美的に設計、デザインするインテリアデザインの一部であり、表1-1の番号2で示すように商業的な活動が行われる商業施設における内部空間の設計、デザインすることである。商環境デザインの定義は、店舗機能と商環境機能に分けられ、前者は、商業活動を支える店舗内の個々の機能で

あり、後者は個々の店舗の環境全般の機能である。商環境デザインは、商業施設の各店舗のデザインを含んだ内部空間全般のデザインである。

表1-1 インテリアデザイン領域 (著者作成)

番号	用途	内容
1	住宅	一般的な家屋やアパートメント、マンション、別荘の内部空間のデザイン。リビングルーム、寝室、キッチン、バスルームなど、個々の部屋や全体の配置や装飾が含まれる。
2	商業施設	物販店舗、飲食店舗、宿泊施設、結婚式場などの商業施設の内装デザイン。ブランドイメージや顧客の体験を考慮して、効果的な空間を創造する。
3	働施設	オフィス、工場、役所、研究所、銀行など、働く人が機能的で快適に過ごせる空間設計
4	医療施設	病院、クリニック、歯科医院、介護施設、老人ホームなどの医療施設の内部デザイン。患者の快適さや効率性を重視した設計が求められる。
5	教育施設	学校、大学、幼稚園などの教育施設の内装デザイン。教育環境に適したデザインや学習効率を高める工夫が必要。
6	公共施設	図書館、美術館、劇場、コンサートホールなどの公共施設のデザイン。訪問者の文化的な体験や快適な滞在を考慮したデザインが重要。
7	屋外空間	公園、屋外公共空間、ベランダ、テラス、庭園などの屋外空間のデザイン。屋外の環境を活かし、機能的かつ美しい空間を作り出す。
8	展示会・イベント	展示会ブースやイベントスペースのデザイン。製品やコンセプトを引き立てる効果的なデザインが求められる。
9	リノベーション	既存の建物や空間の改装・再生プロジェクト。歴史的な要素を保持しつつ、新しい用途に合ったデザインを提供する。
10	交通施設	自動車、電車、旅客機、客船など、交通機関の内部空間を快適に過ごせるデザイン。

建築・乗物の内部の環境を形成するデザイン行為全般

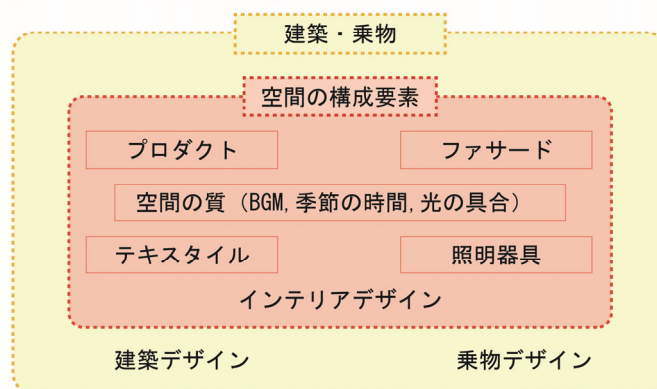


図1-1 インテリアデザイン領域の概念図 (著者作成)

1. 2 日本のインテリアデザインの歴史的背景

各種施設の中でも住空間は、早くからインテリアデザインの対象となった。商業施設の商環境に於いては、当初は「商い」としての機能が優先されインテリアデザインは重視されていなかった⁴⁾。現在では物販・飲食等の商環境デザインは商業活動に密着した経済的な効果だけではなく、一般生活とは切り離せないものになってきている。

しかしながら、商環境デザインに関しては、建築設計と分離されて考えられている現実が見られ、生活に密着した住空間やオフィス空間の室内意匠設計、家具そして機能性を空間に与える設備環境の設計、研究は建築設計と密接に関係して広く研究されているが、トータルなデザインとしての実践、開発そして研究が進んでいない。その理由は、商環境デザインの歴史が浅いことと、建築設計の一部の装飾としての認識や付帯工事として位置付けが行われてきたためであるとされる⁵⁾。

鈴木（2013）によれば一人の建築家が建築の室内も設計することが望ましいという考え方が建築家側にあり、インテリアデザインは、装飾系の仕事であるという考えがあると思われていたためである⁶⁾。

1960年代以降に活躍したインテリアデザイナーの北原進^{注1)}によれば、近代以降の1960年代になっても「内部空間を総称するインテリアという言葉の概念すら無く、日本橋周辺のデパートの家具部門に室内装飾という名で曖昧に漂っているだけでした。」と「インテリア」という言葉すら確立されていなかったことを語っている⁷⁾。

中野（1998）によれば、「我が国において、インテリアデザインという言葉が使われるようになったのは第二次世界大戦後のことである。戦前は、インテリアに相当する言葉は、室内装飾という言葉が使われてきた。」⁸⁾とインテリアデザインの歴史が浅いことを説明していることから裏付けられる。また、同著で「インテリアデザインという言葉は、単なる室内空間をさす場合もあるが、室内装飾から発展した計画・設計行為である」と定義している⁹⁾。

日本の商業施設における商環境デザインの歴史を辿ってみると、今日の商業は「商い」として江戸時代より行われてきたが、建築・インテリア分野として考察すると、「見世」が商売空間として成立しており、接客空間としての設えが整えられたことにインテリアデザインの萌芽があったと考えられる¹⁰⁾。

内田（2013）によれば、近代に入り「百貨店」の出現から商環境の環境が整えられ、百貨店の始まりは呉服商である「三越呉服店」が明治38年に「デパートメント宣言」を行ったことが始まりとされる。その後、他の呉服商を中心に時代の変化を受けて「百貨店」へ

と発展していったとされる¹¹⁾。

大正前期には、経済の発展と共に女性の社会進出によってショッピングが生活の一部となり始め、百貨店が生活を支える重要な存在となっていった。百貨店の発展と共にショッピングの合間の街歩きの時間と寄り添うようにヨーロッパに古くから存在する「カフェ（喫茶店）」が街に定着していった。「カフェ（喫茶店）」の数が増えることによって他店との競争意識が芽生え、店舗の独自性を演出する外観デザインが発展した¹²⁾。

大正後期の1923年には、堀口捨巳^{注2)}がドイツの「バウハウス」^{注3)}を訪問し近代建築の教えに従い戦前に手掛けた住宅のデザインは、その後の室内デザインに大きな影響を与えた¹³⁾。大正後期から昭和初期には、国の方針も「工業」から「工芸」へと変換し、生活を豊かにする「技術」だけではなく「デザイン」も重要視され始めた¹⁴⁾。

この時期に国の招聘によって、1933年にブルーノタウト^{注4)}、1940年にシャルロット・ペリアン^{注5)}が来日し¹⁵⁾、日本の工芸デザイナーが多くの影響を受けたが、室内空間のインテリアデザインを専門とするインテリアデザイナーは、その時代には現れていない。

そして、戦後の復興から間もない人々の生活の中にインテリア、家具への意識が高まり始めた1950年代に外務省の主導のもとに国外からのデザイン情報が集まり、「国際デザインコミッティー」^{注6)}の創立や「グッドデザイン商品選定制度（1957年）」^{注7)}が誕生してデザイン運動が盛んになったと言われる¹⁶⁾。

1953年に、デザイン領域全体を網羅する人材であるデザイナーの剣持勇^{注8)}、柳宗理、渡邊力^{注9)}、亀倉雄策、建築家の丹下健三、清家清、吉阪隆正、評論家の勝見勝、浜口隆一、瀬口修三、写真家の石本泰博、画家の岡本太郎らによって「国際デザインコミッティー（現・日本デザインコミュニティ）」^{注6)}が誕生した¹⁷⁾。

1958年には、剣持、渡邊等によって、インテリアデザイナーの職能を社会的に認知させるための団体である「日本室内設計家協会（その後、1969年に「日本インテリアデザイナー協会」^{注10)}と改称している）」が設立されている。その2年後の1960年には、東京で「世界デザイン会議」^{注11)}が開催されている¹⁸⁾。

この時代がインテリアデザインの創成期であり、インテリアデザイナーという職域を切り開いたインテリアデザイナーである渡邊力が1949年、剣持勇が1955年にそれぞれ独立してデザイン事務所を開設してインテリアデザインを手掛け始めた¹⁹⁾。

彼等は、家具のデザインから始まり空間のデザインを手掛けるようになりインテリアデザインの方向性を樹立し、「空間」という概念に固有の芸術を見出したインテリアデザイナーの職能を創生した「第一世代」と言われる²⁰⁾。勝見勝^{注12)}によれば「これからの日本の

インテリアデザインには、この二人の存在を抜きにして考えることはできない」と「第一世代」の重要性を評している²¹⁾

それまでのインテリアデザインは、建築家が建築の付帯部分として設計していたが、「第一世代」の活動により室内空間のデザインを建築設計から切り離し、「室内装飾」、「家具設計」から「インテリアデザイン」として独立させた。

表 1-2 インテリアデザイナーの時代区分と世代分け（著者作成）

インテリアデザインの歴史	インテリアデザインの変遷
・ 第一世代 剣持勇 境沢孝 1950年～ 渡邊力	創世期
・ 第二世代 倉俣史郎 北原進 1960年～	成立期
・ 第三世代 内田繁 杉本貴志 1970年～	確立期
・ 第四世代 近藤康夫 北岡節男 1980年～ 飯島直樹 横田良一	発展期
1990年～ バブル崩壊	低迷期
・ 第五世代 橋本夕紀夫 森田恭通 2000年～ 吉岡徳仁 片山正通	安定期

1. 3 インテリアデザイナーの世代分けによる杉本の位置付け

インテリアデザインの基礎を築いたインテリアデザイナー「第一世代」の活動によって始まったインテリアデザインの創成期である 1950 年代を経て、1960 年代以降から活躍した次世代の倉俣史郎^{注 13)}、北原進等がインテリアデザイナーの「第二世代」とされる。その多くがインテリアデザイナーという職能を認識せず、百貨店の装飾部の出身であったことを北原が証言していることでインテリアデザインの歴史とも同期している²²⁾。

室内空間をデザインの対象とした「第一世代」による創成期を経て、百貨店の装飾部出身の「第二世代」の出現によって、インテリアデザインは建築家の建築設計領域から独立した室内空間だけでなく、商環境が創造的なデザインの対象となった。

戦後の高度成長期に、日本のクリエイターは、デザイン、建築、美術と他領域を超えて交流し「デザイン」と「商業」を一体化させ、経済の発展と共にその才能が開花し、世界に日本のデザインを認知させた²³⁾。その時代の活動の象徴が 1970 年日本万国博覧会である^{注 14)}。この万博に於いては、パビリオンの建築設計は建築家が担い、インテリアデザインがインテリアデザイナーに任せられ、他分野の多くのクリエイターと協働作業することによって活動の領域を拡げていった²⁴⁾。

この時代に、インテリアデザイナー「第二世代」の活躍によりインテリアデザイナーの職能が社会に認知され、「第二世代」に影響を受けたインテリアデザイナーという職能を志すようになった世代が「第三世代」であり、インテリアデザイナーの職能を確立していくことになる。

「第二世代」に大きな影響を受けてインテリアデザインの確立期を築いたデザイナーを代表する人物に杉本貴志と内田繁^{注 15)}がいる。杉本は、1968 年に東京藝術大学美術学部工芸科を卒業し、卒業後直ぐに高取邦和^{注 16)}と協働してデザイン事務所「ポテトデザイン」を開設した。その後、1973 年には設計組織である株式会社「スーパーポテト」^{注 17)}を設立し、晩年となる 2018 年までの半世紀にわたって商環境デザイン活動を行ってきた²⁵⁾。

杉本がデザインした商環境デザインは、常に時代の最先端を走り話題性をもち、同時代に活躍した他分野の多くの芸術家、デザイナーと協働活動を協働して行い、インテリアデザイン界を先導してデザイン領域の拡大に貢献した²⁶⁾。

「第二世代」の倉俣史朗、北原進らに続き、杉本は「第三世代」として内田繁と共に高度成長期真ただ中の 1970 年代以降の商環境デザインを発展させた。特に杉本は、商環境だけに留まらずに建築空間と連動する環境デザイン、素材の斬新性、照明の使用法、他分野の芸術家、デザイナーとの協働作業等の妙手等と、内田と共に「第四世代」以降のイ

インテリアデザイナーに影響を与え、室内環境、特に商環境に大きな変革をもたらしたと言われる²⁷⁾。

インテリアデザイナー「第一世代」が創成期を築き、経済の発展と共に他領域とのデザイン活動と連動が盛んになったインテリアデザイナー「第二世代」が発展させたインテリアデザインによりインテリアデザイナーの職能が確立された。高度成長期の1970年代から幾度もの経済不況を乗り越えて、現代の2020年代まで半世紀にわたり第一線で活躍したインテリアデザイナーは杉本以外に見つからない。「第三世代」の杉本の商環境デザイン作品を対象とする研究は、インテリアデザインの歴史と本質を探究する研究として必要であり、実務を行うデザイナーにとってこれからのデザイン手法を深めるうえで有益な研究であると考えられる。

第2節 研究の目的

本研究の対象は、高度成長期の1970年代からそれまでのインテリアデザインの対象となっていた住環境から商業施設の中でも主に店舗等の商環境デザインに於いて幅広くインテリアデザインの職域を確立させた「第三世代」のインテリアデザイナーである杉本貴志とする。日本の1950年代高度成長期にインテリアデザインを社会に認知させたインテリアデザイナー「第一世代」が活躍した創成期を経て、「室内装飾」からインテリアデザインという職域を認知させ1960年代から活躍しインテリアデザインを定着させた「第二世代」後の「第三世代」のインテリアデザイナーの確立期からを対象とする。

インテリアデザインの領域を拡大し、インテリアデザインの職能の確立をさせた時期に活動した「第三世代」である杉本貴志が、独自性と創造性を商環境の社会文化的動向に視点を置いてデザインした点に着目し、商環境に於ける空間構成やデザイン手法、素材、照明、環境生成の視点から商環境デザイン作品を構成すると考えられる要素を抽出し、デザインの作品特性とデザイン手法を明らかにすることを目的とする。

上述した研究の目的は、杉本の考え方や功績を通じた日本のインテリアデザイン史の確認であり、その分析によってインテリアデザインの本質の解明に迫ることでもある。

商環境デザインを構成すると考えられる要素を用いた研究は、作品に直接用いられ可視化できる、あるいは読み解くことができるものと位置付けられ、感性によるものと考えられがちなインテリアデザインの論理的分析に役立つと考えたからである。

本研究は、杉本が独立してデビュー作を発表した1972年から、杉本のデザインした最後の作品が発表された2018年の46年間の半世紀に渡る活動期間にデザインされた商環境デザイン作品を対象とする。ただし、杉本が主宰し杉本没後も活動して作品を発表している設計組織である「スーパーポテト」の作品は除外するものとする。

戦後の日本の高度成長期の最盛期である1970年代の初期から80年代初めに起こったオイルショック^{注18)}、1989年バブル経済崩壊^{注19)}等の経済状況変化を何度も経て経済が安定した後の、2008年のリーマンショック^{注20)}から立ち直った2020年代までの50年間に於ける日本の経済は大きく変化する状況下にあった。経済と共に発展していったインテリアデザイン、商環境デザインは、社会の経済的状況の影響を大きく受けて発展が反映されている²⁸⁾。

研究の対象とする杉本は、1. 3で述べた通り「第一世代」「第二世代」のインテリアデザイナーが活動した後の高度成長最盛期1970年代前半から活動を始め、何度も日本の経済危機を経験しながらも今日まで、飲食、物販、ホテル等の商環境に留まらずに、環境

デザインへとデザインの領域を拡大してインテリアデザイナーの地位を向上させ、後進のインテリアデザイナーに多大な影響を与えた。

杉本の商環境デザイン作品の評価価値は、日本デザイン史の中でも特記すべきことであると評される²⁹⁾。インテリアデザインが確立されて発展していった半世紀の杉本の商環境デザイン作品の研究は、日本のインテリアデザインの歴史と同期し、本質を理解することになると考える。

そこで、戦後の復興から高度成長期まで商業施設が経済と密接に関わって発展した時代に杉本が活動を始めた期間から、世界規模のバブル経済崩壊と同時進行し日本の戦後経済の大きな転換期となり、日本の社会に大きな影響を与えた1989年バブル経済崩壊前後を仮に一つの区分点として研究を行うこととする。

このバブル経済崩壊で、杉本の作品分析を分ける理由としては、戦後の高度成長期から順調に発展していった経済の恩恵でデザイナーの活動が盛大になった絶頂期にバブル経済の崩壊が起これ、デザイン界にとって大きな転換期になったと考えられるからである³⁰⁾。

これはバブル経済崩壊前後での日本社会における経済状況の変化が反映されているという仮説の設定である。この仮説の設定は、インテリアデザインの分野に於いては商環境デザインが社会経済と密接な関係があり、バブル経済崩壊は社会全体への経済的低迷の影響があると考えられるためである。そのため、杉本の商環境デザイン作品をバブル経済崩壊前後の前期と後期に分けて分析することが適切であると判断した。

本研究では、経済状況に合わせて杉本の商環境デザインが確立してデザインの特徴が表出した期間として1989年バブル経済崩壊以前の作品を前期作品 (Previous=P)、バブル経済崩壊後にあたる1990年以後の作品を後期作品 (Late=L) として扱うこととする。そこで、バブル経済崩壊の前後での杉本の商環境デザイン作品に於けるデザイン特性の相違についても分析を行い、これも研究目的に含まれるものである。

第3節 先行研究

インテリアデザインの起源を辿ると、先史時代の居住空間であった洞窟あるいは洞窟等に描かれた壁画などは、文化人類学と密接に関連しているとされる。人類の生活に於いては「住む」ために自然から住環境を守ることが第一優先とされ、改善を繰り返して発展したことは人類の進化と同一性を持っていると考えられる。そのため「住む」ことに関わる住空間の室内環境に関する先行研究は多く存在する。

しかし、日常である「住む」こととは異なる、「買う」、「商う」、「訪れる」、「働く」日常と共に、非日常でもある商業施設に関するインテリアデザイン（商環境デザイン）、インテリアエレメント（家具、照明、室内装飾材、アートワーク等）に対してのデザインの本質の特性にかかわる研究は、ほとんど行われていない。

日本のインテリアデザインの歴史を小泉（2015）は、「古代（古墳時代から平安時代まで）、中世（鎌倉時代から室町時代まで）、近世（戦国時代から江戸時代まで）、近代（明治時代から昭和時代前期まで）に時代を区分し、インテリアデザイン（室内意匠）、家具デザインについて、詳細な図表と共に研究記録を著書として残している」が、研究対象が住空間と家具を中心とした研究であり、商環境デザインが生活を豊かにするために必要とされ始めた昭和前期の時期で研究は終わっている³¹⁾。一方、島村昇^{注21)}の町家の歴史的研究もあるが、商空間としてよりも住空間としての研究や都市住宅としての位置付けの視点が多く、商環境デザインの視点はほとんど見られない。

小泉（2015）は「日本人のゆか座による生活様式、木造による日本建築の柱を基準にする構造的な構成要素から欧米で発展した家具の必要が少なく、家具の建築化によって空間が設計されてきた」³²⁾と、近代までの日本の生活習慣から住空間のインテリアの歴史を時代毎にまとめているが、その著書の中には商環境のインテリアデザインに関する記述はない。

その後の戦後の現代において、本田(1968)は「インテリアデザインが最も身近な形で人間生活に接触する建築の皮膚の役目を担っている」³³⁾と、インテリアが建築から分離した表面を構成する存在であると論じている。

一方、デザイン理論の大きな枠組みの中で、福岡(1971)は「インテリアデザインの本質についてその実態を突きとめることは非常に困難である」³⁴⁾と、建築家が建築基準法の法規等に沿って論理的に設計する建築設計とは異なり、デザイナーの自由な感性で設計されるインテリアデザインの領域は、論理的な分析が難しいことの見解を示している。また、インテリアデザインの形態について、人間の占有空間の対応から、スペースの大きさなり、

形状を見出すことであり、この設定と証明であると述べている。

野口(1977)によると、「戦後の日本では、住宅や家具、電化製品などに大きな変化が起こり、日本人の生活は急速に洋風化した結果、住宅のインテリア空間もまた、短期間にその生活様式の変化に対応された」³⁵⁾と、述べている。

そして、現代日本においてインテリアデザインは、全ての生活環境において必要不可欠なものとなっている。前述の小泉(2015)も「明治維新に始まる近代の大きな特徴は、西洋文明、西洋文化の導入による西洋化である。この時期から、洋館が中流住宅にも広がり、新しい様式による住宅やインテリアデザイン(室内装飾)が展開された」³⁶⁾と解説している。

インテリアデザインの研究変遷において、伊藤(2019)によれば、「第二次世界大戦後、活発な建設活動が行われたことにより、国内における建築物ストックは飽和状態となり、建築物は定期的な修繕工事や回収を繰り返して再利用することが主流になっている」と、戦後高度成長期からの建築建設ラッシュの結果による持続可能な社会に向けて、建築ストックの再生面からインテリアデザイン研究の重要性を述べている³⁷⁾。

しかし、インテリアデザインに関しての本質的な研究は重要であると認識されている状況に於いての研究対象は住環境、労働環境(オフィス)に関する研究がほとんどであり、商業施設的环境である商環境デザインを論理的にその本質と実態を突きとめる研究はない。

鈴木(2015)によれば、戦後の1950年代は、国策によるデザインの普及政策、海外デザイナーの招聘等からの影響もありデザイン運動が盛んになったと言われる³⁸⁾。創成期を創った剣持、渡邊等の「第一世代」に影響を受けた倉俣、北原等の「第二世代」、それに続く確立期を築いた「第三世代」を代表する人物が杉本である。

室内環境、特に商環境に大きな変革をもたらしたにも関わらず、その作品研究は無く、1970年代よりインテリア雑誌の編集者を経験しインテリアデザインに精通する鈴木(2015)の戦後の動向については鈴木(2015)の通史的な著作³⁹⁾に、デザイナーとしての位置付けと簡単な作品解説の記述はあるが、杉本の商環境デザインに関する研究はない。

インテリアデザインのデザイン論については「第二世代」の倉俣史郎の研究があり、加藤(2012)は、室内空間のインテリアデザインにおける空間創造手法について、建築躯体から独立したインテリアシェルターの離隔要因と多重性について、倉俣史郎の作品群を詳細に分析し考察している^{注22)}。尚倉俣の作品に関する著書、作品集は多く存在する。

橋本(2014)は、空間としての家具デザインという視点で倉俣を研究しており、家具を「空間」としてとらえることで独特の構想が作り上げられると結論付けている⁴⁰⁾。

一方、「第三世代」である杉本の商環境デザイン作品に関しては、杉本の自著(2010、2011、2018)^{注23)}による記述、内田(2011、2013)^{注24)}、鈴木(2015)^{注25)}らの評論などが見られるが、デザイン原理や要素を追及し、考究した報告は極めて少なく、デザイン原理や要素の研究に至っていない。

そこで、「第一世代」から蓄積された商環境のインテリアデザインの事例と知識を集約し知的情報としての価値と、現在の商環境デザインの位置付けを考え、今後の建築ストックの再生に更なる発展が望まれていることを考慮するならば、インテリアデザイナーが出現し、他領域のデザイン活動と連動が盛んになった戦後の商環境のデザインを対象とする研究の必要があると考えられる。特に「第2世代」の倉俣、北原等続く「第3世代」の研究は現在の商環境デザインの基礎を確立し、今後のインテリアデザインの方向性を考える上でも重要であると考えられる。特に「第三世代」の中でも独創的デザインを行った杉本の研究を行うことは、必要かつ意義を有することと考えられ、本研究の有用性は高いものと判断される。

注記

注1) 北原進は 1937 年東京生まれ、インテリアデザイナーである。個性の発露としてのインテリアデザインが志向される中、公共性の高いデザインを志向し、日本のインテリアデザイン界のレベルを押し上げた人物である。

注2) 堀口捨巳は 1895 年岐阜県生まれ、1984 年没。1920 年東京帝国大学建築学科（現東京大学）在学中に西洋の近代建築への憧憬から、従来の様式建築を否定する分離派建築会を結成する。伝統文化とモダニズム建築を融合した日本独自の建築様式を模索した人物である。

注3) バウハウスは 1919 年にドイツのワイマールに開校された美術学校である。建築、家具、工芸、美術など生活にかかわるあらゆるジャンルを扱い、合理主義、機能主義の思想の基、総合的なデザイン教育を行い、その後のモダニズム建築の普及に大きな影響を与えた機関である。

注4) ブルーノタウトは、1888 年東プロイセン生まれ、1938 年没。善政的な表現主義の建築家・都市計画家である。1933 年、上野伊三郎の招聘により来日し 3 年半滞在した。その間、桂離宮や白川郷などに触れ、日本の合理的で単純さを持った伝統建築を高く評価している。

注5) シャルロット・ペリアンは、1903 年パリ生まれ、1999 年没。建築家・家具デザイナーである。ル・コルビュジエ、ピエール・ジャンヌレの 3 人で共同制作者として、数々の建築やインテリア作

品を残した女性デザイナーである。1940年、日本へ招かれ日本の伝統的な暮らしや美意識に深い感銘を受け、その後の作品に強く反映されている。

注6) 1955年に東京で発足し、「グッドデザインの啓蒙」を目的とした、現在も存続するデザイン組織である。この創設には、勝見勝、亀倉雄策、剣持勇、清家清、丹下健三、渡邊力など、当時、日本のデザインの中心で活躍していた12名のデザイナー、建築家、評論家などがジャンルを超えて結集した。後に日本デザインコミッティーと改称した。

注7) 1956年(昭和31年)に特許庁内に「意匠奨励審議会」が発足する。1957年(昭和32年)にグッドデザインの選定事業を行う「グッドデザイン専門分科会」が発足し、専門家42名による「グッドデザイン商品選定」が開始された。

注8) 剣持勇は1912年東京生まれ、1971年没。インテリアデザイナーである。柳宗理、渡邊力らとともに日本インダストリアルデザイナー協会を設立するなどデザインの礎を作った人物である。

注9) 渡邊力は1911年東京生まれ、2013年没。プロダクトデザイナーである。東京高等工芸学校、木材工芸科卒業後、渡邊力デザイン事務所を設立、日本デザインコミッティーの創立メンバーであり、日本のモダンデザインの礎を作った人物である。

注10) インテリアデザインの創作活動の奨励や、産業の発展に寄与することを目的に、1958年に日本室内設計家協会として結成。1969年に社団法人格取得、2012年公益社団法人日本インテリアデザイナー協会となる。

注11) 世界デザイン会議：1960年5月7日から16日までの5日間、世界27か国、様々な分野から二百数十名のデザイナーが参加し、国際的な繋がりを持つ国内初となる「世界デザイン会議」である。日本ではこの会議を契機に「メタボリズムグループ」が結成された。

注12) 勝見勝は1909年東京生まれ。1983年没。美術評論家である日本デザインコミッティーの創設メンバーであり、東京オリンピックではデザインディレクターを務める等、戦後日本のデザイン界を牽引した人物である。

注13) 倉俣史郎は、1934年東京生まれ、1991年没。日本のインテリアデザイナーである。透明感や浮遊感といった言葉で表される独特の世界観を持ち、海外での評価も高く、1990年にはフランス文化省芸術文化勲章を受章し、インテリアデザイン界を牽引した人物である。

注14) 日本で最初の国際博覧会である。「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、77か国が参加、戦後の高度経済成長を経て日本を世界に向けて発信するイベントとなった。

注15) 内田繁は1943年生まれ、2016年没。日本のインテリアデザイナーである。インテリアデザインのみならず、家具、プロダクトデザイン、地域開発など幅広く活動をした。またインテリアデザインに関わる多くの書籍も残し、インテリアデザインの普及に大きく貢献した人物である。

注16) 高取邦和は、1944年浜松市出身、2019年没。日本のインテリアデザイナーである。1993年「スーパーポテト」設立にも参加した人物である。

注17) スーパーポテトは1973年、杉本貴志が代表取締役として立ち上げた、空間デザイン設計会社である。前身となる「ポテトデザイン」の協働者である高取邦和も立ち上げに参加している。後の世代を代表するインテリアデザイナーとなる飯島直樹や橋本夕紀夫も在籍していた。

注18) 1970年代、第4次中東戦争における、石油禁輸政策（第一次オイルショック）、イラン革命において石油供給が途絶えた（第二次オイルショック）ことにより、世界中で石油価格が急騰し、経済全体に大きな影響を及ぼした。

注19) 1990年1月からの日経平均株価暴落。文献: 日本経済新聞1990年10月1日付

注20) アメリカ合衆国で住宅価格の急騰にサブプライムローンが崩壊し不良債権化した。リーマン・ブラザーズが破綻したことをきっかけに世界的な金融危機へと発展した。

注21) 「京の町家 生活と空間の原意」(1978)⁴¹⁾ 「金沢の町家」(1983)⁴²⁾ 「住空間史論」(1998)⁴³⁾ 住空間に関わる数多くの著書を残している。

注22) 加藤和雄, 堀越哲美「倉俣史朗のインテリアデザインにおける空間創造手法」人間と生活環境19(1)、17/24、2012、18項

デザイナーが意図し、新たに構成された床、壁、天井をインテリアシェルターと呼ぶ。原室内空間に生成されたインテリアシェルターとの離れ方に着目し、その距離を離隔寸法、その離れ方の理由を離隔要因と呼ぶ。多層化がある場合、これを多重性と呼ぶ。

注23) 「杉本貴志のデザイン 発想/発酵」TOTO 出版、2010年、「無為のデザイン」TOTO 出版、2011年、「A life with MUJI」株式会社無印品、2018年

注24) 「戦後日本デザイン史」みすず書房、2011年、「日本インテリアデザイン史」オーム社、2013年

注25) 「インテリアデザインが生まれたとき：60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、2015年

第 2 章
研究方法

第1節 研究対象作品の抽出方法および研究範囲の定義

杉本の商環境作品の発表は、商業施設、オフィス施設、ホテル施設等の商環境デザイン全般を取材し掲載するインテリア専門誌である『商店建築』^{注1)}において、1972年のデビュー時の作品より、2018年の晩年の作品まで継続的に行われている。

それ以外の作品解説の資料となる作品集は、杉本が主宰する設計組織であるスーパーポテトが監修した作品集『Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)』^{注2)}があるが、その他には杉本の作品、作品への言説を年代に沿って継続的に取り上げた資料的価値のある作品集等の刊行はない。

杉本自身の著作である5冊の著書(杉本1992)⁸⁾(杉本2006)⁹⁾(杉本2010)¹⁰⁾(杉本2011)¹¹⁾(杉本2018)¹²⁾は、作品を分析する資料としての作品データは掲載されていないために商環境デザインの研究対象とはならない。しかし、その著書は自身のデザイン論を時代背景と共にデザインコンセプトとして詳細に語っていることで、商店建築、作品集の作品資料から抽出されたデータより導かれたデザインコンセプトの根拠を補足する資料とした。

そこで、本研究では、杉本の作品が定期的かつ継続的に発表されてきた『商店建築』(商店建築社発行の1972年から2018年)に掲載された商環境デザイン作品、および杉本の作品が時代毎にまとめられた作品集である『Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)』に掲載された全作品をデータ抽出の研究対象とした。それ以外に重要と考えられるが、雑誌、作品集等で未発表であるバブル経済崩壊後の後期作品である7作品(L39、L43、L44、L49、L51、L52、L54)は、スーパーポテトのホームページ^{注3)}に掲載されている作品を対象とし、現スーパーポテト事務所への取材、スーパーポテト所蔵の資料より作品データを抽出した。

研究対象とする商環境デザイン作品の範囲は、以下に述べるとおりとする。作品の存在する建築内部空間における杉本自身がデザインした商業施設の床、壁、天井の仕上げ部分の「インテリアシェルター」(加藤2012)⁵⁾、照明デザイン、家具、什器、杉本が選択した骨董家具、照明器具、備品とする。建築設計者が設計した建築、建築仕上げ、照明、設備機器、および店舗内の商品、既製品家具、既製備品は研究対象範囲外とした。ただし、一部、杉本が意図的に建築仕上げを除外して、建築躯体、設備機器をデザイン要素とした部分は研究対象の商環境デザインとした。そして、収集した図面および写真から内容が判断できる部分とした。

第2節 研究対象作品データの収集と整理

杉本の商環境デザイン作品を発表した、インテリア専門誌である『商店建築』は、建築家、インテリアデザイナー、他領域のデザイナーの作品を、作品の写真、作品データと共に毎月先見性のある作品を厳選して定期的に掲載している。

本研究では、『商店建築』（商店建築社 1972-2018）掲載作品、杉本の作品集である『スーパーポテト作品集『Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)』、およびスーパーポテトのホームページに掲載された作品を研究対象とした。

『商店建築』は、1956年に商業施設のインテリアデザイン専門誌として国内では初めて発刊され、国内外の建築家、インテリアデザイナー、デザイナーに認知された商環境に関するインテリアデザインの専門雑誌である。その後も多くの商環境デザイン作品を扱うインテリア雑誌が出版されたが、発刊後も継続的に発行され存続しているインテリア専門雑誌は『商店建築』だけであり、作品写真、図面、作品データ、デザイナーの解説、考察等で一貫した取材が行われていることも資料としての客観性を持ち、インテリアデザインの創世記から現在までインテリアデザイナーの作品を継続的に取材している点から学術的にも資料としての価値は十分に認められると考える。

杉本の作品集『Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)』は、著者 Mira Locher が編集し、杉本が主宰する設計事務所である「スーパーポテト」が監修して海外で発行された資料価値の高い作品集であり、そのデータには正確性があると判断し採用した。他に重要と思われる作品のデータは、杉本が主宰した設計組織「スーパーポテト」編集のホームページの作品情報からも採用した。

研究対象期間として、前期はバブル経済崩壊前期にあたる 1972 年から 1989 年までに『商店建築』『Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)』に発表された 62 作品全てについて、後期はバブル経済崩壊後期にあたる 1990 年から 2018 年までに『商店建築』、スーパーポテト編集作品集『Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)』に発表された 48 作品全てについて、杉本の商環境作品に関するデータの収集を行い、ホームページからは未発表の重要作品である 7 作品のデータを収集し、作品ごとに作品番号、作品名、所在地、工期、材料仕様、作者による作品解説、図面・写真からなる全 117 作品のデータシート（図 2-1 にてサンプル表示、全編は付録）を作成してデザイン要素分析の基礎データとした。

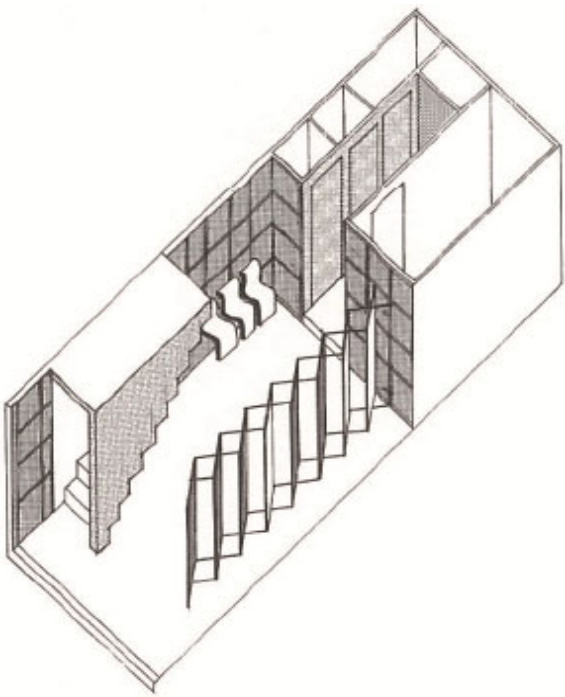

作品番号	P1	年代	1972年
建築名	ブティックワイズ	用途	ブティック
所在地	東京都新宿区歌舞伎町13	商店建築	1972年7月号
工期	1972年4月15日～5月10日	面積	35㎡
材料仕様	床 : 大理石 壁・天井 : 鉄板ホワイトブロンズ仕上バンチング600角一部石膏ボードパテ処理の上VP		
作者による 作品解説	<p>店をデザインする場合、商品の特徴・性格によってデザインが進行・決定されるのが一般的であるが、ブティックのようにファッション傾向の強い場所ではインテリアデザインが商品を指向していくとデザインそのもののリアリティが曖昧になる傾向がある。ここでは商品を販売することを一つの現象としてとらえ、現象を包み込む容器としてのデザインを進めることによってデザインそのもののリアリティを強めようと考えた。そのため素材を限定しフォルム性をできるだけ除去することによりデザインすることで生じるあいまい性をできるだけ少なくし容器が原則的に存在することを考えた。</p>		
図面・写真	 <p>アクソメ図</p> 		

図2-1 (a) データシートサンプル1 P1『ブティックワイズ』

(筆者作成「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページに記載の内容を要約)

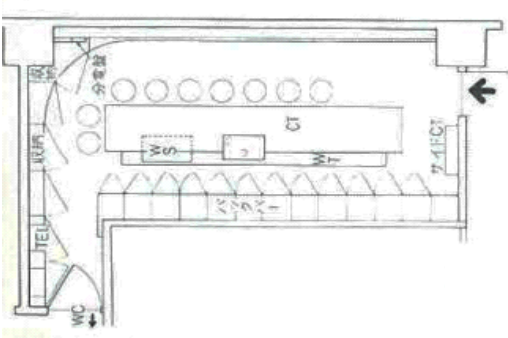
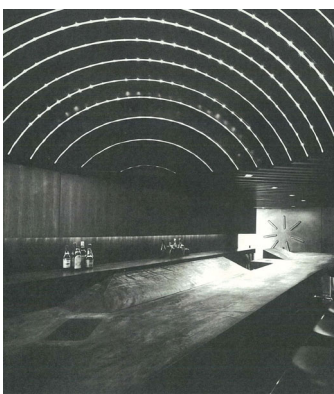


作品番号	P31	年代	1982年
建築名	ラジオ	用途	バー改装
所在地	東京都渋谷区神宮前2-31-7ビルグロリア地下1階	商店建築	1982年7月号
工期	1982年4月24日～5月16日	面積	32㎡
材料仕様	床：黒御影石 本磨 壁：12.3および3.2鉄板 鋳加工 ウォッシュプライマー塗装 CLツヤ消仕上 天井：ルーバー・アルミ引抜き材 黒塗装 ドーム部分・鉄板 黒塗装 豆球650灯付 外壁：黒御影ジェット仕上 サイン・真鍮切文字 カウンター：桜 黒OS バックバー収納：桜練付 黒OS		
作者による 作品解説	新しいラジオは、彫刻家の若林奮さんの彫刻の壁で囲まれ、ソリッドな木材のテーブルが置かれる。やや薄暗い、鉄の壁は静かに詩を語り、テーブルは暖かく人の心を包む表情で存在していた。人が彫刻を鑑賞するのを裏返したかのように彫刻が人を囲み込んでいる。照明は球体の胎内のようなオレンジ色の点を置き、これからのクリエイターの挑みを待ち構えているように見える。新「ラジオ」はかつて利休が茶に目指していた精神的空間への一つの糸口がかくされている。（田中一光）		
図面・写真	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: right;">平面図</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>		

図2-1 (b) データシートサンプル2 P31『ラジオ』

(筆者作成「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページに記載の内容を要約)

作品番号	L2	年代	1990年
建築名	春秋 赤坂	用途	レストラン
所在地	東京都港区赤坂2丁目16-19	商店建築	1991年4月号
工期	1990年7月25日～10月15日	面積	131.1㎡（うち厨房14.1㎡）
材料仕様	<p>床：黒御影石t40ハツリ仕上 小上り席/栗縁甲板貼り 壁：軽鉄組ラスボードt9下地土壁木ゴテ中塗り仕上 一部栗羽目板貼り 一部古木材貼り 鋳鉄グレーチングスクリーン</p> <p>天井：軽鉄組PBt12下地真竹（晒し竹）貼り 家具：カウンター/栗材t100手斧の上特殊オイル仕上囲炉裏/神代杉t150手ガンナ仕上 椅子/カバ桜手ガンナの上抜きうるし仕上 レセプションカウンター/ケヤキ手斧の上特殊オイル仕上 幅木：黒御影石 H=40</p>		
作者による 作品解説	<p>いつの間にか記号化され、形式化された素材や形から、本来持つやさしさや、力や、温かさを引き出したい。ここで目指したのは、イリュージョンの空間ではない。確かに安定した空間ではある、この空間には、辻 清明という傑出した陶芸家が必要であった。氏の作品をもとに発想の展開がなされた。陶器はその作家の力であると同時に、土と火という自然そのものの力の拮抗である。手の力であると同時に、そうではない何かがある。この空間も、設計された意思であると同時に、全く違った何かー自然のようなものーの意思とも言えるのかも知れない。</p>		
図面・写真	 <p>The figure consists of two photographs and a floor plan. The top-left photo shows a long, narrow dining area with a dark wood counter and a patterned metal screen. The top-right photo shows a view through a similar screen towards a counter area with a small pagoda-like structure. The bottom part is a detailed floor plan labeled '平面図' (Floor Plan). It shows the layout of the restaurant, including the kitchen (厨房), reception counter (カウンター), dining area (小上り席), and various service areas like the water dispenser (手水鉢), restrooms (WC), and entrance (物入). The plan also indicates the location of the kitchen (R), a table (棚), and a bed space (床の間).</p>		

図2-1 (c) データシートサンプル3 L2『春秋 赤坂』

(筆者作成「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページに記載の内容を要約)

作品番号	L16	年代	1998年
建築名	メザナイン	用途	ホテル
所在地		商店建築	1999年5月号
工期		面積	
材料仕様	<p>床：フローリング張 壁：木質パネル張、鉄板張、石割肌 天井：アルミ格子天井、内部EP塗装</p>		
作者による 作品解説	<p>レストラン名「Mezza9」 Mezzaは中二階レベルを意味します。キッチンの数9と組み合わせると、Mezza9となります。以前は、別々のフロアにレストランがありましたが、スーパーポテトのデザインコンセプトとして、オープンキッチンを備えた「シアターレストラン」として再構成されています。顧客は彼らの料理が準備されているのを見て、シェフのスキルによって楽しめます。座席エリアは、さまざまなサイズのテーブル席、キッチンを間近に見渡せるカウンター席、プライベート席。料理はそれぞれ専門でシーフード、寿司、中国料理などが取り揃えられています。</p>		
図面・写真	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: right; margin-top: 5px;">平面図</p> </div> <div style="width: 45%;">   </div> </div>		

図2-1 (d) データシートサンプル4 L16『メザナイン』

(筆者作成「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページに記載の内容を要約)

第3節 商環境デザインを構成するデザイン要素

2. 3. 1 商環境デザインを構成する要素の抽出方法

商環境デザイン作品の特性を明らかにする方法として、作品に用いられているデザインを構成すると考えられる要素を、各作品の図面、写真、作品解説、仕上げ表等から抽出し、その出現状況や使用状況を分析して検討することとした。この作業で抽出する要素を以後、商環境デザインの「デザイン要素」と称する。

インテリア空間は、床面、壁面、天井面の3面によって囲われた内部空間で構成され、図面表現に於いては、図2-2で示すように大きくは平面（平面図、天井伏図）、立面（立面図、展開図）、断面（断面図）に分解されて二次元図面にて内部空間が表現される。その建築の内部空間である平面、立面、断面に、加藤（2012）⁵⁾の「インテリアシェルター」^{注4)}によってデザインされ、内部空間に付加されたデザイン要素を「空間構成要素」として捉えることとする。「空間構成要素」は、平面、立面、断面ごとに要素を決定した。

三井（2006）によれば、建築の内部空間を構成するデザイン要素以外には、デザイン要素の抽出において、バウハウスの予備課程のカリキュラムにも取り上げられた形、色、材料、テクスチャーが基本要素としてあるため、これを検討対象とする¹⁾。その特性を熟知することによって造形表現への着想や構想のベースとなる。しかし、空間の仕上げに使われる「色彩」については、仕上げ材料の「素材」を基本のデザイン要素と判断した。

本研究では、作品として現存しない過去の作品のデータは、雑誌、作品集、ホームページの印刷物を研究対象資料として用いることも含め、基礎データとして「色彩」の同定が必ずしも十分できないことを考慮して取り上げないこととする。実際、古い作品はモノクローム写真にて掲載されている。以上の理由からデザインは、材料、テクスチャーが関わるデザイン要素には仕上げ材料の素材を「空間仕上要素」として捉えた。

また、壁面・天井面・床面等に付加されて生成されたデザイン要素以外の内部空間の設備機能としての要素がある。インテリアデザインとして空間に変化をつける付帯要素である家具什器に置かれる商品や内部空間を照らすためでなく、商環境を「光」によって演出する「照明」、「空調」、「換気」などの建築設備が空間のデザインに影響を与えるものと捉えることができると考えられる。そこで、家具、照明および設備等を建築の設計も含んで「空間設計要素」として捉えることとする。

「色彩」については保留し、「空間構成要素」、「空間仕上げ要素」、「空間設計要素」の3種類の要素を、本研究ではデザイン要素として採用することとした。具体的には、作品掲載雑誌、作品集、ホームページ等より作成した各作品のデータシートの図面・写真を用い

て商環境におけるデザイン要素の抽出を行なった。

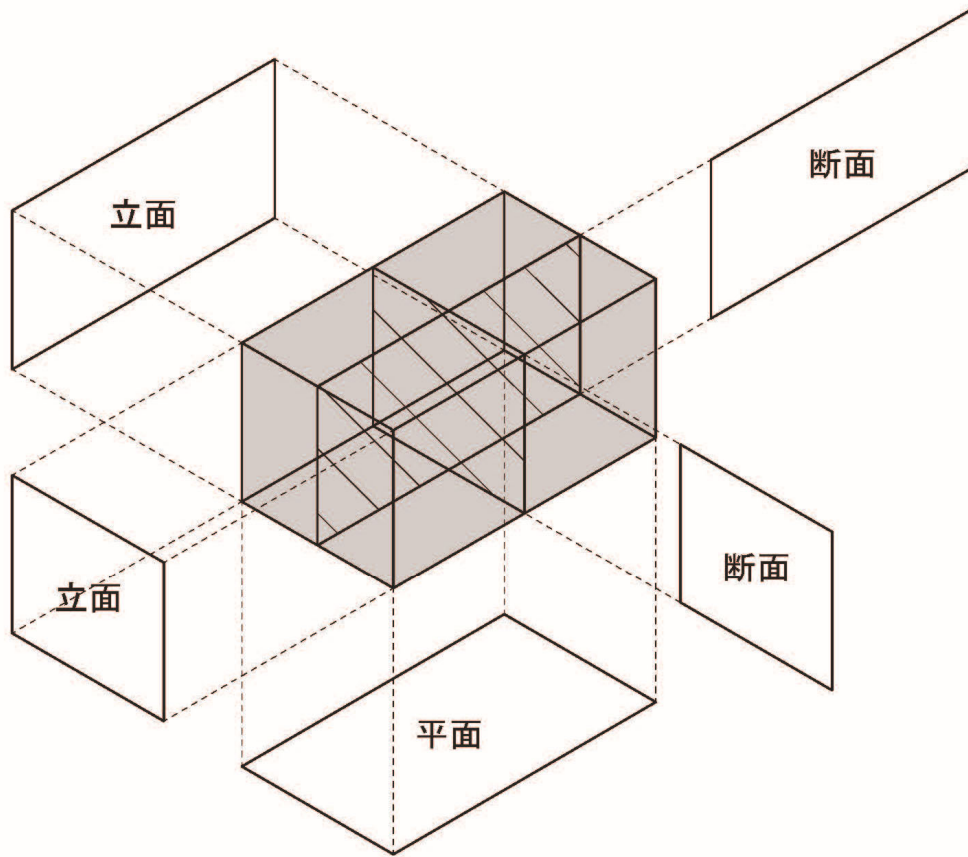


図 2 - 2 空間を二次元で表現したアクソメ図 (著者作成)

2. 3. 2 空間構成要素

インテリア空間の構成を考えるにあたり、形態的・形状的な表現を示す要素は、基本的には、図2-2で示す平面構成、断面構成および立面構成であり、これらの平面・立面・断面において用いられる形状・形態・意匠などを「2. 3. 1」で述べた通り「空間構成要素」と呼ぶ。これを、インテリア空間にどのように構成させるべきかがインテリアデザイン上の空間設計によって決定すべき基本的事項であると考えられる。

まず平面構成については、構成学によると、人が創造する理想的形体には定形と非定形があり、さらに定形は幾何学的形体と複雑系の数学モデルに分けられる²⁾。建築とインテリアデザイン分野では、幾何学的構成が用いられる場合が多いと考えられる。幾何学的構成の基礎となる図形を構成する最も原初的な基本要素は「点」と「線」と「面」である³⁾。多くの場合、「点」は位置を示すものとして考えられ、平面は「線」により区分され平面形を示す。すなわちインテリア平面を構成する要素としては「線」が基本要素となる。その線を大別すると「直線」Sと「曲線」Cが考えられ、両者を「複合」「交差」させる場合がある⁴⁾。これら4通りを平面における構成要素を大別する群として考えることとする。

作品の平面を基本的に矩形と考えれば、平面から立ち上がった周囲4壁面に単純な直線である平行線が平面上に描ける。4壁面から平行に描かれた単純直線が平行に交差すると格子の形が生まれ「格子割付」S1となる。平面の中心に対し対称に線を引いていくと「対称配置線（シンメトリー）」S2があり、並行する線を交差させないで一方向のみに単純直線として描くと「平行線」S3となる。あとは矩形に対しての壁面に対して単純直線を斜めに引くと「斜行線」S4になる。

平面に存在する直線、斜め線以外の自由線は曲線「円」Cであり、曲線を基本とする定型な円を描くと「全円」C1となり、円弧の曲線部分や円の一部を取り上げると「部分円」C2となる。この曲線は楕円等も含むものとする。

以上の「直線」「曲線」の基本形に対して、平面上の線の組み合わせ方により形のパターンを想定すると、基本形の線の複合したものが考えられ、複数の「直線」「曲線」が交差し分割を示す「交差線」P1となり、「直線」「曲線」の複合からなる「複合図形」P2、同型が複数重なる「多重図形」P3が導かれる。これら基本的構成を「格子割付」S1、「対称配置線（シンメトリー）」S2、「平行直線」S3、「斜行線」S4、「全円」C1、「部分円」C2、「交差線」P1、「複合図形」P2、「多重図形」P3の9通りの分類とし、表2-1に示す。

断面構成については、空間を断面で表現すると「床」F、「壁」W、「天井」Cが基本的な空間要素である。床の形状としては、「床」Fは、水平が基本であるので、段差を有する床

は「段差床」F1として、段差のない床である「水平床」F2が考えられる。

「壁」Wについては、直線あるいは矩形として表現され、加藤（2012）の「インテリアシェルター」として壁に付加されるデザイン要素であり、床上に置かれて自立する場合と、構造体壁面や天井面または床面と接しない場合が考えられる。前者の要素を「自立壁」W1、後者を「浮遊壁」W2と称して壁面のデザイン要素を大別した。

「天井」Cについては、天井の基本形として水平面が直線で構成される天井を「水平天井」L1とし、天井の全体、部分が曲面としての曲線で構成される天井「曲面天井」L2がある。その他に、デザインされた複雑な天井形状を含む不連続な天井（視覚的による）があり、一つは多くの場合にその形状のデザインされた形態を吊るす天井と、水平面だけでなくデザインされた段差を有する天井が考えられる。前者を「吊天井」L3とし、後者を「掘込み天井」L4とする。断面の基本的構成として表1に示す床のデザイン要素である「段差床」F1、「水平床」F2、壁のデザイン要素である「自立壁」W1、「浮遊壁」W2、および天井のデザイン要素である「水平天井」L1、「曲面天井」L2、「吊天井」L3、「掘込み天井」L4の8通りに分類することができる。これらも表2-1に示す。

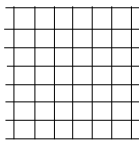
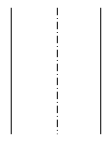
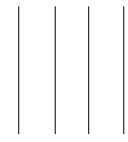
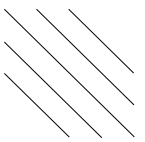
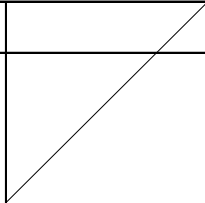
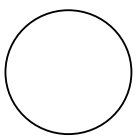

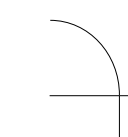
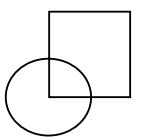
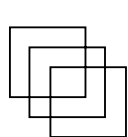

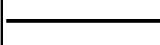

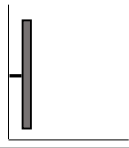
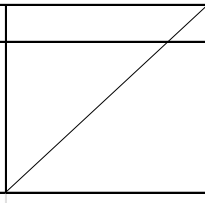



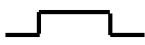
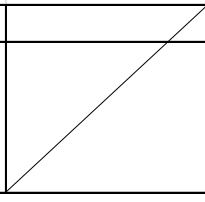
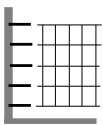

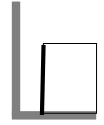
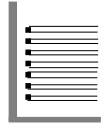
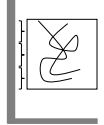
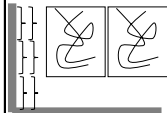
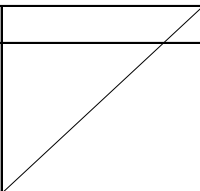
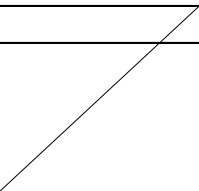
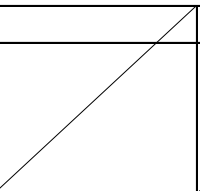
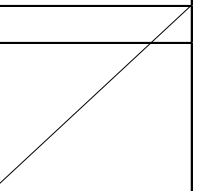
立面構成は、加藤（2012）によれば、基礎となる建築の構造体（壁面）である既存躯体があり、それに対して「インテリアシェルター」を附設して、それに仕上げを行うことでインテリア立面が構成されるとしている⁵⁾。その構成を記述すれば、一般的には一重であるが、複数で重複することとなる場合もある。一重の場合について構成を記述すれば、構造体からは離隔距離を置いて「インテリアシェルター」を設ける場合と、構造体に密着した「インテリアシェルター」を設けてあるいは構造体をそのままインテリア立面とする場合とが想定される。前者は、構造体面に対して離隔して柱型などを覆い、平板な壁面、棚などを設置することである。これをインテリアシェルターとしての形状から「格子壁面」R1とする。後者の代表的な仕上げは、構造体面に下地を含め仕上げ材料で仕上げることである。この壁を素材で仕上げて表現する「素材壁面」R2とする。

構造体より分離されて平面を区画するスクリーン壁として仕上げられる壁の要素を「目隠し壁面」R3とし、「格子壁面」R1の壁と一体化した仕上げ要素から分離されて設置される「ルーバー壁面」R4、壁面を芸術家のアート作品等で装飾的に仕上げする「装飾壁面」R5とする。また、後期作品に多く出現する使用されなくなった廃棄品、商品や同一規格の既製品を壁や什器に並列させて装飾する要素を「並列型装飾壁面」R6とする。立面の基本的構成は、表2に示す「格子壁面」R1、「素材壁面」R2、「目隠し壁面」R3、「ルーバー壁面」R4、「装飾壁面」R5、「並列装飾壁面」R6の6通りに分類することができる。これら

についても表2-1に示す。

以上の空間構成要素を、視覚的に分かりやすいことを考慮して、立面的空間として実際のデザイン例を参考にしてデザイン要素の模式表示の凡例を表2-1として作成した。これを示したものが表2-1の「格子割付」S1、「対称配置線（シンメトリー）」S2、「平行線」S3、「斜行線」S4、「全円」C1、「部分円」C2、「交差線」P1、「複合図形」P2、「多重図形」P3、「段差床」F1、「水平床」F2、「自立壁」W1、「浮遊壁」W2、「水平天井」L1、「曲面天井」L2、「吊天井」L3、「掘込み天井」L4、「格子壁面」R1、「素材壁面」R2、「目隠し壁面」R3、「ルーバー壁面」R4、「装飾壁面」R5、「並列装飾壁面」R6である。

表 2 - 1 空間の平面・断面・立面の要素 (筆者作成)

平面の形状	S:直線				
	S1格子割付	S2対称配置線 (シンメトリー)	S3平行線	S4斜行線	
					
	C:曲線			P:複合	
	C1全円	C2部分円	P1交差線	P2複合図形	P3多重図形
					
断面の形状	F:床		W:壁		
	F1段差床	F2水平床	W1自立壁	W2浮遊壁	
					
	L:天井				
	L1水平天井	L2曲面天井	L3吊天井	L4掘込み天井	
					
立面を示す 立面形状	R:壁				
	R1格子壁面	R2素材壁面	R3目隠し壁面	R4ルーバー壁面	R5装飾壁面
					
	R:壁				
	R6並列型装飾壁面				
					

2. 3. 3 空間仕上要素

インテリア空間の仕上げは、様々な種類の材料を用いて行われる（以下仕上げ材料と称す）。この仕上げ材料および、空間との組み合わせを「2. 3. 1」で述べた通り「空間仕上要素」と呼ぶ。

内堀（1992）によれば、「インテリア空間に用いられる仕上げ材料の種類と分類については、ハードデザイン素材（無機質材料）とソフトデザイン素材（有機材料）とに分ける場合が多い」⁶⁾と述べられており、ハードデザイン6材は「陶磁器(タイル)」「石、人造石」「金属」「ガラス」「高分子材料（プラスチック）」「合成樹脂オーバーレイ合板（化粧合板）」「塗り壁（プラスター）」「レンガ」「石膏」「コンクリート、モルタル」の素材に分類でき、ソフトデザイン素材は「木材」「カーペット」「紙」「プラスチック」の素材に分類できるとしている。加えてインテリアデザイン教科書研究会の「インテリアデザイン教科書」においても同様の分類によって詳細に解説されている⁷⁾。表2-2で示す。

本研究においても、これを仕上げ材料の基本的な分類として用いる。

まず「床」F、「壁」W、「天井」C、「仕上げ材料」Mの記号を用い、床仕上げ材料をFM、壁仕上げ材料をWM、天井仕上げ材料をCMと記号表示する。

仕上げの種類は、杉本の作品に用いられる素材である「木材」「金属材」「タイル・カーペット材」「石材」「レンガ」を記号化番号として、1から5を付与した。すなわち、単材としての仕上げ材料を材料記号と組み合わせて「木材」の床を「木材系床」FM1、壁を「木材系壁面」WM1、「金属材」を用いる床を「金属系床」FM2、壁を「金属系壁面」WM2、「T/C系（タイル・カーペット）材」の床を「T/C系床」FM3、壁を「タイル系壁面」WM3、「石材」を用いる床を「石材系床」FM4、壁を「石材系壁面」WM4、「れんが」を用いる床を「れんが系床」FM5、壁を「れんが系壁面」WM5として表現する。

これらの仕上げ材料を複合的に組み合わせる場合は、「複合材」を用いる床を「複合材床」FM6、壁を「複合材壁面」WM6とする。既存躯体構造の壁に既成の下地材である「石膏ボード」にペンキや壁紙等で直接仕上げる場合の壁を「石膏ボード壁面」WM7、既存の設計で仕上げられていたインテリア仕上げを排除し、既存躯体構造を露出させて表現するコンクリートのままの表現については「スケルトン（既存躯体）」の床を「スケルトン床」FM7、壁を「スケルトン壁面」WM8と表現して分類する。

後期作品に出現する既成の「木材」を用いないで、敢えて「廃材としての木材料」に置き換えて壁を仕上げる「古木材系壁面」WM9、既成の「石材」ではなく自然のままの石材である「岩」を壁に用いる仕上げを「自然石材系壁面」WM10とする。「石膏ボード」や

表2-2 空間仕上げ要素の仕上げ材料

(内堀繁生「インテリアデザイナーのための内装仕上げのデザインと材料」鹿島出版会、1992年に記載される内容をまとめた)

ソフトデザインの仕上げ材料

- | | |
|-----------|-----------------|
| ・木材, 木質材料 | (むく材, 合板など) |
| ・竹材, 藤 | (竹, 丸藤, 皮藤) |
| ・織物, 皮革 | (毛, 綿, 絹, 麻, 革) |
| ・敷物 | (畳, カーペット) |
| ・紙 | (和紙, 化粧紙) |
| ・壁装材 | (紙, 敷物, ビニール) |
| ・れんが | (れんが, れんがタイル) |
-

ハードデザインの仕上げ材料

- | | |
|---------------|---------------------|
| ・陶磁器質タイル | (磁気, 炝器, 陶器) |
| ・石, 人造石 | (大理石, 花崗岩, テラゾー) |
| ・金属 | (スチール, ステンレス, アルミ) |
| ・ガラス | (透明ガラス, 発色ガラス, 鏡など) |
| ・高分子材料 | (プラスチック, ゴム) |
| ・合成樹脂オーバーレイ合板 | (化粧合板など) |
| ・塗り壁 | (プラスターなど) |
| ・コンクリート | (コンクリート打放し, モルタル) |
-

既存壁仕上げ下地に左官仕上げを用いる「左官系壁面」WM11、「自立壁」R1 や「目隠し壁」R3 等をガラス素材にて仕上げることを「ガラス系壁面」WM12 とする。

作品の中で基調的に使用されていない素材（微小な面積や全景的に明瞭に認知できない場合など）は、本研究でのデザイン要素としては参照しないこととし、上述の床、壁の仕上げ材料である「木材系床」FM1、「木材系壁面」WM1、「金属系床」FM2、「金属系壁面」WM2、「T/C 系（タイル・カーペット）材」「T/C 系床」FM3、「タイル系壁面」WM3、「石材」「石材系床」FM4、「石材系壁面」WM4、「れんが系床」FM5、「れんが系壁面」WM5、「複合材床」FM6、「複合材壁面」WM6、「石膏ボード壁面」WM7、「スケルトン（既存躯体）床」FM7、「スケルトン壁面」WM8、「古木材系壁面」WM9、「自然石材系壁面」WM10、「左官系壁面」WM11、「自立壁」R1、「目隠し壁」R3、「ガラス系壁面」WM12、の 12 素材を床、壁の「空間仕上要素」とした。

天井仕上げ材料においては、仕上げ材料そのものだけでなく、「石膏ボード」CM3 と木製以外は、素材をどのように成形するか、組み合わせるかを合わせて考える必要がある。そこで、ルーバー形状、ワイヤーを組み合わせた形状の「空間仕上要素」を「ルーバー天井（ルーバー、ワイヤー付帯天井）」CM1、格子を組みあわせた「空間仕上要素」を「格子天井」CM2 とし、既存躯体天井を現す仕上げは「スケルトン（既成躯体天井）」CM4 とした。「ルーバー天井（ルーバー、ワイヤー付帯天井）」CM1、「格子天井」CM2、「石膏ボード」CM3、「スケルトン（既成躯体天井）」CM4 の 4 要素を天井の「空間仕上要素」と分類した。

2. 3. 4 空間設計要素

空間設計要素は、設計者によって設計された空間に設置される家具や、空間の環境を設計する設備（照明、空調、換気等）であり、特に商環境では重要とされるデザインされた店舗の機能を満たす什器、空間に突出する形状の物体、照明の光により凹凸や形状を表出させて空間を演出する要素が該当する。そこで空間設計要素は、各部位や空間における形状や変化を与えるものとして捉えることとする。

先ず、商環境の機能を満たす家具・什器系としては、既存躯体構造体、既存壁面等に付帯させて商品棚等の機能的な壁面と一体として作り付けられる家具を「什器壁面一体型」F1 とし、既存躯体構造体、既存壁面からは離れて店舗の機能を満たしながら、杉本の商環境デザインと一体となり店舗デザインのアクセントとなるような什器を「什器独立型」F2 の 2 通りがある。後期になり、杉本は、新しい既製品の材料を使わずに古材を仕上げ材料で多く用いるようになり、それに合わせて杉本がデザインした空間から独立して機能を満たすが既製品である骨董家具を「独立型骨董什器」FN3、「機能独立型什器」FN4 と 4 要素を分類した。

次に、商環境空間の光環境を整備する設備設計である「照明」と、換気や空調設備設計である要素「空調」を空間設計要素として分類する。

「照明」IL については、床面・壁面を「自立壁」W1、「浮遊壁」W2 の裏側から床面・壁面を照らす間接照明手法を「床間接照明」IL1、「壁間接照明」IL2 とし、壁・天井を杉本がデザインしたデザイン要素と一体化した照明器具等で演出する照明手法を「壁付帯照明」IL3、「天井付帯照明」IL4 とし、後期作品に出現する既成の装飾照明器具である「独立型吊天井照明（シャンデリア）」IL5 を照明に関するデザイン要素とする。既製品の照明器具はデザイン要素から除外したが、杉本自身が選択して採用された「シャンデリア」は「独立型骨董什器」FN3 と同様に、杉本の商環境デザインの一部として扱われているため「独立型吊天井照明」IL5 としてデザイン要素とした。

「壁間接照明」IL1、「壁付帯照明」IL2、「天井付帯照明」IL3、「天井付帯照明」IL4、「独立型吊天井照明」IL5 の 5 通りの照明に関するデザイン要素を「空間設計要素」とする。

尚、既存の建築の原空間に付随して杉本がデザインしていない照明方法である既製品の照明器具を使用している場合は分析対象として取り上げないこととした。

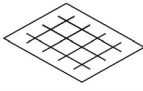
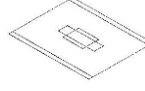
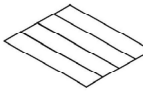
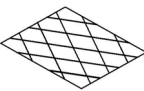
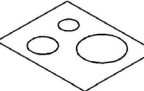
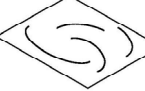
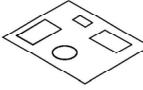
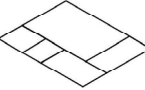
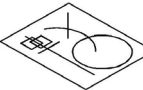


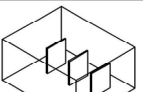
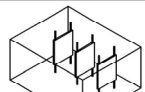
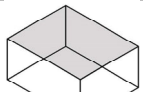
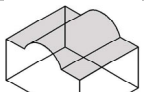
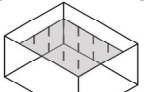
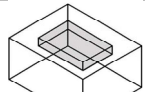
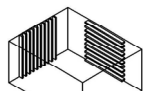
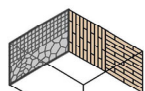
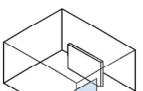
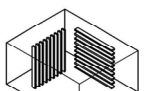
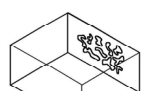
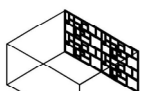
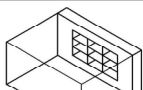
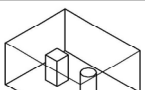
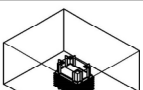
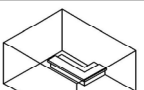
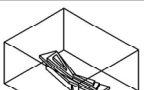
商環境空間の環境を制御するために設計された設備（空調設備、換気設備、配線設備など）は、通常は設備機器等を天井、壁裏等に内蔵するものであるが、あえて天井を排除し

露出する杉本独自のデザインである設計手法を「設備露出天井」EQ1とした。それ以外の場合は、天井で覆われるため「空間構成要素」の「天井」Lとして分類した。

上記以外に、杉本作品では特徴的な設計過程として他分野の芸術家、デザイナー等との協働作業がある。この協働作業は、単純に芸術家、デザイナーの作品を装飾として商環境空間に付帯する「装飾壁面」R5もあるが、商環境空間自体を芸術作品と捉える杉本独自のデザインであり、芸術家、デザイナーが設計段階から協働してデザインする特殊な手法である。このデザイン要素を「芸術家協働作業」EX1とする。

以上の「空間設計要素」についても「空間構成要素」と同様に、視覚的に分かりやすいことを考慮して、立体的空間として実際のデザイン例を参考にして、アクソメ図として模式表示の凡例を表2-3として作成した。これを構成するものが「什器壁面一体型」F1、「什器独立型」F2、「独立型骨董什器」FN3、「機能独立型什器」FN4、「床間接照明」IL1、「壁間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3、「天井付帯照明」IL4、「独立型吊天井照明」IL5、「設備露出天井」EQ1、「芸術家協働作業」EX1の11要素である。

表2-3 複合化されたデザイン要素の模式表示 (筆者作成)

分類	平面					
	直線				曲線	
記号	S1	S2	S3	S4	C1	C2
名称	格子割付	対称配置線 (シンメトリー)	平行線	斜行線	全円	部分円
図式						
分類	平面			断面		
	複合			床		
記号	P1	P2	P3	F1	F2	
名称	交差線	複合図形	多重図形	段差床	水平床	
図式						
分類	断面					
	壁		天井			
記号	W1	W2	L1	L2	L3	L4
名称	自立壁	浮遊壁	水平天井	曲面天井	吊天井	掘込み天井
図式						
分類	立面					
記号	R1	R2	R3	R4	R5	R6
名称	格子壁面	素材壁面	目隠し壁面	ルーバー壁面	装飾壁面	並列型装飾壁面
図式						
分類	家具・設備				特記	
	家具什器系					
記号	FN1	EN2	FN3	FN4	EX1	
名称	壁面一体什器	独立型デザイン什器	独立型骨董什器	機能独立型什器	芸術家協働作業	
図式						

第4節 デザイン要素の出現状況による作品の分析方法

本研究の商環境デザイン作品の特性を明らかにする方法として、第一に作品のデザイン要素の類似性や、年代ごとの展開性についての特性を明らかにするため、上述の3つの作品に用いられているデザインを構成すると考えられるデザイン要素である「空間構成要素」、「空間仕上要素」および「空間設計要素」を各作品から抽出し、作品ごとのデザイン要素の出現状況と組み合わせ使用について分析して検討を加える。

抽出する3つのデザイン要素に関して、商環境に対してデザインを行わないで既成の家具等で構成された店舗（百貨店の壁の無い区分だけされた店舗等）のようにインテリアデザインを行う前の原空間のままの商環境空間、または既存建築に床、壁等の仕上げ素材のみを貼り付けることなどで、新しいコンセプトあるいは提案的なデザインの意図を持たないもの（既存の室内装飾など）は分析対象の要素として取り上げないこととした。

しかし、建築側で仕上げられた床、壁、天井を杉本のデザイン意図によって建築に付帯する仕上げを除外して、コンクリート打ち放しの既存躯体をデザイン要素として表現した「スケルトン（既存躯体）」の「スケルトン床」FM7、「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4は例外とし、杉本独自のデザインとして壁、天井においてデザイン要素として抽出した。

多くの作品に対して使用されるデザイン要素は多岐に渡るため、定量的な取り扱いも試みる。すなわち1972年から1989年までの研究対象期間の前期62作品および1990年から2018年までの研究対象期間の後期55作品についての合計全117作品のデザイン要素を抽出する。その抽出結果を一覧できるデザイン要素の出現表を、前期と後期に分けて作成する。この際に、前期または後期のみに見れたデザイン要素があり、のちの分析の都合上、前期、後期の各出現表には省略をして表示した。

定量的な取り扱いについては、出現表は、要素が出現する場合を「1」、出現しない場合を「0」としてダミー変数を用いてデータ化する。そのデータを、林の数量化Ⅲ類により分析し、カテゴリースコアを求め、説明軸数を定める。

次に、各作品について選定された説明軸に対するサンプルスコアを求める。求めたサンプルスコアを用いて、クラスター分析を行い、作品の分類を試みる。そこで、作品表現および設計手法、年代的推移（変化）、作品群の同質性・類似性・相違性などの特性について分析し検討する。

第5節 第2章のまとめ

第2章「研究方法」では、杉本の商環境デザイン作品のインテリア特性の分析を進める上での研究方法を示した。

研究対象期間は、杉本がインテリアデザイナーとしてデビューした1972年から1989年のバブル経済崩壊前までの前期期間、1990年から2018年までの後期期間とした。

『商店建築』（1972年～2018年）に発表された前期62作品（P1～P62）、後期55作品（L1～L55）を研究対象作品とした。

研究対象である商環境デザイン作品のデータをインテリア雑誌『商店建築』から収集して作品データ表を作製した。

作品データ表より抽出する商環境空間を構成するデザイン要素を、空間の基本を構成する平面、立面、断面の床、壁、天井の要素である「空間構成要素」、空間を仕上げる要素の「空間仕上要素」、機能のための家具、設備・照明設計のための「空間設計要素」の3要素として説明を行った。

多くの作品に対して使用されるデザイン要素は多岐に渡るため、定量的な取り扱いも試みるために全作品から抽出したデザイン要素を数量化Ⅲ類の分析により定量化し、クラスター分析等の研究方法を説明し、研究テーマの位置付けと研究の構成を示した。

注記

1) 1956年6月、村上末吉が商店建築社を創立、同年8月、月刊「商店建築」を創刊。発行60周年を超え現在も月刊にて発行が続いているインテリア専門誌である。写真だけではなく図面や仕様なども掲載され専門家が情報収集するための最も代表的な書籍である。

2) スーパーポテトの初の作品集である。1971年～2006年までの代表作を中心に掲載されている。編集にはスーパーポテト自身が監修している。

3) <https://superpotato.jp/ja/>

4) デザイナーが意図し、新たに構成された床、壁、天井をインテリアシェルターと呼ぶ。原室内空間に生成されたインテリアシェルターとの離れ方に着目し、その距離を離隔寸法、その離れ方の理由を離隔要因と呼ぶ。多層化がある場合、これを多重性と呼ぶ。

第3章
結果

第1節 1972年～1989年までの前期作品（作品番号 P1～P62）

3. 1. 1 研究対象作品

研究対象の1972年から1989年までの前期62作品について、『商店建築』から各作品の作品名、竣工年、面積、写真、図面、作品解説、仕上げ表をまとめて一覧表にした図2-1のデータシートから、「2. 方法」の章で述べた「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」のデザイン要素を抽出し、デザイン要素をアクソメ図にて模式化して表現した一覧表を表3-1としてまとめた。この場合、表2-3のデザイン要素の空間表現化した模式表示を用いて表現したダイアグラムを参考にして行った。

抽出の実際を作品P1『ブティックワイズ』を事例として説明する。図2-1のデータシートより入手できた図面はアクソメ図である。

図2-1のデータシートを分析すると、「空間構成要素」は、平面のデザイン要素は、断面計画から床は水平な床で段差は無く「水平床」F2、平面計画では「平行線」S3と、「独立型什器」F2の配置による強い「斜行線」S4が基調となっている。断面的には、床と同様に天井も水平が保たれており「水平天井」L1が出現している。

「空間仕上要素」は作品データの仕上げ表より抽出し、床は「石材系床」FM4で、壁と天井は「石膏ボード壁面」WM7と「石膏ボード天井」CM3である。

「空間設計要素」としては、店舗の重要な機能である棚什器が壁と一体に作り付けられた「壁面一体什器」FN1としてデザインされ、店舗の商品ディスプレイを兼ねてハンガー壁が独立して設置されている「独立型什器」F2、その上でハンガーは天井より吊られ「斜行線」S4に沿って設置されデザイン要素としての「浮遊壁」W2が用いられている。照明は、壁面を「壁面一体型什器」FN1の裏側から間接的に光を照らす「壁間接照明」IL2、壁面の造り付け家具を一体化されて光が照らされる「壁付帯照明」IL3、天井面を壁面の証明と同じデザインで天井と一体化され、天井面から床面を照らす「天井付帯照明」IL4が採用されている。

これらのデザイン要素を表2-3の模式表示の凡例を組み合わせてこの作品のダイアグラムとして表現し、写真も、図面もあわせて表3-1の作品番号P1『ブティックワイズ』として提示した。

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面1

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

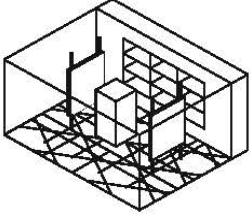

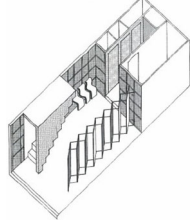
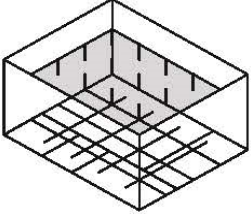

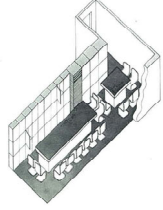
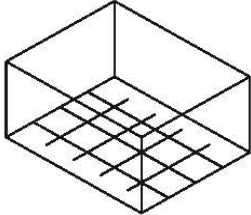

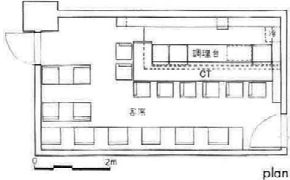
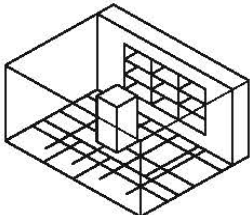

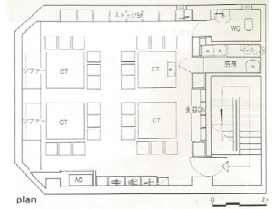
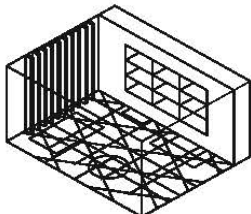


作品番号	P1	作品名	ブティックワイズ	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P2	作品名	ラジオ	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P3	作品名	コーヒーハウスコロ	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P4	作品名	パブオレンジ	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P5	作品名	ナルセフローリスト	
要素		写真	図面	
				

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面2

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

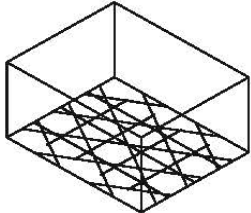

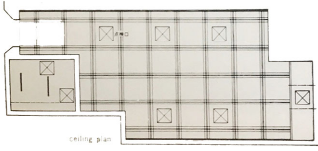
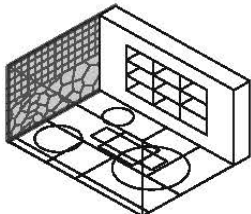

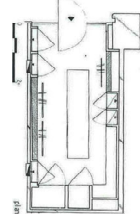
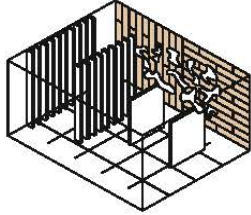
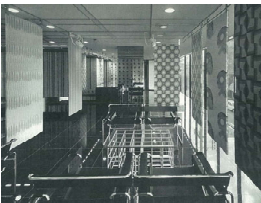
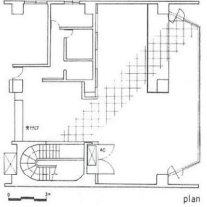
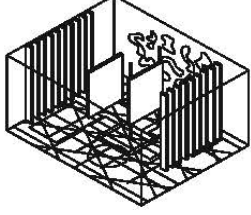

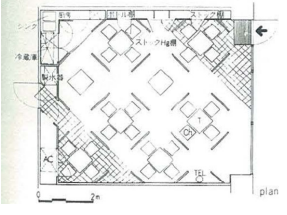
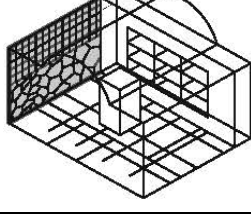

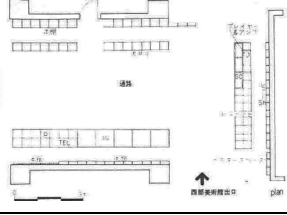
作品番号	P6	作品名	テフテフ
要素	写真	図面	
			
作品番号	P7	作品名	ブティック ISSEY MIYAKE
要素	写真	図面	
			
作品番号	P8	作品名	カワキチ 大阪支店
要素	写真	図面	
			
作品番号	P9	作品名	ポスト
要素	写真	図面	
			
作品番号	P10	作品名	アール・ビバン
要素	写真	図面	
			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面3

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

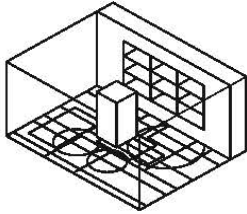

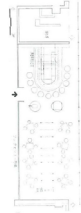
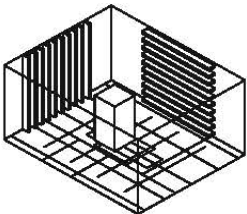

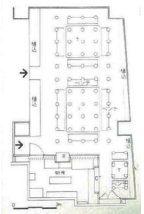
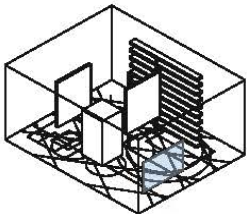

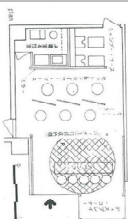
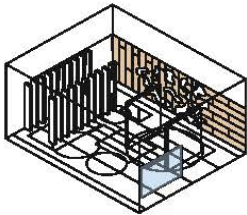

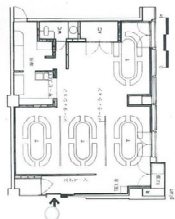
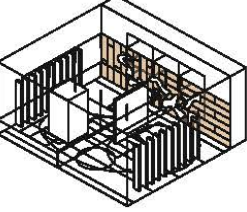

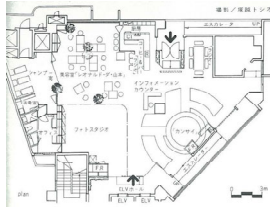
作品番号	P11	作品名	カフェフィガロ
要素		写真	図面
			
作品番号	P12	作品名	ストロベリー
要素		写真	図面
			
作品番号	P13	作品名	カッチャー・タカハシ青山店
要素		写真	図面
			
作品番号	P14	作品名	マラソソクラブ
要素		写真	図面
			
作品番号	P15	作品名	ザ・パイブレーション
要素		写真	図面
			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面4

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

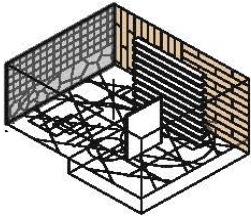

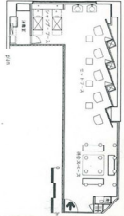
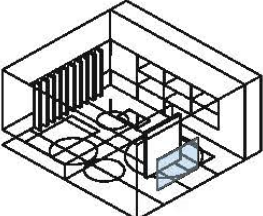

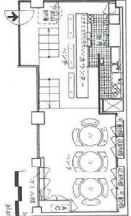
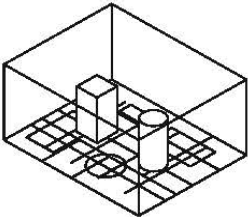

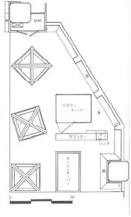
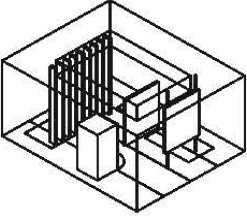


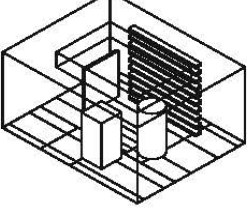

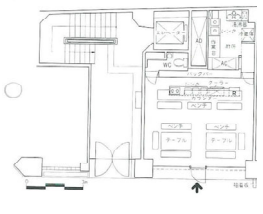
作品番号	P16	作品名	コアフル/石井
要素		写真	図面
			
作品番号	P17	作品名	まる八
要素		写真	図面
			
作品番号	P18	作品名	ナルセフローリストノブ
要素		写真	図面
			
作品番号	P19	作品名	ルナロード美容室
要素		写真	図面
			
作品番号	P20	作品名	アゼリア
要素		写真	図面
			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面5

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

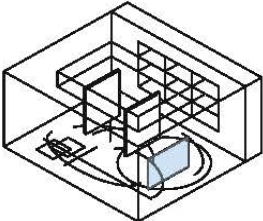

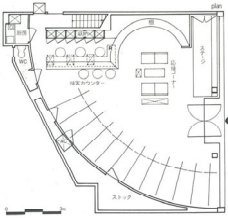
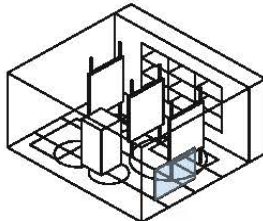


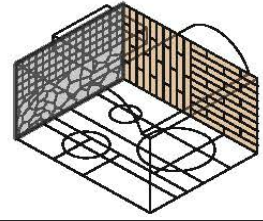


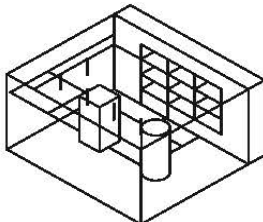

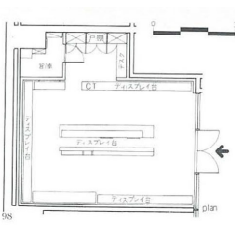
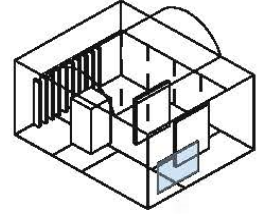

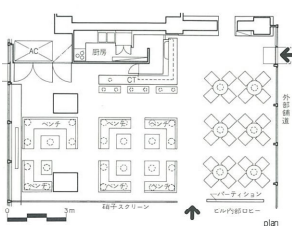
作品番号	P21	作品名	フクダモーターズ
要素		写真	
図面			
作品番号	P22	作品名	100%ファクトリー
要素		写真	
図面			
作品番号	P23	作品名	シルバーボット
要素		写真	
図面			
作品番号	P24	作品名	ショップスパイラル
要素		写真	
図面			
作品番号	P25	作品名	日本リクルートセンター銀座ビル ティーラウンジ
要素		写真	
図面			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面6

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

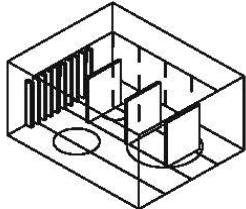
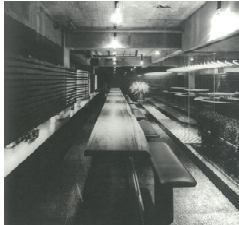
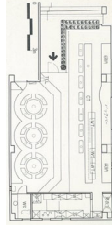
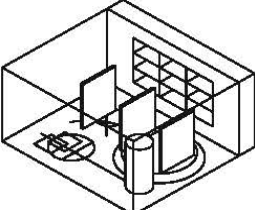

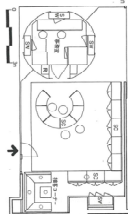
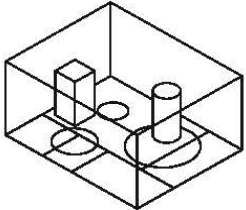

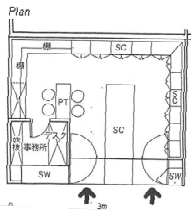
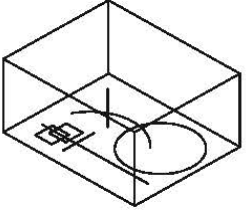


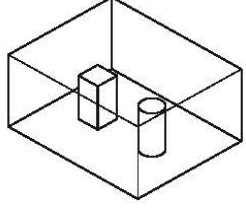

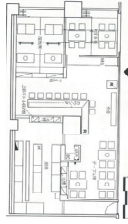
作品番号	P26	作品名	レディーポテト		
要素		写真		図面	
作品番号	P27	作品名	モンジュ		
要素		写真		図面	
作品番号	P28	作品名	アイボリー		
要素		写真		図面	
作品番号	P29	作品名	司		
要素		写真		図面	
作品番号	P30	作品名	貝作		
要素		写真		図面	

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面7

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

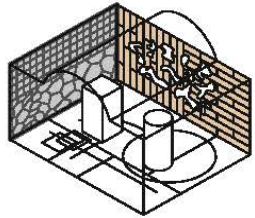

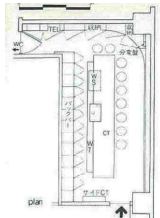
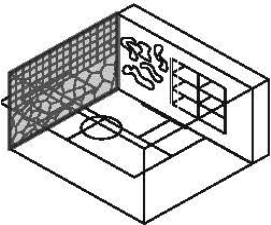

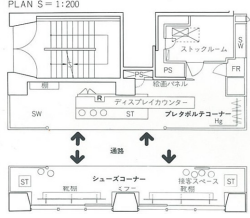
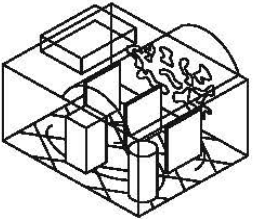

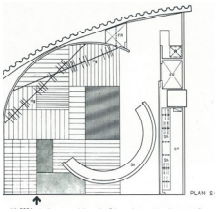
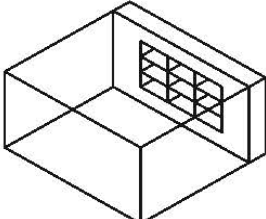


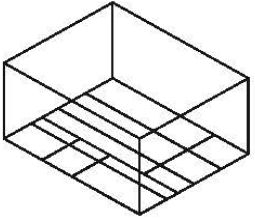

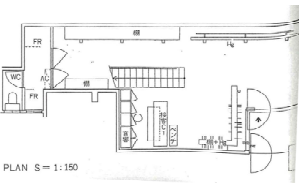
作品番号	P31	作品名	ラジオ
要素		写真	図面
			
作品番号	P32	作品名	テラス
要素		写真	図面
			
作品番号	P33	作品名	ラ・ブレア
要素		写真	図面
			
作品番号	P34	作品名	無印良品 青山
要素		写真	図面
			
作品番号	P35	作品名	パシュ 札幌
要素		写真	図面
			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面8

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

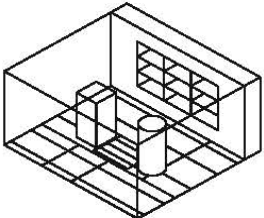

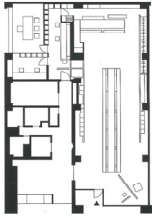
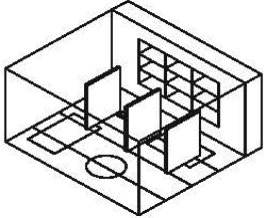

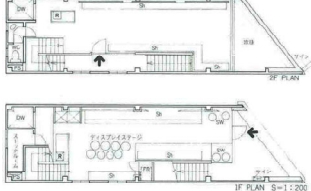
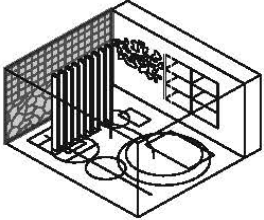

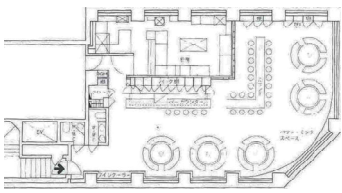
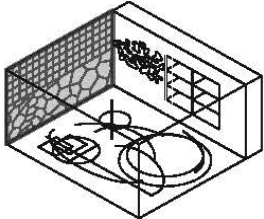
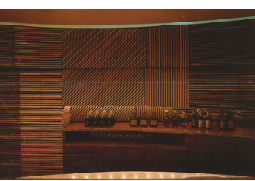
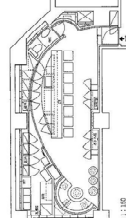
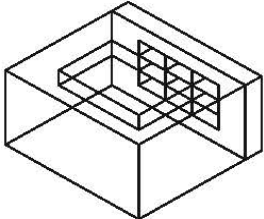

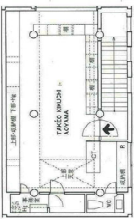
作品番号	P36	作品名	パシュラボ	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P37	作品名	無印良品 アメリカ村	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P38	作品名	オールドニュー	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P39	作品名	セラ	
要素		写真	図面	
				
作品番号	P40	作品名	ビギ青山%th club&TAKEO KIKUCHI AOYAMA	
要素		写真	図面	
				

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面9

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

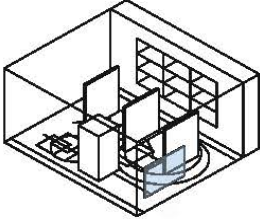

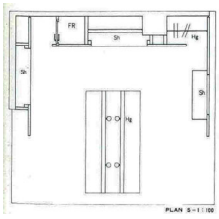
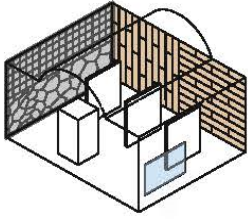

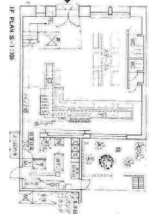
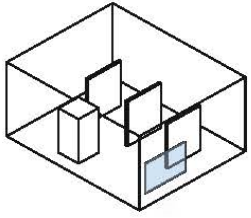

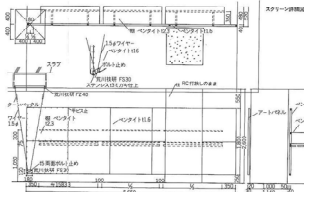
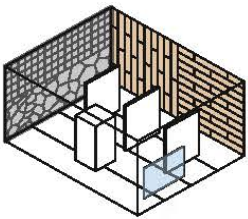

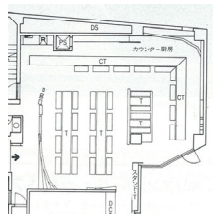
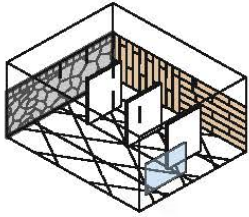
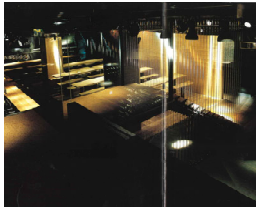
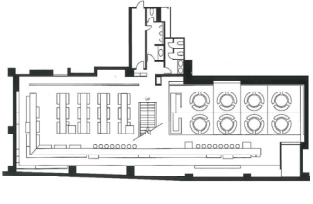
作品番号	P41	作品名	パシュ 丸井ファッション館
要素		写真	図面
			
作品番号	P42	作品名	ビーイン
要素		写真	図面
			
作品番号	P43	作品名	ジュン メン パルコ I 店
要素		写真	図面
			
作品番号	P44	作品名	木乃花
要素		写真	図面
			
作品番号	P45	作品名	EX
要素		写真	図面
			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面 10

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

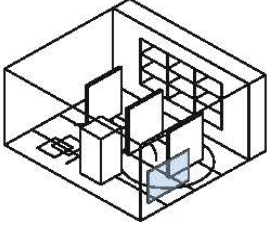

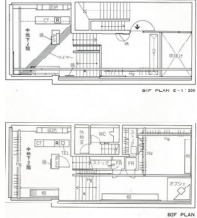
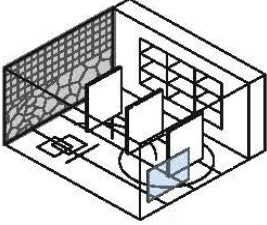

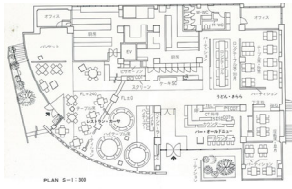
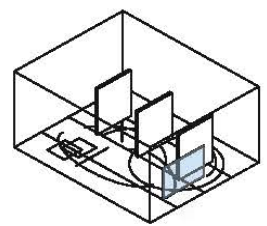

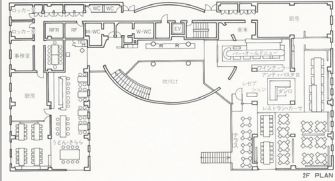
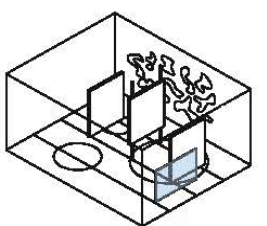
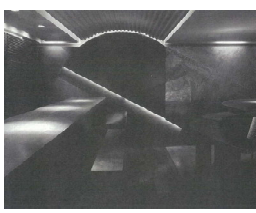
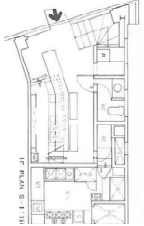
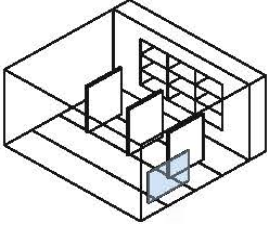

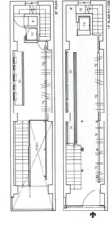
作品番号	P46	作品名	青山ティーオージュンメン		
要素		写真		図面	
作品番号	P47	作品名	オールド・ニュー 北白河店		
要素		写真		図面	
作品番号	P48	作品名	オールド・ニュー 田園調布店		
要素		写真		図面	
作品番号	P49	作品名	セットオフ		
要素		写真		図面	
作品番号	P50	作品名	パセットウォーカー 新宿店		
要素		写真		図面	

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面 11

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

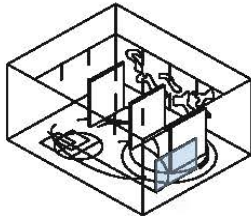

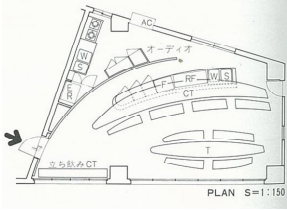
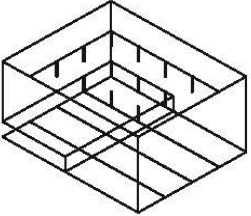

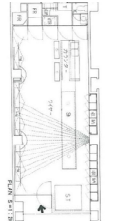
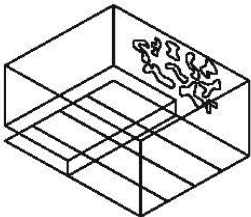

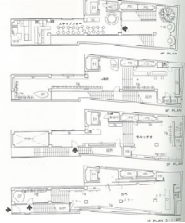
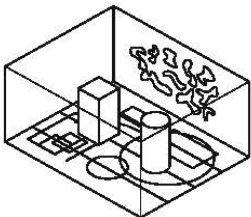

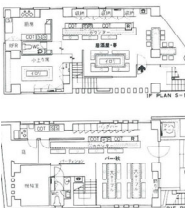
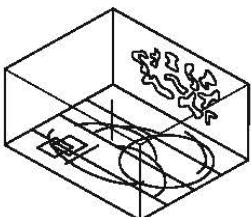

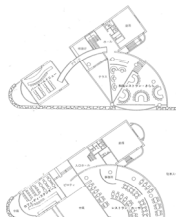
作品番号	P51	作品名	イー.エム.エイ
要素		写真	図面
			
作品番号	P52	作品名	ヒロコオム
要素		写真	図面
			
作品番号	P53	作品名	上野 ティーオー
要素		写真	図面
			
作品番号	P54	作品名	春&秋
要素		写真	図面
			
作品番号	P55	作品名	オールドニュー 六甲
要素		写真	図面
			

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面 12

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

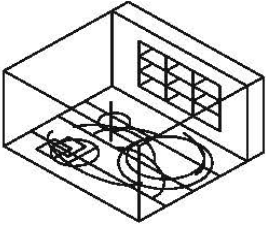

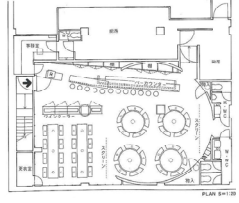
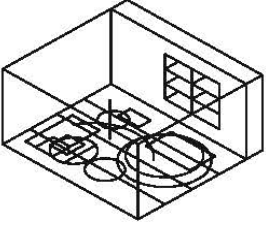

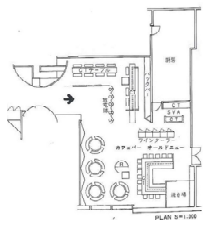
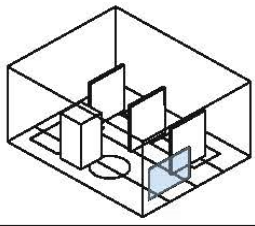
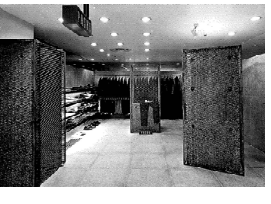
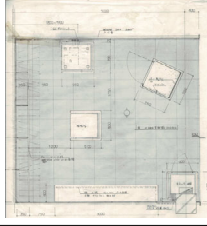
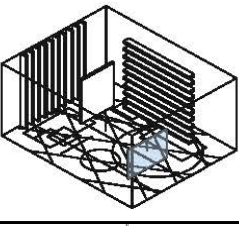

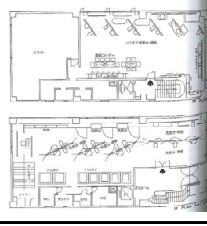
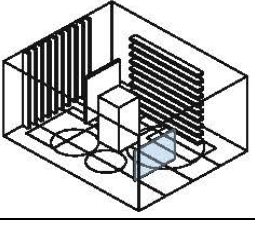

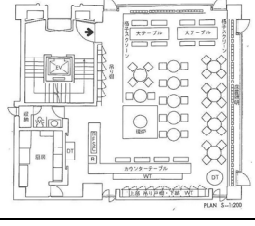
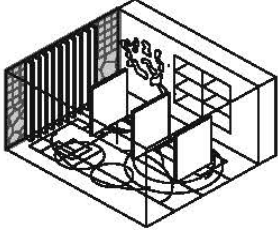

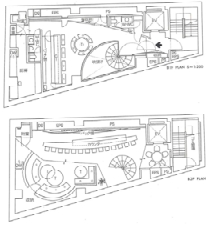
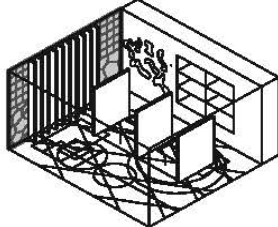

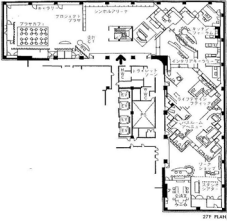
作品番号	P56	作品名	オールドニュー 吉祥寺店		
要素		写真		図面	
作品番号	P57	作品名	オールドニュー 新宿ルミネ店		
要素		写真		図面	
作品番号	P58	作品名	パシュ 松山		
要素		写真		図面	
作品番号	P59	作品名	セラトレーディングショールーム		
要素		写真		図面	
作品番号	P60	作品名	オールドイン		
要素		写真		図面	

表3-1 対象作品のデザイン要素、写真および図面 13

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

作品番号	P61	作品名	セットオフノイ
要素	写真	図面	
			
作品番号	P62	作品名	TOTOスーパースペース
要素	写真	図面	
			

3. 1. 2 デザイン要素抽出結果

杉本の商環境デザイン前期作品の抽出されたデザイン要素について、表2-3および「2. 3. 3 空間仕上要素」で示したデザイン要素の出現を調査し、その結果を一覧表として作成した。表3-2に前期作品の一覧表を示す。

前期作品のデザイン要素の出現表は、縦の列としては、左から第1列に前期作品の作品番号(P1~P62)を示し、第2列に作品の発表年月を『商店建築』のデータから得られたデータシートより示し、第3列に『商店建築』で発表された作品名、第4列には面積、第5列には作品の商業業態を表示した。

横の行としては、デザイン要素を示しており、第1行は「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」の要素種別とし、第2行は「床」「壁」「天井」の空間に細目がある場合、第3行は部位などの詳細を示している。第4行はデザイン要素の表示記号、第5行はデザイン要素の名称を示している。

第5列第6行から以下の欄には、各作品におけるデザイン要素の出現が、有の場合「1」、無の場合「0」として表示している。

各作品を通じて出現数が最も多いデザイン要素は、90%以上の作品に用いられている「水平床」F2である。

続いて出現割合が60%を超えるものとしては、「平行線」S3、「水平天井」L1、「石材系床」FM4である。

出現割合40~50%のデザイン要素は、「自立壁」W1、「木材系床」FM1、「複合材床」FM6、「木材系壁面」WM1、「金属系壁面」WM2、「石膏ボード系壁面」WM7、「石膏ボード天井」CM3、「スケルトン天井」CM4、「壁面一体什器」FN1、「独立型什器」FN2、「天井付帯照明」IL4である。

出現割合25~39%のデザイン要素は、「全円」C1、「交差線」P1、「複合図形」P2、「多重図形」P3、「素材壁面」R2、「目隠し壁面」R3、「装飾壁面」R5、「複合材壁面」WM6、「スケルトン壁」WM8、「設備露出天井」EQ1である。

出現割合11~24%のデザイン要素は「格子割付」S1、「対称配置線(シンメトリー)」S2、「斜行線」S4、「部分円」C2、「吊天井」L3、「掘込み天井」L4、「格子壁面」R1、「ルーバー壁」R4、「金属系床」FM2、「T/C系床」FM3、「ルーバー天井」CM1、「格子天井」CM2、「壁間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3である。

出現割合10%以下のデザイン要素としては、「段差床」F1、「浮遊壁」W2、「曲面天井」L2、「れんが系床」FM5、「スケルトン床」FM7、「タイル系壁面」WM3、「石材系壁面」

WM4、「れんが系壁面」WM5、「床間接照明」IL1である。

年代的に見ると、偏在して出現しているデザイン要素として、「格子割付」S1は、1972年作品P1『ブティック ワイズ』から1979年作品P18『ナルセフローリスト』までに連続して出現するが、以降にはみられない。「段差床」F1は出現数も少なく1978年の作品P15『ザ・バイブレーション』、作品P16『コアフル/石井』、作品P17『まる八』の3作品に見られるのみである。「金属系床」FM2は1983年作品P34『無印良品青山』以降にのみ出現している。「格子天井」CM2は1979年作品P19『ルナロード美容室』以降には見られない。「平行線」S3は、多くの作品に出現している。

次に、作品ごとに使用されているデザイン要素の数について述べる。多くの数のデザイン要素を使用している作品として、デザイン要素総数48のうち20要素以上（40%以上）を使用しているものは、作品P9『ポトス』、作品P15『ザ・バイブレーション』、作品P38『オールドニュー』、作品P45『EX』、作品P49『セットオフ』、作品P56『オールドニュー吉祥寺店』、作品P62『TOTO スーパースペース』である。

反対に使用されているデザイン要素数の少ないデザイン要素数9以下（20%以下）は、作品3『コーヒーハウス コロ』、作品P7『ブティック ISSEY MIYAKE』、作品P28『アイボリー』、作品P29『司』、作品P30『貝作』、作品P58『パシュ松山』である。その他は、デザイン要素数10から19である。

3. 1. 3 クラスタ分析による作品分類

以上の前期 62 作品 (P1~P62) についてデザイン要素の出現表の表 3-2 を用いて、林の数量化Ⅲ類による分析を行った。

前期作品の結果として抽出された軸の特性表 (固有値・寄与率・相関係数) を表 3-3 に示す。その結果から、固有値 0.15 以上および相関係数 0.4 以上の軸を説明軸として採用することとし第 3 軸までを選定した。この軸に対するカテゴリースコア (CS と呼ぶ) を表 3-4 及び図 3-1 に示す。各軸は次のように解釈した。解釈にあたっては、対象軸で絶対値の大きい要素を参照するが、他軸でスコアがより大きい場合にはそちらを参照することとした。

第 1 軸は CS が正では「格子割付」S1=2.62、「格子天井」CM2=1.90 そして負では 1.38 ~1.52 に「スケルトン床」FM7、「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4 と「設備露出天井」EQ1 が現れており、「格子割付」か「スケルトン」のいずれかを構成要素の中心としていることを示している。

第 2 軸は正の CS は「曲面天井」L2=3.12、「掘込み天井」L4=2.20 と負の「格子天井」CM2=2.33、「吊天井」L3=1.97 が現れ、形状を有する天井か吊り系の負の「ルーバー天井」CM1=0.40 の利用を示している。

第 3 軸の CS の正では、「れんが系床」FM5「れんが系壁面」WM5=3.62、「金属系床」FM2=2.06、負では「T/C 系床」FM3=4.13 が現れ、床仕上げの硬軟を示すと解釈した。

次に、各作品の第 1 軸から第 3 軸のサンプルスコアの表 3-5 を用いて各作品についてクラスタ分析を行い、作品の分類を行った。手法は、Ward 法によりユークリッド距離を使用した。この結果について、デザイン要素の出現を含めた樹形図として図 3-2 に示す。

この 1 軸 2 軸におけるクラスタ分析の結果について、樹形図の距離 4.5 付近で切断すると、前期作品は 5 群に分類することができる。このクラスタ分析で分類した群を図 3-2 の樹形図の上方の群から、P-A 群、P-B 群、P-C 群、P-D 群、P-E 群と称する。またサンプルスコアの散布図を図 3-3 に示す。

これらの群内を観察すると P-C 群は枝分かれの距離とまとまり具合、すなわち各作品同士の間隔が比較的均等で、独立的作品があるため、P-C 群内をさらに 2 群の P-C I 群と P-C II 群に分割することとした。

表3-3 数量化Ⅲ類における軸の特性表（著者作成）

軸	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
1	0.322	13.8%	13.8%	0.568
2	0.187	8.0%	21.9%	0.432
3	0.168	7.2%	29.1%	0.409
4	0.139	6.0%	35.1%	0.373

表3-4 数量化Ⅲ類における各要素のカテゴリースコア表（著者作成）

カテゴリー	第1軸	第2軸	第3軸	カテゴリー	第1軸	第2軸	第3軸
格子割付	2.62	-1.18	1.53	石材系床	0.18	-0.33	0.04
対称配置線	0.97	-1.12	0.41	れんが系床	-2.12	1.94	3.62
平行線	0.31	-0.62	0.46	複合材床	-1.19	0.46	0.85
斜行線	1.20	-1.23	1.46	スケルトン床	-1.52	-0.96	0.02
全円	-0.28	-0.12	-0.87	木材系壁面	-0.90	0.78	-0.01
部分円	-1.04	-0.16	-1.56	金属系壁面	-0.93	-0.24	0.11
交差線	0.15	-0.96	0.61	タイル系壁面	0.52	-1.81	2.32
複合図形	1.65	0.61	0.05	石材系壁面	-0.13	1.24	-3.28
多重図形	-0.63	0.11	-0.88	れんが系壁面	-2.20	2.59	3.62
段差床	-0.08	-4.44	-0.63	複合材壁面	-1.50	1.05	0.93
水平床	0.17	0.43	-0.11	石膏ボード壁面	1.56	1.02	-0.15
自立壁	-0.42	0.08	0.00	スケルトン壁面	-1.52	-1.32	-0.58
浮遊壁	1.18	-0.25	0.31	ルーバー天井	-0.79	-0.40	-4.09
水平天井	0.74	0.48	0.19	格子天井	1.90	-2.33	0.53
曲面天井	0.06	3.12	-1.82	石膏ボード天井	0.94	1.34	-0.05
吊天井	-0.18	-1.97	-2.26	スケルトン天井	-1.39	-0.85	-0.23
掘込み天井	0.30	2.20	-1.20	壁面一体什器	0.09	0.19	0.67
格子壁面	0.51	-2.51	0.55	独立型什器	0.71	0.88	-0.14
素材壁面	0.09	0.32	-0.26	床間接照明	0.84	0.75	2.36
目隠し壁面	-0.70	0.33	0.04	壁間接照明	0.78	-0.08	0.14
ルーバー壁面	0.41	-1.19	-1.02	壁付帯照明	2.25	-1.54	1.52
装飾壁面	-0.76	-1.00	-0.94	天井付帯照明	1.38	0.21	-0.70
木材系床	-0.74	0.15	0.75	設備露出天井	-1.42	-1.83	-0.65
金属系床	-1.78	0.90	2.06	芸術家協働作業	-0.51	0.45	0.58
T/C系床	0.84	2.98	-4.13				

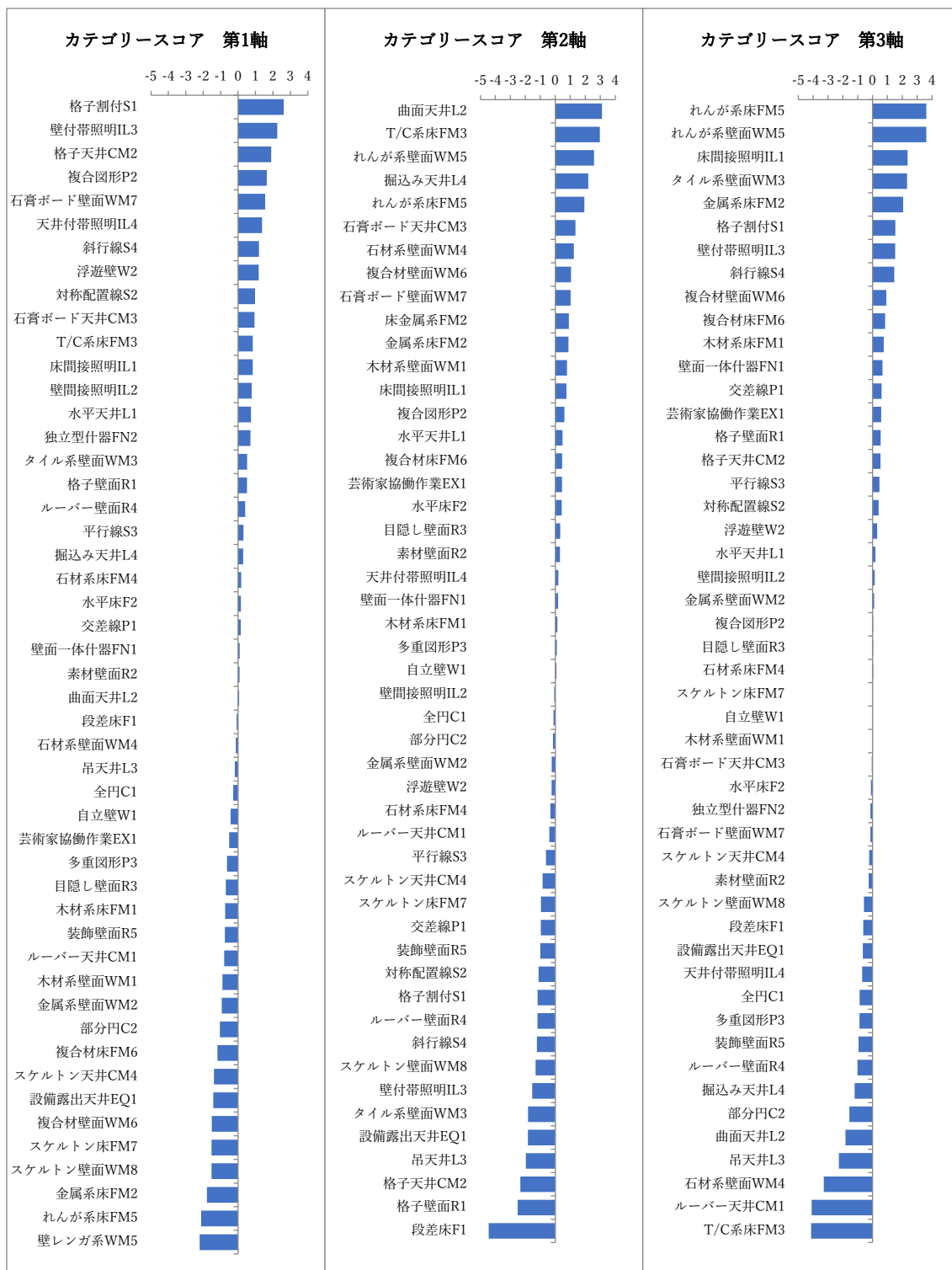


図3-1 数量化Ⅲ類における各要素のカテゴリースコア図 (著者作成)

表3-5 数量化Ⅲ類による各作品のサンプルスコア（著者作成）

作品No.	第1軸	第2軸	第3軸	作品No.	第1軸	第2軸	第3軸
1	1.8049	-0.0349	0.8288	32	-0.0605	-0.0296	0.0449
2	1.7620	-0.8042	0.3041	33	-0.9834	1.3615	0.7507
3	1.8968	-0.6477	0.5651	34	-2.0436	1.1282	2.5135
4	1.8761	-0.1591	0.6738	35	0.0817	0.8838	0.5942
5	1.5522	-1.1840	1.4124	36	-0.6350	-0.4350	0.6758
6	1.8780	-0.9562	1.0796	37	-1.5696	1.0081	2.4587
7	1.2151	0.8644	0.3436	38	-1.2081	-0.3337	-0.3143
8	1.2268	-0.7393	0.1531	39	0.3623	1.1013	-1.5508
9	0.8903	-1.0123	0.5938	40	-0.7444	1.2599	0.5977
10	1.4074	0.3965	0.3903	41	-0.4332	0.5179	0.3360
11	1.2991	-0.1747	0.3678	42	-0.1621	1.6378	0.2844
12	1.7077	-0.7516	0.7022	43	-0.8695	1.1737	0.8904
13	0.9682	0.0091	0.2467	44	-0.0078	0.9243	0.3296
14	0.4042	-0.6647	-0.4517	45	-1.0289	-0.4796	0.3725
15	-0.1764	-2.0188	-0.3978	46	-0.9709	0.3390	0.5468
16	0.6340	-1.3522	-0.0804	47	-0.8044	1.5755	1.7656
17	-0.7151	-2.0663	-0.1207	48	-0.8700	0.7913	0.5420
18	1.5897	0.4214	1.0340	49	-0.3891	0.0150	0.7816
19	0.5747	0.1383	-0.8216	50	-1.0917	-0.1697	0.4376
20	1.1541	0.7012	-0.3346	51	-1.0648	-0.9608	-1.9176
21	0.0894	1.4698	-1.4729	52	-1.1326	-1.7670	-1.9842
22	0.0131	0.2644	-0.6105	53	-1.2989	-1.2527	-1.2676
23	0.8834	1.7782	-0.6746	54	-1.2393	-0.3264	0.3448
24	0.4268	0.9245	-1.0437	55	-1.2871	-1.1215	-0.9436
25	0.1578	1.2503	-2.3209	56	-1.0316	-0.7154	-0.7450
26	-0.7442	-0.6437	-1.8795	57	-0.4668	0.0858	0.1405
27	0.2342	1.0997	-0.7051	58	-0.1298	-0.1444	0.3432
28	1.0541	1.4006	-1.0892	59	-0.4324	-1.0985	0.3424
29	0.6235	1.8521	-2.5808	60	-0.6392	-0.6160	0.5215
30	1.0001	2.6356	-1.3733	61	-0.3738	-0.1655	-0.3177
31	0.3590	0.9425	-1.6635	62	-0.4508	-0.5747	0.1108

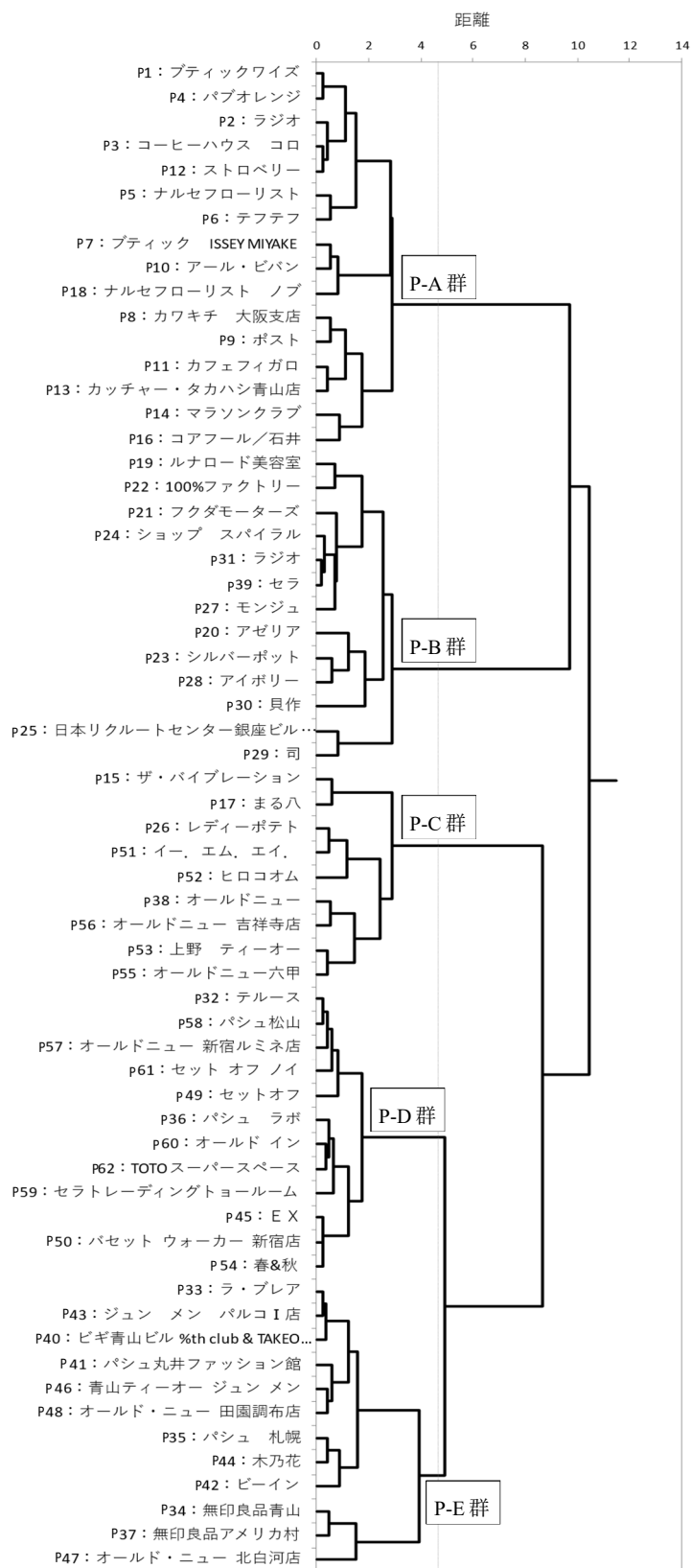


図3-2 クラスタ分析結果 (著者作成)

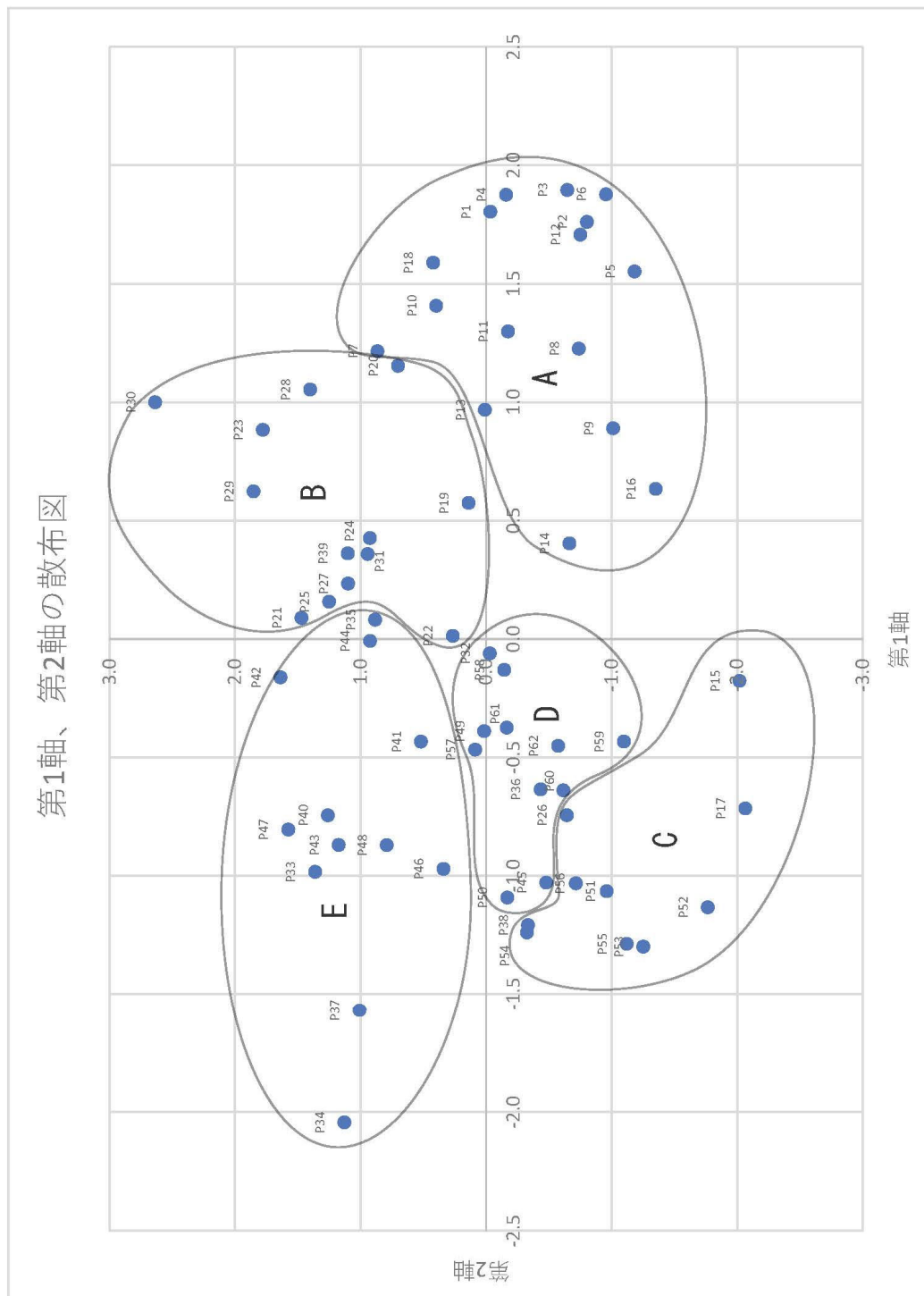


図3-3 前期サンプルスコア散布図上の分析結果 (著者作成)

3. 1. 4 分類された前期作品の各群のデザイン要素

分類された作品に用いられているデザイン要素の出現率が40%以上～60%未満、60%以上の結果を表3-6に示す。全体を通して見ると、全ての群で60%以上の作品に出現しているデザイン要素は「水平床」F2のみである。

さらに40%以上～60%未満の作品も含めて大半の群に出現しているデザイン要素は、「水平天井」L1、「平行線」S3「石材系床」FM4、「壁面一体什器」FN1などである。

次に各作品群で40%以上～60%未満で出現している要素は、上述の要素以外は各作品群で異なり、各作品群の特性の一つとなっている。更に、出現率の低いデザイン要素はその作品群特有に出現するデザイン要素として出現している。

表3-6 分類された作品群に出現したデザイン要素（著者作成）

作品群	デザイン要素																													
	S1	CM2	IL3	WM7	IL4	P2	L1	CM3	FN2	S3	FM4	FN1	P1	FM3	WM8	EQ1	WM2	CM4	R5	R3	EX1	WM6	W1	FM1	FM6	WM1	FM2	WM5	F2	
	格子割付	格子天井	壁付帯照明	石膏ボード壁面	天井付帯照明	複合図形	水平天井	石膏ボード天井	独立型什器	平行線	石材系床	壁面一体什器	交差線	T/C系床	スケルトン壁面	設備露出天井	金属系壁面	スケルトン天井	装飾壁面	目隠し壁面	芸術家協働作業	複合材壁面	自立壁	木材系床	複合材床	木材系壁面	金属系床	れんが系壁面	水平床	
P-A	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○																◎	
P-B				◎	◎	○	○	◎	◎					○																◎
P-C										◎	◎	○			◎	◎	◎	◎												◎
P-D							◎			◎	◎	○	◎		○	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎				◎
P-E							○	◎	○	○	○	○					○	○			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎

◎：出現割合60%以上 ○：出現割合40%以上60%未満

1) P-A 群のデザイン要素

P-A 群は杉本がデビューした 1972 年から 1998 年までの作品である。前期作品の P-A 群に分類された作品で用いられているデザイン要素は、以下の通りである。「格子割付」S1、「対称配置線（シンメトリー）」S2、「平行線」S3、「斜行線」S4、「複合図形」P2、「水平天井」L1、「木材系床」FM1、「石材系床」FM4、「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」CM3、「天井付帯照明」IL4 が多用されている。

P-A 群のデビュー作である作品 P1『ブティック ワイズ』に用いられた「平行線」S3 でグリッド上に規則正しく割り付けられた「格子割付」S1 は、P-A 群の前半年に必ず出現している。「天井付帯照明」IL4 も同様である。

P-A 群の中でも年代が進んだ 1994 年、作品 P8『カワキチ大阪支店』、1995 年、作品 P9『ポスト』、1998 年、作品 P15『バイブレーション』のデザインでは、前述のデザイン要素に加え、「格子壁面」R1、「ルーバー壁面」R4 や「壁面間接照明」IL2、「装飾壁面」R5 が作品に付け加えられ、「独立型什器」FN2 が出現している。空間仕上要素を見ると、床は「木材系床」FM1、「石材系床」FM4、壁、天井は「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」WM7 である。

2) P-B 群のデザイン要素

P-B 群に分類された作品は 1979 年から 1983 年にわたり完成した作品である。多く用いられているデザイン要素は「複合図形」P2、「水平天井」L1、「石材床」FM4、「石材系壁面」WM4、「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」CM3、「独立型什器」FN2、「天井付帯照明」IL4 がある。

デザイン要素の特性は、P-A 群で多用された「格子割付」S1、「対称配置線（シンメトリー）」S2、「斜行線」S4 が出現していないことである。代わりに平面において曲線の「全円」C1 が新たに出現している。代表的な作品は、作品 P19『ルナロード美容院』、作品 P20『アゼリア』、作品 P25『日本リクルートセンター銀座ビルティールounge』などで、この特性が示されている。壁の「空間構成要素」に「目隠し壁面」R3、「ルーバー壁面」R4 が用いられ、P-A 群から新しく出現したデザイン要素である。

「空間仕上要素」を見ると、壁面では作品 P18『ナルセフローリスト』に「石膏ボード壁面」WM7 の表面に「木材系壁面」WM1 が仕上げとして出現している。天井では、「曲面天井」L2 が出現し、P-A 群と同様に「天井付帯照明」IL4 も出現している。P-A 群で多用された「壁面付帯照明」IL2、「壁付帯照明」IL3 は出現していない。

作品 P31『ラジオ（二期）』では、杉本のデザインの主流になる芸術家若林奮との「芸術家協働作業」EX1 が初めて出現した。

3) P-C 群のデザイン要素

P-C 群では時代によって P-C I 群と P-C II 群の二つの群に分類されている。多く出現するデザイン要素は、群全体では「平行線」S3、「段差床」F1、「自立壁」W1、「石材系床」FM4、「木材系壁面」WM1、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 である。

C I 群は、1978 年の作品 P15『ザ バイブレーション』、作品 P17『まる八』の 2 作品で構成される。平面には、前者で「部分円」C2 が、後者では「平行線」S3 と「全円」C1 が大胆に使用され、「空間仕上要素」では、「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4 が初めて出現している。さらにデザイン要素全体では「交差線」P1、「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4、「格子天井」CM2、「設備露出天井」EQ1 が初めて試されている。これは後述の C II 群では用いられていない。

C II 群では 1981 年から 1987 年の作品で多く出現するデザイン要素は、「平行線」S3、「装飾壁面」R5、「石材床材」FM4、「金属系壁面」WM2、「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 が挙げられる。「芸術家協働作業」EX1 は、作品 P38『オールドニュー』、作品 P55『オールドニュー六甲』、作品 P56『オールドニュー吉祥寺店』で使われるが、1986 年の作品 P50『バゼットウォーカー新宿店』、作品 P51『イー・エム・エイ』、作品 P52『ヒロコオム』、作品 P53『上野 ティーオー』、作品 P54『春&秋』、作品 P55『オールドニュー六甲』の 6 作品では用いられていない。「壁面付帯装飾」R4、「設備露出天井」EQ1 も新しく出現している。

4) P-D 群のデザイン要素

P-D 群は、1982 年からバブル経済崩壊前の 1989 年までの作品である。「空間構成要素」のデザイン要素は、平面と立面で「平行線」S3、「複合図形」P2「多重図形」P3、「目隠し壁面」R3、「ルーバー壁面」R4、「水平天井」L1、「空間仕上要素」として、「木材系床」FM1、「金属系床」FM2、「石材系床」FM4、「複合材床」FM6、「れんが系床」FM5、壁仕上げに「木材系壁面」WM1、「金属系壁面」WM2 が出現している。

他群と異なるデザイン要素として、「自立壁」W1、「目隠し壁」R3 が複合的に使われ、「複合材床」FM6 も多く出現している。

作品 P36『パシュ ラボ』、作品 P45『EX』では、「装飾壁面」R5、「芸術家協働作業」

EX1 が見られ、「ルーバー壁面」R4、「交差線」P1 の配置などが行われている。

P-D 群を図 3-2 で、作品 P32 『テルース』から作品 P49 『セットオフ』の群と作品 P36 『パシュ ラボ』から作品 P54 『春&秋』の群に分けてみると、両群の違いは、天井仕上げにあり、後者は「スケルトン天井」CM4 と「設備露出天井」EQ1 が用いられているが、前者は「設備露出天井」EQ1 は全く使用されていない。天井に明瞭な差が示されている。

5) P-E 群のデザイン要素

P-E 群は、1983 年から 1985 年の作品に集中した群である。

デザイン要素は、立面に「ルーバー壁面」R4、床仕上げには「木材系床」FM1、「金属系床」FM2、「れんが系床」FM5、壁仕上げに「木材系壁面」WM1、「金属系壁面」WM2、「複合材壁面」WM6 が用いられ、木材系と他の仕上げ要素との複合化が見られる。特に「複合材壁面」WM6 は他の群では見られないデザイン要素の使用頻度である。

平面では「多重図形」P3、断面では「自立壁」S12、立面では「ルーバー壁」R4 と「目隠し壁」R3 の出現頻度は比較的高い。

P-E 群の二つの群に分けられる大きな要因であるデザイン要素「芸術家協働作業」EX1 は作品 P35 『パシュ 札幌』、作品 P36 『パシュ ラボ』、作品 P38 『オールドニュー』、作品 P39 『セラ』、作品 P41 『パシュ 丸井ファッション館』、作品 P42 『ビーイン』、作品 P45 『EX』、作品 P46 『青山ティーオー ジュン メン』、作品 P47 『オールドニュー 北白河店』、作品 P49 『セットオフ』の 9 作品で行われている。

第2節 1990年～2018年までの後期作品（作品番号L1～L55）

3. 2. 1 研究対象作品

研究対象のバブル経済崩壊後の1990年から杉本の晩年である2018年までの後期55作品について『商店建築』『スーパーポテト』のホームページ等から各作品の作品名、発表年、面積、写真、図面、作品解説、仕上げ表をまとめて一覧表にした図2-2のデータシートから、「2. 方法」の章で述べた「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」の三つの要素種別からデザイン要素を抽出し、デザイン要素を空間化して表現した一覧表を表3-7としてまとめた。この場合、表2-3のデザイン要素の空間表現化した模式表示を用いて表現したダイアグラムを参考にして行った。

抽出の実際を作品L2『春秋 赤坂』を事例として、表3-7から説明する。図2-2のデータシートより入手出来た図面は平面図である。

図2-2のデータシートを分析すると「空間構成要素」は、平面計画には「平行直線」S2を基調に、店舗（レストラン）の機能を「機能対応型平面」S7によって計画され、断面計画としての床は「水平床」S10で構成されている。壁には店舗空間を機能によって「自立壁」W1、「浮遊壁」W2が用いられ空間が閉鎖的にならないように区画されている。立面においては、「目隠し壁面（スクリーン）」R3と「ルーバー壁面」R4の木格子壁によって和風を演出するデザインがされている。天井全体は、デザイン要素はなく「水平天井」L1で構成されている。

「空間仕上要素」は、床には「木材系床」FM1、「石材系床」FM4が、「床複合床素材」FM5として仕上げられている。壁仕上げには、この作品から初めて古民家などで廃棄された古木である「壁木材系（古材）」WM1、「塗装系壁面（左官）」WM11が出現している。天井仕上げには、「石膏ボード天井」WM7が用いられている。

「空間設計要素」は、壁の照明には「自立壁」W1、「浮遊壁」W2と一体化され間接的に照らす「壁間接照明」IL2、和風の演出のために「壁付帯照明」IL3が用いられている。天井の照明は「天井付帯照明」IL4が使用されている。全体計画は「芸術家協働作業」EX1にて計画されている。これらが、作品L2『春秋 赤坂』の要素として特定された。

これらのデザイン要素を表2-3の模式表示の凡例を組み合わせ、この作品のダイアグラムとして表現し、写真も、図面も合わせて表3-7の作品番号L2『春秋 赤坂』として提示した。

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面1

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

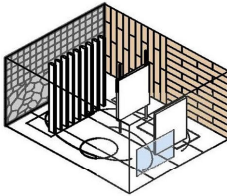

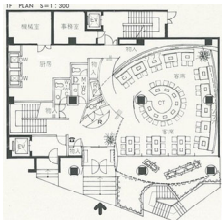
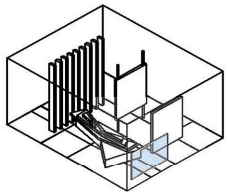
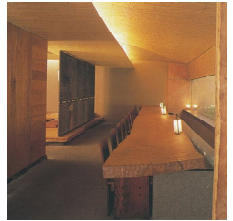
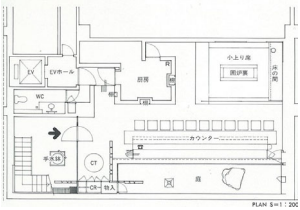
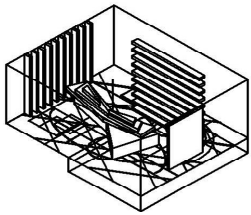

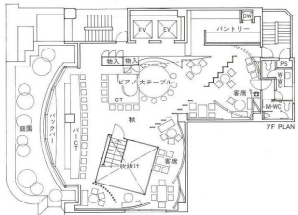
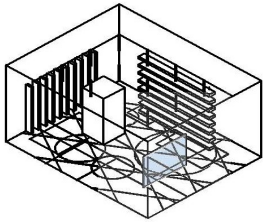

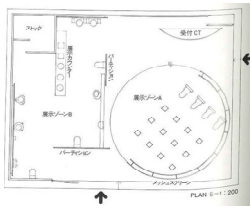
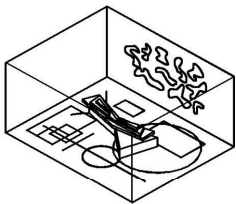
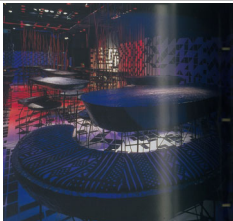

作品番号	L1	作品名	徳寿 カンパリ店	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L2	作品名	春秋 赤坂	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L3	作品名	春秋 バイクロス 福岡店	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L4	作品名	TOTO東陶陶器ショールーム	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L5	作品名	キササ	
要素		写真	図面	
				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面2

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

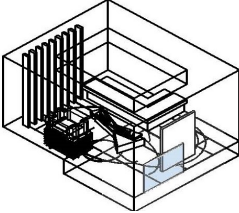

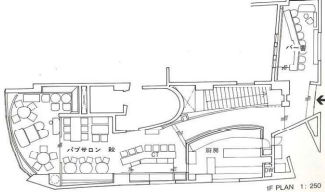
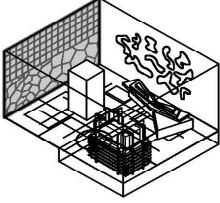

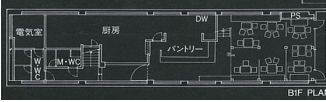
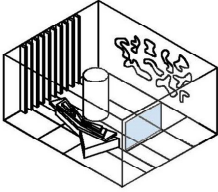

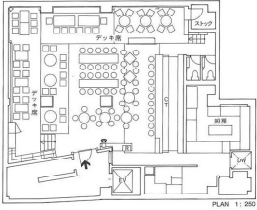
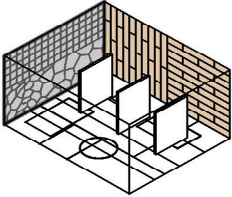

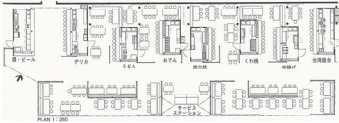
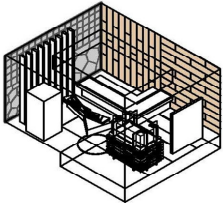

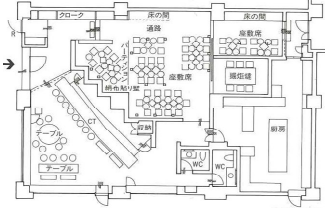
作品番号	L6	作品名	春秋 響 西麻布
要素		写真	
図面			
作品番号	L7	作品名	モルツクラブ 京都
要素		写真	
図面			
作品番号	L8	作品名	デポ 上野
要素		写真	
図面			
作品番号	L9	作品名	フーフー
要素		写真	
図面			
作品番号	L10	作品名	由庵 新宿
要素		写真	
図面			

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面3

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

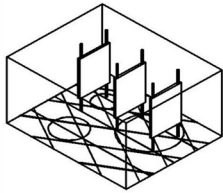

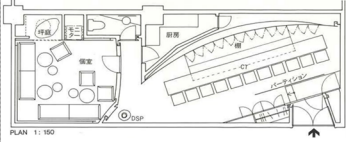
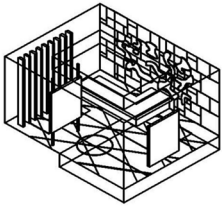

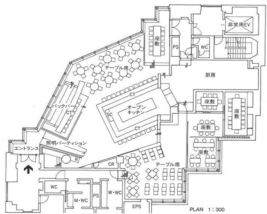
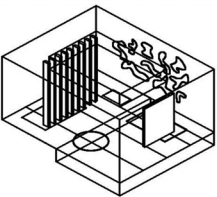
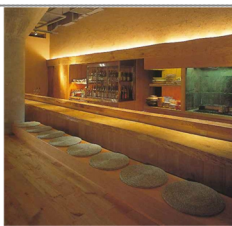
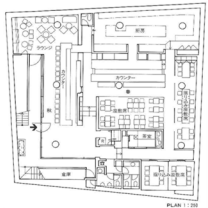
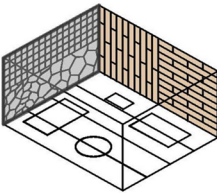


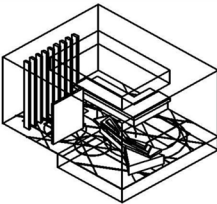

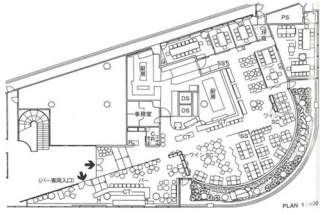
作品番号	L11	作品名	アクシア
要素	写真	図面	
			
作品番号	L12	作品名	燦 大阪
要素	写真	図面	
			
作品番号	L13	作品名	春秋 鳥居坂店
要素	写真	図面	
			
作品番号	L14	作品名	二期倶楽部
要素	写真	図面	
			
作品番号	L15	作品名	燦 神戸
要素	写真	図面	
			

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面4

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

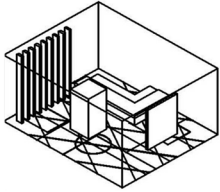

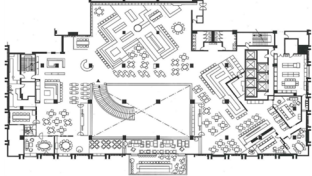
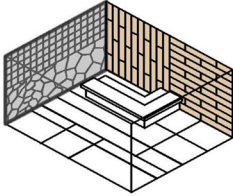

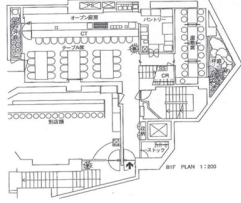
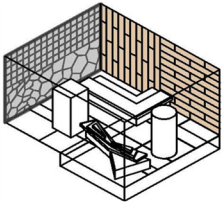


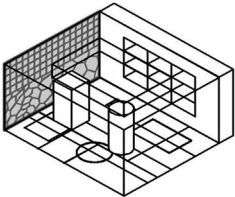


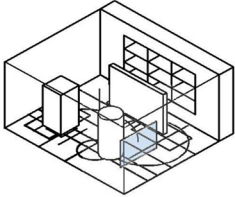


作品番号	L16	作品名	メザナイン
要素		写真	
図面			
作品番号	L17	作品名	猿丸 渋谷
要素		写真	
図面			
作品番号	L18	作品名	二期 六本木
要素		写真	
図面			
作品番号	L19	作品名	銀座 二期
要素		写真	
図面			
作品番号	L20	作品名	無印良品&カフェムジ青葉台
要素		写真	
図面			

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面5

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

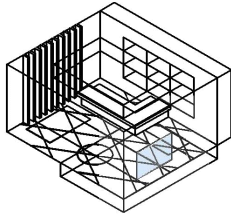


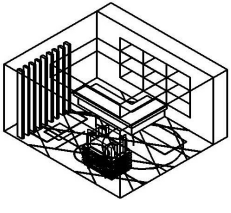
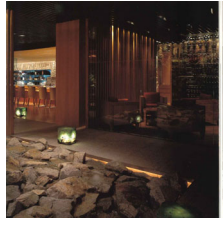

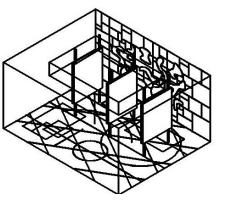
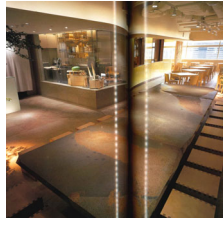

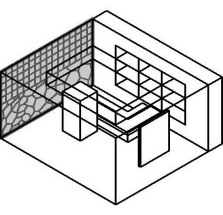


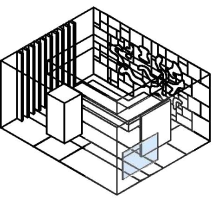

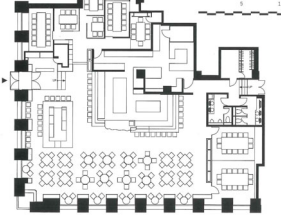
作品番号	L21	作品名	春秋 溜池山王店	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L22	作品名	ジパングスーパーダイニング 永田町店	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L23	作品名	由庵 恵比寿	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L24	作品名	カフェトゥー	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L25	作品名	響 丸の内店	
要素		写真	図面	
				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面6

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

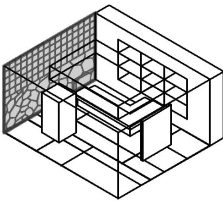
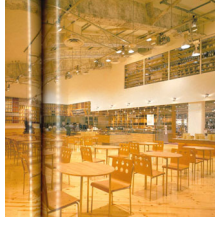
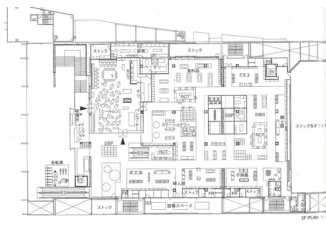
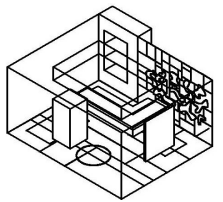

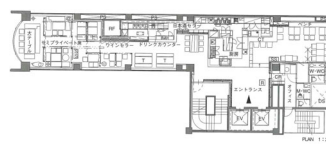
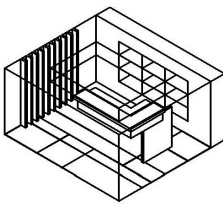


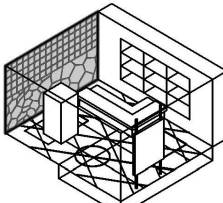

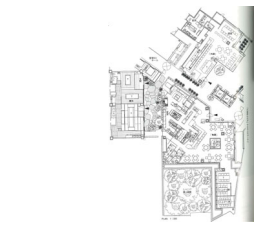
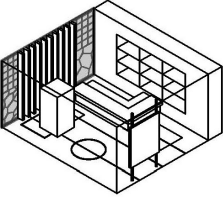


作品番号	L26	作品名	無印良品有楽町	
要素		写真		図面
				
作品番号	L27	作品名	キッチンしゅんじゅう 銀座	
要素		写真		図面
				
作品番号	L28	作品名	ZUMA	
要素		写真		図面
				
作品番号	L29	作品名	旬房 六緑 六本木	
要素		写真		図面
				
作品番号	L30	作品名	ケセラ	
要素		写真		図面
				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面7

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

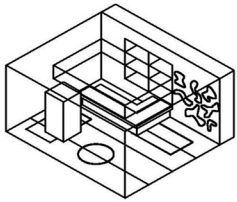

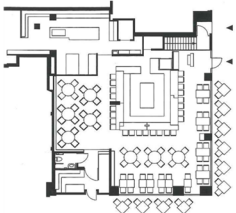
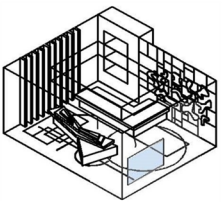


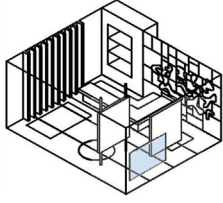

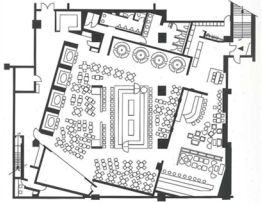
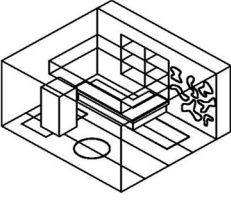

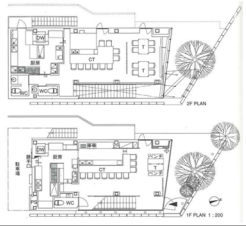
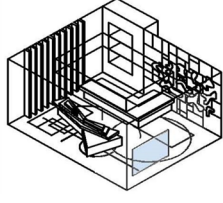


作品番号	L31	作品名	ROKA and Shochu Lounge	
要素		写真		
図面				
作品番号	L32	作品名	ハウスプラス	
要素		写真		
図面				
作品番号	L33	作品名	グランドハイアットシンガポールダイニング	
要素		写真		
図面				
作品番号	L34	作品名	分とく山	
要素		写真		
図面				
作品番号	L35	作品名	春秋 ツギハギ	
要素		写真		
図面				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面8

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

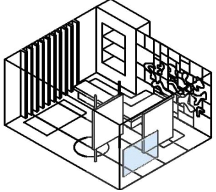
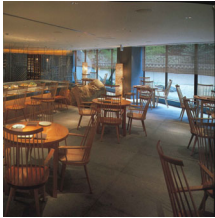

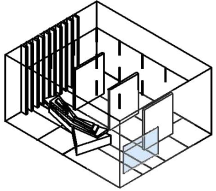


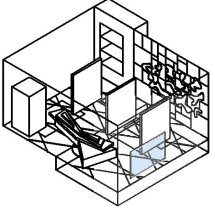

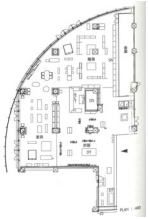
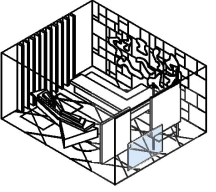
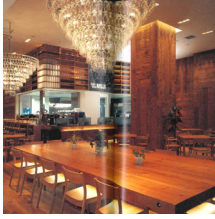
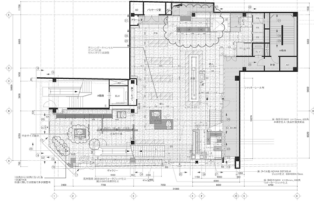
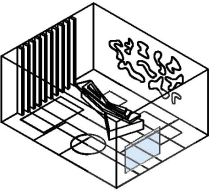
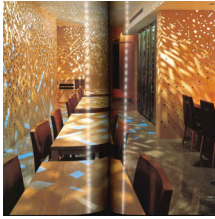
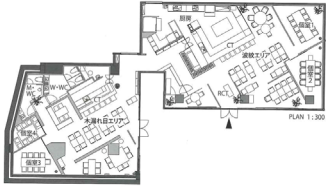
作品番号	L36	作品名	ハイアットリージェンシー京都 東山ダイニング	
要素		写真		図面
				
作品番号	L37	作品名	マナーハウス島津重富荘ダイニング	
要素		写真		図面
				
作品番号	L38	作品名	MUJI 六本木	
]]		写真		図面
				
作品番号	L39	作品名	MUJI 新宿	
要素		写真		図面
				
作品番号	L40	作品名	春秋 ユラリ	
要素		写真		図面
				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面9

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto(by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

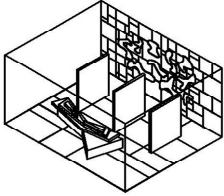

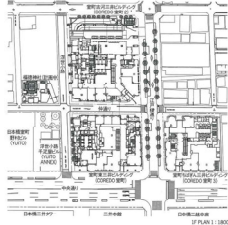
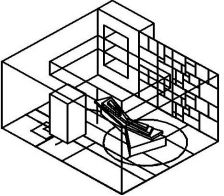

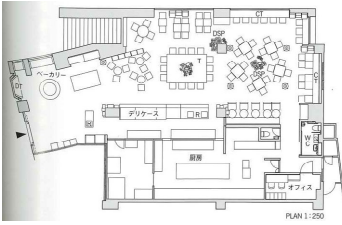
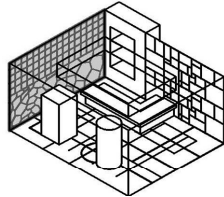

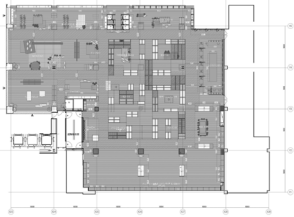
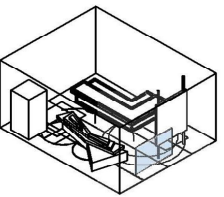

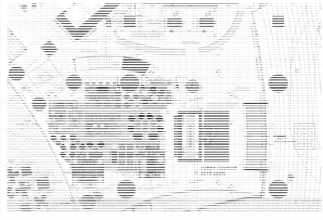
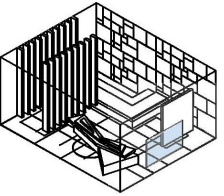
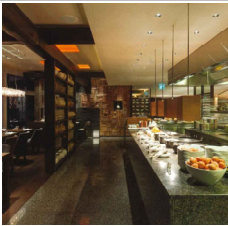
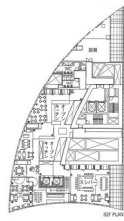
作品番号	L41	作品名	コレド室町	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L42	作品名	カフェ&ミール MUJI 南青山	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L43	作品名	MUJI テラスモール湘南店	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L44	作品名	アンダーズホテルダイニング	
要素		写真	図面	
				
作品番号	L45	作品名	パークハイアット釜山ダイニング	
要素		写真	図面	
				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面 10

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

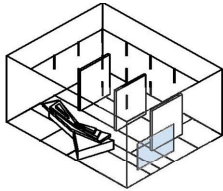
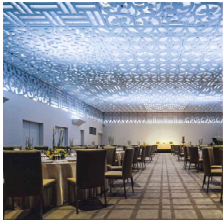
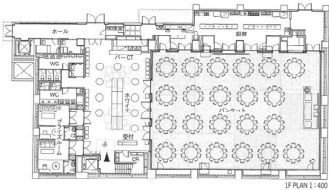
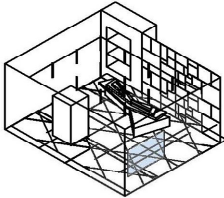

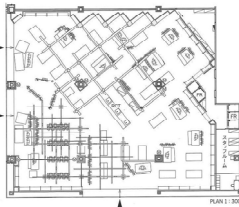
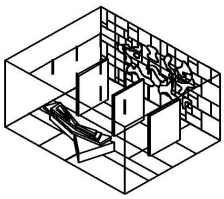
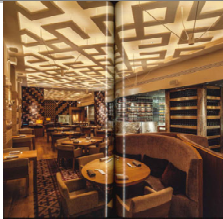
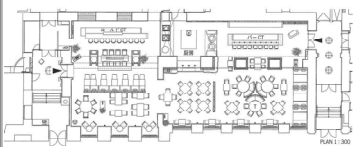
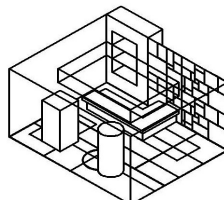

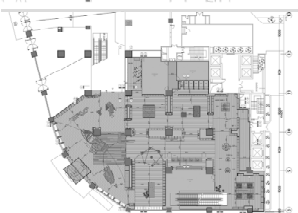
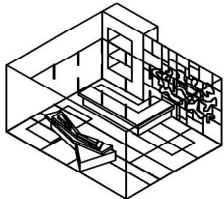

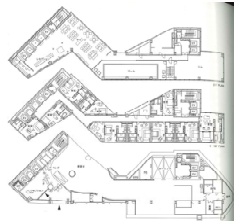
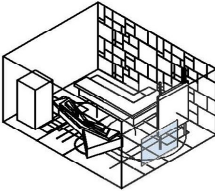

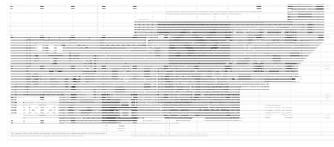
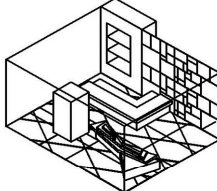

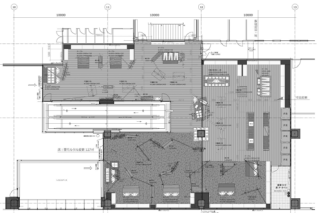
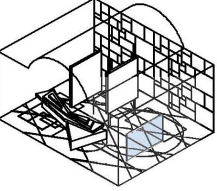


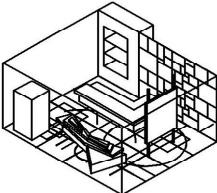

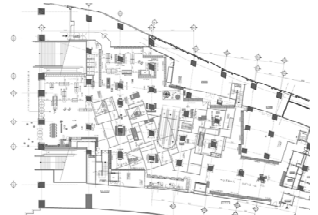
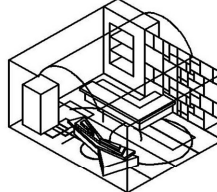

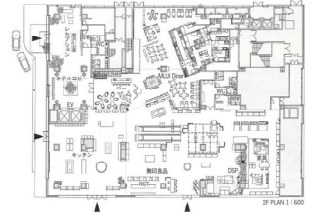
作品番号	L46	作品名	マナーハウス 島津 重富荘ダイニング	
要素		写真		図面
				
作品番号	L47	作品名	ライトオン MOZOワンダーシティ店	
要素		写真		図面
				
作品番号	L48	作品名	AZIA	
要素		写真		図面
				
作品番号	L49	作品名	MUJI 上海	
要素		写真		図面
				
作品番号	L50	作品名	パークハイアットソウル ダイニング	
要素		写真		図面
				

表3-7 対象作品のデザイン要素、写真および図面 11

(筆者作成、写真・図面は「商店建築」、「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto (by Mira Locher 1995)」、スーパーポテトホームページより)

作品番号	L51	作品名	無印良品 シンガポール
要素		写真	図面
			
作品番号	L52	作品名	ライトオン 調布
要素		写真	図面
			
作品番号	L53	作品名	星野リゾート 界 アンジンダイニング
要素		写真	図面
			
作品番号	L54	作品名	無印良品 大阪
要素		写真	図面
			
作品番号	L55	作品名	MIJI HOTEL SHENZHEN
要素		写真	図面
			

3. 2. 2 デザイン要素抽出結果

杉本の商環境デザイン後期作品の抽出されたデザイン要素について、表2-3および「2. 3. 3 空間仕上要素」で示したデザイン要素の出現を調査し、その結果を一覧表として作成した。これを後期作品は表3-8に示す。

後期作品のデザイン要素の出現表は、縦の列としては、左から第1列に後期作品の作品番号(L1~L55)を示し、第2列に作品の竣工年月を『商店建築』のデータから得られたデータシートより示し、第3列に『商店建築』で発表された作品名、第4列に後期作品は大型店舗が多いため店舗面積を加え、第5列に作品の商業業態を表示した。

横の行としては、デザイン要素を示しており、第1行は「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」の要素種別とし、第2行は「床」、「壁」、「天井」の空間に細目がある場合、第3行は部位などの詳細を示している。第4行はデザイン要素の表示記号、第5行はデザイン要素の名称を示している。

第5列第6行から以下の欄には、各作品におけるデザイン要素の出現が、有の場合「1」、無の場合「0」として表示している。

最下欄と最右欄は、「計数」としてデザイン要素と作品毎の要素の出現要素数と出現割合(%)の結果を示している。

各作品を通じて出現数が最も多いデザイン要素は、90%以上の作品に用いられている「平行線」S2および「水平床」F2である。

続いて多い出現割合が80%を超えるものは、「水平天井」L1、「木材系床」FM1、「既成木材系壁面」WM1である。

出現割合50~79%のデザイン要素は、「交差線」P1、「複合図形」P2、「既成石材系床」FW4、「左官系壁面」WM11、「スケルトン天井」CM14、「独立デザイン什器」FN2、「機能独立型什器」FN4、「設備露出天井」EQ1、「芸術家協働作業」EX1である。

出現割合30~49%のデザイン要素は「斜行線」S4、「自立壁」W1、「天井」L4、「目隠し壁面」R3、「装飾壁面」R5、「並列型装飾壁面」R6、「既成木材系壁面」WM1、「複合材壁面」WM6、「石膏ボード天井」CM3、「壁面一体什器」FN1、「壁間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3である。

出現割合10~29%のデザイン要素は、「格子割付」S1、「多重図形」P3、「段差床」F1、「浮遊壁」W2、「吊天井」L3、「格子壁面」R1、「素材壁面」R2、「ルーバー壁面」R4、「T/C系材」FM3、「複合材床」FM6、「金属系壁面」WM3、「石材系壁面(既成材)」WM5、「石材系壁面(自然岩材)」WM6、「れんが系壁面」WM7、「石膏ボード壁面」

WM9、「スケルトン壁面」WM10、「ガラス系壁面」WM12、「ルーバー天井」CW1、「天井付帯照明」IL4、「独立型吊天井照明」IL5である。

出現割合 10%以下のデザイン要素は、「全円」C1、「部分円」C2、「曲面天井」L2、「金属系床」FM2、「タイル系壁面」WM4、「独立型什器（骨董品家具）」FN3である。

年代的に見ると偏在して出現しているデザイン要素として、前期作品の前半で多く使用された「格子割付」S1が2007年以降の作品で復活している。「全円」C1、「部分円」C2は、1990年から1992年に集中する作品L1『徳寿 カンパリ店』、作品L3『春秋 福岡店』、作品L4『TOTO 陶器ショールーム』、作品L6『春秋 響 西麻布』の4作品のみに出現している。天井については「曲面天井」L2は2017年と2018年の作品53『星野リゾート 界 アジアンダイニング』、作品54『無印良品 大阪』、作品55『MUJI HOTEL SHENZHEN』の3作品のみで使用されている。「金属系床」FM2は1993年作品L8『デポ上野』の一例のみに出現している。「平行直線」S2、「水平床」F2は、多くの作品に出現している。

次に、作品ごとに使用されているデザイン要素の数について述べる。

多くの数のデザイン要素を使用している作品として、デザイン要素総数52のうち21要素以上（40%以上）を使用している作品は、作品L3『春秋 福岡店』、作品L6『春秋響 西麻布店』、作品L30『ケセラ』、作品L33『グランドハイアットシンガポール』、作品L35『春秋 ツギハギ』、作品L40『春秋ユラリ』、作品L45『パークハイアット釜山ダイニング』、作品L49『MUJI 上海』、作品L53『星野リゾート 界 アジアンダイニング』、作品L54『無印良品 大阪』、作品L55『MUJIHOTEL SHENZHEN ダイニング』である。

反対に使用されているデザイン要素12以下（20%以下）は、1例もない。その他は、デザイン要素数13から20である。

3. 2. 3 クラスタ分析による作品分類

以上で述べた後期 55 作品 (L1~L55) について表 3 - 8 のデザイン要素の出現表を用いて、林の数量化Ⅲ類による分析を行った。

後期作品の結果として抽出された軸の特性表 (固有値・寄与率・相関係数) を表 3 - 9 に示す。その結果から、固有値 0.1 以上の軸を説明軸として採用することとし第 6 軸までを選定した。この 6 軸のカテゴリースコアを表 3 - 10 及び図 3 - 4 に示す。これらから 6 軸の説明軸としての意味を推定する。

第 1 軸は、正側に「独立型吊天井照明」IL5、「吊天井」L3 などの吊る天井に関わる要素、負側に「独立型骨董什器」FN3、「スケルトン壁面」WM8 などの特徴的な床と壁面に関わる要素が現れるので、特徴的な天井と床・壁面を表す軸と推定される。

第 2 軸は、正側が「全円」C1、「金属系床」FM2、「れんが系壁面」WM5 などの比較的希少な出現要素、負側に「壁面一体型什器」FN1、「素材壁面」R2 など比較的広範囲に用いられている要素が現れるので、希少性と汎用性を示す軸と推定される。

第 3 軸は、正側で「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4 や「設備露出天井」EQ11 が示され、素材を用いないスケルトン系の仕上げ、負側は「素材壁面」R2 や「石膏ボード天井」CM3、「壁付帯照明」IL2 などを用いた仕上げ面であり、スケルトンと実体的仕上げを表す軸と推定される。

第 4 軸は正側が「ガラス系壁面」WM12、「ルーバー天井」CM1、「浮遊壁」W2、「格子壁面」R1 が出現し、面からの浮遊や隔離性を示し、負側は「独立型骨董什器」FN3、「曲面天井」L2、「格子割付」S1 が現れて象徴性が示され、浮遊性と象徴性の軸と推定される。

第 5 軸は、正側に「全円」C1、「部分円」C2、「吊天井」L3、「T/C 系床」FM3、「石膏ボード壁面」WM7 などが現れ、定型を配置すると考え、床天井系の規則性と解釈し、負側は、「ガラス系壁面」WM12、「古木材系壁面」WM9、「格子壁面」R1、「タイル系壁面」WM3 などの要素から規則性の壁面と解釈し、規則性の床・天井と壁面の軸と推定される。

第 6 軸は、正側は「曲面天井」L2、「全円」C1、「既成石材系壁面」WM4、「多重図形」P3 など希少出現で多様な図形、負側は「タイル系壁面」WM3、「格子割付」S1、「石膏ボード壁面」WM7 などから単純な図形と解釈し、図形の多様と単純の軸と推定される。

次に、各作品の第 1 軸から第 6 軸のサンプルスコアの表 3 - 11 の 1 軸 2 軸を用いてクラスタ分析を行い、作品の分類を行った。Ward 法によりユークリッド距離を使用した。この結果について、デザイン要素の出現を含めた樹形図として図 3 - 5 に示す。またサンプル散布図を図 3 - 6 に示す。

このクラスター分析の結果について、樹形図の距離 5.5 で切断すると 10 群に分類できる。作品 4『TOTO 陶器ショールーム』、作品 8『デポ上野』は、明瞭に 1 作品 1 群である。この分類した 10 群を図 2 の樹形図の上方の群から、L-A 群、L-B 群、L-C 群、L-D 群、L-E 群、L-F 群、L-G 群、L-H 群、L-I 群、L-J 群と称する。ただし、図中の L-A 群と L-H 群は、作品数も多く、距離 4 で切断すると同規模の 2 群となるので、L-A1 群と L-A2 群及び L-H1 群と L-H2 群に小分類して考える。これらの群を後期作品群と呼ぶ。

表 3 - 9 抽出された軸の特性表 (著者作成)

軸	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
1	0.171	9.8%	9.8%	0.413
2	0.158	9.0%	18.8%	0.397
3	0.130	7.4%	26.2%	0.360
4	0.120	6.9%	33.1%	0.346
5	0.108	6.2%	39.2%	0.328
6	0.104	5.9%	45.2%	0.322
7	0.092	5.3%	50.4%	0.303
8	0.082	4.7%	55.1%	0.286
9	0.075	4.3%	59.4%	0.274
10	0.064	3.7%	63.1%	0.253

表3-10 数量化3類による各要素のカテゴリースコア表 (著者作成)

要素	第1軸	要素	第2軸	要素	第3軸	要素	第4軸	要素	第5軸	要素	第6軸
独立型吊天井照明	2.969	全円	7.787	全円	8.551	ガラス系壁面	3.924	全円	7.754	曲面天井	5.951
吊天井	2.956	金属系床	5.327	金属系床	7.461	全円	3.623	部分円	2.915	全円	4.088
タイル系壁面	2.069	部分円	4.931	スケルトン壁面	1.947	ルーバー天井	2.777	吊天井	2.260	既成石材系壁面	3.989
T/C系床	1.829	れんが系壁面	2.583	スケルトン天井	1.680	浮遊壁	1.995	T/C系床	2.237	多重図形	2.443
天井付帯照明	1.689	金属系壁面	2.191	設備露出天井	1.512	格子壁面	1.665	石膏ボード壁面	2.082	ルーバー天井	1.887
並列型裝飾壁	1.528	複合材床	2.144	部分円	1.469	自立壁	1.331	ルーバー壁面	1.962	部分円	1.403
曲面天井	1.440	吊天井	1.992	多重図形	1.306	自然石材系壁面	1.328	独立型吊天井照明	1.769	れんが系壁面	1.332
格子割付	1.385	T/C系床	1.878	金属系壁面	1.185	壁付帯照明	1.273	独立型骨董什器	1.447	吊天井	1.290
石膏ボード壁面	1.183	天井付帯照明	1.776	格子壁面	1.170	斜行線	0.953	天井付帯照明	1.187	壁間接照明	0.913
複合図形	0.836	目隠し壁面	1.618	壁面一体什器	1.161	金属系壁面	0.819	掘込み天井	1.127	複合材壁面	0.761
裝飾壁面	0.756	ルーバー壁面	1.526	ルーバー天井	1.024	目隠し壁面	0.719	段差床	0.950	左官系壁面	0.709
石膏ボード天井	0.731	格子壁面	1.524	吊天井	1.017	タイル系壁面	0.615	れんが系壁面	0.916	T/C系床	0.657
芸術家協働作業	0.676	スケルトン壁面	1.429	石膏ボード壁面	0.976	掘込み天井	0.513	斜行線	0.869	斜行線	0.624
ルーバー天井	0.628	タイル系壁面	1.079	T/C系床	0.801	天井付帯照明	0.429	素材壁面	0.643	石材系床	0.587
目隠し壁面	0.608	石膏ボード天井	0.967	斜行線	0.776	設備露出天井	0.337	スケルトン天井	0.474	独立型吊天井照明	0.507
浮遊壁	0.526	芸術家協働作業	0.813	独立型デザイン什器	0.774	裝飾壁面	0.333	壁付帯照明	0.461	浮遊壁	0.494
壁間接照明	0.487	古木材系壁面	0.732	格子割付	0.714	ルーバー壁面	0.308	機能独立型什器	0.430	設備露出天井	0.459
既成木材系壁面	0.386	ルーバー天井	0.567	目隠し壁面	0.683	交差線	0.273	交差線	0.428	並列型裝飾壁	0.315
格子壁面	0.252	多重図形	0.553	並列型裝飾壁	0.666	壁間接照明	0.263	自然石材系壁面	0.292	交差線	0.312
独立型デザイン什器	0.235	壁間接照明	0.506	古木材系壁面	0.515	部分円	0.252	水平天井	0.239	機能独立型什器	0.265
壁面一体什器	0.224	壁付帯照明	0.300	複合図形	0.437	水平天井	0.240	自立壁	0.226	ルーバー壁面	0.243
壁付帯照明	0.179	裝飾壁面	0.288	掘込み天井	0.406	機能独立型什器	0.090	壁面一体什器	0.184	スケルトン天井	0.232
全円	0.157	石材系床	0.263	機能独立型什器	0.378	石材系床	0.081	複合図形	0.174	裝飾壁面	0.131
古木材系壁面	0.124	浮遊壁	0.183	独立型吊天井照明	0.193	平行直線	0.081	石膏ボード天井	0.132	ガラス系壁面	0.084
木材系床	0.113	自立壁	0.177	裝飾壁面	0.115	壁面一体什器	0.077	設備露出天井	0.116	壁付帯照明	0.044
水平天井	0.107	斜行線	0.169	交差線	0.107	木材系床	0.043	平行直線	0.074	既成木材系壁面	0.030
ガラス系壁面	0.025	段差床	0.153	芸術家協働作業	0.006	T/C系床	-0.030	木材系床	0.067	壁面一体什器	-0.014
平行直線	0.008	独立型吊天井照明	0.127	水平床	-0.012	水平床	-0.049	既成木材系壁面	0.051	平行直線	-0.107
水平床	-0.014	独立型骨董什器	0.070	平行直線	-0.025	並列型裝飾壁	-0.086	壁間接照明	0.015	自立壁	-0.115
多重図形	-0.029	平行直線	-0.069	曲面天井	-0.047	既成木材系壁面	-0.123	左官系壁面	0.005	水平床	-0.118
既成石材系壁面	-0.103	複合図形	-0.082	既成木材系壁面	-0.129	石膏ボード壁面	-0.217	多重図形	-0.028	木材系床	-0.131
石材系床	-0.123	水平床	-0.108	ルーバー壁面	-0.246	独立型デザイン什器	-0.217	水平床	-0.143	芸術家協働作業	-0.238
複合材壁面	-0.184	複合材壁面	-0.199	ガラス系壁面	-0.251	スケルトン天井	-0.231	並列型裝飾壁	-0.463	古木材系壁面	-0.278
機能独立型什器	-0.254	左官系壁面	-0.214	自立壁	-0.400	複合材壁面	-0.431	金属系壁面	-0.529	段差床	-0.299
自然石材系壁面	-0.262	交差線	-0.286	木材系床	-0.455	素材壁面	-0.507	複合材壁面	-0.530	素材壁面	-0.384
交差線	-0.311	自然石材系壁面	-0.353	タイル系壁面	-0.502	左官系壁面	-0.652	目隠し壁面	-0.532	水平天井	-0.472
自立壁	-0.535	水平天井	-0.387	水平天井	-0.560	石膏ボード天井	-0.669	独立型デザイン什器	-0.610	スケルトン壁面	-0.555
設備露出天井	-0.730	木材系床	-0.403	複合材壁面	-0.571	多重図形	-0.760	芸術家協働作業	-0.740	格子壁面	-0.585
斜行線	-0.779	既成石材系壁面	-0.452	自然石材系壁面	-0.603	複合材床	-0.854	格子割付	-0.766	目隠し壁面	-0.628
左官系壁面	-0.856	並列型裝飾壁	-0.696	石材系床	-0.655	複合図形	-0.864	石材系床	-0.990	独立型デザイン什器	-0.756
金属系壁面	-0.914	既成木材系壁面	-0.726	れんが系壁面	-0.674	段差床	-1.138	既成石材系壁面	-1.047	金属系壁面	-0.804
スケルトン天井	-1.052	設備露出天井	-0.780	段差床	-0.982	芸術家協働作業	-1.280	スケルトン壁面	-1.058	掘込み天井	-1.046
れんが系壁面	-1.076	独立型デザイン什器	-0.869	左官系壁面	-0.993	れんが系壁面	-1.328	ルーバー天井	-1.062	複合図形	-1.082
掘込み天井	-1.240	石膏ボード壁面	-0.920	天井付帯照明	-1.121	古木材系壁面	-1.697	裝飾壁面	-1.207	複合材床	-1.162
素材壁面	-1.816	スケルトン天井	-0.975	複合材床	-1.296	吊天井	-1.839	複合材床	-1.255	石膏ボード天井	-1.418
ルーバー壁面	-1.908	曲面天井	-1.060	既成石材系壁面	-1.421	既成石材系壁面	-1.906	浮遊壁	-1.370	天井付帯照明	-1.500
段差床	-2.775	ガラス系壁面	-1.067	独立型骨董什器	-1.463	スケルトン壁面	-2.635	タイル系壁面	-1.489	自然石材系壁面	-1.970
部分円	-2.951	格子割付	-1.113	壁間接照明	-1.518	独立型吊天井照明	-2.793	格子壁面	-1.657	石膏ボード壁面	-2.037
複合材床	-3.124	素材壁面	-1.212	壁付帯照明	-1.632	格子割付	-2.873	古木材系壁面	-1.935	独立型骨董什器	-2.042
金属系床	-3.676	機能独立型什器	-1.257	浮遊壁	-1.635	曲面天井	-3.061	ガラス系壁面	-2.185	格子割付	-2.309
スケルトン壁面	-3.899	掘込み天井	-1.649	石膏ボード天井	-2.368	独立型骨董什器	-3.448	曲面天井	-3.576	タイル系壁面	-3.885
独立型骨董什器	-4.003	壁面一体什器	-1.940	素材壁面	-2.401	金属系床	-4.137	金属系床	-13.53	金属系床	-7.433

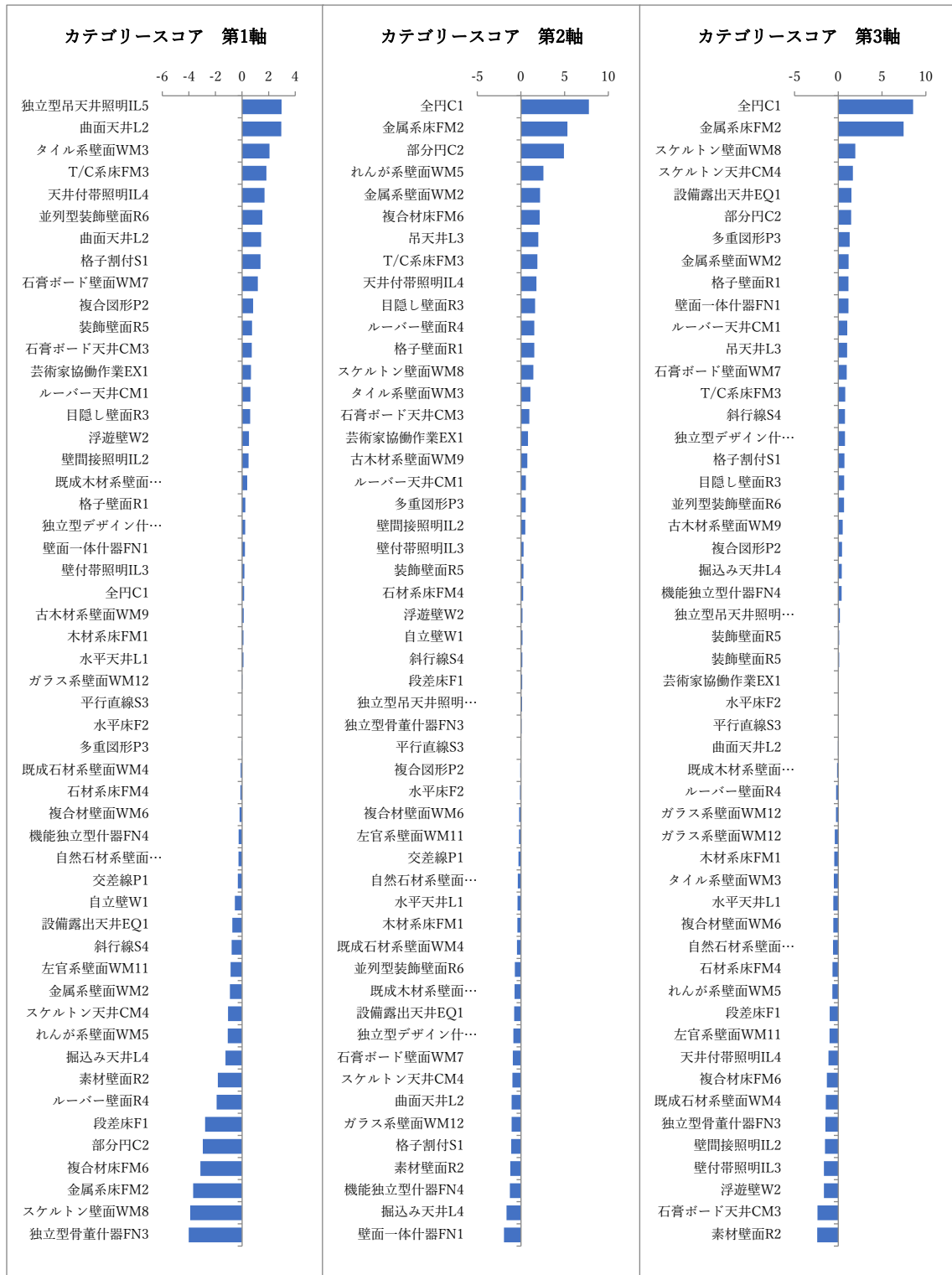


図3-4 数量化3類による各要素のカテゴリースコア図 1 (著者作成)

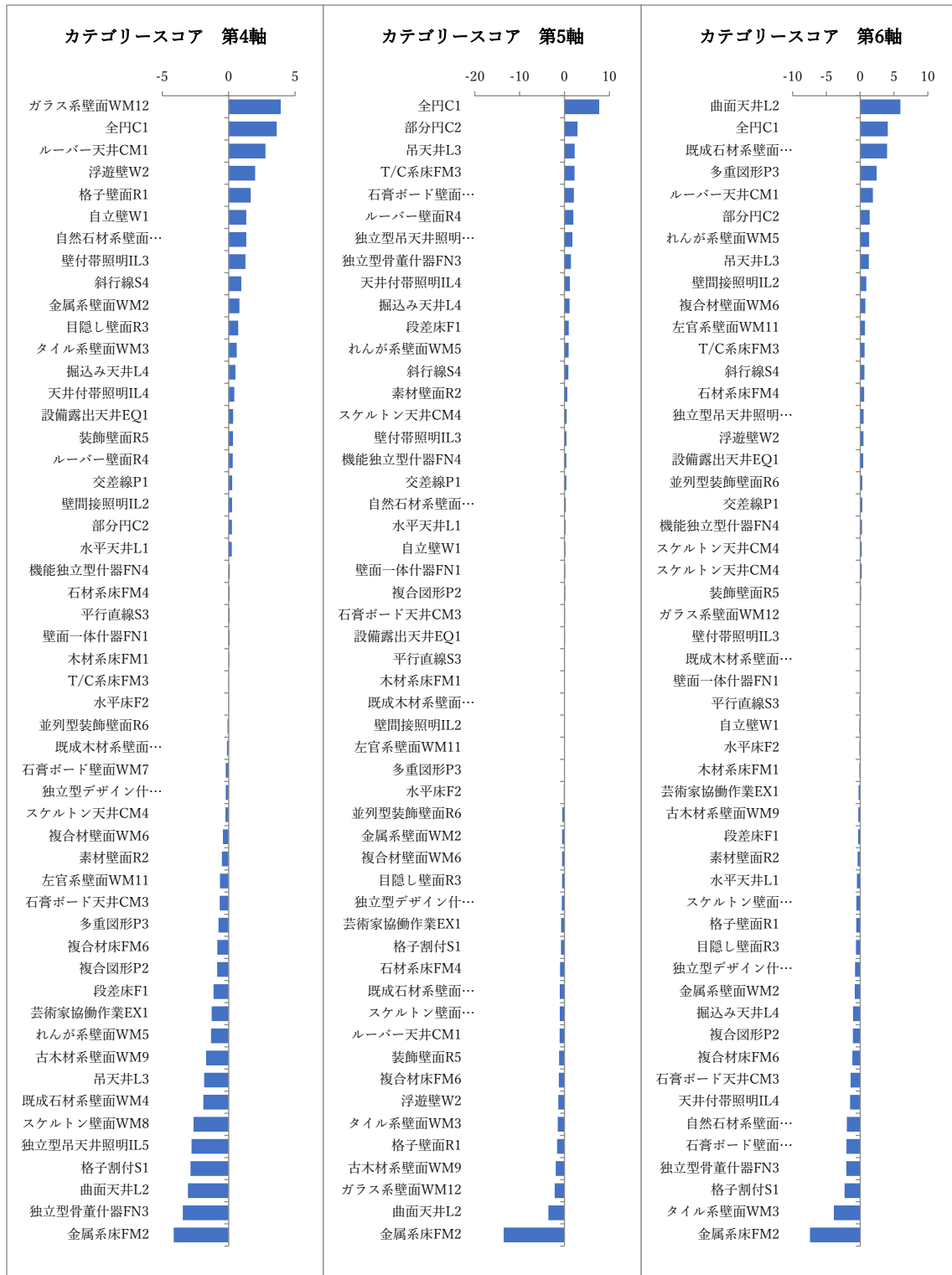


図3-4 数量化3類による各要素のカテゴリースコア図 2 (著者作成)

表 3-11 数量化Ⅲ類による各作品のサンプルスコア（著者作成）

作品No	第1軸	第2軸	第3軸	第4軸	第5軸	第6軸	作品No	第1軸	第2軸	第3軸	第4軸	第5軸	第6軸
1	-0.773	1.74845	-1.447	0.88361	0.89913	-0.7975	29	-0.311	-0.500	-1.639	0.471	0.513	-0.468
2	-0.012	1.1944	-1.666	0.0874	-0.3804	-0.6908	30	-0.151	-0.647	-0.886	1.153	-1.048	1.014
3	-2.125	1.71877	0.476	-0.8567	-0.1208	1.17467	31	-0.654	-1.040	0.854	0.335	-0.068	-0.156
4	0.065	3.09323	3.081	1.25403	2.54634	1.31667	32	0.863	-0.012	1.287	0.857	0.039	0.373
5	0.441	1.43057	0.199	-0.2909	0.10287	-0.4753	33	0.505	0.194	0.239	1.440	-0.605	0.422
6	-2.043	1.2744	0.008	-0.9323	0.50415	0.11425	34	0.627	1.435	-0.722	0.406	-0.169	-0.709
7	-0.670	-0.3739	-1.162	-2.2802	-0.2408	-1.6191	35	-0.164	-0.096	0.616	0.358	-0.350	0.073
8	-1.518	2.1158	2.688	-1.432	-4.4438	-2.394	36	0.369	0.016	0.095	2.106	-1.125	0.441
9	-0.744	-0.2672	0.569	-0.0321	1.39506	-0.5199	37	0.631	1.066	0.298	0.533	-0.361	0.538
10	-2.030	-0.0479	-1.571	-0.9397	0.67521	-1.0648	38	0.540	-0.254	-0.111	1.156	-1.456	-0.573
11	0.852	0.15195	-1.273	1.01376	0.67208	-0.9904	39	1.074	-0.708	0.277	-0.530	-0.311	-2.204
12	-0.451	-0.3094	-0.143	0.82031	1.32785	0.18506	40	0.461	0.538	-0.341	1.526	-1.344	0.125
13	-1.278	0.13683	-0.707	0.28509	0.84533	0.48821	41	1.049	0.563	-1.018	1.459	-1.258	-1.074
14	-0.730	0.02071	-2.577	-0.5657	-0.376	0.7355	42	1.147	-0.070	-0.208	-1.100	0.064	-0.573
15	-0.658	-0.482	-0.103	0.40236	0.98704	0.09009	43	0.742	-1.269	0.889	-0.511	0.454	-1.155
16	-0.290	-0.3392	0.253	0.67494	0.13275	1.81644	44	1.893	0.521	-0.112	-0.859	1.167	-0.560
17	-0.213	-0.7267	-1.895	-0.5077	-0.1199	1.11006	45	0.646	0.997	-0.506	-0.406	0.259	-0.563
18	-1.360	-0.6941	-0.149	-1.5978	-0.3823	0.61423	46	2.152	1.190	-0.710	-0.621	1.846	-0.832
19	-0.494	-1.2703	-0.574	-0.2193	0.21427	0.5458	47	1.095	-0.497	1.681	-1.235	0.208	-0.867
20	-0.308	-0.7498	0.776	1.01796	-0.0771	-0.0999	48	1.502	0.963	-1.025	-1.383	0.678	0.821
21	-1.030	-0.501	0.731	0.73251	0.34825	-0.4595	49	0.585	-1.524	1.245	-0.785	0.728	-0.716
22	-1.871	-0.7419	0.616	-0.621	0.96254	-0.0616	50	1.565	0.085	0.286	-1.438	0.419	1.836
23	-0.116	-0.879	0.047	1.28409	-0.3756	0.91838	51	0.705	-0.250	0.290	-0.616	-0.811	-0.287
24	-1.094	-1.213	0.353	1.390	-0.056	-0.071	52	0.677	-1.248	1.205	-0.890	0.826	-0.260
25	0.608	0.031	-0.280	0.702	-0.372	-1.329	53	0.501	0.191	-0.835	-0.578	-1.447	1.941
26	-0.433	-1.807	0.598	0.141	1.058	-0.964	54	0.414	-0.993	0.332	-1.383	-1.318	1.491
27	-0.036	-1.357	0.592	0.262	0.298	-0.608	55	0.869	-0.461	0.451	-1.217	-0.758	2.318
28	-0.656	-1.189	0.272	1.131	0.281	-0.437							

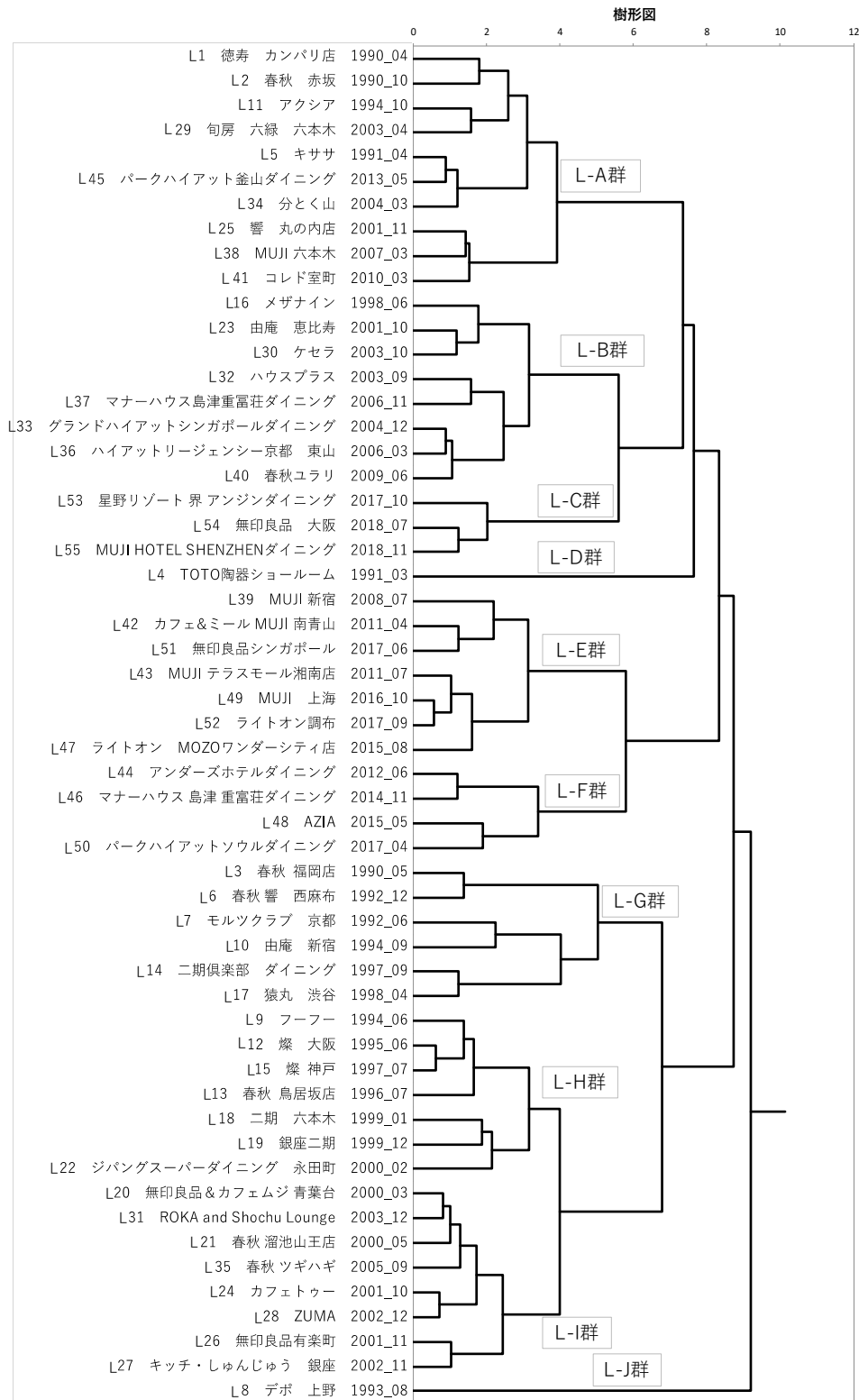


図3-5 クラスター分析結果 (著者作成)

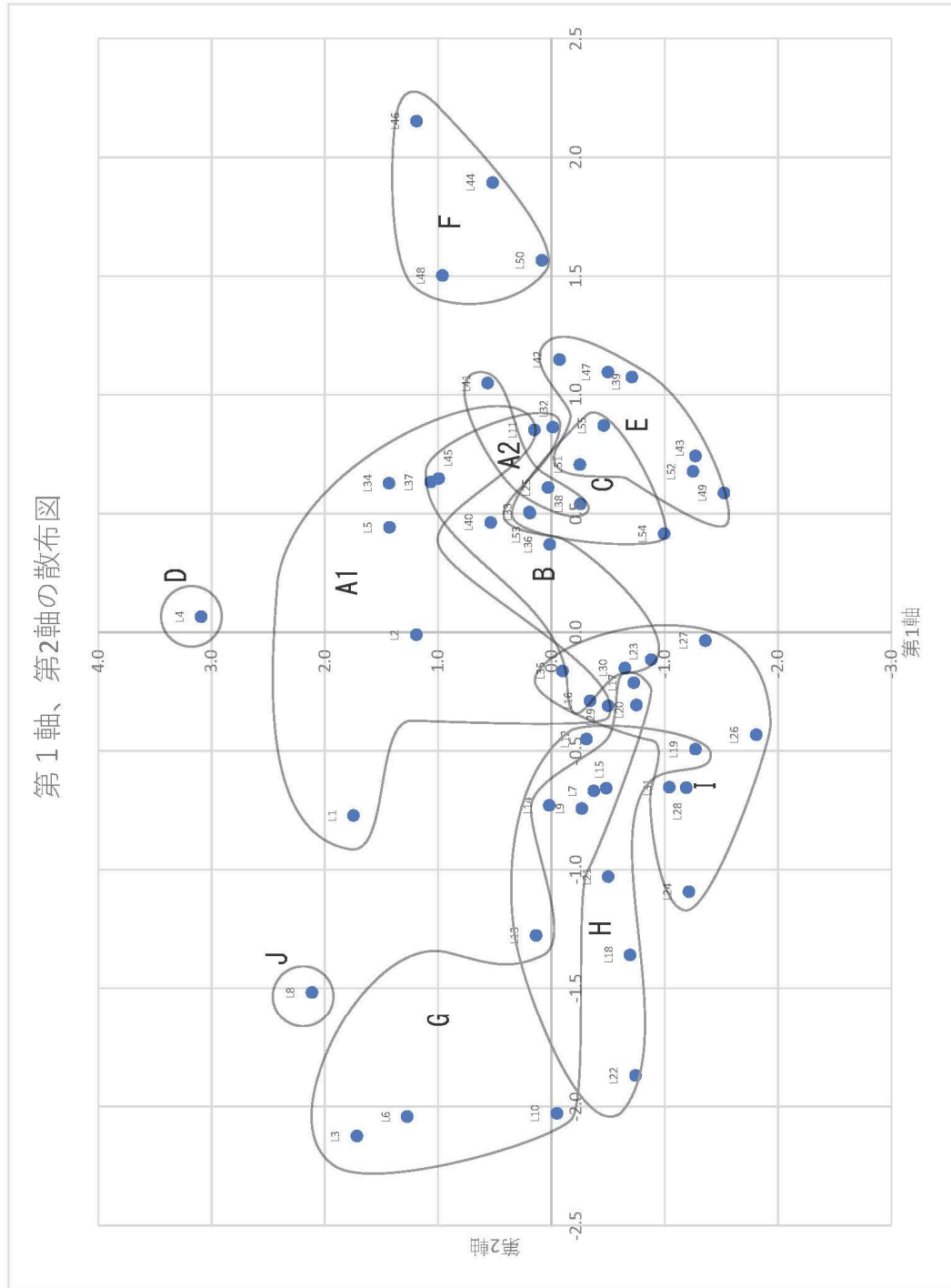


図3-6 後期サンプルスコア散布図上の分析結果 (著者作成)

1) L-A 群のデザイン要素

L-A 群は 1990 年～2010 年の 10 作品である。分類された作品で多く用いられているデザイン要素は、「複合図形」P2、「自立壁」W1、「目隠し壁面」R3、「石材系床」FM4、「金属系壁面」WM3、「複合材壁面」WM8、「塗装系壁面」WM11、「壁間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3、「芸術家協働作業」EX1 である。「浮遊壁」W2、「石材系壁面（自然岩材）」WM6、「石膏ボード天井」CM3、「天井付帯照明」IL4 が他の群よりも多用されている。

この群では、バブル経済崩壊以前の作品には出現していない新しいデザイン要素が多く出現している。そのデザイン要素は、「並列装飾壁（リピート）」R6、「木材系壁面（古材）」WM2、「石材系壁面（自然岩材）」WM6、「塗装系壁面（左官）」WM11、「ガラス系壁面」WM12、「独立型天井照明」IL5 の 6 つのデザイン要素である。

1990 年の初期に完成した作品 L2 『春秋 赤坂』において、「木材系壁面（古材）」WM2、「塗装系壁面（左官）」WM11 が、1991 年完成作品 L5 『キササ』にて「什器独立型（骨董品家具）」F3、2003 年完成作品 L29 『旬房 六録 六本木』にて「石材系壁面（自然岩材）」WM6 が新しいデザイン要素として初めて出現している。

L-A 群の作品は、1990 年から 1994 年の前期の群と 2003 年～2013 年の後期の群との二つの年代に群が分かれている。前期の群と後期の群とを比較すると、前期の群では「木材系壁面（古材）」WM2、「塗装系壁面（左官）」WM11 の 2 つの新しいデザイン要素が出現している。後期の群では、前述の新しい 6 つのデザイン要素が出現している。

新しいデザイン要素の出現具合によって、前期と後期との群では明瞭な差が示されている。杉本のデザインの特徴である「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 は全作品で出現していない。

2) L-B 群のデザイン要素

L-B 群は、1998 年から 2009 年の各年代に 1 作品と、年代ごとに作品が重複していない。デザイン要素では、「斜行線」S3、「自立壁」W1、「並列装飾壁（リピート）」R6、「石材系床」WM4、「壁面一体什器」FN1、「独立型什器（デザイン家具）」FN2、「機能独立型什器」FN4、「壁面間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3、「芸術家協働作業」EX1 が多く出現している。「浮遊壁」W2、「格子壁面」R1、「目隠し壁面」R3、「装飾壁面」R5、「ガラス系壁面」WM12、「ルーバー天井」CM1、が他の群に比べて多用されている。

新しいデザイン要素である「並列装飾壁（リピート）」R6 は、L-H 群の 1995 年完成作品 12 『燦 大阪』で初めて出現し、L-B 群の 8 作品中の 6 作品に出現している。「ガラス

系壁面」WM10がL-B群8作品中の4作品に出現しており、他の群全体では2作品にしか出現していないことから、L-B群において他の群とは異なるデザイン要素と判断できる。

立面では、「装飾壁面」R5が8作品中の6作品に出現している。

天井では、「ルーバー天井」CM1は1作品を除いて7作品に出現しており、これは他の群全体では5作品に出現しているだけであることからL-B群の特性である。

3) L-C群のデザイン要素

L-C群は、2017年、2018年の2年間で、最後期の群に属する3作品である。デザイン要素は、「装飾壁面」R5、「並列装飾壁（リピート）」R6、「石材系床」FM4、「木材系壁面（古材）」WM2、「複合材壁面」WM8、「塗装系壁面（左官）」WM11、CM4「スケルトン天井」CM4、「壁面一体什器」FN1、「独立型什器（デザイン家具）」FN2、「機能独立型什器」FN4、「壁間接照明」IL2、「芸術家協働作業」EX1である。

他の群に比べ「多重図形」P3、「浮遊壁」W2、「曲面天井」L2、「石材系壁面」WM6が多用されている。新しいデザイン要素の「並列装飾壁」R6、「木材系壁面（古材）」WM2、「塗装系壁面（左官）」WM11が全3作品に出現している。

天井では、「曲面天井」L2が全ての群の中でもC群の3作品だけに出現している。

L-C群の3作品のデザイン要素総数は32であるが、半数に近い15要素が出現率75%以上、8要素が50%以上の出現率であり、短期間にデザインされた3作品のデザイン要素の多くが作品ごとに重複していることが特性である。

4) L-D群のデザイン要素

L-D群は、1991年の作品L4『TOTO 陶器ショールーム』1作品だけである。L-D群では、他の群では出現しない「全円」C1、全作品で4作品しか出現しない「部分円」C2のデザイン要素が出現している。「空間仕上要素」では、床に「T/C系床」FM3、壁に「金属系壁面」WM3、天井には「スケルトン天井」CM4に「ルーバー天井」CM2仕上げとし、床、壁、天井の空間ごとに一つの仕上要素だけが出現していることが特徴としてあげられる。

5) L-E群のデザイン要素

L-E群は2008年から2017年の杉本の作品群の中でも後期作品群である。デザイン要素は、「複合図形」P2、「並列装飾壁（リピート）」R6、「木材系壁面（古材）」WM2、「スケ

ルトン天井」CM4、「壁面一体什器」FN1、「独立型什器（デザイン家具）」FN2、「機能独立型什器」FN4、「芸術家協働作業」EX1である。

E群に他の群より多く出現するデザイン要素は、「格子割り付け」S1、「石膏ボード壁面」WM10の2要素だけである。杉本の1970年代の作品に多く出現し80年代以降は出現しなくなったデザイン要素である「格子割付」S1が4作品に復活して出現しているが、他の群全体では3作品だけに限られて出現している。

E群に出現率50%以上と多いデザイン要素数は全体で17であるが、他の群に比べて多く出現するデザイン要素数は2と少なくなっている。

6) L-F群のデザイン要素

L-F群は、2012年から2017年の5年間の比較的短い期間に集中した作品群である。デザイン要素は、「複合図形」P2、「目隠し壁面」R3、「装飾壁面」R5、「並列装飾壁（リポート）」R6、「石材系床」FM4、「複合材壁面」WM8、「機能独立型什器」FN4、IL2「壁間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3、「独立型吊天井照明」IL5、「芸術家協働作業」EX1である。

他の群より多く出現するデザイン要素は、「吊天井」L3、「T/C系床」FM3、「石材系壁面（既成材）」WM5、「石膏ボード壁面」WM9、「天井付帯照明」IL4である。天井の「吊天井」L3は全4作品に出現し、他の群全体では4作品しか出現していない。

E群の作品L42『カフェ&ミール MUJI 南青山』で初めて出現した「独立型吊天井照明（シャンデリア）」IL5がF群の全4作品に出現している。「芸術家協働作業」EX1も全4作品に出現している。杉本独自のデザイン要素である「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1は全作品で出現していない。

7) L-G群のデザイン要素

L-G群は、1990年から1998年までの前期の作品群である。デザイン要素は、「自立壁」W1、「石材系床」FN4、「木材系壁面（古材）」WM2、「複合材壁面」WM8、「塗装系壁面（左官）」WM11、「機能独立型什器」FN4、I「壁間接照明」IL2、「芸術家協働作業」EX1である。

他の群と異なるデザイン要素は、「部分円」C2、「段差床」F1、「素材壁面」R2、「ルーバー壁面」R4、「複合材床」FM6、「石材系壁面（既成材）」WM5、「石膏ボード天井」CM3が出現している。「素材壁面」R6は他の群の作品では3作品だけの出現であるが、G

群では 4 作品に出現している。「左官系壁面」WM11 は全作品に出現していることから、「素材壁面」R2 との関係が、この群の特性である。

8) L-H 群のデザイン要素

L-H 群は、1994 年から 2000 年までの作品群である。デザイン要素は、「複合図形」P2、「自立壁」W1、「塗装系壁面（左官）」WM11、「スケルトン天井」CM4、「機能独立型什器」FN4、「壁間接照明」IL2、「壁付帯照明」IL3 である。

他との異なるデザイン要素は、「斜行線」S3、「掘込み天井」L4、「ルーバー壁面」R4 である。L-G 群に集中して 4 作品に出現するデザイン要素「段差床」F1 が、H 群でも 3 作品に出現している。杉本独自のデザイン要素である「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 が全作品に出現している。他の群ではあまり出現しないデザイン要素として「掘込み天井」L4 がある。作品 L22『ジパングスーパーダイニング 永田町店』では、この群の中で唯一、新しいデザイン要素が 3 要素出現している。

9) L-I 群のデザイン要素

L-I 群は、2000 年から 2005 年までの作品群である。デザイン要素は、「複合図形」P2、「自立壁」W1、「石材系床」FW4、「金属系壁面」WM3、「複合材壁面」WM8、「塗装系壁面（左官）」WM11、「スケルトン天井」CM4、「壁面一体什器」FN1、「独立型什器（デザイン家具）」FN2、「機能独立型什器」FN4 である。他の群とは異なるデザイン要素は、L-H 群同様に、他の群ではあまり出現しない「掘込み天井」L4 がある。

この群の作品には、新しいデザイン要素が各作品に出現するが、「ガラス系壁面」WM12 は 2000 年完成作品 L20『無印良品&カフェジム青葉台』で、2000 年完成作品 L21『春秋 溜池山王店』で「石材系壁面（自然岩材）」WM6 が初めて出現した。作品 L27『キッチンしゅんじゅう 銀座』、作品 L35『春秋 ツギハギ』の 2 作品には新しいデザイン要素が 3 要素出現している。また、H 群同様に、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 が全作品に出現している。

10) L-J 群のデザイン要素

L-J 群は、作品 L8『デポ 上野』の一作品だけの群である。他の群では多く出現していないデザイン要素である「金属系床」FM2、「スケルトン壁面」WM10 が出現している。

「金属系床」FM2 は後期作品群の全体作品の中でも、この作品だけに出現している特徴的な仕上げ要素である。デザイン要素数も 16 要素と少ない。

第3節 第3章のまとめ

杉本の商環境デザイン作品が「商店建築」に発表された1972年から2018年までの期間を研究対象期間とし、杉本の商環境デザイン作品を研究対象作品とした。各作品についてデザイン要素を一覧できるデータシートを作成した。このデータシートを基にデザイン要素を詳細に抽出し、デザイン要素の出現一覧表を作成した。

出現一覧表のデータを用いて数量化Ⅲ類により分析を行い、求めたサンプルスコアを用いてクラスター分析を行った。以下のような知見を得た。分類されたデザイン要素を、前期と後期に分けて各群ごとの特性をまとめる。

前期のデザイン要素の抽出結果

1) デザイン要素から作品分類の結果、P-A群、P-B群、P-C群、P-D群、P-E群の5つの群に分類できた。ただし、P-C群は、さらにP-CⅠ群・P-CⅡ群に二分した。

2) P-A群は、1972年から1979年にわたる作品群であり、「格子割付」S1、「平行線」S3、「水平天井」L1、「石材系床」FM4、「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」CM3、「天井付帯照明」IL4のデザイン要素が多用されている。

3) P-B群は、1979年から1983年の作品群であり、「複合図形」P21、「T/C系床」FM3、「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」CM3、「独立型什器」FN2、「天井付帯照明」IL4が作品特性を示すデザイン要素として出現し、平面計画では、「全円」C1、「部分円」C2が使われるようになる。1982年の作品P31『ラジオ(二期)』では、「芸術家協働作業」EX1が初めて試された。

4) P-C群は、1978年から1986年までの作品群で、P-CⅠ群とP-CⅡ群の二つに分けられる。P-CⅠ群は、直線や曲線を複合的に取り扱い、「スケルトン壁」WM8、「スケルトン天井」CM4などが先行して1978年に現れている。P-CⅡ群は1986年の作品で「芸術家協働作業」EX1は出現せず、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1がP-CⅠ群と共通して使用されている。

5) P-D群は、1982年から1989年まで作品群で、「平行線」S3、「自立壁」W1、「水平天井」L1、「目隠し壁面」R3、「木材系床」FM1、「石材系床」FM4、「複合材床」FM6、「金属系壁面」WM6、「芸術家協働作業」EX1が多く出現する

6) P-E群は、バブル経済期前の1983年から1985年に集中した群である「自立壁」W1、「木材系床」FM1、「木材系壁面」WM1「複合材壁面」WM6、「石膏ボード天井」CM3が多く見られる。

後期のデザイン要素の抽出結果

1) デザイン要素から作品分類の結果、L-A群、L-B群、L-C群、L-D群、L-E群、L-F群、L-G群、L-H群、L-I群、L-J群の10の群に分類できた。

2) L-A群は、1990年から2010年までの作品群で、前期に出現していない「空間仕上要素」が多く出現している。「並列装飾壁（リピート）」R6、「木材系壁面（古材）」WM2、「石材系壁面（自然岩材）」WM6、「塗装系壁面（左官）」WM11、「ガラス系壁面」WM12、「独立型天井照明」IL5である。

3) L-B群は、1998年から2009年までの作品群で、「浮遊壁」W2、「格子壁面」R1、「目隠し壁面」R3、「装飾壁面」R5、「ガラス系壁面」WM12、「ルーバー天井」CM1、が他の群に比べて多用されている。「並列装飾壁（リピート）」R6が初めて出現する。

4) L-C群は、2017年、2018年の作品である。「多重図形」P3、「浮遊壁」W2、「曲面天井」L2、「石材系壁面」WM6が多用されている。「曲面天井」L2がL-C群だけに出現している。

5) L-E群は、2008年から2017年の作品群で、「格子割り付け」S1、「石膏ボード壁面」WM10が多く出現しているである。「格子割付」S1が復活して出現している。

6) L-F群は、2012年から2017年の作品群で、「吊天井」L3、「T/C系床」FM3、「石材系壁面（既成材）」WM5、「石膏ボード壁面」WM9、「天井付帯照明」IL4が多く出現している。

7) L-G群は、1990年から1998年の作品群で、「部分円」C2、「段差床」F1、「素材壁面」R2、「ルーバー壁面」R4、「複合材床」FM6、「石材系壁面（既成材）」WM5、「石膏ボード天井」CM3が出現しており「塗装系壁面（左官）」WM11は全作品に出現している。

8) L-H群は、1994年から2000年までの作品群である。他との異なるデザイン要素は、「斜行線」S3、「掘込み天井」L4、「ルーバー壁面」R4である。L-G群に集中して4作品に出現するデザイン要素「段差床」F1が、H群でも3作品に出現している。杉本独自のデザイン要素である「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1が全作品に出現している

9) L-D群およびL-J群は、デザイン要素の総数は他群に比べて極端に少なく、出現頻度の低いデザイン要素が使われている。

第4章

前期作品と後期作品の比較考察

第1節 1972年～1989年までの前期作品（作品番号 P1～P62）

4. 1. 1 分類された前期作品の特性

研究対象の1972年から1989年までの前期62作品について、『商店建築』から各作品のデータをまとめた一覧表の図2-1データシートから、「2. 方法」の章で述べた「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」のデザイン要素を抽出し、デザイン要素を空間化して表現した一覧表を表2-1、表2-3、出現要素を表3-2としてまとめた。

その出現表を用いて、林の数量化Ⅲ類による分析を行った。クラスター分析の結果の樹形図として図3-1にて示した。

本研究の分析結果と考察の理解を深めるために、表3-2の情報を図3-1の樹形図と編集して図4-1にて示す。デザイン要素の出現結果から各群ごとに作品特性を考察する。

1) P-A 群の特性

P-A 群の初期作品群における作品特性は、「格子割付」S1、「対称配置線」S2、「平行線」S3を組み合わせた「グリッド」による空間の均質化である。

P-A 群のデビュー作品 P1『ブティックワイズ』は、杉本作品の原点にふさわしい作品となっている。この作品の完成は、日本の各分野のデザイナーが世界に羽ばたき始めた時期であり、その先頭に立とうと野心に満ちたファッションデザイナーである山本耀司^{注1)}のファッション界へのデビューも兼ねた「ワイズ」^{注2)}の第一号店であり、フラッグショップである。

インテリアデザインが建築の一部分の装飾として扱われていた時代に、インテリアデザインの領域を超えて一つの商環境デザイン作品としてデザインされたのは画期的なことである¹⁾。10坪という極小の本作品は実験的な店舗の位置付けにある代表作と考えられる。

ここで用いられる「格子割付」S1は、空間の床、壁、天井に機能、装飾を無視するように「グリッド」で設計されたデザイン要素は、デビュー作品以降は杉本作品の基本的なデザイン要素となっている。

表4-1-1にP-A群のデザイン要素出現表を示す。P-A群の作品におけるデザイン要素の特性は、「格子割付」S1、「対称配置線」S2、「平行線」S3、「斜行線」S4、「複合図形」P2、「水平天井」L1、「石材系床」FM4、「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」CM3、「天井付帯照明」IL4が多用されていることである。なかでも「格子割付」S1、「対称配置線」S2、「平行線」S3で構成する「グリッド」の多用はP-A群の前半の重要な特性である。

これは、同時期にイタリアでデザイン批評活動を行って世界の建築家、インテリアデザイナーに影響を与えたスーパースタジオ^{注3)}のデザイン手法である「シングルデザイン」^{注4)}の引用が大きいと考えられる。杉本が主導した設計組織である「スーパーポテト」の名称由来は「スーパースタジオ」から引用して名付けたと表明している事でも覗える²⁾。杉本が影響を受けたスーパースタジオのデザイン思想は、建築、インテリアを専門的に学んでいない初期の設計作業の上で理論的な支えとなっていたことから推測できる³⁾。

「シングルデザイン」の引用は、作品P1『ブティックワイズ』、作品P2『ラジオ』、作品P3『パブオレンジ』、作品P5『ナルセフローリスト』をはじめとする前期前半作品に多く出現している。

「空間仕上要素」については、床はインテリアデザインの普遍的な仕上げである「木材系床」FM1、「石材系床」FM4にて仕上げられている。壁、天井においては建築要素の

「石膏ボード壁面」WM7、「石膏ボード天井」WM7 のままで、杉本のデザイン要素は仕上げ面に表れていない。

店舗の機能である家具を杉本は「様々な素材を高度な技術で加工し、高品質のオリジナルのインテリアアクセサリ」⁴⁾と説明していることから、A 群の作品では自らがデザインする家具、什器がデザイン対象となり既存建築の仕上げに関心がなかったことが分かる。

デビュー時期の作品 P1 『ブティックワイズ』のデザイン趣旨を杉本自身は、「商品を販売することを一つの現象と考え、その現象を包み込む容器としてのデザインを進める」⁵⁾と述べており、機能を見捨ててもデザイン要素を優先するデザイン手法が、この群の前半の作品に取られていたと考えられる。この設計手法は、自らのデザイン理論を強引に展開することによって店舗としての機能から離脱しているが、その強引さがインテリアデザインの意味を問直し、変革へと向かわせた要因となっていると考えられる。

P-A 群後半作品では作品 P8 『カワキチ大阪支店』、作品 P9 『ポスト』、作品 P15 『バイブレーション』のデザインに見られるように、前半作品に多用された平面のデザイン構成要素に加え、立面においては杉本が「空間を包み込むもう一つの被膜の存在」⁶⁾と定義する「格子壁面」R1、「ルーバー壁面」R4 や「壁面間接照明」IL2、「装飾壁面」R5 等の商環境機能に直接関係しないデザイン要素が付け加えられ、商環境の最低限の機能を満たすものとして「独立型什器」FN2 が出現している。

P-A 群後半は、商環境機能を見捨てできなくなり、機能を見捨ててもデザイン要素を優先するデザイン手法が変化したと考えられることが、この群の後半作品の特性を示している。

表4-1-1 P-A 群の対象作品のデザイン要素の出現表 (著者作成)

デザイン要素	要素種別	要素名	空間構成要素																										空間仕上要素																		特徴	計数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
			平面													立面													壁									天井																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
			S1	S2	S3	S4	C1	C2	P1	P2	F1	F2	W1	W2	L1	L2	L3	L4	R1	R2	R3	R4	R5	IL1	IL2	IL3	IL4	IL5	EM1	EM2	EM3	EM4	EM5	EM6	EM7	EM8	EM9	EM10	EM11	EM12	EM13	EM14	EM15	EM16	EM17	EM18			EM19	EM20	EM21	EM22	EM23	EM24	EM25	EM26	EM27	EM28	EM29	EM30	EM31	EM32	EM33	EM34	EM35	EM36	EM37	EM38	EM39	EM40	EM41	EM42	EM43	EM44	EM45	EM46	EM47	EM48	EM49	EM50	EM51	EM52	EM53	EM54	EM55	EM56	EM57	EM58	EM59	EM60	EM61	EM62	EM63	EM64	EM65	EM66	EM67	EM68	EM69	EM70	EM71	EM72	EM73	EM74	EM75	EM76	EM77	EM78	EM79	EM80	EM81	EM82	EM83	EM84	EM85	EM86	EM87	EM88	EM89	EM90	EM91	EM92	EM93	EM94	EM95	EM96	EM97	EM98	EM99	EM100	EM101	EM102	EM103	EM104	EM105	EM106	EM107	EM108	EM109	EM110	EM111	EM112	EM113	EM114	EM115	EM116	EM117	EM118	EM119	EM120	EM121	EM122	EM123	EM124	EM125	EM126	EM127	EM128	EM129	EM130	EM131	EM132	EM133	EM134	EM135	EM136	EM137	EM138	EM139	EM140	EM141	EM142	EM143	EM144	EM145	EM146	EM147	EM148	EM149	EM150	EM151	EM152	EM153	EM154	EM155	EM156	EM157	EM158	EM159	EM160	EM161	EM162	EM163	EM164	EM165	EM166	EM167	EM168	EM169	EM170	EM171	EM172	EM173	EM174	EM175	EM176	EM177	EM178	EM179	EM180	EM181	EM182	EM183	EM184	EM185	EM186	EM187	EM188	EM189	EM190	EM191	EM192	EM193	EM194	EM195	EM196	EM197	EM198	EM199	EM200	EM201	EM202	EM203	EM204	EM205	EM206	EM207	EM208	EM209	EM210	EM211	EM212	EM213	EM214	EM215	EM216	EM217	EM218	EM219	EM220	EM221	EM222	EM223	EM224	EM225	EM226	EM227	EM228	EM229	EM230	EM231	EM232	EM233	EM234	EM235	EM236	EM237	EM238	EM239	EM240	EM241	EM242	EM243	EM244	EM245	EM246	EM247	EM248	EM249	EM250	EM251	EM252	EM253	EM254	EM255	EM256	EM257	EM258	EM259	EM260	EM261	EM262	EM263	EM264	EM265	EM266	EM267	EM268	EM269	EM270	EM271	EM272	EM273	EM274	EM275	EM276	EM277	EM278	EM279	EM280	EM281	EM282	EM283	EM284	EM285	EM286	EM287	EM288	EM289	EM290	EM291	EM292	EM293	EM294	EM295	EM296	EM297	EM298	EM299	EM300	EM301	EM302	EM303	EM304	EM305	EM306	EM307	EM308	EM309	EM310	EM311	EM312	EM313	EM314	EM315	EM316	EM317	EM318	EM319	EM320	EM321	EM322	EM323	EM324	EM325	EM326	EM327	EM328	EM329	EM330	EM331	EM332	EM333	EM334	EM335	EM336	EM337	EM338	EM339	EM340	EM341	EM342	EM343	EM344	EM345	EM346	EM347	EM348	EM349	EM350	EM351	EM352	EM353	EM354	EM355	EM356	EM357	EM358	EM359	EM360	EM361	EM362	EM363	EM364	EM365	EM366	EM367	EM368	EM369	EM370	EM371	EM372	EM373	EM374	EM375	EM376	EM377	EM378	EM379	EM380	EM381	EM382	EM383	EM384	EM385	EM386	EM387	EM388	EM389	EM390	EM391	EM392	EM393	EM394	EM395	EM396	EM397	EM398	EM399	EM400	EM401	EM402	EM403	EM404	EM405	EM406	EM407	EM408	EM409	EM410	EM411	EM412	EM413	EM414	EM415	EM416	EM417	EM418	EM419	EM420	EM421	EM422	EM423	EM424	EM425	EM426	EM427	EM428	EM429	EM430	EM431	EM432	EM433	EM434	EM435	EM436	EM437	EM438	EM439	EM440	EM441	EM442	EM443	EM444	EM445	EM446	EM447	EM448	EM449	EM450	EM451	EM452	EM453	EM454	EM455	EM456	EM457	EM458	EM459	EM460	EM461	EM462	EM463	EM464	EM465	EM466	EM467	EM468	EM469	EM470	EM471	EM472	EM473	EM474	EM475	EM476	EM477	EM478	EM479	EM480	EM481	EM482	EM483	EM484	EM485	EM486	EM487	EM488	EM489	EM490	EM491	EM492	EM493	EM494	EM495	EM496	EM497	EM498	EM499	EM500	EM501	EM502	EM503	EM504	EM505	EM506	EM507	EM508	EM509	EM510	EM511	EM512	EM513	EM514	EM515	EM516	EM517	EM518	EM519	EM520	EM521	EM522	EM523	EM524	EM525	EM526	EM527	EM528	EM529	EM530	EM531	EM532	EM533	EM534	EM535	EM536	EM537	EM538	EM539	EM540	EM541	EM542	EM543	EM544	EM545	EM546	EM547	EM548	EM549	EM550	EM551	EM552	EM553	EM554	EM555	EM556	EM557	EM558	EM559	EM560	EM561	EM562	EM563	EM564	EM565	EM566	EM567	EM568	EM569	EM570	EM571	EM572	EM573	EM574	EM575	EM576	EM577	EM578	EM579	EM580	EM581	EM582	EM583	EM584	EM585	EM586	EM587	EM588	EM589	EM590	EM591	EM592	EM593	EM594	EM595	EM596	EM597	EM598	EM599	EM600	EM601	EM602	EM603	EM604	EM605	EM606	EM607	EM608	EM609	EM610	EM611	EM612	EM613	EM614	EM615	EM616	EM617	EM618	EM619	EM620	EM621	EM622	EM623	EM624	EM625	EM626	EM627	EM628	EM629	EM630	EM631	EM632	EM633	EM634	EM635	EM636	EM637	EM638	EM639	EM640	EM641	EM642	EM643	EM644	EM645	EM646	EM647	EM648	EM649	EM650	EM651	EM652	EM653	EM654	EM655	EM656	EM657	EM658	EM659	EM660	EM661	EM662	EM663	EM664	EM665	EM666	EM667	EM668	EM669	EM670	EM671	EM672	EM673	EM674	EM675	EM676	EM677	EM678	EM679	EM680	EM681	EM682	EM683	EM684	EM685	EM686	EM687	EM688	EM689	EM690	EM691	EM692	EM693	EM694	EM695	EM696	EM697	EM698	EM699	EM700	EM701	EM702	EM703	EM704	EM705	EM706	EM707	EM708	EM709	EM710	EM711	EM712	EM713	EM714	EM715	EM716	EM717	EM718	EM719	EM720	EM721	EM722	EM723	EM724	EM725	EM726	EM727	EM728	EM729	EM730	EM731	EM732	EM733	EM734	EM735	EM736	EM737	EM738	EM739	EM740	EM741	EM742	EM743	EM744	EM745	EM746	EM747	EM748	EM749	EM750	EM751	EM752	EM753	EM754	EM755	EM756	EM757	EM758	EM759	EM760	EM761	EM762	EM763	EM764	EM765	EM766	EM767	EM768	EM769	EM770	EM771	EM772	EM773	EM774	EM775	EM776	EM777	EM778	EM779	EM780	EM781	EM782	EM783	EM784	EM785	EM786	EM787	EM788	EM789	EM790	EM791	EM792	EM793	EM794	EM795	EM796	EM797	EM798	EM799	EM800	EM801	EM802	EM803	EM804	EM805	EM806	EM807	EM808	EM809	EM810	EM811	EM812	EM813	EM814	EM815	EM816	EM817	EM818	EM819	EM820	EM821	EM822	EM823	EM824	EM825	EM826	EM827	EM828	EM829	EM830	EM831	EM832	EM833	EM834	EM835	EM836	EM837	EM838	EM839	EM840	EM841	EM842	EM843	EM844	EM845	EM846	EM847	EM848	EM849	EM850	EM851	EM852	EM853	EM854	EM855	EM856	EM857	EM858	EM859	EM860	EM861	EM862	EM863	EM864	EM865	EM866	EM867	EM868	EM869	EM870	EM871	EM872	EM873	EM874	EM875	EM876	EM877	EM878	EM879	EM880	EM881	EM882	EM883	EM884	EM885	EM886	EM887	EM888	EM889	EM890	EM891	EM892	EM893	EM894	EM895	EM896	EM897	EM898	EM899	EM900	EM901	EM902	EM903	EM904	EM905	EM906	EM907	EM908	EM909	EM910	EM911	EM912	EM913	EM914	EM915	EM916	EM917	EM918	EM919	EM920	EM921	EM922	EM923	EM924	EM925	EM926	EM927	EM928	EM929	EM930	EM931	EM932	EM933	EM934	EM935	EM936	EM937	EM938	EM939	EM940	EM941	EM942	EM943	EM944	EM945	EM946	EM947	EM948	EM949	EM950	EM951	EM952	EM953	EM954	EM955	EM956	EM957	EM958	EM959	EM960	EM961	EM962	EM963	EM964	EM965	EM966	EM967	EM968	EM969	EM970	EM971	EM972	EM973	EM974	EM975	EM976	EM977	EM978	EM979	EM980	EM981	EM982	EM983	EM984	EM985	EM986	EM987	EM988	EM989	EM990	EM991	EM992	EM993	EM994	EM995	EM996	EM997	EM998	EM999	EM1000	EM1001	EM1002	EM1003	EM1004	EM1005	EM1006	EM1007	EM1008	EM1009	EM1010	EM1011	EM1012	EM1013	EM1014	EM1015	EM1016	EM1017	EM1018	EM1019	EM1020	EM1021	EM1022	EM1023	EM1024	EM1025	EM1026	EM1027	EM1028	EM1029	EM1030	EM1031	EM1032	EM1033	EM1034	EM1035	EM1036	EM1037	EM1038	EM1039	EM1040	EM1041	EM1042	EM1043	EM1044	EM1045	EM1046	EM1047	EM1048	EM1049	EM1050	EM1051	EM1052	EM1053	EM1054	EM1055	EM1056	EM1057	EM1058	EM1059	EM1060	EM1061	EM1062	EM1063	EM1064	EM1065	EM1066	EM1067	EM1068	EM1069	EM1070	EM1071	EM1072	EM1073	EM1074	EM1075	EM1076	EM1077	EM1078	EM1079	EM1080	EM1081	EM1082	EM1083	EM1084	EM1085	EM1086	EM1087	EM1088	EM1089	EM1090	EM1091	EM1092	EM1093	EM1094	EM1095	EM1096	EM1097	EM1098	EM1099	EM1100	EM1101	EM1102	EM1103	EM1104	EM1105	EM1106	EM1107	EM1108	EM1109	EM1110	EM1111	EM1112	EM1113	EM1114	EM1115	EM1116	EM1117	EM1118	EM1119	EM1120	EM1121	EM1122	EM1123	EM1124	EM1125	EM1126	EM1127	EM1128	EM1129	EM1130	EM1131	EM1132	EM1133	EM1134	EM1135	EM1136	EM1137	EM1138	EM1139	EM1140	EM1141	EM1142	EM1143	EM1144	EM1145	EM1146	EM1147	EM1148	EM1149	EM1150	EM1151	EM1152	EM1153	EM1154	EM1155	EM1156	EM1157	EM1158	EM1159	EM1160	EM1161	EM1162	EM1163	EM1164	EM1165	EM1166	EM1167	EM1168	EM1169	EM1170	EM1171	EM1172	EM1173	EM1174	EM1175	EM1176	EM1177	EM1178	EM1179	EM1180	EM1181	EM1182	EM1183	EM1184	EM1185	EM1186	EM1187	EM1188	EM1189	EM1190	EM1191	EM1192	EM1193	EM1194	EM1195	EM1196	EM1197	EM1198	EM1199	EM1200	EM1201	EM1202	EM1203	EM1204	EM1205	EM1206	EM1207	EM1208	EM1209	EM1210	EM1211	EM1212	EM1213	EM1214	EM1215	EM1216	EM1217	EM1218	EM1219	EM1220	EM1221	EM1222	EM1223	EM1224	EM1225	EM1226	EM1227	EM1228	EM1229	EM1230	EM1231	EM1232	EM1233	EM1234	EM1235	EM1236	EM1237	EM1238	EM1239	EM1240	EM1241	EM1242	EM1243	EM1244

2) P-B 群の特性

P-B 群の作品特性は、デビュー期から試験的で強引なほどの設計手法を作品ごとに試し、繰り返すことによって洗練されていった杉本の設計手法が確立されていくことであるが、この時期の商環境デザインには、まだ強引なデザイン手法が残っている。建築空間との関係性においても、空間全ての要素を自らのデザイン要素でデザインする完成形としての作品に辿り着いていない。

表4-1-2に P-B 群のデザイン要素出現表を示す。作品 P19『ルナロード美容院』、作品 P20『アゼリア』、作品 P25『日本リクルートセンター銀座ビルティーラウンジ』などで、それ以前に多用された「グリッド」で空間を均一化する「シングルデザイン」の引用である「格子割付」S1、「対称配置線」S2、「斜行線」S4がデザイン要素として出現していない。

A 群前半作品の特性であった「格子割り付け」S1による「グリッド」が使用されなくなった理由は、杉本自身が反モダニズムを表現した「シングルデザイン」に感化されてきた事への反省で「それは違うと思ひ少しそらした方向を目指した」⁷⁾と杉本自身が語っている事で説明できる。

代わりに平面計画においては、芸術性を表すと考えられる曲線の「全円」C1が新たに出現している。平面計画では、P-A 群のデビュー時期の店舗機能の優先順位を下げてもデザイン要素が機能よりも優先されてきた強引なデザイン手法から、この群に表れる商空間以降は、売り上げ、客動線管理のために機能等が重要となりデザイン要素と店舗機能が融合され始めたと推測される。杉本によれば、「環境を微細に感性化することではなく、いかに的確な目的性（売り上げ）を保有することができるか、という事が何よりも急ぐべき問題」⁸⁾と商空間のデザインと売り上げ（的確な目的性）の関係を説明している。

また、同時期に「物販店なので商品の性格を分析し、そのデータを常に商品に置き方、見え方を大事にし、デザイン作業を行った」⁹⁾とも説明し、商空間のデザイン手法において商品は重要なデザイン要素として変化してきたと考えられる。

空間仕上げ要素では、作品 P18『ナルセフローリスト ノブ』から壁面仕上げには建築要素である「石膏ボード壁面」WM7 の表面に杉本のデザイン要素である「木材系壁面」WM1 が仕上げとして出現している。建築空間仕上げに杉本のデザイン要素を付け加え、空間を自らのデザイン要素で構成していく手法が確立されたと考えられる。天井のデザイン要素には、「曲面天井」L2 が出現し、P-A 群と同様に杉本がデザインした「天井付帯照明」IL4 も出現している。これは、既存建築の天井仕上げに対して、杉本のデザイン要素

が加えられた天井がデザインの特徴になることへの関心が向いたと考えられる。

P-A 群で多用された「壁面付帯照明」IL2、「壁付帯照明」IL3 は出現していないことも P-B 群の特性と考えられる。

作品 P31『ラジオ（二期）』では、東京藝術大学の先輩である芸術家・若林奮^{注5)}との協働作業である「芸術家協働作業」EX1 が初めて出現し、1982 年以降の作品に影響を与えて変革していく大きな出発点となっている。若林との協働作業を杉本は「麻薬のような危険性を持っていて、そこに強く惹かれることもあるが、計画していた過程で全く違和感を感じなかったことに驚いている」¹⁰⁾と、協働作業が、設計の初期段階から対等な形で実施され、芸術作品とも言える商環境が完成したことを説明している。

杉本と協働でデザインを行ったグラフィックデザイナーの田中一光^{注6)}は、この彫刻作品のような商環境デザイン作品を「利休の目指した精神空間の糸口であり、人が彫刻を鑑賞するのを裏返したように、彫刻が包み込んでいる」¹¹⁾と、商環境デザイン作品がインテリアデザイナーと芸術家の協働作業で芸術作品へと昇華したことを解説している。

鈴木（2000）は他分野の芸術家との協働作業により、商業施設のインテリア空間が芸術作品との境が無くなった最初の作品である¹²⁾と説明している。

L-B 群の作品 P31『ラジオ（二期）』は、1972 年のデビュー時から、作品ごとに変革使用して斬新なデザイン要素による設計手法が、他分野の芸術家との協働作業によって大きく変換していく時代の節目となったと考えられる。

表 4 - 1 - 2 P-B 群の対象作品のデザイン要素の出現表（著者作成）

デザイン要素	要素種別	要素記号	空間構成要素																		空間仕上要素												空間設計要素				特記														
			平面						断面						立体						床				天井				家具・什器																						
			S1	S2	S3	S4	S5	S6	F1	F2	F3	F4	F5	F6	W1	W2	W3	W4	W5	W6	R1	R2	R3	R4	R5	R6	CM1	CM2	CM3	CM4	CM5	CM6	CM7	CM8	ST1	ST2		ST3	ST4	TR1	TR2	TR3	TR4								
P19	1979	ルナロード美管堂	E	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	13	27.13	
P20	1979	アザリア	B	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	12	26.03		
P21	1979	クダモートーズ	F	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	17	25.05		
P22	1980	100%アクリル	BE	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	18	39.65	
P23	1981	ケルビーゴット	C	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	12	25.05		
P24	1981	クランツ スパイラル	O	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	11	22.05		
P25	1981	保利純ニホノホト大塚純ニホノケシヨウ	D	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	16	33.25		
P27	1981	モンジュ	O	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	25.05			
P28	1981	アイボリー	O	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	18.05		
P29	1981	南	D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	18.05			
P30	1981	横作	D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	14.05			
P31	1982	ラジオ	B	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	15	31.25	
P32	1983	セウ	B	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	15	31.25

3) P-C 群の特性

P-C 群の作品には、「平行線」S3 と平面のデザイン要素に曲線である「全円」C1、「部分円」C2、壁と床に「スケルトン壁」WM8、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 が出現し、既存建築の床、壁、天井の仕上げを剥がし、建築躯体のまま仕上げをしない「スケルトン空間」にするという過去の作品には見られない独特の手法が初めて出現する。P-C 群は、P-C I 群の 2 作品と、それ以外の P-C II 群の作品としてグルーピングされる。

表 4-1-3 に P-C 群のデザイン要素出現表を示す。P-C I 群の作品は、作品 P15『ザバイブレーション』作品 P17『まる八』の 2 作品で構成され、この二つの作品の平面計画では、1983 年以降の平面計画で作品に多く出現する曲線の「全円」C1、「部分円」C2 と直線の「交差線」P1 で複合的にデザインされている。空間は「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4 による、「スケルトン空間」内を杉本のデザイン要素の「格子天井」CM2、「設備露出天井」EQ1 で構成する先駆的作品と位置付けられる。ここでは「部分円」C2 が初めて出現している。

P-C II 群の作品は 1981 年から 1987 年と幅広く、1980 年代後期の景気上昇が本格的に始まりバブル最盛期へと移行する 1986 年に多く集中する期間の作品である。デザイン要素の特性は、「平行線」S3、「装飾壁面」R5、「石材床材」FM4、「金属系壁面」WM2、「スケルトン壁」WM8、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1 が挙げられる。

作品 P26『レディーポテト』、作品 P51『イー．エム．エイ．』をはじめとして作品 P38『オールドニュー』の 3 店舗がある。作品 P38『オールドニュー』、作品 P55『オールドニュー 六甲』、作品 P56『オールドニュー 吉祥寺』は同業態である『オールドニュー』ブランドの 2 作品が芸術家との協働作業でデザインされていることに対して、他の 4 作品は芸術家との協働作業は封印されている。芸術家との協働作品ではない 4 作品は、普遍的な既製品である建築仕上げ材料を使いながらも複雑な空間に仕上げていく試験的な設計手法が一時的に試されている。また、「壁面付帯装飾」R4 は普遍的な仕上げ要素ではないが他とは違う特性があり、「設備露出天井」EQ1 も出現し独特の特性を有していると考えられる。

この群で初めて出現した「スケルトン空間」と店舗機能の関係について、杉本は「コンクリート打ち放しの空間（スケルトン空間）の内部に部品のように仕掛け（機能）を嵌め込む」¹³⁾と表現している。

P-C 群は先駆的な P-C I 群の 2 作品と、それ以外の手法が一般化していく P-C II 群の作品としてグルーピングされていると考えられる。

総じて、全作品において壁の「スケルトン壁面」WM8、天井の「スケルトン天井」CM4を採用して、商空間の建築仕上げを取り去り、店舗機能だけを残した新しいデザインの試みにも関連していると考えられる。

表4-1-3 P-C群の対象作品のデザイン要素の出現表（著者作成）

デザイン要素	要素種別	空間構成要素																							空間仕上要素													特性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		平面						断面						立面											床						壁							天井						家具・設備						計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
作品名	業種	S1	S2	S3	S4	C1	C2	P1	P2	P3	F1	F2	W1	W2	L1	L2	L3	L4	R1	R2	R3	R4	W1	W2	W3	W4	W5	W6	W7	W8	W9	W10	W11	W12	W13	W14	W15	W16	W17	W18	W19	W20	W21	W22	W23	W24	W25	W26	W27	W28	W29	W30	W31	W32	W33	W34	W35	W36	W37	W38	W39	W40	W41	W42	W43	W44	W45	W46	W47	W48	W49	W50	W51	W52	W53	W54	W55	W56	W57	W58	W59	W60	W61	W62	W63	W64	W65	W66	W67	W68	W69	W70	W71	W72	W73	W74	W75	W76	W77	W78	W79	W80	W81	W82	W83	W84	W85	W86	W87	W88	W89	W90	W91	W92	W93	W94	W95	W96	W97	W98	W99	W100	W101	W102	W103	W104	W105	W106	W107	W108	W109	W110	W111	W112	W113	W114	W115	W116	W117	W118	W119	W120	W121	W122	W123	W124	W125	W126	W127	W128	W129	W130	W131	W132	W133	W134	W135	W136	W137	W138	W139	W140	W141	W142	W143	W144	W145	W146	W147	W148	W149	W150	W151	W152	W153	W154	W155	W156	W157	W158	W159	W160	W161	W162	W163	W164	W165	W166	W167	W168	W169	W170	W171	W172	W173	W174	W175	W176	W177	W178	W179	W180	W181	W182	W183	W184	W185	W186	W187	W188	W189	W190	W191	W192	W193	W194	W195	W196	W197	W198	W199	W200	W201	W202	W203	W204	W205	W206	W207	W208	W209	W210	W211	W212	W213	W214	W215	W216	W217	W218	W219	W220	W221	W222	W223	W224	W225	W226	W227	W228	W229	W230	W231	W232	W233	W234	W235	W236	W237	W238	W239	W240	W241	W242	W243	W244	W245	W246	W247	W248	W249	W250	W251	W252	W253	W254	W255	W256	W257	W258	W259	W260	W261	W262	W263	W264	W265	W266	W267	W268	W269	W270	W271	W272	W273	W274	W275	W276	W277	W278	W279	W280	W281	W282	W283	W284	W285	W286	W287	W288	W289	W290	W291	W292	W293	W294	W295	W296	W297	W298	W299	W300	W301	W302	W303	W304	W305	W306	W307	W308	W309	W310	W311	W312	W313	W314	W315	W316	W317	W318	W319	W320	W321	W322	W323	W324	W325	W326	W327	W328	W329	W330	W331	W332	W333	W334	W335	W336	W337	W338	W339	W340	W341	W342	W343	W344	W345	W346	W347	W348	W349	W350	W351	W352	W353	W354	W355	W356	W357	W358	W359	W360	W361	W362	W363	W364	W365	W366	W367	W368	W369	W370	W371	W372	W373	W374	W375	W376	W377	W378	W379	W380	W381	W382	W383	W384	W385	W386	W387	W388	W389	W390	W391	W392	W393	W394	W395	W396	W397	W398	W399	W400	W401	W402	W403	W404	W405	W406	W407	W408	W409	W410	W411	W412	W413	W414	W415	W416	W417	W418	W419	W420	W421	W422	W423	W424	W425	W426	W427	W428	W429	W430	W431	W432	W433	W434	W435	W436	W437	W438	W439	W440	W441	W442	W443	W444	W445	W446	W447	W448	W449	W450	W451	W452	W453	W454	W455	W456	W457	W458	W459	W460	W461	W462	W463	W464	W465	W466	W467	W468	W469	W470	W471	W472	W473	W474	W475	W476	W477	W478	W479	W480	W481	W482	W483	W484	W485	W486	W487	W488	W489	W490	W491	W492	W493	W494	W495	W496	W497	W498	W499	W500	W501	W502	W503	W504	W505	W506	W507	W508	W509	W510	W511	W512	W513	W514	W515	W516	W517	W518	W519	W520	W521	W522	W523	W524	W525	W526	W527	W528	W529	W530	W531	W532	W533	W534	W535	W536	W537	W538	W539	W540	W541	W542	W543	W544	W545	W546	W547	W548	W549	W550	W551	W552	W553	W554	W555	W556	W557	W558	W559	W560	W561	W562	W563	W564	W565	W566	W567	W568	W569	W570	W571	W572	W573	W574	W575	W576	W577	W578	W579	W580	W581	W582	W583	W584	W585	W586	W587	W588	W589	W590	W591	W592	W593	W594	W595	W596	W597	W598	W599	W600	W601	W602	W603	W604	W605	W606	W607	W608	W609	W610	W611	W612	W613	W614	W615	W616	W617	W618	W619	W620	W621	W622	W623	W624	W625	W626	W627	W628	W629	W630	W631	W632	W633	W634	W635	W636	W637	W638	W639	W640	W641	W642	W643	W644	W645	W646	W647	W648	W649	W650	W651	W652	W653	W654	W655	W656	W657	W658	W659	W660	W661	W662	W663	W664	W665	W666	W667	W668	W669	W670	W671	W672	W673	W674	W675	W676	W677	W678	W679	W680	W681	W682	W683	W684	W685	W686	W687	W688	W689	W690	W691	W692	W693	W694	W695	W696	W697	W698	W699	W700	W701	W702	W703	W704	W705	W706	W707	W708	W709	W710	W711	W712	W713	W714	W715	W716	W717	W718	W719	W720	W721	W722	W723	W724	W725	W726	W727	W728	W729	W730	W731	W732	W733	W734	W735	W736	W737	W738	W739	W740	W741	W742	W743	W744	W745	W746	W747	W748	W749	W750	W751	W752	W753	W754	W755	W756	W757	W758	W759	W760	W761	W762	W763	W764	W765	W766	W767	W768	W769	W770	W771	W772	W773	W774	W775	W776	W777	W778	W779	W780	W781	W782	W783	W784	W785	W786	W787	W788	W789	W790	W791	W792	W793	W794	W795	W796	W797	W798	W799	W800	W801	W802	W803	W804	W805	W806	W807	W808	W809	W810	W811	W812	W813	W814	W815	W816	W817	W818	W819	W820	W821	W822	W823	W824	W825	W826	W827	W828	W829	W830	W831	W832	W833	W834	W835	W836	W837	W838	W839	W840	W841	W842	W843	W844	W845	W846	W847	W848	W849	W850	W851	W852	W853	W854	W855	W856	W857	W858	W859	W860	W861	W862	W863	W864	W865	W866	W867	W868	W869	W870	W871	W872	W873	W874	W875	W876	W877	W878	W879	W880	W881	W882	W883	W884	W885	W886	W887	W888	W889	W890	W891	W892	W893	W894	W895	W896	W897	W898	W899	W900	W901	W902	W903	W904	W905	W906	W907	W908	W909	W910	W911	W912	W913	W914	W915	W916	W917	W918	W919	W920	W921	W922	W923	W924	W925	W926	W927	W928	W929	W930	W931	W932	W933	W934	W935	W936	W937	W938	W939	W940	W941	W942	W943	W944	W945	W946	W947	W948	W949	W950	W951	W952	W953	W954	W955	W956	W957	W958	W959	W960	W961	W962	W963	W964	W965	W966	W967	W968	W969	W970	W971	W972	W973	W974	W975	W976	W977	W978	W979	W980	W981	W982	W983	W984	W985	W986	W987	W988	W989	W990	W991	W992	W993	W994	W995	W996	W997	W998	W999	W1000	W1001	W1002	W1003	W1004	W1005	W1006	W1007	W1008	W1009	W1010	W1011	W1012	W1013	W1014	W1015	W1016	W1017	W1018	W1019	W1020	W1021	W1022	W1023	W1024	W1025	W1026	W1027	W1028	W1029	W1030	W1031	W1032	W1033	W1034	W1035	W1036	W1037	W1038	W1039	W1040	W1041	W1042	W1043	W1044	W1045	W1046	W1047	W1048	W1049	W1050	W1051	W1052	W1053	W1054	W1055	W1056	W1057	W1058	W1059	W1060	W1061	W1062	W1063	W1064	W1065	W1066	W1067	W1068	W1069	W1070	W1071	W1072	W1073	W1074	W1075	W1076	W1077	W1078	W1079	W1080	W1081	W1082	W1083	W1084	W1085	W1086	W1087	W1088	W1089	W1090	W1091	W1092	W1093	W1094	W1095	W1096	W1097	W1098	W1099	W1100	W1101	W1102	W1103	W1104	W1105	W1106	W1107	W1108	W1109	W1110	W1111	W1112	W1113	W1114	W1115	W1116	W1117	W1118	W1119	W1120	W1121	W1122	W1123	W1124	W1125	W1126	W1127	W1128	W1129	W1130	W1131	W1132	W1133	W1134	W1135	W1136	W1137	W1138	W1139	W1140	W1141	W1142	W1143	W1144	W1145	W1146	W1147	W1148	W1149	W1150	W1151	W1152	W1153	W1154	W1155	W1156	W1157	W1158	W1159	W1160	W1161	W1162	W1163	W1164	W1165	W1166	W1167	W1168	W1169	W1170	W1171	W1172	W1173	W1174	W1175	W1176	W1177	W1178	W1179	W1180	W1181	W1182	W1183	W1184	W1185	W1186	W1187	W1188	W1189	W1190	W1191	W1192	W1193	W1194	W1195	W1196	W1197	W1198	W1199	W1200	W1201	W1202	W1203	W1204	W1205	W1206	W1207	W1208	W1209	W1210	W1211	W1212	W1213	W1214	W1215	W1216	W1217	W1218	W1219	W1220	W1221	W1222	W1223	W1224	W1225	W1226	W1227	W1228	W1229	W1230	W1231	W1232	W1233	W1234	W1235	W1236	W1237	W1238	W1239	W1240	W1241	W1242	W1243	W1244	W1245	W1246	W1247	W1248	W1249	W1250	W1251	W1252	W1253	W1254	W1255	W1256	W1257	W1258	W1259	W1260	W1261	W1262	W1263	W1264	W1265	W1266	W1267	W1268	W1269	W1270	W1271	W1272	W1273	W1274	W1275	W1276	W1277	W1278	W1279	W1280	W1281	W1282	W1283	W1284	W1285	W1286	W1287	W1288	W1289	W1290	W1291	W1292	W1293	W1294	W1295	W1296	W1297	W1298	W1299	W1300

5) P-E 群の特性

P-E 群は、バブル経済崩壊前の 1983 年から 1985 年の作品に集中した作品群であり、デザイン要素の顕著な特性は、立面仕上げにおいて、木材系と他の空間仕上要素との複合化と考えられる。

表 4-1-5 に P-E 群のデザイン要素出現表を示す。作品 P34『無印良品』、作品 P42『ビーイン』、作品 P43『ジュンメンパルコ 1 店』、作品 P45『EX』等が代表作であり、デザイン要素の顕著な特性は、立面計画に「ルーバー壁面」R4、床仕上げには「木材系床」FM1、「金属系床」FM2、「れんが系床」FM5、壁仕上げに「木材系壁面」WM1、「金属系壁面」WM2、「複合材壁面」WM6 と木材系と他の仕上げ要素との複合化である。

木材系素材（廃棄古木）、金属系素材（腐食金属）を使う理由を杉本は「古くも新しくもない空間」によって「空間は時間で左右されるものではない」¹⁸⁾と木材系材料（古木）、金属系材料（腐食金属）の使用が商空間の継続性を持たせるものと位置付けて商空間を一過性で終わらせない継続性として説明している。「ルーバー壁面」R4 と「木材系床」FM1 は P-D 群のデザイン要素の特徴とも一致するが、「木材系壁面」WM1 と「複合材壁面」WM6 は他の群では卓越して見られないデザイン要素の使用頻度である。

平面的には「多重図形」P3、断面としては「自立壁」S12、立面では「ルーバー壁」R4 と共に「目隠し壁」R3 の出現頻度は比較的多く、P-E 群の特性と考えられる。材料については、「複合材壁面」WM6 と共に「壁金属系」WM2、「床金属系」FM2 と金属材料が取り入れられている。これも P-E 群の特色ともいえる。

「芸術家協働作業」EX1 は 5 作品で行われている。作品 P35『パシュ 札幌』の店舗設計では、芸術に造詣の深い施主であるファッションデザイナー細川伸^{注7)}が主体となり、若林や他の芸術家との協働作業により生み出されたインテリア空間は、芸術作品との境が無くなったと考えられる¹⁹⁾。それは、若林の芸術作品に使用される素材(腐食した金属素材)が、杉本のインテリア空間の重要なデザイン要素となる仕上げ素材「金属材」となっていくことでも明解である。

杉本によれば、芸術家との協働作業を「積極的に作家の作品を素材化し、空間化することを試みている」²⁰⁾と表現して芸術家の作品を空間素材とデザイン要素としていることが分かる。さらに「芸術家協働作業」EX1 による商環境は芸術作品との境界が無くなったと考えられる。鈴木 (2015) も作品 P35『パシュ 札幌』について「積極的に作家の作品を素材化し、空間化することを試みている」²¹⁾と著述していることから、杉本が芸術家と協働することを自身のデザイン要素として取り入れしていると理解できる。

4. 1. 2 前期作品 分類された群の年代的位置付けとデザイン特性

クラスター分析の結果による分類について明確になった作品の竣工した年代と作品のデザイン特性の関係を検討するため、P-A 群から P-E 群での各群ごとに作品の竣工年次に対応する作品の分布を示す表 4-2 を作成した。

この表中で、各群ごとに着目し、竣工年代的にまとまっている作品を分かりやすくするために色分けした。すなわち P-A 群（橙色）、P-B 群（青色）、P-C1 群（黄色）、P-C2 群（赤色）、P-D 群（緑色）、P-E 群（紫色）とした。

各群の特性を見ていくと、はじめに、P-A 群は 1972 年から 1979 年、P-B I 群は 1979 年から 1983 年、P-B II 群は 1981 年、P-C I 群は 1978 年、P-C II 群は 1 作品の 1981 年と 1983 年、およびまとまった 1986 年と 1987 年、P-D 群は 1982 年から 1989 年の間であるが、分布中心は 1986 年から 1989 年ともみえる。最後の P-E 群は 1983 年から 1985 年である。

P-A 群では、図 4-1 の樹形図を詳しく見ると 2 つの小群が見られる。一つの小群の構成は 10 作品（作品 P1『ブティック ワイズ』、作品 P2『ラジオ』、作品 P3『コーヒーハウス コロ』、作品 P4『パブオレンジ』、作品 P5『ナルセフローリスト』、作品 P6『テフテフ』、作品 P7『ブティック ISSEY MIYAKE』、作品 P11『カフェフィガロ』、作品 P12『ストロベリー』、作品 P18『ナルセグローリスト ノブ』）中 9 作品が 1972 年から 1975 年の作品が占める。

作品 P1『ブティック ワイズ』は分類上最も端部に位置し、P-A 群の中でも特別な位置が現れたものと考えられる。デビュー作品らしく、過去のデザインに捕らわれない新しい実験的なデザイン要素が多く出現して、後年の作品に引き継がれている。

作品 P18『ナルセフローリスト ノブ』は、1979 年の作品であるが P-A 群の初期に多用された「格子割付」S1 使用の特性を備えているので、P-A 群に分類されたものと考えられる。他の小群（作品 P8『カワキチ 大阪支店』、作品 P9『ポスト』、作品 P11『カフェフィガロ』、作品 P13『キャッチャータカハシ 青山店』、作品 P14『マラソソクラブ』、作品 P16『コアフル石井』）では、P-A 群の後半にあたる 1974 年から 1978 年までにまとまっている。

P-B 群は、1979 年から 1983 年までにまとまっている作品群である。1981 年の作品が最も多い 7 作品（作品 P23『シルバーポット』、作品 P24『ショップスパイラル』、作品 P26『レディポテト』、作品 P27『モンジュ』、作品 P28『アイボリー』、作品 P29『司』、作品 P30『貝作』）である。表 4-2 に示されるようにデザイン要素が P-A 群の一部を継承しつ

つも、作品群として明確に区分され、時代の変化に沿った新しいデザインが生み出されたことが示されていると考えられる。

P-C 群は、P-C I 群と PC-II 群の二つの作品群に分けられる。

P-C I 群は作品 P15『ザ バイブレーション』、作品 P17『まる八』であり、直線、曲線を複合的に交差させる等に取り扱い、P-B 群のデザイン要素へと繋がる先駆的な試みで 1978 年に現れているものと考えられる。

P-C II 群は、1981 年から 1987 年と広く出現している。この年代でも新しいデザイン要素が出現しているが（表 4-2）、急激な変化ではなく比較的時間をかけて先駆的な特性を示す転換点となる作品群と捉えることができる。最多の作品は 1986 年に作品 P51『イーエム エイ』、作品 P52『ヒロコオム』、作品 P53『上野 ティーオー』、作品 P55『オールドニュー 六甲』の 4 作品がある。この作品群は年代を跨いでいるが、一つの特性を示している群と捉えることができる。

P-D 群は、1982 年から 1989 年までと比較的長い時間で作品が分布している。そして 1982 年から 1988 年までは、年代ごとに各 1 作品と分布している作品は、作品 32『テラス』、作品 P36『パシュ ラボ』、P45『EX』、作品 P49『セットオフ』であり、2 作品として分布するのは、1986 年の作品 P50『バセットウォーカー』、作品 P54『春&秋』と、1988 年の作品 P58『パッシ松山』、作品 P59『セラトレディングショールーム』である。

1989 年には 3 作品の作品 P60『オールドニュー』、作品 P61『セットオフノイ』、作品 P62『TOTO スーパースペース』となっている。

この P-D 群の作品は、それ以前の時代でデザインされた作品からの影響の下、さまざまなデザイン手法が考案されてデザイン要素が用いられ、多様な要素を取り入れた作品が反映された群と考えられる。

表 4-2 に示されるように、1982 年から 1989 年の 8 年間という幅広い年代に分布し、新しく出現したデザイン要素の利用を含め、デザイン手法として他の群とは違う過去のデザイン手法・デザイン要素を再利用して複合化することを含んだ作品として長い時間の中で展開されている。

P-D 群でも、時代としてはまとまっていないが 2 つの小群が見られ、その群の特性は天井仕上げのデザイン要素の違いが大きい要因として現れている。

P-E 群は、P-A 群、P-B 群、P-C II 群、P-D 群の前半作品と同様に 1980 年代バブル経済期の時期に集中し、1983 年から 1985 年に集中して現れる。

この P-E 群の作品が多様なデザイン要素の仕上げを用い、店舗機能をも既存の置き什器

ではなく杉本自身がデザイン化しているのは、バブル経済による贅沢な建設資金を使えるほどにインテリアデザインが商環境に重要な位置を占める時期であったからと考えられる。鈴木によれば(2013)戦後の高度成長期を経て経済がバブル経済期へ向かうに伴い、商環境ではインテリアデザインは商品と共に「売る、買う」、「飲食」、「時間を過ごす」ための重要な要因と位置付けられ、インテリアデザイナーの仕事の領域が飛躍的に拡大したこと、またデザイン（特にファッションデザイン）と芸術が一体になったインテリアデザインが時代の流行を牽引する存在²⁶⁾になっていたことが作品のデザイン要素分析からも示される。

作品の分類と年代的な位置付けの関係を探るために、表4-2で、群ごとに着目し、年代的なまとまりを検討する。

P-A群は1972年から1979年、P-B群は1979年から1983年、P-D群は1982年から1989年、P-E群は1983年から1985年であり、各群内で年代幅の中にまとまって、年を追い連続的に出現している。P-C群では、P-C I群1978年、P-C II群1981年から1987年までに間隔を空けながら出現している。

P-C群としてみると作品分布の時間は10年にわたっている。このような時間的な連続性・不連続性は以下のように推測される。作品の企画から設計そして竣工に至るまでに作品によって、企画や設計が比較的近似的な場合であっても時間的なズレが生じることも考えられる。長い期間で同じ群の作品が分布するのは、表4-2に示す通り、デザイン要素をある一定期間は用いることがあると共に、一度中断した使用を再利用して再開する、そして新しい手法の中でかつて使用した要素が適したものとして再評価し複合化されたためと考えられる。

これら各群の年代幅のまとまりを見ると、年代が重なりながら時代の流れに沿って作品の群が遷移している様子が示されている。年代がまとまった遷移として、P-A群→P-C I群→P-B群→P-E群→P-C II群→P-D群の時代的な流れが表4-2の「分類群ごとに竣工年次に対応作品の分布」から推察され、P-C II群とP-D群は比較的長い期間のなかで連続・中断・継続・復活してデザイン要素が複合的に用いられたと判断される。

これは、デザイン要素の使用・出現が年代とともに徐々に変化していることを示唆しているものである。もちろん変化の少ないデザイン要素もあると考えられるが、デザイナーとしての杉本が、空間創造の思想の推移とともに求められた空間の時代的变化や材料・技術の変化、経済状況も含めて、その時代に反映されたデザインを行なってきたものと推察される。

以上より、分類された前期作品群は、それぞれの特性を示すデザイン要素が各群にて使用され、相互に他群のデザインと区別されており、経済状況の変化に沿った時代的推移も含めて杉本作品の分類毎の特性を示すことができたと考えられる。

表4-2 分類群ごとの竣工年次に対応する作品の分布（著者作成）

年	群														
	P-A			P-B				P-C I	P-C II		P-D		P-E		
1972	1	2	3												
1973	4	5													
1974	6	7	8												
1975	9	10	11	12											
1976	13														
1977	14														
1978	16							15	17						
1979	18				19	20	21								
1980					22										
1981					23	24	25	27	28	29	30				
1982					31										
1983					39										
1984															
1985															
1986															
1987															
1988															
1989															

第2節 1990年～2018年までの後期作品（作品番号L1～L55）

4.2.1 分類された後期作品の特性

研究対象の1990年から2018年までの前期55作品について、『商店建築』から各作品のデータをまとめた一覧表の図2-1データシートから、「2.方法」の章で述べた「空間構成要素」「空間仕上要素」「空間設計要素」のデザイン要素を抽出し、デザイン要素を空間化して表現した一覧表を表2-1、表2-3、出現要素を表3-8としてまとめた。

その出現表を用いて、林の数量化Ⅲ類による分析を行った。クラスター分析の結果の樹形図として図3-4にて示した。

本研究の分析結果と考察の理解を深めるために、表4-2の情報を図3-2の樹形図と編集して図4-2にて示す。デザイン要素の出現結果から各群ごとに作品特性を考察する。

1) L-A 群の特性

L-A 群の作品は、1990年から2013年の長い時間にまたがる10作品（作品L1『徳寿 カンパリ店』、作品L2『春秋 赤坂』、作品L5『キササ』、作品L11『アクシア』、作品L25『響 丸の内店』、作品L29『旬房 六録 六本木』、作品L34『分とく山』、作品L38『MUJI 六本木』、作品L41『コレド室町』、作品L45『パークハイアット釜山ダイニング』）である。作品L5『キササ』と作品L29『旬房 六録 六本木』の例外があるが、1990年から1994年の作品群がL-A I群、2001年～2013年の作品群がL-A II群と二つのグループに分かれている。

表4-3-1にL-A群のデザイン要素出現表を示す。L-A I群の作品には前半に特徴的な「斜行線」S4、「交差線」P1、「浮遊壁」W2、「ルーバー壁面」R4が多用されている。作品の完成した1990年以前に計画された店舗であるためであると考えられる。代表作である作品L2『春秋 赤坂』には、空間仕上要素として、「古木材系壁面」WM9、「左官系壁面」WM11という和風を演出する伝統的仕上げ材が新しく出現する。

バブル経済崩壊直後の建設資金減少により、前期のデザイン手法であるデザイン要素を新しく考案して更新していく実験的な手法が封印され、以前に使われた空間構成要素を再利用して「編集」する手法を模索していた時期と判断できる。鈴木（2013）が「杉本はもの派であったが、この作品（L2『春秋 赤坂』）はデザインしないという姿勢に変わった転換期である」²⁷⁾との指摘とも一致している。

L-A II群の後半作品では、高価な建築資材である「並列型装飾壁」R6、「自然石材系壁面」WM11、「ガラス系壁面」WM12が出現していることは、バブル崩壊の混乱からの回復傾向が反映されたと推察される。この群の特徴的作品である作品L38『MUJI 六本木』は、景気回復に伴う商品の多種化による「無印良品」が大型化した物販店であり、「デザイン」よりも「売る」、「管理」の機能を重視した店舗づくりを模索し始めた作品であると考えられる。杉本の「基本的な構成はそれまでのデザインに倣いつつ、ギャラリー的な見せ方でない売り方のシステムを作ろうとした」²⁸⁾からも判断できる。

L-A I群、L-A II群で共通しているデザイン要素は、天井は「水平天井」L1、「石膏ボード天井」CM3の既存仕上げの上に「天井付帯照明」IL4だけでデザインされていることである。これは、杉本のスタッフであった飯島^{注8)}が「デザインの恣意を空間に入れたい。そこに出現する瞬間の現象があれば良かった」²⁹⁾と、バブル経済崩壊後の「恣意的なデザインを避ける」^{注9)}杉本のインテリアデザイン手法を解説していることと一致する。

5) L-E群の特性

L-E群は、2008年から2017年までの比較的幅の広い期間にデザインされた作品群の7作品（作品L39『MUJI 新宿』、作品L42『カフェ&ミール南青山』、作品L43『MIJIテラスモール湘南店』、作品L47『ライトオンMOZOワンダーシティ店』、作品L49『MUJI 上海』、作品L51『無印良品シンガポール』、作品L52『ライトオン調布』）である。

業態は、作品L42『カフェ&ミール南青山』、作品L43『MIJIテラスモール湘南店』の複合物販店を除き、全て大型物販店である。

表4-3-5にL-E群のデザイン要素出現表を示す。「格子割付」S1、「石膏ボード壁面」WM7、「独立型吊天井照明」IL5が特徴的デザイン要素である。

作品L39『MUJI新宿』、作品L51『無印良品シンガポール』、作品L43『MUJIテラスモール湘南店』、作品L47『ライトオンMOZOワンダーシティ』は、景気回復に伴う商品の多様化による大型化した物販店であり、「デザイン」よりも「売る」、「管理」の機能を重視した店舗づくりを模索し始めた時期の作品であると考えられる。杉本の「基本的な構成はそれまでのデザインに倣いつつ、ギャラリー的な見せ方でない売り方のシステムを作ろうとした。」⁴⁰⁾の説明から判断できる。

デザイン要素では、「格子割付」S1、「並列型装飾壁面」R6、「石膏ボード壁面」WM7、「独立型デザイン什器」FN2が特徴的デザイン要素であり、1970年代前半で多用された「平行線」S3による「格子割付」S1が復活して出現している。

平面計画においては、直線によって空間を大きく分けし、「複合図形」P2によって多種の商品が平面毎に細分化されて配置されている。これは、大空間内で多種商品を効率的に展示するためのデザイン手法と考えられる。

平面の仕上げにおいては、「石材系床」FM4が1作品に出現する以外は、床は「木材系床」FM1仕上げである。

壁は、「並列型装飾壁」R6、「石膏ボード壁面」WM8に「既成木材系壁面」WM1、「古木材系壁面」WM9によって共通に仕上げられていることは、同一ブランド「無印良品」、「ライトオン」によるものと考えられる。

L-E群の「並列型装飾壁」R6では、壁面装飾として「役割を終えた既製品（廃棄物）」を並べるのではなく、「商品」の陳列と装飾を同時に扱うデザイン要素に進化したと解釈できる。空間に独立して置かれる「独立デザイン型什器」FN2、「機能独立型什器」FN4の利用は、壁の少ない大型物販店への対応と考えられる。

照明設備に「独立型吊り天井照明（シャンデリア）」IL5が、作品L42『カフェ&ミール

10) L-J群の特性

L-J群は、1993年の作品L8『デポ 上野』の1作品である。表4-3-10にL-J群のデザイン要素出現表を示す。業態は「バー」であり、デザイン要素の総数は16と他群に比べて極端に少なく、他群では出現頻度の低い「金属系床」FM2、「スケルトン壁面」WM10が使われて、他群とは類似性が低い。ただし、前期の「バー」⁴⁵⁾において「金属系床」FM2の利用頻度の高さとの共通点が特性と考えられる。バブル経済崩壊後の建設予算の影響と特徴的なデザイン要素使用により、要素数が少なくなり他群と分けられたと考えられる。

表4-3-10 L-J群の対象作品のデザイン要素の出現表（著者作成）

デザイン要素	要素種別	目録 要素記号	作品名	業態	空間構成要素																												性質	計数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
					空間構成要素														空間仕上要素																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
					床	壁	天井	柱	仕	床	天井	柱	仕	床	壁	天井	柱	仕	床	壁	天井	柱	仕	床	壁	天井	柱	仕	床	壁	天井	柱			仕																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
L8	1993	デポ 上野	224	A	S1	S3	S4	C1	C2	P1	P2	P3	F1	F2	W1	W2	L1	L2	L3	L4	R1	R2	R3	R4	R5	FM1	FM2	FM3	FM4	FM5	FM6	FM7	FM8	FM9	FM10	WM1	WM2	WM3	WM4	WM5	WM6	WM7	WM8	WM9	WM10	WM11	WM12	WM13	WM14	WM15	WM16	WM17	WM18	WM19	WM20	WM21	WM22	WM23	WM24	WM25	WM26	WM27	WM28	WM29	WM30	WM31	WM32	WM33	WM34	WM35	WM36	WM37	WM38	WM39	WM40	WM41	WM42	WM43	WM44	WM45	WM46	WM47	WM48	WM49	WM50	WM51	WM52	WM53	WM54	WM55	WM56	WM57	WM58	WM59	WM60	WM61	WM62	WM63	WM64	WM65	WM66	WM67	WM68	WM69	WM70	WM71	WM72	WM73	WM74	WM75	WM76	WM77	WM78	WM79	WM80	WM81	WM82	WM83	WM84	WM85	WM86	WM87	WM88	WM89	WM90	WM91	WM92	WM93	WM94	WM95	WM96	WM97	WM98	WM99	WM100	WM101	WM102	WM103	WM104	WM105	WM106	WM107	WM108	WM109	WM110	WM111	WM112	WM113	WM114	WM115	WM116	WM117	WM118	WM119	WM120	WM121	WM122	WM123	WM124	WM125	WM126	WM127	WM128	WM129	WM130	WM131	WM132	WM133	WM134	WM135	WM136	WM137	WM138	WM139	WM140	WM141	WM142	WM143	WM144	WM145	WM146	WM147	WM148	WM149	WM150	WM151	WM152	WM153	WM154	WM155	WM156	WM157	WM158	WM159	WM160	WM161	WM162	WM163	WM164	WM165	WM166	WM167	WM168	WM169	WM170	WM171	WM172	WM173	WM174	WM175	WM176	WM177	WM178	WM179	WM180	WM181	WM182	WM183	WM184	WM185	WM186	WM187	WM188	WM189	WM190	WM191	WM192	WM193	WM194	WM195	WM196	WM197	WM198	WM199	WM200	WM201	WM202	WM203	WM204	WM205	WM206	WM207	WM208	WM209	WM210	WM211	WM212	WM213	WM214	WM215	WM216	WM217	WM218	WM219	WM220	WM221	WM222	WM223	WM224	WM225	WM226	WM227	WM228	WM229	WM230	WM231	WM232	WM233	WM234	WM235	WM236	WM237	WM238	WM239	WM240	WM241	WM242	WM243	WM244	WM245	WM246	WM247	WM248	WM249	WM250	WM251	WM252	WM253	WM254	WM255	WM256	WM257	WM258	WM259	WM260	WM261	WM262	WM263	WM264	WM265	WM266	WM267	WM268	WM269	WM270	WM271	WM272	WM273	WM274	WM275	WM276	WM277	WM278	WM279	WM280	WM281	WM282	WM283	WM284	WM285	WM286	WM287	WM288	WM289	WM290	WM291	WM292	WM293	WM294	WM295	WM296	WM297	WM298	WM299	WM300	WM301	WM302	WM303	WM304	WM305	WM306	WM307	WM308	WM309	WM310	WM311	WM312	WM313	WM314	WM315	WM316	WM317	WM318	WM319	WM320	WM321	WM322	WM323	WM324	WM325	WM326	WM327	WM328	WM329	WM330	WM331	WM332	WM333	WM334	WM335	WM336	WM337	WM338	WM339	WM340	WM341	WM342	WM343	WM344	WM345	WM346	WM347	WM348	WM349	WM350	WM351	WM352	WM353	WM354	WM355	WM356	WM357	WM358	WM359	WM360	WM361	WM362	WM363	WM364	WM365	WM366	WM367	WM368	WM369	WM370	WM371	WM372	WM373	WM374	WM375	WM376	WM377	WM378	WM379	WM380	WM381	WM382	WM383	WM384	WM385	WM386	WM387	WM388	WM389	WM390	WM391	WM392	WM393	WM394	WM395	WM396	WM397	WM398	WM399	WM400	WM401	WM402	WM403	WM404	WM405	WM406	WM407	WM408	WM409	WM410	WM411	WM412	WM413	WM414	WM415	WM416	WM417	WM418	WM419	WM420	WM421	WM422	WM423	WM424	WM425	WM426	WM427	WM428	WM429	WM430	WM431	WM432	WM433	WM434	WM435	WM436	WM437	WM438	WM439	WM440	WM441	WM442	WM443	WM444	WM445	WM446	WM447	WM448	WM449	WM450	WM451	WM452	WM453	WM454	WM455	WM456	WM457	WM458	WM459	WM460	WM461	WM462	WM463	WM464	WM465	WM466	WM467	WM468	WM469	WM470	WM471	WM472	WM473	WM474	WM475	WM476	WM477	WM478	WM479	WM480	WM481	WM482	WM483	WM484	WM485	WM486	WM487	WM488	WM489	WM490	WM491	WM492	WM493	WM494	WM495	WM496	WM497	WM498	WM499	WM500	WM501	WM502	WM503	WM504	WM505	WM506	WM507	WM508	WM509	WM510	WM511	WM512	WM513	WM514	WM515	WM516	WM517	WM518	WM519	WM520	WM521	WM522	WM523	WM524	WM525	WM526	WM527	WM528	WM529	WM530	WM531	WM532	WM533	WM534	WM535	WM536	WM537	WM538	WM539	WM540	WM541	WM542	WM543	WM544	WM545	WM546	WM547	WM548	WM549	WM550	WM551	WM552	WM553	WM554	WM555	WM556	WM557	WM558	WM559	WM560	WM561	WM562	WM563	WM564	WM565	WM566	WM567	WM568	WM569	WM570	WM571	WM572	WM573	WM574	WM575	WM576	WM577	WM578	WM579	WM580	WM581	WM582	WM583	WM584	WM585	WM586	WM587	WM588	WM589	WM590	WM591	WM592	WM593	WM594	WM595	WM596	WM597	WM598	WM599	WM600	WM601	WM602	WM603	WM604	WM605	WM606	WM607	WM608	WM609	WM610	WM611	WM612	WM613	WM614	WM615	WM616	WM617	WM618	WM619	WM620	WM621	WM622	WM623	WM624	WM625	WM626	WM627	WM628	WM629	WM630	WM631	WM632	WM633	WM634	WM635	WM636	WM637	WM638	WM639	WM640	WM641	WM642	WM643	WM644	WM645	WM646	WM647	WM648	WM649	WM650	WM651	WM652	WM653	WM654	WM655	WM656	WM657	WM658	WM659	WM660	WM661	WM662	WM663	WM664	WM665	WM666	WM667	WM668	WM669	WM670	WM671	WM672	WM673	WM674	WM675	WM676	WM677	WM678	WM679	WM680	WM681	WM682	WM683	WM684	WM685	WM686	WM687	WM688	WM689	WM690	WM691	WM692	WM693	WM694	WM695	WM696	WM697	WM698	WM699	WM700	WM701	WM702	WM703	WM704	WM705	WM706	WM707	WM708	WM709	WM710	WM711	WM712	WM713	WM714	WM715	WM716	WM717	WM718	WM719	WM720	WM721	WM722	WM723	WM724	WM725	WM726	WM727	WM728	WM729	WM730	WM731	WM732	WM733	WM734	WM735	WM736	WM737	WM738	WM739	WM740	WM741	WM742	WM743	WM744	WM745	WM746	WM747	WM748	WM749	WM750	WM751	WM752	WM753	WM754	WM755	WM756	WM757	WM758	WM759	WM760	WM761	WM762	WM763	WM764	WM765	WM766	WM767	WM768	WM769	WM770	WM771	WM772	WM773	WM774	WM775	WM776	WM777	WM778	WM779	WM780	WM781	WM782	WM783	WM784	WM785	WM786	WM787	WM788	WM789	WM790	WM791	WM792	WM793	WM794	WM795	WM796	WM797	WM798	WM799	WM800	WM801	WM802	WM803	WM804	WM805	WM806	WM807	WM808	WM809	WM810	WM811	WM812	WM813	WM814	WM815	WM816	WM817	WM818	WM819	WM820	WM821	WM822	WM823	WM824	WM825	WM826	WM827	WM828	WM829	WM830	WM831	WM832	WM833	WM834	WM835	WM836	WM837	WM838	WM839	WM840	WM841	WM842	WM843	WM844	WM845	WM846	WM847	WM848	WM849	WM850	WM851	WM852	WM853	WM854	WM855	WM856	WM857	WM858	WM859	WM860	WM861	WM862	WM863	WM864	WM865	WM866	WM867	WM868	WM869	WM870	WM871	WM872	WM873	WM874	WM875	WM876	WM877	WM878	WM879	WM880	WM881	WM882	WM883	WM884	WM885	WM886	WM887	WM888	WM889	WM890	WM891	WM892	WM893	WM894	WM895	WM896	WM897	WM898	WM899	WM900	WM901	WM902	WM903	WM904	WM905	WM906	WM907	WM908	WM909	WM910	WM911	WM912	WM913	WM914	WM915	WM916	WM917	WM918	WM919	WM920	WM921	WM922	WM923	WM924	WM925	WM926	WM927	WM928	WM929	WM930	WM931	WM932	WM933	WM934	WM935	WM936	WM937	WM938	WM939	WM940	WM941	WM942	WM943	WM944	WM945	WM946	WM947	WM948	WM949	WM950	WM951	WM952	WM953	WM954	WM955	WM956	WM957	WM958	WM959	WM960	WM961	WM962	WM963	WM964	WM965	WM966	WM967	WM968	WM969	WM970	WM971	WM972	WM973	WM974	WM975	WM976	WM977	WM978	WM979	WM980	WM981	WM982	WM983	WM984	WM985	WM986	WM987	WM988	WM989	WM990	WM991	WM992	WM993	WM994	WM995	WM996	WM997	WM998	WM999	WM1000	WM1001	WM1002	WM1003	WM1004	WM1005	WM1006	WM1007	WM1008	WM1009	WM1010	WM1011	WM1012	WM1013	WM1014	WM1015	WM1016	WM1017	WM1018	WM1019	WM1020	WM1021	WM1022	WM1023	WM1024	WM1025	WM1026	WM1027	WM1028	WM1029	WM1030	WM1031	WM1032	WM1033	WM1034	WM1035	WM1036	WM1037	WM1038	WM1039	WM1040	WM1041	WM1042	WM1043	WM1044	WM1045	WM1046	WM1047	WM1048	WM1049	WM1050	WM1051	WM1052	WM1053	WM1054	WM1055	WM1056	WM1057	WM1058	WM1059	WM1060	WM1061	WM1062	WM1063	WM1064	WM1065	WM1066	WM1067	WM1068	WM1069	WM1070	WM1071	WM1072	WM1073	WM1074	WM1075	WM1076	WM1077	WM1078	WM1079	WM1080	WM1081	WM1082	WM1083	WM1084	WM1085	WM1086	WM1087	WM1088	WM1089	WM1090	WM1091	WM1092	WM1093	WM1094	WM1095	WM1096	WM1097	WM1098	WM1099	WM1100	WM1101	WM1102	WM1103	WM1104	WM1105	WM1106	WM1107	WM1108	WM1109	WM1110	WM1111	WM1112	WM1113	WM1114	WM1115	WM1116	WM1117	WM1118	WM1119	WM1120	WM1121	WM1122	WM1123	WM1124	WM1125	WM1126	WM1127	WM1128	WM1129	WM1130	WM1131	WM1132	WM1133	WM1134	WM1135	WM1136	WM1137	WM1138	WM1139	WM1140	WM1141	WM1142	WM1143	WM1144	WM1145	WM1146	WM1147	WM1148	WM1149	WM1150	WM1151	WM1152	WM1153	WM1154	WM1155	WM1156	WM1157	WM1158	WM1159	WM1160	WM1161	WM1162	WM1163	WM1164	WM1165	WM1166	WM1167	WM1168	WM1169	WM1170	WM1171	WM1172	WM1173	WM1174	WM1175	WM1176	WM1177	WM1178	WM1179	WM1180	WM1181	WM1182	WM1183	WM1184	WM1185	WM1186	WM1187	WM1188	WM1189	WM1190	WM1191	WM1192	WM1193	WM1194	WM1195	WM1196	WM1197	WM1198	WM1199	WM1200	WM1201	WM1202	WM1203	WM1204	WM1205	WM1206	WM1207	WM1208	WM1209	WM1210	WM1211	WM1212	WM1213	WM1214	WM1215	WM1216	WM1217	WM1218	WM1219	WM1220	WM1221	WM1222	WM1223	WM1224	WM1225	WM1226	WM1227	WM1228	WM1229	WM1230	WM1231	WM1232	WM1233	WM1234	WM1235	WM1236	WM1237	WM1238	WM1239	WM1240	WM1241	WM1242	WM1243	WM1244	WM1245	WM1246	WM1247	WM1248	WM1249	WM1250	WM1251	WM1252	WM1253	WM1254	WM1255	WM1256	WM1257	WM

4. 2. 2 後期作品 分類された群の年代的位置付けとデザイン特性

クラスター分析の結果による分類について、年代とデザイン特性、業態の関係を検討するために、群ごとに竣工年次に対応する作品の分布を示す表4-4を作成し、店舗の業態と年代的推移を合わせて特性を分析した。

その結果、クラスター分析によるL-A群、L-C群およびL-I群と1作品のL-D群を除くと、「飲食店」または「物販店」に大きく分けられた作品群となっている。

さらに飲食店を、「和食飲食店」、「ホテルダイニング」に大別すると、それぞれのまともが見出される。業態が「和食飲食店」のL-G群及びL-H群と、「飲食店」、「ホテルダイニング」のL-B群とL-F群とまとめられる。「和食飲食店」の作品の推移をまとめると表4-5-1となり、年代の推移とともに作品群がL-A群→L-G群→L-H群→L-I群→L-B群と推移している。一部の「飲食店」を含む「ホテルダイニング」の作品の推移をまとめると表4-5-2となり、年代の推移とともに作品群がL-A群→L-G群→L-I群・L-B群→L-F群→L-C群と推移している。「物販店」についても同様に表4-5-3に示されるようにL-I群→L-A群→L-E群→L-C群と推移している。

どの作品群にも含まれるL-A群では、1990年から2010年までの幅広い年代の作品群で、業態は「バー」、「飲食店」、「和食飲食店」、「ホテルダイニング」、「物販店」、「その他（商業ビル）」と、同じ群内で多種の業態が含まれ、年代ごとに広く分布している。

上述の「飲食店」、「物販店」以外の業態である作品L4『TOTO 陶器ショールーム』はL-D群、作品L8『デポ 上野』はL-I群と独立した単独の群となっており、その特徴・固有性が現れていると考えられる。デザイン要素の出現が変化していることに各業態が対応しており、時代に応じて業態への適応を見据えてデザインされた結果であると考えられる。

以上を総合的に考えると、作品ごとに、その年代に求められる業態、施主の意向、そしてデザイナーの考える表現が変化していることに対応していることが示されていると考えられる。バブル経済崩壊による1990年からの社会状況が変化したこと、インテリアデザイナーの近藤^{注13)}は「90年頃を境に、施主、デザイン事務所、施工者、全てが組織化していき、組織同士のビジネスライクな関係性に代わり、施主とデザイナーの関係が逆転し、デザイナーにオリジナリティが求められなくなってきた。」⁴⁶⁾と説明している。

デザイン作業におけるインテリア要素の組み合わせ利用・取捨選択が行われ、各作品に出現していることが示されていると判断される。これは、4.1デザイン要素の考察でも示した通り、前期に杉本が行っていたデザインの「編集」に他ならないと考えられる⁴⁷⁾。

後期に現れた唯一の新しい空間構成要素である「並列型装飾壁 R6 は、大店舗空間への

適用のためと考えられる。1995年作品 L12『燦大阪』に初めて出現するが、本格的な利用は L-B 群の大店舗空間である 1998年の作品 L16『メザニン』からと考えられる。L-E 群、L-F 群、L-C 群では 75%以上で用いられているが、L-B 群においても 60%以上で利用され、L-A 群では 2001 年以降に出現している。

大空間を区画し、「商品」の陳列、装飾と兼ねて大空間を取りまとめる「恣意的にデザインを避ける」設計手法として取り入れられたと推察される。杉本の言う「人が人為的につくったものを捨てる、恣意を捨てたいという思いがずっとある。恣意が見えるデザインはつまらない。」⁴⁸⁾の実践である。

1990 年以降、経済状況に合わせた業態ごとに求められる機能に従った空間性を創造するにあたり、前期に確立した「編集」手法を継続したことは、「編集」手法を利用しつつも、「デザイナーの恣意」に陥らないように改善を図りながら実践していたと考えられる。その根拠としては、作品分類が年代とともに業態ごとに異なるものとして変化し、デザイン要素の利用状況の変化として裏付けられていると考えられる。

特に、2000 年以降の大型化した商環境のデザインが、前期の空間構成要素を基本に構成され、唯一の新しい要素である「並列型装飾壁」R6 を頻度高く利用して空間を「編集」することは後期の顕著な特性といえる

表4-4 各クラスター作品の年代推移（著者作成）

クラスター群	L-A	L-D	L-J	L-G	L-H	L-I	L-B	L-E	L-F	L-C
年 推 移	1990	1 2		3						
	1991	5	4							
	1992				6 7					
	1993			8						
	1994	11			10	9				
	1995					12				
	1996					13				
	1997				14	15				
	1998				17			16		
	1999					18 19				
	2000					22	20 21			
	2001	25					24 26	23		
	2002						28 27			
	2003	29					31	30 32		
	2004	34						33		
	2005						35			
	2006							36		
	2007	38						37		
	2008								39	
	2009							40		
2010	41									
2011								42 43		
2012									44	
2013	45									
2014									46	
2015								47	48	
2016								49		
2017								51 52	50 53	
2018										54 55

正体グレー地：和食業態 斜体：ホテルダイニング アンダーライン：物販業態 正体：その他
番号は作品Noを示す。

表4-5 和食飲食店・ホテルダイニング・物販店の業態を持つ作品の年代推移

(著者作成)

表4-5-1

(1)和食飲食店						
作品群	L-A	L-G	L-H	L-I	L-B	
1990	1	2	3			
1991						
1992			6			
1993						
1994			10			
1995				12		
1996				13		
1997				15		
1998			17			
1999				18	19	
2000				22		21
2001						
2002						27
2003	29					
2004	34					
2005						35
2006						
2007						
2008						
2009						40
2010						
2011						
2012						
2013						
2014						
2015						
2016						
2017						
2018						

表4-5-2

(2) ホテルダイニング						
作品群	L-A	L-G	L-I	L-B	L-F	L-C
1990						
1991	5					
1992		7				
1993						
1994						
1995						
1996						
1997		14				
1998				16		
1999						
2000						
2001	25		24	23		
2002			28			
2003			31	30	32	
2004				33		
2005						
2006				36		
2007				37		
2008						
2009						
2010						
2011						
2012					44	
2013	45					
2014					46	
2015					48	
2016						
2017					50	53
2018						55

表4-5-3

(3) 物販店				
作品群	L-I	L-A	L-E	L-C
1990				
1991				
1992				
1993				
1994				
1995				
1996				
1997				
1998				
1999				
2000	20			
2001	26			
2002				
2003				
2004				
2005				
2006				
2007		38		
2008			39	
2009				
2010				
2011			42	43
2012				
2013				
2014				
2015			47	
2016			49	
2017			51	52
2018				54

第3節 1989年バブル経済崩壊前後の前期、後期作品の比較検討

4.3.1 バブル経済崩壊前後の前期、後期作品の比較と位置付け

前節までに日本のバブル経済が崩壊する1989年以前に発表された1972年から1989年までの前期作品(P1~P62)と、バブル経済崩壊後の1990年から杉本の晩年である2018年までの後期作品(L1~L55)の作品データからデザイン要素を抽出し、前期と後期に分けて分類された群ごとに分析した結果を考察した。その結果の考察から前期と、後期と比較検討する。

4.3.2 各作品ごとのデザイン要素数による時代的比較

作品に出現するデザイン要素の総数は作品の比較には重要なデータと考え、前期の作品と後期の作品を比較し、その相違を各作品に出現するデザイン要素数について比較検討する。杉本により1972年から2018年までデザインされた竣工年毎の各作品に用いられたデザイン要素数の平均値を図4-3に示す。

各作品に出現するデザイン要素数は、前期作品では平均要素数は11.2(標準偏差3.42)で比較的安定した時代的推移を示す。バブル経済崩壊後の1990年以降の後期作品のデザイン要素数が18.0(標準偏差3.80)と飛躍的に増加していることで大きな相違がみられた。

前期と後期の差についてT検定を行ったところ1%の有意水準で有意差が認められ、バブル経済崩壊を境に前後でデザイン要素の使用数が変化したことが示された。

1989年までの前期作品のデザイン要素数は、後期に比べて少ないが平均した状態で安定している。これは、前期の商環境デザイン作品の多くが、物販店は単一ブランドの「ブティック」、「ショールーム」、飲食店は小規模な「飲食専門店」、「カフェ」、「バー」等であり、比較的小規模の店舗が多いため、一つのデザインコンセプトだけでデザインしたためにデザイン要素数が少ないことで完結したと考えられる。

そのため前期は、日本の経済発展期であり、商業施設のクライアントが他の施設との差異を求め、店舗のデザインをインテリアデザイナーに依頼し、インテリアデザイナーの強いデザインコンセプトによって商環境がデザインされたと考えられる。インテリアデザイナーデザイナーは機能等を見捨ててもデザインコンセプトを優先させたために、機能等のデザイン要素が省略されて要素数は少なくなっていたと考えられる。

杉本は、インテリアデザイナーとしてデビューし、自らのデザイナーとしての地位確保のためにデビューから10年程は「恣意的なデザイン」を優先させていたことは考察にて示した。その結果、杉本、内田等の「第三世代」の活躍がインテリアデザイン界を先導し、

インテリアデザイナーの職能の確立や商環境デザインの領域を拓げたことに貢献した。

バブル経済崩壊直後の1990年から景気回復時の2000年までの景気後退による経済状況が不安定な10年間の作品では、デザイン要素数の変動が大きいことが特徴である。この10年間という短い時間のサイクルでの要素数の変動はL-A I群、L-G群、L-H群の作品にみられる。バブル経済崩壊前の前期作品では、空間を構成する新しい「空間構成要素」を時代に合わせて次々と実験的に出現させていたが、バブル経済崩壊を境に、建設資金の縮小が要因となり杉本の独自の表現である「恣意的なデザイン」から離れるデザイン手法が実験的に模索された時期の変動と考えられる。

景気が回復した2000年からの作品の要素数は増加した状態で安定している。1998年の作品L16『メザニン』で初めての大空間作品を手がけ、商業的な大成功をもたらしたことにより、物販店、飲食店ともに大空間の商環境作品をデザインするようになったことが考えられる。このバブル経済崩壊後の低迷期を経て経済が回復してからの2000年以降の作品は、大空間を店舗として成立させるためのデザイン手法が求められ、前期作品にみられた常に新規のデザイン要素を出現させる「編集」手法に代わり、既存の「空間構成要素」、「空間設計要素」を「編集」し、広い面積の床面や壁面への新しい「空間仕上要素」の組み合わせによって「編集」するデザイン手法を考案したことは、後期作品に、「空間仕上要素」に新しいデザイン要素が多く出現していることで示されている。

また、バブル経済崩壊後はDCブランド^{注15)}が衰退し、大量で安価な商品をマーケティングに基づいて店舗機能が決められ、同一の店舗デザインで多店舗展開するファストファッション^{注16)}の繁栄も要因としてあげられる。杉本が2007年の作品L38『MUJI 六本木』について「1号店以来の『無印良品』の延長であると同時に、新しい『無印良品』の新ブランド展開である。もう一度原点に戻るということから考えた。」⁴⁹⁾と、当初の店舗コンセプトからバブル経済崩壊を契機に、同じブランドの「無印良品」から大型店舗の「MUJI」へと運営から変革したと説明していることから推測できる。

バブル経済崩壊前の前期作品では、前半はデビューからの「恣意的なデザイン」によって作品ごとに「空間構成要素」を更新していったために、デザイン要素数は安定していた。

前期の後半でも、芸術家との協働作業によるデザイン手法が主になることによって、デザイン要素数は安定していた。

バブル経済崩壊後の1990年から2000年までの10年間は「恣意的なデザイン」から離れるためと、崩壊前のデザイン手法との混迷期であり、デザイン要素数は変動が大きい。

バブル経済崩壊後の経済が安定した2000年前後にデザインされた商環境作品は、飲食店

では 1998 年作品 L16『メザニン』、物販店であり複合店の作品 L20『無印良品&カフェムジ 青葉台店』であり、両業態ともに大型化し、大空間を店舗として成立させるためにデザイン要素数が増加したと推測できる。

次に用いられたデザイン要素の内容について検討する。表 4-6 に、前期と後期作品群の作品で、1 作品の L-D 群と L-J 群を除き、年代推移に対応する P-A 群から L-H 群までの 13 の作品群を並べた場合、分類の中で 75%以上用いられたデザイン要素の内容を示す。

1 つでも現れた要素数は 38 あり、前期と後期の群の全てに出現している要素は「平行線」S3 である。後期では「水平床」F2、「木材系床」FM1 が全てに出現している。

各群に多く出現する要素としては、前期で 3 つの群に出現する要素は「平行直線」S2、「石材系材」FM4 であり、後期で 5 以上の群に出現する要素は「水平天井」L1、「交差線」P1、「既成木材系壁面」WM1 が出現している。後期の「水平天井」L1 は後期の L-E 群以外に出現しているが、前期では P-A 群だけに出現している。

要素の合計数が 4 要素の分類作品群は後期の 1 件で、3 要素は前期は 2 件、後期は 3 件に出現している。2 要素は前期で 3 件、後期で 9 件出現している、1 要素は、前期で 13 件、後期で 14 件である。出現件数が 0 要素は、前期で 19 件、後期で 5 件となっている。

3 要素以上の場合、前期では「平行直線」S2、「石材系床」FM2 が同じ年代の群に出現し、後期では「石材系床」FM4、「左官系壁面」WM11 を除きほぼ連続した年代の群に出現している。

2 要素の場合は、前期では 3 要素と同じく同じ年代の群に出現し、後期では連続あるいは一つおきに出現している。1 要素の場合と合わせて考えると、これら要素は作品群固有の特性を示すものとなっていると考えられる。

前期における 75%以上の要素数の要素が出現する群が少ないこと、連続して出現しないことは、前期はデザイン要素を年代、作品ごとに新しい要素を更新していくデザイン手法が行われていたと考えられる。

前期では前半に更新されながら出現していた要素で要素数 5 以上の「平行線」S3、「水平床」F2、「木材系床」FM1、「水平天井」L1、「交差線」P1、「既成木材系壁面」WM1 は、後期の基本的なデザイン要素であると考えられる。その要素はデザイン構築の基本として採用され、要素数 3 以下の要素をその年代、業態、施主の要望、商環境の機能などから個別の作品を表現するものとして繰返されて使われるもの、ある時点で特徴的に使われるものが出てきている結果であると推察される。これは、社会状況の反映として、「編集」作業によるデザインが行われていることの表れと考えられる。

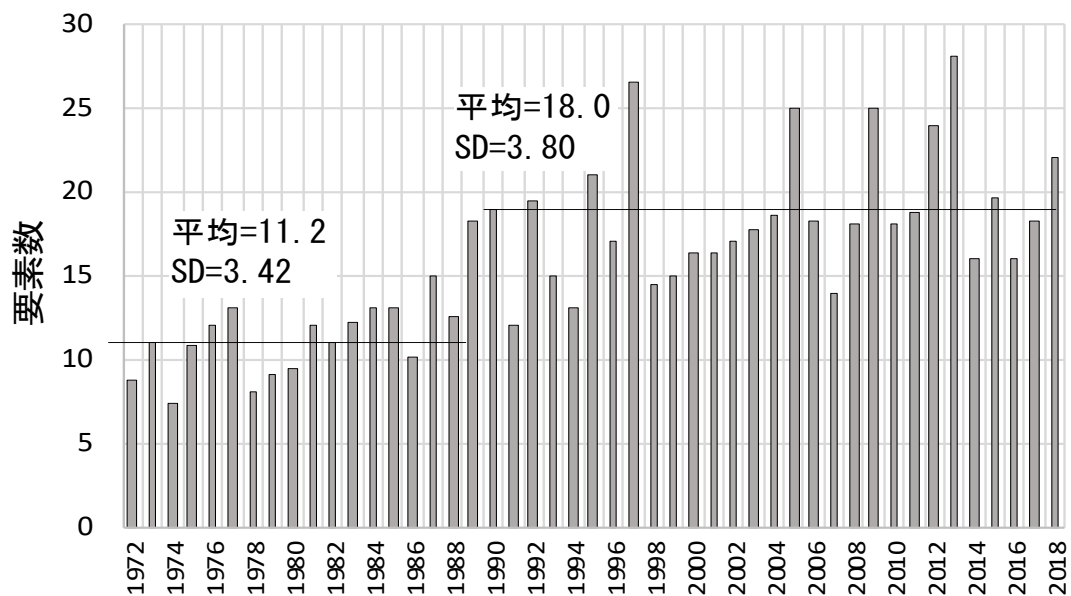


図4-3 各作品に用いられたデザイン要素数の年次推移 (著者作成)

表4-6 前期(1989年以前)と後期(1990年以降)の分類作品群内で75%以上出現する要素 (著者作成)

表示記号	S3	F2	FM1	L1	P1	WM1	FM4	WM11	EQ1	R6	IL4	CM3	CM4	W1	FN2	FN1	IL2	P2	EX1	IL3	FN4	L4	R1	R5	CM1	L3	FM3	IL5	WM2	P3	WM6	WM4	L2	FM6	S1	WM7	WM8	WM9					
分類作品群	平行線	水平床	木材系床	水平面天井	交差線	既成木材系壁面	石材系床	左官系壁面	設備露出天井	並列型装飾壁	天井付帯照明	石膏ボード天井	スケルトン天井	自立壁	独立型デザイン什器	壁面一体什器	壁間接照明	複合図形	芸術家協働作業	壁付帯照明	機能独立型什器	隠込み天井	格子壁面	装飾壁面	ルーバー天井	吊天井	T/C系床	独立型吊天井照明	金属系壁面	多重図形	複合材壁面	既成石材系壁面	曲面天井	複合材床	格子割付	石膏ボード壁面	スケルトン壁面	古木材系壁面					
P-A	◎	◎		◎		◎				◎	◎																									◎	◎						
P-B	◎	◎				◎					◎													◎																◎			
P-C	◎	◎				◎			◎				◎												◎																	◎	
P-E		◎	◎			◎								◎																												◎	
P-D		◎	◎			◎													◎																							◎	
計	3	5	2	1	0	1	3	0	1	0	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	1	1	1			
L-A	◎	◎	◎	◎							◎	◎																															
L-G	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																																			
L-H	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎																														
L-I	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						◎	◎						◎	◎																					
L-B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎												◎	◎	◎																
L-E	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎				◎	◎																												
L-F	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎						◎	◎							◎	◎	◎															
L-C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎						◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
計	8	8	8	7	5	5	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0			

◎ : >= 75%

4. 3. 3 前期作品と後期作品の比較と相違点

図4-4に、年次日経平均株価に、前期と後期の作品群の出現時期を付記した図を示す。

1970年代から1989年バブル経済崩壊前の前期作品では、年代的には作品を更新していく順で年代が更新されていった。分類されたP-A群からP-D群までは、P-E群が1983年から1985年と短い時間でP-D群と重なることはあるが、概ね年代が重なりながら作品の群が遷移している様子が示されている。

1990年以降、数回の株価暴落があり経済的な低迷の時期が現れるが、バブル経済崩壊後の時期と重なるL-G群、リーマンショックに重なるL-E群では実際の作品が空白となり連動している。

2012年の株価上昇に伴い、L-F群とともに、L-E群の作品も再び出現しはじめた。上述のように大空間のホテルダイニングや物販店などの作品が依頼されたと考えられるが、デザイン要素から見る限り、合理的な手法が取られていることが示されている。

前期と後期の関係を分析するために表4-6に前期の作品群が年代推移に対応するように5つの作品群の中で75%以上用いられたデザイン要素の内容を示す。ここでは、「水平床」FM2のみが全体で出現している。「平行線」S3、「石材系床」FM4、「木材系床」FM1、「複合材床」FM6は、年代的に連続した作品群に出現している。1つの作品群のみに出現する要素が多く存在し、作品群の特色を如実に示していると考えられる。

上述の表4-6に示される後期と比較すると、後期では複数の基本的な要素が多くの作品群で使用されることを基本に、1つの作品群の特長を示す1要素ともに繰り返し用いられる要素が複数存在している。これは、前期の作品分類毎に要素が異なるものを用いるデザイン手法とは異なっていると判断され、上述の手法変化を裏付けるものである。

すなわち、前期では、P-A群で「格子割付」S1、P-B群は共通する卓越要素がなく、P-C群は「スケルトン壁面」WM8、「スケルトン天井」CM4と「装飾壁面」R5、L-E群は「複合材壁面」WM6、「自立壁」W1、P-D群は、「金属系壁面」WM2、「芸術家共同作業」EX1と新しい要素を多用・考案することでデザインの更新が見られた。

後期では新しい要素は出現するが、ある作品群で卓越的に使用せず、必要に応じて繰り返し使用している様相が読み取れる点が、前期との相違と考えられる。

経済的な側面から図4-4の年次日経平均株価をもとに前期と後期の違いを分析すると、上昇曲線の前期、乱高下する後期とは経済的状況は全く異なっている。この相違点が商環境のインテリアデザインに反映されていると判断すれば、前期の新しい要素の更新によるデザイン手法よりも、後期では安定した既存の要素の再利用による「編集」のデザイン手

法が優先されたと考えられる。前期の新規性を更新していくデザインの「編集」手法とは異なり、業態や年代による経済状況や施主の要求に対応した機能を優先し、バブル崩壊後の経済的な変化に寄り添ったデザイン手法に再編されたためと考えられる。

杉本は前期の代表作である「無印良品」について、「1号店の店舗設計は考えに考えた末のデザインというよりも、ある確信犯的な乱暴さが必要であった」⁵⁰⁾、と説明し、大型化した「MUJI」に関しては「今は大型店舗のように、先ず什器が決まり、それらの什器をどう展開するかで店舗デザインが決まる。」⁵¹⁾と述べていることでも前期と後期のデザイン手法の相違点が説明できる。

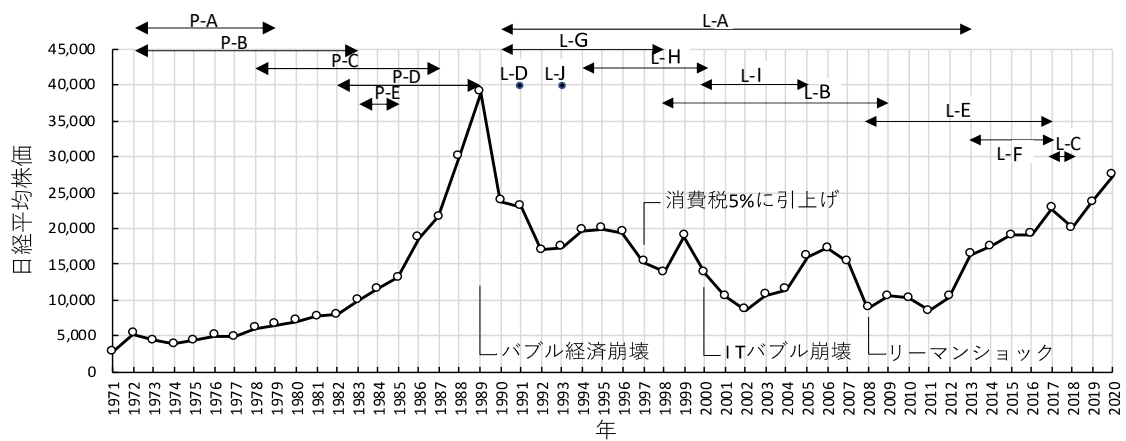


図4-4 各作品に用いられたデザイン要素数の年次推移 (著者作成)

第4節 第4章のまとめ

第3章のクラスター分析の結果を基に、全117作品の各群ごとに作品分類を試み、杉本作品の商環境デザイン特性を検討し、以下に得られた知見を前期と後期に分けて各群ごとに示す。

前期のデザイン要素の各群の特性

1) P-A群は、「格子割付」S1、「平行線」S3による「グリッド」は、空間を均質化する「シングルデザイン」に影響を受けて空間の機能を見捨てるように設計され、この群の特性を示している。

2) P-B群は、初期のようなデザインのために店舗に必要な機能を見捨てることなく、「シングルデザイン」からの脱皮を試みた。既存の建築に付属する仕上げと「独立型什器」FN2にてデザインされている。商環境デザインに機能が重要と判断した結果と考えられる。

3) P-C群は、P-C I群とP-C II群に2分される。P-C I群は、普遍的な仕上げ要素を使い、複雑に仕上げていく「多重性」の試験的な設計手法が一時的に試されている。

P-C II群は、「スケルトン天井」CM4、「設備露出天井」EQ1が多用され、この群の特性と考えられる。

4) P-D群は、「自立壁」W1や「交差線」P1の配置が行われ、「芸術家協働作業」EX1の多用がこの群の特性である。過去のデザイン要素の再利用を含め、多種多様な「空間仕上要素」を複合化させて展開させている。「芸術家協働作業」EX1は、重要な位置付けになっている。バブル経済最盛期の華やかな作品群と考えられる。

5) P-E群は、「空間構成要素」が複雑に商環境空間内で融合し、多様な仕上げ要素を用いて多くの芸術家との協働作業で商環境がデザインされている。この群の作品で杉本の「編集」という杉本独自のデザイン手法が確立されたと考えられる。

6) 1972年から1989年までの前期作品を年代幅で分析すると、竣工年が作品群として重なりながら作品の群として遷移している様子が示された。これは、デザイン要素の使用・出現が年代とともに徐々に変化させていったことを示唆している。また、杉本の商環境デザインのインテリア特性を年代区分で変化していることを読み取ることが出来た。

後期のデザイン要素の各群の特性

1) L-A群は、前半と後半との群で明瞭な差が示されている。前半では、前期のデザイン要素を新しく更新する手法が封印され、空間構成要素を「編集」する手法を模索していたと判断できる。後半は、景気回復に伴う大型化した物販店が出現し、「デザイン」よりも「売る」機能を重視した店舗づくりを模索し始めたと考えられる。

2) L-B 群は、「並列装飾壁 (リポート)」R6 が初めて出現し、「ルーバー天井」CM1 が多く出現していることが特性である。作品 L16『メザナイン』に代表される複雑なプログラムに沿って、基本のデザイン要素と「並列型装飾壁」R6 を組み合わせて、大空間をまとめ上げる手法は、後期の大空間店舗作品にも転用され、この群の特性と考えられる。

3) L-C 群は、異業種業態であってもデザイン要素の多くが重複していることで商空間を「編集」する「デザインレス」の手法を用いていることが特性であると考えられる。

4) L-E 群は、直線 S によって空間を大きく分けし、「複合図形」P2 によって細分化されて配置され、大型物販店の業態に適応した大空間内で多種商品を効率的に展示するためのデザインする手法が考案されていることが特性である。

5) L-F 群は、大空間であるホテルダイニングに要求されるフレキシブルなプログラムの多様さに対応できるように新しい空間構成要素は出現していない。大空間の天井には「吊天井」L3、「独立型吊天井照明 (シャンデリア)」IL5 が求めるプログラムに合わせて出現していることが特性であると考えられる。

6) L-G 群の業態は、全て中規模の飲食店である。バブル経済崩壊後の経済状況により前期の実験的な手法を封じ、伝統的あるいは既存の空間仕上要素を用いて行われたデザイン手法が特性である。

7) L-H 群は、経済低迷期下で新しい設計手法を模索していたことが伺え、空間仕上要素に既製品等の安価な材料が多用されていることが特性である。

8) L-I 群は、作品は何れも大空間作品であり、業態は「物販店」、「飲食店」に分かれるが、異業態に同じ設計手法を使用し多店舗に展開したことが特性である。

9) L-D 群および L-J 群は、L-1 群 1 作品で、出現頻度の低いデザイン要素が使われて、業態も類似性が低いことで他群と分けられたと考えられる。

10) 後期作品では業態ごとに年代推移に従い出現する作品群が変化している。年代ごとに求められる業態のあり方、施主の要望、デザイナーの考える表現が変化していることに対応し、「恣意的なデザインにしない」ことを示していると考えられる。それを実践するために、デザイン要素の組み合わせ利用・取捨選択という「編集」が行われた作品が出現していることが示されている。

前期、後期作品の比較検討

1) 前期と後期とデザイン要素数の比較では、前期は平均要素数 11.2 と比較的安定した推移を示し、後期は平均要素数 18.0 と飛躍的に増加している。両者に有意差が認められ、バブル経済崩壊前後を境に、デザイン要素の使用数が変化したことが示された。

2) 前期では新しいデザイン要素をその作品群の中で多用・考案すること見られたが、後期には新しいデザイン要素を取り入れてはいるが、ある作品群で多用するのではなく、必要に応じて繰り返し再利用している様相が読み取れた。複数の基本的なデザイン要素が多くの作品群で使用され、1つの作品群の特長を示す1要素ともに繰り返し用いられる要素が複数存在しており、前期の作品群毎に要素が異なるものを用いるデザイン手法とは明らかに異なっている。

3) 前期では、「空間構成要素」、「空間設計要素」が基本デザイン要素として完成された。後期のデザイン手法では組み替えて「編集」し、時代の経済状況に沿った「空間仕上要素」を発見して更新していく手法に変化し、商環境のデザインに於ける普遍性を見出したと言える。

4) 年次日経平均株価の年代的な経済状況と、各群ごとのデザイン要素の平均出現数とを分析すると、デザイン要素の特性で考察した結果と同じ結果が導かれた。これは、前期の新規性を更新していくデザインの「編集」手法と後期のデザイン手法を比較すると、後期では、業態や年代による経済状況や施主の要求に対応した機能を優先し、バブル崩壊後の経済的な変化に寄り添った安定した既存の要素の再利用による「編集」のデザイン手法が優先されたと考えられる

注記

注1) 山本耀司は、日本を代表するファッションデザイナー、1943年東京生まれ。1972年にY's (ワイズ) を設立する。1994年フランスより芸術文化勲章を受章、2004年に紫綬褒章を受章等国内外から高く評価されている。

注2) ワイズは、1972年に山本耀司のブランドである。時代に流されない普遍的な価値を追求し現在もブランドのアイデンティティとなっている。

注3) スーパースタジオは1966年にイタリアで、アドルフォ・ナタリーニとクリスチアーノ・トラルド・ディ・フランシアにより設立された建築家集団である。デザインに付与される意味を徹底して壊すという反デザインの思想のもと、挑戦的、批評的、時に皮肉を交えた過激なドローイングを発表し、同時期のイギリスのアーキグラムのラディカル運動を展開した代表的なグループである。

注4) 「シングルデザイン」は、イタリアでデザイン批評活動を行ったスーパースタジオが唱えた均質で画一された格子割付を繰り返し空間に浸透させる手法であり、同時期のインテリアデザイナー

に影響を与えた。

注5) 若林奮は1936年東京都出身、2003年没。戦後の日本美術を牽引した彫刻家である。鉄、銅、鉛、硫黄等の金属材料を用い、自身を含む周縁世界としての自然の諸相をモチーフに数多くの作品を残している。

注6) 田中一光は1930年奈良生まれ、2002年没。日本のグラフィックデザイナーである。東京オリンピックのメダルデザインや大阪万博日本政府一号館の展示デザイン等国家的项目を手がけ、アートディレクターとしても活躍し、多くのデザイナーに影響を与えた人物である。

注7) 細川伸は1949年兵庫県生まれ。ファッションデザイナーである。1974年株式会社BIGIにて「MEN'S BIGI」に携わる。1979年株式会社パシュを設立、ブランド「パシュ」を始動させる。

注8) 飯島直樹は1949年埼玉県生まれ。飯島直樹デザイン室所長、インテリアデザイナーである。武蔵野美術大学工芸工業デザイン先行卒業後、スーパーポテトに入社。1976年～1985年、10年間の在籍時に西武百貨店の店舗デザインや無印良品など数々のプロジェクトを担当した。

注9) 杉本は、「人が人為的につくったものを捨てる、恣意を捨てたいという思いがずっとある。恣意が見えるデザインはつまらない。」と語っている。（「商店建築」2018年9月号、205項）

注10) 松本軍四郎は、1992年～2003年まで「商店建築」の編集長を務め、長くインテリアデザインを俯瞰して見てこられた人物である。

注11) シンガポールのグランドハイアットにオープンした飲食店である。オープンキッチンを備え「シアターレストラン」として大成功し、その後の海外ホテルの仕事への足掛かりとなった。

注12) 橋本夕紀夫は1962年愛知県生まれ、2022年没。インテリアデザイナーである。1986年に愛知県立芸術大学デザイン学科を卒業しスーパーポテトに入社している。1996年に橋本夕紀夫デザインスタジオを開設、現代インテリアデザインの主流をなした人物である。

注13) 竹山聖は1954年大阪府出身。建築家である。東京大学大学院、在学中の1979年に宇野求、小林克広らと「設計組織アモルフ」を創設する。「TERAZZA 青山」や「新宿瑠璃光院白蓮堂」など数多くの独創的な建築作品を残している。

注14) 近藤康夫は1950年東京生まれ。近藤康夫デザイン事務所代表、インテリアデザイナーである。東京造形大学造形学部デザイン学科室内建築専攻卒業後、三輪正弘環境造形研究所を経て、1977年～1981年までクラマタデザイン事務所に勤務していた。

注15) 1970年から80年代に流行した、高級ファッションブランドの総称である。大手メーカーの製作する大量生産の既製服に対して、デザイナーの個性を生かした少量生産の既製服が流行した。

注16) ファストファッションは最新の流行を取り入れた低価格な商品を短いサイクルで世界規模に大量に供給するファッションブランドが提供する衣料品の総称である。

第5章

商環境デザインとしての考察

第1節 杉本作品の商環境デザインとしての考察

5. 1. 1 杉本作品の商環境デザインの時代的位置付けと意義

杉本の商環境デザイン作品は第4章の考察から

- 1-1) バブル経済崩壊前の前期前半期作品
- 1-2) バブル経済崩壊前の前期後半期作品
- 2) バブル経済崩壊後から2000年までの経済低迷期の作品
- 3) 経済復興後の2000年から2018年までの作品

3つの大きな転換期による上記の4つの時代の遷移が存在することが示された。その区分された年代に分けて杉本の商環境作品を総合的に考察する。

5. 1. 2 1989年バブル経済崩壊後の前期、後期作品の総合的考察

1) すでに述べたように杉本は、インテリアデザイナー「第三世代」と位置付けられている。倉俣、北原等の「第二世代」の活躍に影響を受けインテリアデザイナーを志向した¹⁾。その一端として「第三世代」の内田と杉本が影響を受けた作品を図5-1-1で示す。

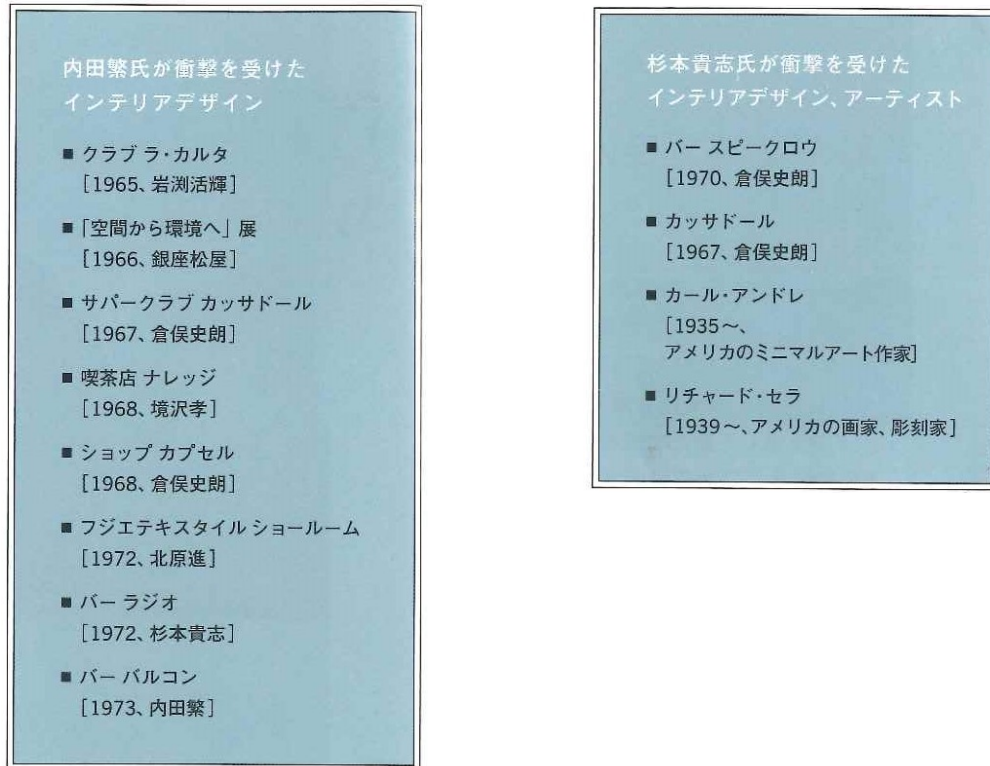


図5-1-1 「第三世代」の内田繁、杉本貴志が影響を受けたインテリアデザイン、アーティスト（「商店建築」、2015年8月号、42項）

そこで、日本のインテリアデザイナーの職能を成立させ、インテリアデザイナーの地位を社会に認知させた「第二世代」を代表する倉俣のデザイン手法と、高度成長期に商業と一体になって商環境デザインを発展させ、インテリアデザイナーの職能を確立させた「第三世代」の杉本のデザイン手法との類似点と相違点を比較検討する。それによって、杉本のバブル経済崩壊前の商環境デザイン作品の位置付けと意義を考察する。

2) 倉俣は、1956年に桑沢デザイン研究所^{注1)}・リビングデザイン科を卒業し、1964年に株式会社三愛宣伝部から独立して1965年にクラマタデザイン事務所^{注2)}を設立した。比較対象とする商環境デザイン作品は、1965年発表のデビュー作品から、没年の1991年までの26年間の作品を対象にする。

その作品発表において1977年に大きな転換点があることを加藤(2012)は「転換期の前期作品では、空間構成要素には「直線」を中心にした幾何学的な直線的空間の生成が多く、後期作品となる1977年以後の作品は、空間構成要素には空間を複雑に構成する曲線、曲面が出現する」と論じている²⁾。この前期での直線の活用は、当時の世界的な潮流であったスーパースタジオが提唱する「シングルデザイン」の影響があったと考えられる。

転換後は「シングルデザイン」から離れ「直線、曲線、曲面を空間内で複雑に絡め、多様なフォルムと光（間接照明）の操作の中で、倉俣のデザインする「インテリアシェルター」が空間の浮遊感を創成した(加藤 2012)と論じている³⁾。類まれな独創的発想力によるデザイン要素から「インテリアシェルター」の浮遊性の生成や、「モノ」（店舗の機能）の消去による空間生成に注力したデザイン要素を優先して商環境をデザインした。それまでのインテリアデザインに重要とされた「装飾」、「機能」は重要視しなかったと捉えられる。鈴木（2015）によれば「私にとって売り上げに対する読みが無意識のうちに働くことは一つの恐怖ですらある」⁴⁾と倉俣が語っていたことから商環境デザインに自らが思考するデザイン手法を優先させていたことが推測できる。

倉俣の商環境デザイン作品には、自らが思考する前例のないデザイン手法が実践され、それまでの室内装飾から機能をデザインして発展していったインテリアデザインを根本的に変えるデザイン手法を出現させた。空間全体をインテリアデザイナーがデザインすることで、空間のインテリアシェルターが浮遊性を持ち、空間生成に注力した倉俣独自のデザイン手法と捉えられる。

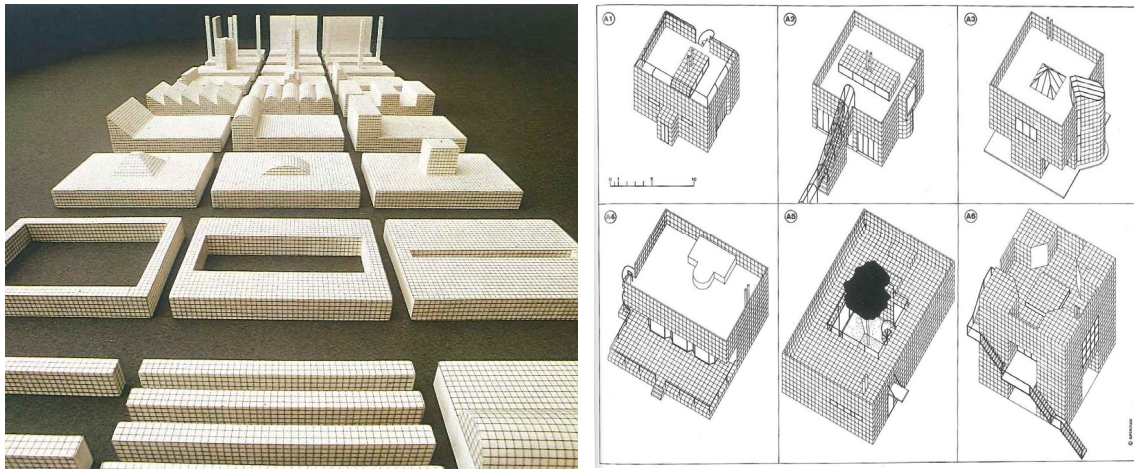


図5-1 イストグラミ (スーパースタジオ)

(JAPAN INTERIOR DESIGN 別冊 スーパースタジオ&ラディカルス、125項、130項)

3) 杉本は、1968年東京藝術大学工芸科を卒業後にイタリアに何度も遊学のために旅し⁵⁾、最先端のイタリアンデザインを学び、1973年に株式会社「スーパーポテト」を設立した。遊学時の1960年代後半のイタリアでは、イタリアの建築家集団である「スーパースタジオ」が展開したあらゆるデザイン分野に広がったデザイン手法である「シングルデザイン」が全盛であった。ジョエ・コロombo^{注3)}の影響も受けたと本人が述べている⁶⁾。

杉本のデビュー作である1972年作品P-1『ブティック ワイズ』(図5-2-(1)、(2))に「格子割付」S1による「シングルデザイン」(図5-1)が採用され、初期の前半作品では、ほぼすべての作品に出現する。

倉俣の初期の作品は、加藤(2012)によれば、「空間構成要素」は直線で構成されていたとの分析である。デビュー間際の1968年作品『レストランサーカス』(図5-3)では、「格子割付」S1である「シングルデザイン」の実践が試みられ「シングルデザイン」に初期の段階で影響を受けていたと考えられる。杉本の1973年作品P-5『ナルセフローリスト』(図5-4)では、倉俣の作品『レストランサーカス』を引用した作品となっている。

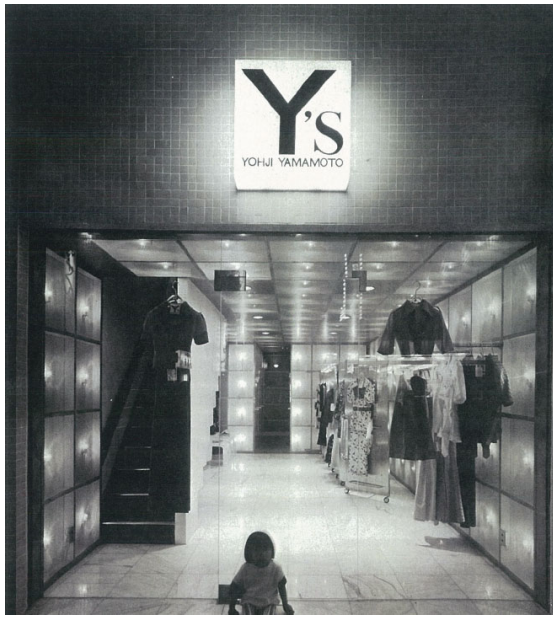


図5-2-1 P1『ブティックワイズ』



図5-2-2



図5-3 レストランサーカス
 (「倉俣史郎 1967-1987」Parco 出版局)



図5-4 P5『ナルセフローリスト』

飯島によれば、この前期前半の時期に杉本は「倉俣から離れようと意識しながら近づいてしまう」と倉俣の影響を認識していた⁷⁾。前期前半作品は、商環境機能を見捨てても「機能」よりもデザインを優先する倉俣と同様のデザイン手法を考えていたことがこの飯島の証言からも推測できる。倉俣に倣い作品ごとに新しいデザイン要素を出現させ更新していくデザイン手法を採用し、「第二世代」に次ぐインテリアデザイナーとしての地位を築いていった。

その後、倉俣は加藤（2012）によれば、1977年に直線から曲線、曲面を含む複雑な空間設計によりデザイン要素として「浮遊性」を見出し、「シングルデザイン」から離れ、1991年まで独自のデザイン手法を築いていった。その時代の代表作として図5-5作品『コンブレ』、図5-6作品『ルッキーノ』を示す。

杉本の前期前半作品では、1977年の作品P14『マラソンクラブ』（図5-7）、1978年の作品P17『まる八』（図5-8）で曲線が積極的に使われ始め、倉俣のデザイン手法に同期している。



図5-5 『コンブレ』

（「商店建築」、2015年9月号、53項）



図5-6 『ルッキーノ』

（「倉俣史朗」、財団法人アルカンシエール美術財団、1996年、182項）



図5-7 P14『マラソンクラブ』



図5-8 P17『まる八』

杉本のデザイン手法は常に進化する中で、前期作品の前半では「シングルデザイン」を引用し、商環境の機能は無視してでも空間を構成する要素として優先した「格子割付」S1、「平行線」S3、「斜行線」S4、「全円」C1、「交差線」P1を複雑に関係させたデザイン手法を展開した。

4) 前期後半の作品では、他分野のデザイナー、芸術家との協働作業による「芸術家協働作業」EX1のデザイン要素によって創造された芸術作品のような商環境デザイン作品が出現した。前半に用いた強引な「シングルデザイン」の引用を封印し、商環境空間を仕上げる素材の「空間仕上要素」に着目し、1982年の作品P31『ラジオ(二期)』(図5-9)、1983年の作品P36『パシュ ラボ』(図5-10)、1984年の作品P45『ビーイン』(図5-11)で芸術家の若林豪(図5-12)との協働作業によって出現した腐食金属である「金属系壁面」WM2、1983年の川俣正(図5-14)^{注4)}との協働作業による『パシュ 原宿』(図5-13)で出現させた廃木材である「木材系壁面」WM1、1982年作品P32『テラス』(図5-15)では長沢秀幸^{注5)}との協働作業によって「装飾壁面」R5、1983年作品P34『無印良品 青山』では「れんが系壁面」WM5など、建築仕上げ素材としては使われない多様な仕上げ材をデザイン要素として出現させた。

杉本は芸術家との協働作業のきっかけを「ニューヨークで、リチャード・セラ^{注6)}の鉄板を弓型にそらせた長さ40mの作品の迫力に圧倒されて「空間とはこういうものか」と考えが変わったんだ⁸⁾と芸術作品と空間の関係を述べていることから、杉本が東京藝術大学工芸学部彫金科で立体芸術を学んだことが影響していると考えられる。

また、倉俣の「インテリアシェルター」から離れるための杉本独自のデザイン手法として前期後半作品からは、既存建築仕上げを取り払って躯体表しの「スケルトン空間」を商業空間とするデザイン要素も出現させた。

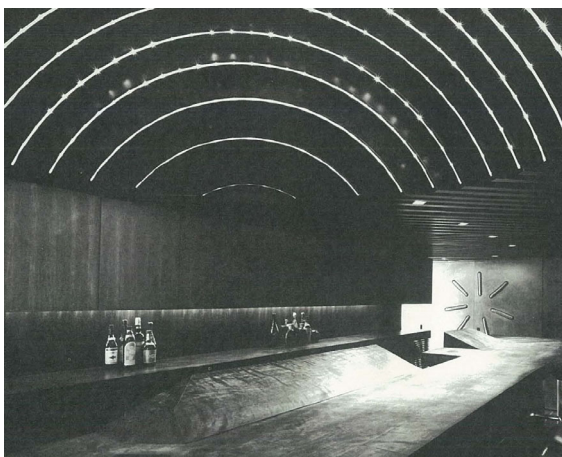


図5-9 P31『ラジオ』

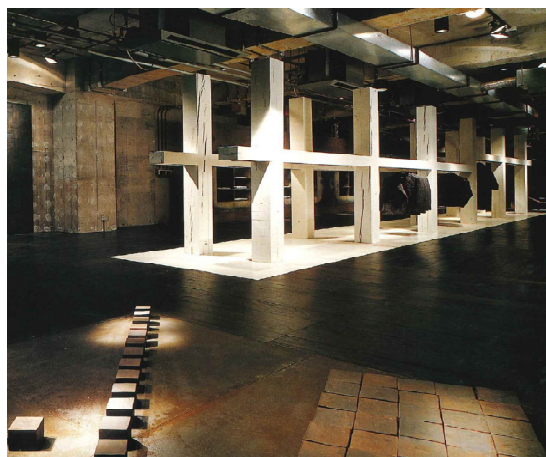


図5-10 P36『パシュラボ』



図5-11 P42『ビーイン』

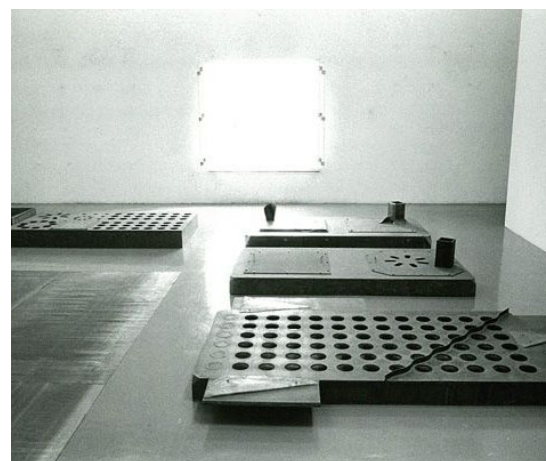


図5-12 若林奮彫刻作品

: <https://www.pinterest.com/pin/60334168131079788>



図5-13 パシュ原宿
(文献12、228項)

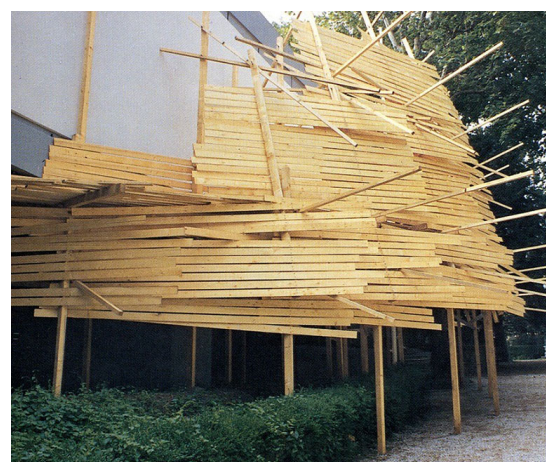


図5-14 1982年ヴェネチアビエンナーレ日本館
: <https://thestore.shiseido.co.jp/article/4645>



図5-15 P32『テルース』

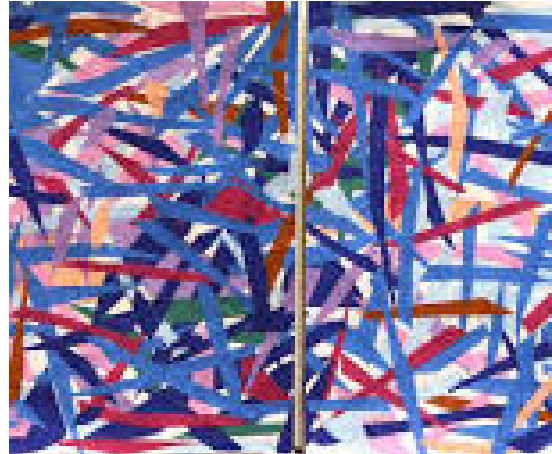


図5-16 長沢秀幸作品

: <https://nagasawahideyuki.net>

5) 1989年バブル経済崩壊前の商環境デザイン作品を時代的な位置付けで考察した結果、前期前半の店舗機能を見捨てる強引なデザイン手法から、前期後半では商環境の機能に重点を置きながら、「スケルトン空間」に「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」を「編集」し、芸術家との「芸術家協働作業」EX1によって新しいデザイン手法の試みが行われたことが証明できた。これは、鈴木(2015)の「空間設計、素材の斬新性(中略)の妙手が、以降の室内環境に大きな変革をもたらした」⁹⁾との指摘と一致する。前章でのデザイン要素分析の考察結果とも一致している。

「第一世代」「第二世代」が築いたインテリアデザインを進化させ、新しいデザイン要素を作品ごとに更新し、商空間や商環境機能を一過性に終わらせない「編集」デザインを実践したと考えられ点が「第三世代」である杉本の特性である。

5. 1. 3 バブル経済崩壊後の経済低迷期における杉本の商環境デザイン作品の考察

1990年バブル経済崩壊後の杉本の商環境デザイン作品と経済低迷期との時代的位置付けの関係性を考察する。

バブル経済は、経済動向指数からは1980年代から始まったとされる。鈴木(2015)によれば、1973年に東京・渋谷宇田川に複合商業施設である「渋谷パルコ^{注7)}」が誕生し、20世紀渋谷カルチャーを出現させた¹⁰⁾。その後、全国に出店して発展した「パルコ」は、70年代から世界に認められた日本のファッションデザイナーのブティックを集合させた商業施設である。

「パルコ」では、ファッションデザイナーが、他のブランドとの差異化による独自の店舗デザインを求めてインテリアデザイナーに店舗デザインを依頼したことによって「インテリアデザインとファッションデザインの融合」^{注8)}が起き、渋谷を中心に日本中に若者文化を展開していたことはバブル経済への助走と考えられる。

これは、日本のファッションデザイナーが中心となるDCブランド・ブームとして捉えられた。内田(2011)の「市場に出回った贅沢な資金はデザインに対して多様な実験を可能とし、探求のための実験をも可能とした」¹¹⁾との証言からも1980年代バブル経済全盛期のインテリアデザインとファッションとの融合による実験的な試みが商環境デザインを進化させた。バブル景気と商環境デザインの発展は同期していたことが推測できる。

1975年から1980年代に華やかなDCブランドのブランディングとは方向性を変え、堤清二^{注9)}が標榜した「ノンフリルマーチャндаイズ」^{注10)}によるブランドを前面に出さない業態である「無印良品」^{注11)}などの西武系セゾン文化も「パルコ」と同時に浸透し、若者文化とアートとの協調が渋谷を中心に展開した^{注12)}。

杉本は、ファッションデザイナーを前面に出しブランド化された商環境デザインを推進することと同時進行で、バブル経済崩壊以前の1980年代からブランドを前面に出さないノンブランド業態「無印良品」(図5-22)の商環境デザインの店舗開発を企業と同時進行で行っていた¹²⁾。

その時代の中で杉本が発表した代表的な作品としては1983年作品34『無印良品 青山』(P-E群)、作品P36『パシュ ラボ』(P-D群)、作品P38『オールドニュー』(P-CII群)がある。この時代にDCブランドとの先進的な商環境デザインと、企業(セゾングループ^{注13)})とのノンブランドの商環境デザイン作品と業態が違う作品が杉本によって同時にデザインされている。

杉本は、バブル経済崩壊前の前期作品ではデザイナー、芸術家と協働し作品ごとに新し

い「空間構成要素」を「編集」作業によって作品を完成させた。しかし、バブル経済崩壊後は、バブル経済全盛期のような贅沢な建設資金が枯渇し、物販業界では DC ブランドは衰退し、デザイナーの差別化された商品を売る「ブティック」^{注14)}から、個性を持たない安価な商品を大量に販売する「ユニクロ」^{注15)} (図5-20) などのファストファッションの時代へと移行していった。飲食業界でも、空間デザインを売りにする「カフェバー」「ダイニングバー」^{注16)}などバブル経済全盛期に反映した専門的な飲食店から、大衆を相手にする大型店舗の「つぼ八」「和民」などの居酒屋チェーン店^{注17)} (図5-21) へと同様な現象が起こった。

バブル経済崩壊は、多くの人々が経済的に影響を受けて、節約や質素な生活を強いられるようになり、インテリアデザインも贅沢さや過剰なデザインが避けられ、機能性やシンプルさが重要視されるようになった。しかし、杉本は、バブル経済全盛期で試みられた華やかなデザインの「編集」作業を展開することが難しい状況下においても精力的にデザイン活動を続けた。

バブル経済崩壊後から 2000 年代までの 10 年間は、試行錯誤を繰り返しながら前期で完成させたインテリアデザイナーとしての「恣意的なデザイン」を封印し、時代に合わせた業態に合致した商環境デザインを創造することへと重点が移行していったとは前章で考察している。これは、時代の変化に対応し、前期でデザインしたブランドを前面に押し出す店舗業態の「ブティック」とは異なるノンブランド業態である「無印良品」(図5-18)の店舗開発にインテリアデザイナーの領域を超えて関わっていたことで、商環境デザインの領域を拡大させた。また、自らがオーナーとなる飲食店「春秋」の店舗展開でも運営も含めて、商業施設に係る全ての業務に精通していった¹³⁾。

杉本は、この経済低迷期の 10 年間に自らがオーナーとなって飲食店「春秋」である作品 L2『春秋 赤坂』、L3『春秋 福岡店』、L6『春秋 響 西麻布』、作品 L13『春秋 鳥居坂』、大手企業との作品 L7『モルツクラブ 京都』、作品 L14『二期倶楽部 ダイニング』、作品 L18『二期 六本木』を発表している。いずれも、時代に合った居酒屋の業態であるが質の高い商環境デザイン作品をデザインしている (図5-19)。

ノンブランド業態店舗の拡大は、バブル経済崩壊の経済不況を要因として、インテリアデザイナーの仕事に大きな変化があった。その経済状況下では、デザイナー個人の才能の発揮よりも、経済的低迷による業態の変化、不景気化での利益性の追求など、商環境に求められる社会的時代性が反映され、より多様な要求に答えるデザインが求められた。

この経済低迷期の期間に、1980 年代に活躍した多くのインテリアデザイナーは淘汰され

た。この時代に、新しい世代のインテリアデザイナーが出現していないことでも、バブル経済崩壊後の10年は、インテリアデザイナーにとっての「失われた10年間」である^{注18)}。

バブル経済崩壊後の後期では、前期とは違った社会の経済状況に合わせた商環境を取りまとめるディレクター的な力量が、インテリアデザイナーに必要とされたと考えられる。

それはまさにデザインとしての「編集」作業がより複雑で広範化してきたことの反映であると考えられる。前期のような新規性を持つデザイン要素を時代ごとに更新していくデザイン手法からバブル経済崩壊後の低迷期への杉本の変化は、インテリアデザイナーとして時代に適応したディレクション力を持つ新しいデザイナーへの志向が示されたものと推察される。その相反する志向を両立させる力量を持ち合わせたことで、この経済低迷期を乗り越え、第一線でのデザイン活動を可能にしたと考えられる。



図5-18 無印良品八尾店

(<https://yao.goguynet.jp/2017/07/09/muji-return/>)



図5-19 L15『燦 神戸』



図5-20 ユニクロ

(<http://liveapan.com/ja/in-tokyo>)



図5-21 大規模居酒屋チェーン店

(わん本厚木店)

(<https://aumo.jp/articles/92661>)

5. 1. 4 バブル経済崩壊後の景気回復におけるインテリアデザイナーのデザイン領域、職能の変化

杉本は、インテリアデザインの確立期である 1970 年代から 2018 年の約 50 年間に渡り第一線で活躍したインテリアデザイナーである。その半世紀にも及ぶ長い期間には、バブル経済崩壊に始まり、多くの経済的な変動が起きた。時代の経過とともに新しいインテリアデザイナーが登場していく中で、常に変化する時代の要求を読み込み、先進的な作品を発表してきたことは他のデザイナーでは類を見ない。

後期となるバブル経済崩壊後から 2000 年代まで経済低迷期の 10 年間の作品では、杉本のデザイン手法は試行錯誤を繰り返しながら前期で完成させたインテリアデザイナーとしての「恣意的なデザイン」を封印し、新しい業態に合致した商環境デザイン作品を創造することへと重点が移行していった。

杉本は、バブル経済崩壊後に多くのインテリアデザイナーが経済の恩恵によるデザイン手法の変換が出来ないでいる中で、前期でデザインしたブランドを前面に押し出す店舗業態とは異なる新しいノンブランド業態である「無印良品」の開発に加わった。その発展形である「MUJI」の多店舗展開、大型店舗開発にインテリアデザイナーの職域を超えて参加し、運営に係ることによってインテリアデザイナーの領域を拡大させた。

また、飲食店である「春秋」の多店舗、大型化店舗展開では、自ら「春秋」の共同経営者となり店舗開発全てに係わることで、インテリアデザイナーの職能を超えたディレクターとしての職能を身に付けたことは、バブル経済崩壊を原因としての経済環境の大きな変化があったからと考えられる。デザイナー個人の才能の発揮よりも、経済的低迷による商業形態の変化、経済復活後の大空間店舗に対する対応、利益性の追求など、社会的な変貌の時代性が反映され、より多様な要求に答えるデザインがインテリアデザイナーに求められたからである。それは、バブル経済崩壊後の低迷期を経て、景気回復に伴う社会の経済状況に合わせた商環境を取りまとめるディレクター的な力量が必要とされたと考えられる。インテリアデザイナーの領域がデザインとしての「編集」作業が、より複雑で広範化してきたことの反映であると考えられる。前期のような新規性を時代ごとに更新していくデザインから後期への変化は、バブル経済崩壊後にデザイナーとして時代に適応したディレクション力を持つ新しいデザイナーへの志向が示されたものと推察される。



図5-22 P34『無印良品 青山』



図5-23 L20 無印良品&カフェムジ
青葉台



図5-24 P54『春&秋』



図5-25 『春秋 溜池山王』

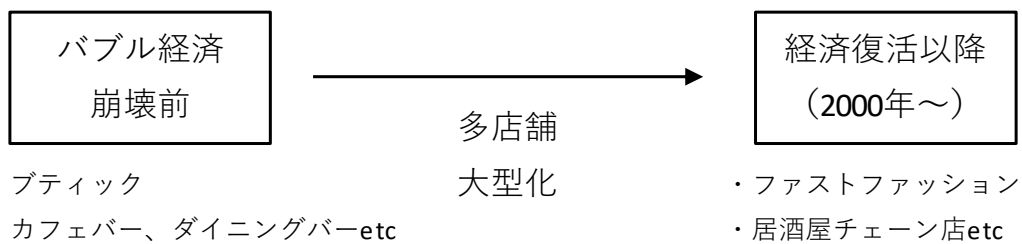


図5-26 バブル経済崩壊後の多店舗・大型化の説明 (筆者作成)

その後、バブル経済崩壊後の景気回復時にあたる1998年作品L16『メザニン』にて初の海外プロジェクトであり大型空間のデザインを担当し、大成功の結果に導いた。通常では1600㎡という飲食店の大空間を一人のインテリアデザイナーがデザインをすることは稀

であった時代に、杉本はバブル崩壊後の低迷期に培ったディレクション力で、大空間の商環境デザインをまとめあげた（図5-26）。

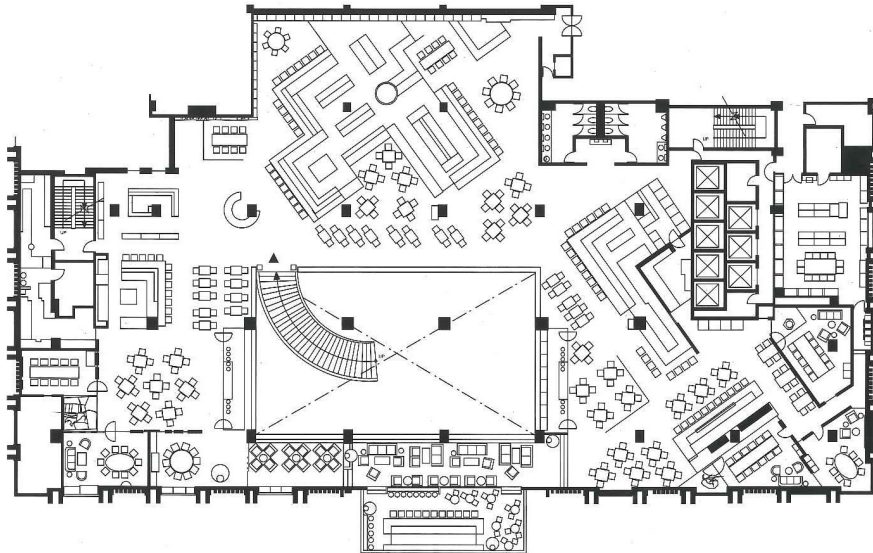


図5-27 メザインの平面図

(Locher, Mira 2015「Super Potato Design The Complete Works of Takashi Sugimoto」 Charles Lee Tuttle Publishing、2015年、133項)

正にディレクターとしての力量が、この作品の成功の要因である。2000年以降の景気回復以降は、1980年代にインテリアデザイナーがデザインしていた商環境の領域を超えて大型空間の商環境デザインを完成させていった。この杉本によるインテリアデザイナーからディレクターへの職能の拡大は、経済回復以降に出現する「第五世代」の若手インテリアデザイナーに影響を与え、商環境デザインは「モノ」をデザインすることと同時に、店舗の運営、商品開発などの「コト」をデザインすることが一体となっていった。

杉本は、時代の経済状況によって変化してきたインテリアデザイナーの新しい領域を開拓し、世代交代の激しいインテリアデザイナーとしてデザイン界の中心で活躍したことは、時代の要求に対応して進化させた杉本の「進化する編集」デザイン手法によると考えられる。

第2節 第5章 のまとめ

杉本の商環境デザイン作品を、4つの時代別に区分して商環境デザインとしての考察を行った。

1) 「第二世代」の倉俣は、活動前期では、機能よりデザインを優先する手法を用いて商環境作品をデザインしていた。デビュー後の杉本の前期前半作品には、倉俣のデザイン手法の影響が試みられていたと考えられる。

倉俣が活動後期に浮遊性を持つ独自のデザイン手法に変化したとことと同期して、杉本は、店舗機能にも重点を置いた「編集」する独自のデザイン手法へと変化した。その手法は、既存の建築空間の仕上げを取り払い「スケルトン空間」とし、芸術家や他分野のデザイナーとの協働作業により商環境デザイン作品を「芸術作品」にまで昇華させたことで、「第二世代」である倉俣の浮遊性あるデザインへの探求との相違が見出せた。

2) 1980年代から始まったバブル経済と共に「ファッションデザインとインテリアデザインとの融合」が起き、華やかなバブル経済の下で杉本の作品は発表された。バブル経済崩壊後から10年間の経済低迷期に入り、杉本は時代に合わせたデザイン手法を模索し、前期後半に企業と共にノンブランド業態「無印良品」の企画、運営に参加し、低迷期のファストファッションの多店舗、大型化の流れに対応できたと考えられる。

経済状況に合わせた商環境を取りまとめる「編集」作業がより複雑で広範化したと考えられる。経済低迷期では、ディレクション力を持つ新しいデザイナーへの志向が示され、この経済低迷期でのデザイン活動を可能にしたと考えられる。

3) 2000年以降の経済復活期からは、ディレクターとしての力量を生かし、大型空間の商環境デザインを完成させていった。杉本による職能の拡大は、「第五世代」の若手インテリアデザイナーに影響を与えた。「モノ」のデザインと、店舗の運営、商品開発などの「コト」のデザインが一体となったことが示された。

杉本の商環境デザイン作品の時代的变化は、時代の要求に対応して進化させる杉本の「進化する編集」デザイン手法によるものと考えられる。

4) 倉俣の作品は、加藤(2012)よれば、年代推移により変化が見られる。これは杉本の作品の年代推移による作品の変化と同様な時代的な変化である。それは、最新の作品をインテリア雑誌等に発表する他のインテリアデザイナーに共通することである。その流れは「デザインの流行」となり、倉俣、杉本は多くのインテリアデザイナーに影響を与えた。

注記

- 注1) 1954年桑澤洋子によって設立された日本で最初のデザイン教育機関である。ドイツのバウハウスをモデルとして発足し、これまでに国内外で活躍するデザイナーを輩出し、現在も存続している。
- 注2) クラマタデザイン研究所は、1965年設立。インテリアデザイナー倉俣史朗を代表とするデザイン事務所である。近藤康夫や吉岡徳仁などその後のインテリアデザインに影響を与える人物を輩出した。
- 注3) ジョエ・コロomboは1930年イタリア生まれ。1971年没。プロダクトデザイナーである。1962年自身のデザイン事務所を開設後数多くの作品を残している。イタリアのモダンデザインを代表するデザイナーである。
- 注4) 川俣正は1953年北海道生まれ。芸術家・造形作家である。東京藝術大学美術学部油絵科卒業。ヴェネチアビエンナーレ日本館、サーペンタインギャラリーなど日本のみならず世界各国で作品を制作し、多くのデザイナーに影響を与えている。
- 注5) 長沢秀幸は1947年埼玉県生まれ。画家・美術家である。1972年武蔵野美術大学卒業、2018年同大学名誉教授。80年代から現代にいたるまで多くの作品を残している。作品はセゾン現代美術館や東京国立近代美術館等にも収蔵されている。
- 注6) リチャード・セラは1938年生まれ。アメリカ合衆国の現代美術家である。風化した鉄で作られた巨大な彫刻を自然環境や公共空間の中に配置する環境彫刻で知られており、ミニマルズムの芸術家と位置付けられている。
- 注7) 渋谷パルコは1973年ファッションビル。当時流行していたDCブランドが数多く入り、流行の発信拠点であった渋谷を象徴する場所であり、渋谷カルチャーの代名詞的存在である。
- 注8) インテリアデザインとファッションの融合
- 注9) 西武企業グループの流通部門を引き継いだ堤清二が西部流通グループとして独立、のちに西武セゾングループに改称する。バブル経済景気を背景に「西武・セゾン文化」を築いた。
- 注10) 商品やサービスの高級品や豪華な要素を削減し、基本的な機能や品質を重視することで低価格な商品やサービスを提供することを目的として制作されたもの。
- 注11) 無印良品は1980年開業。セゾングループ代表だった堤清二が、ブランドを与えないことと生産プロセスを合理化することで、価格を抑えた品質の高い商品を提供することを目的に立ち上げられた。無駄のない簡潔な質の高い商品を提供している。
- 注12) セゾングループが文化事業として、セゾン美術館や劇場、六本木WAVEやリブロなど前衛文化を紹介する場を展開した。
- 注13) 西武グループの創業者で父である堤康次郎の死後、堤清二が流通部門を引き継ぎ、セゾングループ

プに改称。西武百貨店、西友を母体にパルコや無印良品、ロフトなどを展開した。

注14) 高級なアパレル商品や宝飾品を扱っている小規模な小売店。

注15) 1984年広島市に「ユニーク・クロージング・ウェアハウス」を開店、同年、「ユニクロ」へと改称。アメリカ衣料小売店「GAP」をモデルに低価格で高品質な商品を展開する日本を代表するファストファッションブランドである。

注16) 1980年代に流行した、カフェやダイニングとバーが融合した飲食店形態である。独自性のある内装やメニュー、接客スタイルを売りとしていた。

注17) 統一された商品や運営方針のもと複数の店舗を展開した、一般大衆向けの総合型居酒屋である。

注18) 国あるいは地域の経済が、およそ10年に渡って停滞期を迎えること。日本ではバブル経済崩壊後の10年間を指す。

第6章
結論

第1節 総括

本研究は、杉本貴志の商環境デザイン作品についてインテリア特性を構成するデザイン要素に着目しその出現状況を分析し、作品特性とデザイン手法を明らかにすることを目的として行った。

以下に各章で得た知見をまとめ、本論文を総括し、今後の課題と展望を併せて記し結論とする。

第1章「序節」では、インテリアデザインの概要、歴史から研究の背景を示すことで現代ではインテリアデザインが生活に必要不可欠であることを整理した。また、日本のインテリアデザインの歴史からインテリアデザイナーの世代分けをし、「第三世代」である杉本貴志を研究対象とする目的および意義を示した。

また、関連する先学の研究を整理し、本論文の位置付けを行った。

第2章「研究方法」では、杉本がデザインした商環境デザイン作品のインテリア特性の分析を進める上での研究方法を示した。

杉本がデザイナーとして活動した1972年から1989年のバブル経済崩壊前までの前期期間、1990年から2018年までの後期期間を研究対象期間とした。『商店建築』に発表された前期62作品、後期55作品を研究対象作品とした。

研究対象である杉本の商環境デザイン作品データをインテリア専門雑誌『商店建築』から収集してデータ表を作製した。データ表より抽出する商環境空間を構成するデザイン要素を「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」の3要素とした。

多くの作品に対して使用されるデザイン要素は多岐に渡るため、定量的な取り扱いも試みるために全作品から抽出したデザイン要素を数量化Ⅲ類の分析により定量化し、クラスター分析等の研究方法を説明し、研究テーマの位置付けと研究の構成を示した。

第3章「結果」では、前期作品（作品番号 P1～P62）、後期作品（作品番号 L1～L55）から抽出されたデザイン要素の抽出結果から「空間構成要素」「空間設計要素」のデザイン要素を立体化して表現した一覧表を作製した。そのうえで、「空間仕上要素」で示したデザイン要素の出現を調査し、その結果からデザイン要素の出現一覧表を作成し、林の数量化Ⅲ類によるクラスター分析結果より次のような知見を得た。

1) 前期62作品は、各作品のデザイン要素の出現から P-A 群から P-E 群までの5群に分類することが出来た。同様に、後期55作品では10群に分類することができた。

2) 各群に分けられた作品のデザイン要素の出現を整理し、作品分類の特性が確認でき

た。また、各作品ごとの要素の種類数および組合せの違いが判明した。

第4章「考察」においては、デザイン要素である「空間構成要素」、「空間仕上要素」「空間設計要素」を出現表として作成し、その出現特性を抽出して検討した。

デザイン要素の出現表を用いて数量化Ⅲ類により分析を行い、サンプルスコアを用いてクラスター分析を行った。クラスター分析の結果を基に作品分類を試み、商環境デザイン特性を検討した。

以下に杉本の商環境デザイン作品に於いて得られた知見を示す。

1) 杉本の商環境デザイン作品を前期と後期に分け、前期作品、後期作品のデザイン要素の出現結果から各作品および各作品群ごとに作品特性が確認できた。

2) 前期前半作品では、「シングルデザイン」に影響を受けて店舗機能を無視してでも「恣意的なデザイン」が重要とされる手法を使用した。作品ごとに新しい「空間構成要素」が出現し、「第二世代」の倉俣の影響が大きいことが確認できた。

前期後半作品では、商業施設としての機能を満たしながらも芸術家との協働作業によって多種多様なデザイン要素を試験的に更新して「編集」するデザイン手法を確立させた。

後期作品では、多種多様なデザイン要素の再利用・複合利用する実験的な「編集」するデザイン手法を出現させた。

3) 前期作品は、全体として作品群として重なりながら、群として遷移している様子が示され、杉本の商環境デザイン作品のインテリア特性を年代区分で変化していることを読み取ることが出来た。

後期作品では、作品の業態ごとに年代推移に従い、作品が出現する作品群が変化し、年代ごとに求められるデザインが変化していることが確認できた。

4) 各群の平均デザイン要素の種類数は、前期は 11.2 と比較的安定し、後期は 18.0 飛躍的に増加しており、バブル経済崩壊前後を境に、デザイン要素の使用数が変化したことが示された。さらに使用要素の組合せの変化が示された。これは、前期は小規模の専門店のデザインが多く、後期では大型店舗、多店舗展開が増加したことへのデザイン対応を示していることが確認できた。

第5章「商環境デザインとしての考察」では、「杉本の商環境デザインの時代的位置付けと意義」を杉本のデザイナー活動期間を4つの期間に分けて総合的に考察を行った。

1) 前期前半作品では、デザイナーとしての位置が定まっておらず、最先端のイタリアデザイン、「第二世代」の倉俣の影響が作品の特性に現れていることが明らかとなった。

2) 前期後半作品では、芸術家との協働作業が出現し、建築的には普遍的ではない「空

間仕上要素」、「空間設計要素」を「編集」する杉本独自のデザイン手法が完成したことが確認できた。

3) バブル経済崩壊後の 2000 年までの 10 年間の経済状況下では、「恣意的なデザインから避けている」ことで「空間構成要素」には新しいデザイン要素が出現しないことが確認できた。

4) 2000 年以降の景気回復後は、作品 L16『メザニン』の成功により大型空間のデザインが増加したことが確認できた。前期で完成された「空間構成要素」「空間設計要素」のデザイン要素を基本に「編集」し、「空間仕上げ要素」の組み換えによって商環境をデザインする手法が確立されたことが明らかとなった。

5) 大型空間、多業態、同一業態の多店舗展開への対応は、バブル経済崩壊前の時代から店舗作りの運営、企画に参加してディレクターとしての力量を蓄えていたことで、時代変化における要求に合わせて「編集」するデザインが可能になった事と考えられる。

本研究の総括として、杉本貴志の商環境デザイン作品におけるデザイン特性を作品データとして分析した結果、杉本のデザインは時代と共に変化し、その普遍性と影響力が示され、新しいデザイン要素の出現と再利用のデザイン手法が明らかになり、インテリアデザイナーとしての進化と変遷が判明した。

前期では、スーパースタジオのシングルデザインに影響を受けた「グリッド」から芸術家との協働作業、編集手法の確立そして商業的な機能への無関心が見られ、後期では編集手法を進めていく過程、作品 16『メザニン』以降に確立したデザイン手法と商業的な思考とのハイブリット、商環境としての成功が大きな目標となり、大空間に対応するデザイン手法を確立させた。同時に、時代に沿った商環境にディレクション能力が求められることが杉本のデザインへの考え方の変遷と連なっていると考えられる。

また、本研究の分析に用いたデザイン要素の「空間構成要素」、「空間設計要素」は、インテリアデザインの空間を構成する基本であることが確認でき、各要素の組み合わせによって新規性を表現できることが確認できた。「空間仕上げ要素」では、時代の変化に合わせた新しい素材を出現させることで、新規性を表現できることも確認できた。

インテリアデザインがデザイナーの感性によって完成するといわれる作品を数量化することによって分析することが可能であることが明らかとなった。

第2節 今後の課題と展望

日本のインテリアデザインの歴史は浅く、特に商環境デザイン分野は戦後の1950年代からが起源とされているが、1960年代に入っても商業空間をデザインすることは不純なものとして捉われていた。しかし、現在では日本のインテリアデザイン、インテリアデザイナーは世界のトップに君臨し、世界中で日本のインテリアデザイナーが活躍している。しかし、学術的に商環境デザインは認知されているとは考えにくい現状が存在する。それは、論文等による研究結果が不足していることにも関係していると考えられる。

研究の支えとなっていた杉本貴志のスタッフであった飯島氏の取材では、杉本貴志の没後に展覧会を企画したが引き受ける美術館は皆無であったと報告された。その要因が、インテリアデザイナー杉本貴志の知名度の低さであったとのことである。現在においてもインテリアデザインは建築に付随するものとの認識が残っているからだと考えられる。

本研究では、インテリアデザインの確立期から、世界的な評価を受けるまでになった現在まで、デザイン界の第一線で活躍した杉本貴志の商環境デザイン作品のデザイン要素を分析して、インテリアデザインの特性を明らかにした。

「感性」で例えられるデザインを分析し明らかにすることは困難とされていたが、空間を構成するデザイン要素を丁寧に見つけ出し、整理して分析することによって、インテリアデザイン特性を解明することが可能となった。本研究が商環境デザインの本質を研究する礎になり、インテリアデザインの研究に貢献できたらと願いながら、この研究で得られた今後の研究課題を述べることで、今後のインテリアデザインの展望としたい。

1) 本研究では、商環境を「空間構成要素」、「空間仕上要素」、「空間設計要素」のデザイン要素によって作品分析、時間的遷移等の検討を行った。そのうえで、商環境デザインには「業態」が大きく影響することも明らかとなり、「業態」の整理は分析に必要であると考えられる。例を挙げれば、時代に沿って物販店、飲食店、宿泊施設等の多業態が融合した新しい「業態」が出現している。商環境の基本となる「業態」をデザイン要素として考え、商環境の分析に加えて研究を深めることが、これからの多様化する時代の課題と考える。

2) 本研究で使用したデザイン要素のデータを他のインテリアデザイナーの商環境作品分析に応用し、各世代ごとの分析データとしてまとめ、杉本だけでなく時代分けしたインテリアデザイナーを群として捉え、時代的な変化の検討をする必要があると考える。

3) 本研究の分析方法が、インテリアデザイン作業のメソッドと成り得るために今後もインテリアデザインの特性の分析は重要な課題であると考えられる。

4) 現在のインテリアデザイナーには「コト」をデザインすることが重要となった事は考察でも確認できたが、倉俣史朗、杉本貴志等の「モノ」派のように常に新しいデザイン要素を探求する姿勢が重要であることも再確認できた。この「モノ」のデザイン探求を若いデザイナーへの啓発として、自らのデザイン活動の実践でも生かすことを今後の課題とする。

5) インテリアデザイナーのデザインする店舗ジャンルの偏りが分析結果に与えている影響について、デザイナーが依頼される業態と一般的な業態とがあり、デザイナーが依頼される業態は特殊性が重要で、その研究の意義は重要であると考えられる。

6) 「編集」というデザイン手法は本研究の論点の一つであり、考察の上で「編集」に対する「新たな解釈と定義」を導くことは今後の課題とする。

最後に、インテリアデザインを実践するデザイナーの視点よりデザインの向上を目指すため、本研究の手法と成果を基に、今後のデザインを実践するにあたり、以下の点が重要であると考えられる。

インテリアデザインは、一般的に建築デザインと比較し、論理的な説明が不足しているために学術的な評価が低い場合も見受けられる。しかし、デザイン要素を丁寧に定量化して分析することによって、デザイナーの感性の一端ともいえるデザイン特性が論理的に説明できたことは、デザイナーによる新規デザインの論理的な根拠を発見できると考えられる。

インテリアデザインの実践者として、デザイン作品特性分析の研究に留まらず、常に新規性を求められる日常のデザイン作業に本研究をデザイン手法として活用していくことがインテリアデザインにおける新規性の発見に繋がると考え、インテリアデザイナーとして今後の展望としたい。

参考文献一覧

第1章

- 1) 中野明 (1998年) : 「インテリアデザイン」、建帛社、2頁
- 2) 内堀繁生 (2010年) : 「インテリアデザインの基礎知識」、鹿島出版会、2頁
- 3) インテリアデザイン教科書研究会編 (1993年) : 「インテリアデザイン教科書」、彰国社、10頁
- 4) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013年) : 「日本インテリアデザイン史」 オーム社、150頁
- 5) 鈴木紀慶 (2015年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、2015年、34頁
- 6) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013年) : 「日本インテリアデザイン史」 オーム社、153頁
- 7) 鈴木紀慶 (2021年) : 「日本商空間デザイン史 1980-2020」、商店建築社、12頁
- 8) 中野明 (1998年) : 「インテリアデザイン」、建帛社、2頁
- 9) 中野明 (1998年) : 「インテリアデザイン」、建帛社、2頁
- 10) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社、51頁
- 11) 内田繁 (2011年) : 「戦後日本デザイン史」、みすず書房、58頁
- 12) 内田繁 (2011年) : 「戦後日本デザイン史」、みすず書房、58頁
- 13) 小泉和子 (2015年) : 「日本のインテリアの歴史」、河出書房新社、122頁
- 14) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社、93頁
- 15) ICS カレッジオブアーツ校友会 50周年記念出版編集委員 (2014年) : 「インテリアデザインの半世紀」、六耀社、6頁
- 16) 内田繁 (2011年) : 「戦後日本デザイン史」、みすず書房、26頁
- 17) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社、138頁
- 18) 鈴木紀慶 (2015年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、34頁
- 19) 鈴木紀慶 (2015年) 「インテリアデザインが生まれたとき : 60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、34頁
- 20) 「JID 設立からのインテリアデザイナー」、shingakunee.com
- 21) 鈴木紀慶 (2021年) : 「日本商空間デザイン史 1980-2020」、商店建築社
- 22) 鈴木紀慶 (2015年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、34頁
- 23) ICS カレッジオブアーツ校友会 50周年記念出版編集委員 (2014年) : 「インテリアデザインの

半世紀」、六耀社、20 頁

- 2 4) 内田繁 (2011 年) : 「戦後日本デザイン史」、みすず書房、153 頁
- 2 5) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」 オーム社、286 頁
- 2 6) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」 オーム社、145 頁
- 2 7) 鈴木紀慶 (2021 年) : 「日本商空間デザイン史 1980-2020」、商店建築社、10 頁
- 2 8) 内田繁 (2011 年) : 「戦後日本デザイン史」 みすず書房、234 頁
- 2 9) 「杉本貴志+スーパーポテト」、npo-plat.org、2021 年 7 月 21 日
- 3 0) 内田繁 (2011 年) : 「戦後日本デザイン史」、みすず書房、311 頁
- 3 1) 小泉和子 (2015 年) : 「日本のインテリアの歴史」、河出書房新社、12 頁
- 3 2) 小泉和子 (2015 年) : 「日本のインテリアの歴史」、河出書房新社、17 頁
- 3 3) 本田安治 (1968 年) : インテリア・デザインノート、デザイン理論 Vol.7、73/81 頁、42/43 頁
- 3 4) 福岡喜久雄 (1971 年) : インテリアデザインの形態、デザイン理論 Vol.10、42/51 頁、51/52 頁
- 3 5) 野口茂 (1977 年) : <書評>種村真吉著「日本の室」日本インテリアデザインの体系、デザイン理論 Vol.16、113/115 頁
- 3 6) 小泉和子 (2015 年) : 「日本のインテリアの歴史」、河出書房新社、102 頁
- 3 7) 伊藤孝紀, 佐川桃子, 吉田夏稀, 西田智裕 (2020) : 商環境における空間デザインの変遷-DSA 日本空間デザイン賞・JCD デザインアワードの入賞作品を対象として-、デザイン学研究、66 巻 4 号、31/40 頁
- 3 8) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社、93 頁
- 3 9) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社
鈴木紀慶 (2015 年) 「インテリアデザインが生まれたとき：60 年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会
- 4 0) 橋本啓子 (2014 年) : 倉俣史朗のデザイン構想に関する一考察 -空間としての家具デザインという視点から-、美術史論集(14)、36/54 頁、47 頁
- 4 1) 島村昇 (1978 年) : 「京の町家 生活と空間の原意」、鹿島出版会
- 4 2) 島村昇 (1983 年) : 「金沢の町家」、鹿島出版会
- 4 3) 島村昇 (1998 年) : 「住空間史論」京都大学学術出版会

第 2 章

- 1) 三井秀樹 (2006 年) : 「新構成学」、六耀社
- 2) 三井秀樹 (2006 年) : 「新構成学」六耀社

- 3) 日本グラフィックデザイナー協会教育委員会 (編) (2002 年) : 「VISUAL DESIGN 1 Basic Design」、六曜社
- 4) 高橋正人 (1987 年) : 「構成 ジオメトリック・パターン」、岩崎美術社
- 5) 加藤和雄, 堀越哲美 (2012) : 倉俣史朗のインテリアデザインにおける空間創造手法、人間と生活環境 19(1)、17/24 頁
- 6) 内堀繁生, 中村嘉樹 (2010 年) : 「インテリアデザインの基礎知識」、鹿島出版会、38~39 頁
- 7) インテリアデザイン教科書研究会 (2011 年) : 「インテリアデザイン教科書」、彰国社、70~77 頁
- 8) 杉本貴志 (1992 年) : 「春秋 杉本貴志の空間 辻清明の器」六曜社
- 9) 杉本貴志 (1995 年) : 「Super Potato Design: The Complete Works of Takashi Sugimoto」 by Mira Locher
- 10) 杉本貴志 (2010 年) : 「杉本貴志のデザイン 発想/発酵」TOTO 出版
- 11) 杉本貴志 (2011 年) : 「無為のデザイン」TOTO 出版
- 12) 杉本貴志 (2018 年) : 「A life with MUJI」株式会社無印品

第 4 章

- 1) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社、145~146 頁
- 2) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」オーム社、286 頁
- 3) 鈴木紀慶 (2021 年) : 「日本商空間デザイン史 1980-2020」、商店建築社、45 頁
- 4) 商店建築社 : 商店建築、1981 年 8 月号、99 頁
- 5) 商店建築社 : 商店建築、1972 年 5 月号、105 頁
- 6) 商店建築社 : 商店建築、1977 年 7 月号、14 頁
- 7) 鈴木紀慶, 今村創平, 内田繁 (2013 年) : 「日本インテリアデザイン史」、オーム社、284~288 頁
- 8) 商店建築社 : 商店建築、1975 年 9 月号、132 頁
- 9) 商店建築社 : 商店建築、1981 年 10 月号、187 頁
- 1 0) 商店建築社 : 商店建築、1982 年 5 月号、85 頁
- 1 1) 商店建築社 : 商店建築、1982 年 5 月号、83 頁
- 1 2) 鈴木紀慶 (2015 年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60 年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、144~145 頁
- 1 3) 商店建築社 : 商店建築、1978 年 8 月号、92 頁
- 1 4) 商店建築社 : 商店建築、1983 年 3 月号、88 頁
- 1 5) 商店建築社 : 商店建築、1983 年 5 月号、150 頁
- 1 6) 商店建築社 : 商店建築、1982 年 9 月号、17 頁

- 1 7) 商店建築社：商店建築、1983年8月号、99頁
- 1 8) 商店建築社：商店建築、1983年11月号、83頁
- 1 9) 鈴木紀慶（2015年）：「インテリアデザインが生まれたとき：60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、144～145頁
- 2 0) 商店建築社：商店建築、1984年12月号、167頁
- 2 1) 鈴木紀慶（2015年）：「インテリアデザインが生まれたとき：60年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、
- 2 2) 商店建築社：商店建築、1984年12月号、167頁
- 2 3) Locher, Mira（2015年）：「Super Potato Design The Complete Works of Takashi Sugimoto」 Charles Lee Tuttle Publishing、1-17頁
- 2 4) 商店建築社：商店建築、1985年5月号、119頁
- 2 5) 鈴木紀慶、今村創平、内田繁（2013年）：「日本インテリアデザイン史」 オーム社、290～291頁
- 2 6) 鈴木紀慶、今村創平、内田繁（2013年）：「日本インテリアデザイン史」 オーム社、232～235頁
- 2 7) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、161頁
- 2 8) 商店建築社：商店建築、2007年3月号、9頁
- 2 9) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、195頁
- 3 0) 杉本貴志（2010年）：「杉本貴志のデザイン 発想/発酵」、TOTO出版、98頁
- 3 1) 鈴木紀慶、今村創平、内田繁（2013年）：「日本インテリアデザイン史」、オーム社、289頁
- 3 2) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、168頁
- 3 3) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、164頁
- 3 4) 商店建築社：商店建築、1998年5月号、151頁
- 3 5) 杉本貴志（2010年）：「杉本貴志のデザイン 発想/発酵」、TOTO出版
- 3 6) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、164頁
- 3 7) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、170頁
- 3 8) 鈴木紀慶、今村創平、内田繁（2013年）：「日本インテリアデザイン史」、オーム社、289頁
- 3 9) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、181頁
- 4 0) 商店建築社：商店建築、2007年3月号、9頁
- 4 1) 商店建築社：商店建築、2018年10月号、161頁
- 4 2) 杉本貴志（2010年）：「杉本貴志のデザイン 発想/発酵」、TOTO出版、98頁
- 4 3) 新建築社（1983年）：「建築家のためのインテリアデザイン」、新建築社、1983年7月臨時増刊号、78頁

- 4 4) 杉本貴志 (2018 年) : 「A life with MUJI」、無印良品
- 4 5) 安井秀夫 (2023 年) : デザイン要素分析による杉本貴志デザインの商環境インテリア特性－1972 年から 1989 年までの作品について－、人間と生活環境
- 4 6) 商店建築社 : 商店建築、2015 年 8 月号、53 頁
- 4 7) 安井秀夫 (2023 年) : デザイン要素分析による杉本貴志デザインの商環境インテリア特性－1972 年から 1989 年までの作品について－、人間と生活環境
- 4 8) 商店建築社 : 商店建築、2018 年 9 月号、205 頁
- 4 9) 杉本貴志 (2011 年) : 「無為のデザイン」、TOTO 出版、192 頁
- 5 0) 杉本貴志 (2011 年) : 「無為のデザイン」、TOTO 出版、172 頁
- 5 1) 杉本貴志 (2011 年) : 「無為のデザイン」、TOTO 出版、172 頁

第 5 章

- 1) 飯島とのインタビュー : 2023 年 8 月 24 日、飯島直樹デザイン室にて
- 2) 加藤和雄, 堀越哲美 (2012 年) : 「倉俣史朗のインテリアデザインにおけるインテリア・シェルターの離隔性からみた空間の浮遊性と消去性の創出」人間と生活環境 19(2)、75/90
- 3) 加藤和雄, 堀越哲美 (2012 年) : 倉俣史朗のインテリアデザインにおけるインテリア・シェルターの離隔性からみた空間の浮遊性と消去性の創出、人間と生活環境 19(2)、75/90
- 4) 鈴木紀慶 (2015 年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60 年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、110 頁
- 5) 杉本貴志 (2018 年) : 「A life with MUJI」、無印良品、7 頁
- 6) 杉本貴志 (2018 年) : 「A life with MUJI」、無印良品、9 頁
- 7) 飯島とのインタビュー : 2023 年 8 月 24 日、飯島直樹デザイン室にて
- 8) 商店建築社 : 商店建築、2015 年 8 月号、43 頁
- 9) 鈴木紀慶 (2015 年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60 年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、146 頁
- 1 0) 鈴木紀慶 (2015 年) : 「インテリアデザインが生まれたとき : 60 年代のアートとデザインの衝突のなかで」、鹿島出版会、136 頁
- 1 1) 内田繁 (2011 年) : 「戦後日本デザイン史」、みすず書房、236 頁
- 1 2) 良品計画 (2018 年) : 「無印が生まれる思考と言葉」、角川出版、91 頁
- 1 3) 杉本貴志, 岩立マーシャ (2004 年) : 「春秋」、チャールズ・イー・タトル出版株式会社

既発表論文一覧

査読付き論文

安井秀夫、石松丈佳、堀越哲美、「デザイン要素分析による杉本貴志デザインの商環境インテリア特性：1972年から1989年までの作品について」『人間と生活環境 第30巻、第1号』人間-生活環境系学会、2023年5月。

安井秀夫、石松丈佳、堀越哲美、「バブル経済崩壊後の杉本貴志の商環境インテリア作品のデザイン特性-1990年から2018年までの作品のデザイン要素分析-」『人間と生活環境 第31巻、第1号』人間-生活環境系学会、2024年5月。

口頭発表論文

安井秀夫、石松丈佳、堀越哲美、「杉本貴志の商環境デザインのインテリア特性」『第42回人間-生活環境系シンポジウム報告集』人間-生活環境系学会、2018年12月。

安井秀夫、石松丈佳、堀越哲美、「インテリアデザイナー杉本貴志の1970年から1989年に於ける商環境デザインのインテリア特性」一般社団法人日本建築学会、2019年7月。

安井秀夫、石松丈佳、堀越哲美、「インテリアデザイナー杉本貴志の1990年から2018年に於ける商環境のインテリア特性」『第43回人間-生活環境系シンポジウム報告集』人間-生活環境系学会、2019年12月。

謝辞

本論文の執筆にあたっては、多くの方々に協力、ご指導いただきました。ここに、心からの御礼を申し上げます。

愛知工業大学安井研究室所属大学院生の修士設計に不正が発覚し、その責任により私の大学院での指導資格がはく奪されました。その後の影響を心配した名古屋工業大学堀越研究室 OG の加藤里実氏から愛知産業大学学長堀越哲美先生を紹介していただき、博士学位取得を勧められ、名古屋工業大学石松研究室に所属して博士論文をまとめるに至りました。

論文執筆経験の無い私に、堀越哲美先生からは研究のテーマを探す初歩的なことから指導が始まりました。学会論文、博士論文提出と 5 年間の長きに渡って、学外でありながら学長職務での激務の中、貴重な時間を割いて手取り足取りの指導していただきました。途中、論文執筆に意欲が無くなることもありましたが、先生の懇切丁寧な指導で乗り切ることが出来ました。多くの失礼、迷惑をお掛けしたことを深く謝罪させていただき、心からの感謝を申し上げます。

また、審査員主査の石松丈佳教授には、他大学から研究室に所属させていただき、ご指導と共に、学位取得等の手続きを助けていただいたことを感謝いたします。

審査員副査の北川啓介教授には、審査、指導以外にも論文執筆の心構え等の指導を頂きました。審査員副査夏目欣昇教授、審査員副査の筑波大学橋本剛教授には審査の過程で適切な指導を頂き細かい論文修正の指導を頂きました。各先生に感謝の意を表します。

研究のデータ集計のための貴重な基礎資料を快く提出いただいた商店建築編集長の塩田健一氏、資料の説明及び研究の過程において適切な解説をいただいたインテリアデザイナー飯島直樹氏の両氏に感謝申し上げます。

愛知工業大学安井研究室大学院生木村優介氏、宮澤優夫氏、安井秀夫アトリエ所員會田豊氏には、膨大な資料からデータを整理してまとめるにあたって、多大なる協力を頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

この研究は、私を含めた日本のインテリアデザイナーの軌跡を巡ることであり、その意義を何度も教授頂き、私の背中を押し続けて頂いた椋山大学加藤和雄教授に感謝します。

大学院指導はく奪後の失意の中、学位取得の道筋を作って頂き、事あることに相談相手として適切なアドバイスを頂いた加藤里実氏、論文執筆中の大学業務軽減に協力いただいた山本薫氏には心より感謝申し上げます。

還暦からの遅い博士論文執筆であることに加えて、執筆中に突然のコロナ禍に置かれたことによる精神的な負担への支えとなり支援を頂いた伴侶の麻理、友人達に深く感謝します。

最後に重ねて、堀越哲美先生には論文執筆全てにおいて指導して頂いただけでなく、教授職にあった私に教育者の姿勢までも教授頂けたことを感謝申し上げます。

本研究が、今後のインテリアデザイン分野の研究の礎になり、若いインテリアデザイナーへの啓蒙となることを願い、皆様への謝辞とさせていただきます。

2024年1月

安井 秀夫

資料編

前期 (P1~P62) データシート

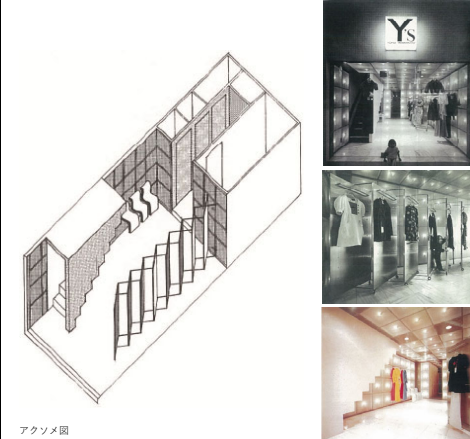
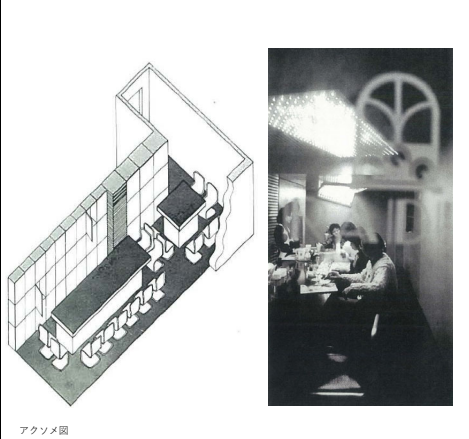
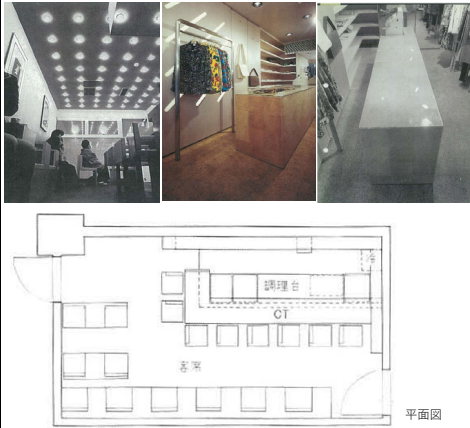

作品番号	P1	年代	1972年	作品番号	P2	年代	1972年
建築名	ブティックワイズ	用途	ブティック	建築名	ラゾオ	用途	バー
所在地	東京都新宿区歌舞伎町13	商店建築	1972年7月号	所在地	東京都渋谷区原宿	商店建築	1973年1月号
工期	1972年4月15日~5月10日	面積	35㎡	工期	1972年10月1日~10月23日	面積	30㎡
材料仕様	床 : 大理石 壁・天井 : 鉄板ホワイトブロンズ仕上げバンチング600角一部石膏ボードパテ処理の上VP			材料仕様	床 : 黒御影石 壁・天井 : ラッカー吹付け仕上げグレー、一部ステンレス鏡面仕上げ イス : スチールパイプヘアラインホワイトブロンズメッキ仕上げ、エナメルレザー張り黒 天井照明器具 : ステンレス板豆球埋め込み		
作者による作品解説	店をデザインする場合、商品の特徴・性格によってデザインが進行・決定されるのが一般的であるが、ブティックのようにファッション傾向の強い場所ではインテリアデザインが商品を指向していくとデザインそのもののリアリティが曖昧になる傾向がある。ここでは商品を販売することを一つの現象としてとらえ、現象を包み込む容器としてのデザインを巡めることによってデザインそのもののリアリティを強めようと考えた。そのため素材を限定しフォルム性をできるだけ除去することによりデザインすることによって生じるあいまい性をできるだけ少なくし容器が原則的に存在することを考えた。			作者による作品解説	グレーのニュートラルな空間の中に黒御影石の大きなテーブルが二つ、それを囲んで椅子が16個。そのほかこまごまとした設備一切は壁の中とテーブルのかけに押し込まれており、店の人と客が分け隔てなく一つのテーブルを囲むといったささやかなファミリーパーティーの情景が現出することを狙っている。天井面にはほとんど気ままに貼り付いた二つの照明装置だけがこの空間の中で唯一の"裝飾"といえるかもしれない。(編集部)		
図面・写真	 <p>アクセソメ図</p>			図面・写真	 <p>アクセソメ図</p>		
作品番号	P3	年代	1972年	作品番号	P4	年代	1973年
建築名	コーヒーハウスコロ	用途	カフェ	建築名	バブ オレンジ	用途	バー
所在地	東京都渋谷区原宿	商店建築	1972年12月号	所在地	東京都渋谷区道玄坂2-14-20	商店建築	1973年9月号
工期	1972年9月20日~10月10日	面積	30㎡	工期	1973年8月20日~9月20日	面積	50㎡
材料仕様	床 : ロンリウム グレー 壁・天井 : プラスタターボードCL仕上げ 赤椅子・テーブル : ベニヤ積層板 赤 テーブルトップ : メラミン化粧板 赤			材料仕様	床 : 大理石 壁 : シナベニヤ下地ラッカー仕上げシルバーグレー 天井 : バンチングメタル2重貼り照明内臓 テーブル : トップ真鍮 脚部 : スチールパイプφ250 イス : スチール角パイプ藤張る		
作者による作品解説	住宅地にある比較的グレードの高いマンションビルのドライエリアに面した地下1階にあり、かなり小面積でもコーヒー専門店である。われわれは設計を始める前にあまり美しく設計するとコーヒーがうまく感じられないのではないかと考えた。たまたま照明器具、家具パッケージをなるべく特別な意味を持たせないようにし、色彩も任意の色を適度に選択してもらうことにした。結果として意図とデザインされた結果との関係、つまりどうしてもデザイン行為そのものが持つしまうある種の意図性、あるいはデザイン性というものが問題となって残っている。			作者による作品解説	テーブルは真鍮、天井照明はバンチングメタル2重貼り、塗装はシルバーグレーである。私にとってどんなところで酒を飲んでも、場所からの影響はあまりないが、できるならば、なるべくシステリアンな方が好ましい。いいかげん、宇宙な場所というか、軽い場所というか。キッシンと規定された関係の中に長時間の酒を飲むこともそれに重なる。だとすれば、なるべく浮遊できるというか、切り離されるというか。私自身の宇宙の形成。私にとって非常に個人的な意味でのほんのちょっとした神祕という意味での内々で仕事を考えていかざるを得ない		
図面・写真	 <p>平面図</p>			図面・写真	 <p>平面図</p>		

図1 P1~P4

作品番号	P5	年代	1973年	作品番号	P6	年代	1974年
建築名	ナルセ フローリスト	用途	フラワーショップ	建築名	テフテフ	用途	バー
所在地	東京都渋谷区渋谷3-18-7	商店建築	1973年12月号	所在地	東京都港区赤坂6-19-47	商店建築	1974年4月号
工期	1973年9月25日～10月15日	面積	40m ²	工期	1974年5月10日～6月2日	面積	39m ²
材料仕様	床 : クリッカータイル白 壁 : 白磁器タイル108角 天井 : プラスターボード下地ラッカー仕上げ 天井照明 : ハロゲンランプ40個			材料仕様	床 : パーティション/ミカゲ (ブルーパール) 壁 : ラッカー塗装仕上げ (エメラルドグリーン) 天井 : プラスターボード下地経師仕上げ 照明内蔵 : ペルニエ イス : ペルニエ テーブル : パーティション/ミカゲ (ブルーパール)		
作者による 作品解説	花屋は今までわれわれが手がけてきたいろいろな店の中では、おそらく一番原則的で明確な家種といえよう。ファッションショップのような商品の加工性は少なく、コーヒーショップやバーのように空間のイメージ性を開かれることもあまりない。要素の大半は商品すなわち花の魅力にあると言える。実際にこの花屋に入ってみても、まるで花束に迷い込んだようには花でうずもれている。せまいスパイラル階段を昇ったところにある小さなバルコニー面の中2階では特殊な顧客のための特殊な商品を展示する場所として計画されている。			この店のためのオリジナルなイスと新しい考え方の壁の仕上げ材が用意されていたようだが、前述の問題が整理されないまま「デザイン」が先走りするのを恐れて急遽既存のイスと使い慣れたミカゲ石の壁面に変更したという。布を透過する光のグリッドによる天井もオニキスを透過する光を扱った照明器具展や、パンチングメタル2重貼りで内部照り入りの天井を使った「バブオレンジ」などの一連の透過光による作品と相通じるものがあるようだ。これをもって彼らの“体質”とするのはあまりにも早計だが、1作ごとにガラリと一変するよりも何かしら人間くさいものが感じられる。(編集部)			
図面・写真	<p>アクソメ図</p> <p>平面図</p>			<p>平面図 2階</p> <p>平面図 1階</p>			
作品番号	P7	年代	1974年	作品番号	P8	年代	1974年
建築名	ISSEY MIYAKE	用途	ブティック	建築名	カワキチ	用途	ショールーム
所在地	東京都渋谷区神宮前	商店建築	1974年3月号	所在地	大阪市西区京町筋4-33	商店建築	1974年7月号
工期	1974年2月15日～3月9日	面積	18m ²	工期	1974年4月1日～5月5日	面積	137m ²
材料仕様	床 : モルタル金ゴテ下地ワールドマット (シュロ) 敷き込み 壁・天井 : プラスターボード t12下地サテン (洋服地) 貼			床 : ミカゲ石貼り 壁面 : 壁紙 ステンレス・アブストラクト 天井 : 壁紙 ステンレス・アブストラクト			
作者による 作品解説	マンションの中庭を2層とりまく新しいショッピング回廊「バズル青山」の1階にオープンした三宅一生のブティックである。最近「アンティークな構成」(自分の部屋としての演出)など店が買物客にとって親しみのある「場」であるために店づくりの上でもいろいろな試みが行われている。たしかにスチール、プラスチック、ガラスを使ってミニマルな表現さえすればこと足れりといった安易な風潮がないわけではないが、(レンガ壁に骨とう品)では創造とはほぼ遠い。スーパーボテットのメンバーはここでは感銘のある仕上材の吟味に熱中しているように思える。壁はありふれた経師仕上げであるが素材は服地に使うサテンを三宅氏を通じて入手、床は靴吹き用のシュロのマット敷きつめカウンターは自分達の手でスライスした天然コルク貼りと店全体をソフトな感觸のマテリアルで包んでいる。			記載なし。			
図面・写真	<p>平面図</p>			<p>建築パース</p> <p>平面図</p>			

図2 P5~P8

作品番号	P9	年代	1975年	作品番号	P10	年代	1975年
建築名	ポスト	用途	バー	建築名	アル・ビバン	用途	西武美術館ブックコーナー
所在地	東京都港区赤坂7-6-47	商店建築	1975年10月号	所在地	東京都豊島区南池袋1-28-1	商店建築	1975年11月
工期	1975年6月20日～8月4日	面積	56.1m ²	工期	1975年8月18日～9月3日	面積	73.92m ²
材料仕様	床 : 寄木貼り 壁 : 鉄板錆び仕上げ 天井 : 鉄板錆び仕上げ 空調ガラリ : 木組み テーブル甲板 : 鉄板t=12mm磨き仕上げ その他 間接照明ラインカバー・鉄板・パーティション 鉄板錆び仕上げ トップのみ磨き仕上げ			材料仕様	記載なし。		
作者による作品解説	空間に対して45度角度をもつ天井と客席のグリッド。設計対象が、それぞれここに持っている問題という意味でなく、設計者の意味性の認識といたった意味で何を目的にデザイン、設計を行うかということが常に一番重要な問題であります。 自分たちにとって、より重要なことは、一つの空間、また象徴であり、問題の多くは自分に対するものであります。しかし視点を変えてみると、デザインの特性から考えてみると、多くの取組をあげ得たとはとてもいえず、むしろそうして生じてきた多くのゾーンから生じる、ある種の緊張は自分たちの無力感とあいまって、われわれの持っている文化の脆弱性を強調していると言えかねないかもしれません。			作者による作品解説	冷たく輝くステンレスの本棚とケース、ロアゾール館(8～12階)の最上階に位置する西武美術館は、常設で美術展を開催しているデパートとしては異色の付属施設である。この美術館の入り口と出口の間の通路を利用して設置されたのがアル・ビバンと名付けられたブック・コーナーである。名前の通り現代美術に関する輸入書籍と前衛音楽のレコード・楽譜を販売しており、音楽関係については一柳恵氏がセレクトしている。美術館のエレベーターホール・ロビーと接続している関係上、同じ材質を使用するというでステンレスが本棚・ケースの素材として選ばれている。コーナー的な性格を持ち合わせていないが、多田英波氏の天窓を中心としたロビーの効果的なデザインと有機的に組み合わされていけば、よりまとまった空間になっていたと思われる。(文責編集部)		
図面・写真				図面・写真			
作品番号	P11	年代	1975年	作品番号	P12	年代	1975年
建築名	カフェオメガロ	用途	カフェ	建築名	ストロベリー	用途	カフェ・バー
所在地	東京都豊島区南池袋1-28-1	商店建築	1975年11月号	所在地	東京都渋谷区宇田川町21-1	商店建築	1976年1月
工期	1975年8月6日～9月4日	面積	123m ²	工期	1975年10月20日～11月6日	面積	91m ²
材料仕様	床 : フローリング貼り(サクラ) 壁・柱巻 : 大理石貼り 天井 : 塗装仕上げ 照明アーチ : スチールパンチング挿付け塗装仕上げ カウンター : 甲板・磨き・真鍮貼り テーブル : 枠・スチール 甲板・フローリング貼り(サクラ)			材料仕様	床 : ナラフローリング 壁・天井 : ステンレスHL 円柱 : ステンレスパイプφ200 テーブル : t=15ガラス ベンチシート : 炭松 照明 : 豆球埋込み		
作者による作品解説	同線を確保するための光のアーチ。11階のブックセンターは、ほぼワンフロアを占める西武百貨の本屋でその一角にこの喫茶店に位置する今回の増改築にあたっては、各フロア前に個性の強い喫茶店をアクセントとしてちりばめるというのが基本方針となっており、この店もその一例である。経営者の最初の意図はフランス風のビストロを再現するという点で営業的な面ではその形態が生かされているが、空間としては室内にもかかわらず開放的な感じになっている。それは窓側開口部と本屋との間仕切りが透明ガラスで構成されていること。および、中央のアーチにより動線が確保され、自由な客席配置が可能になることによるといえる。カウンター部分とボックス座部分の2本の巨大な大理石貼りの円柱は窓側が構造体であり、その存在を消すためにもう1本が同じ大きさで内側に対になって置かれ、内部にレジが設置されている。(文責/編集部)			作者による作品解説	63個の円柱たち。63個の等間隔に並べられた円柱がこの店のすべての機能を支えているように思える。円柱の上にそっと置かれたガラス板がテーブルであり、円柱にくわせた板材がベンチシートであり、円柱と円柱の間隔が動線を決定づける。63個の円柱はたまたま太さからそこに存在していた連動たちのようになり、あるいは物質の最小単位である分子構造のようにお互いの距離を、微塵も変えようとしない。この強い存在感によりかかっているため、イスやテーブルはその本来の固有のイメージをほとんど拭い去られている。こうして出現した空間は、ステンレスやガラスや天井裏にこんがらがっているであろう豆球埋込みのビニール線等の現代的で冷たいイメージと対峙し、カバーされない素材とのごく自然な触れ合いがもたらしている。むしろガラステーブルに反映した黒くすく間にコーヒークップを置くと、それはロマンチックですらある。(編集部)		
図面・写真				図面・写真			

図3 P9~P12

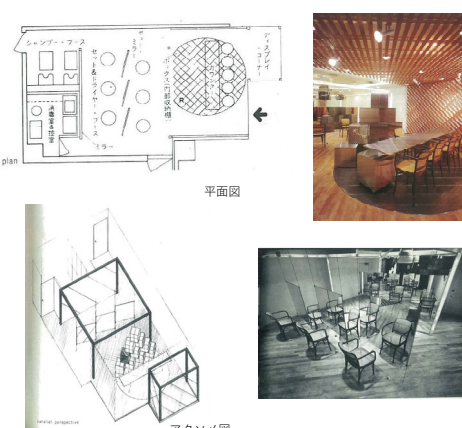
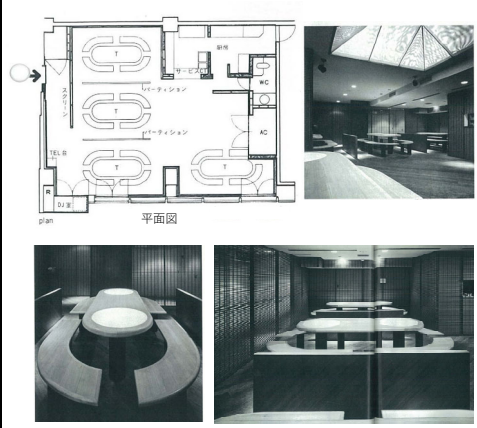
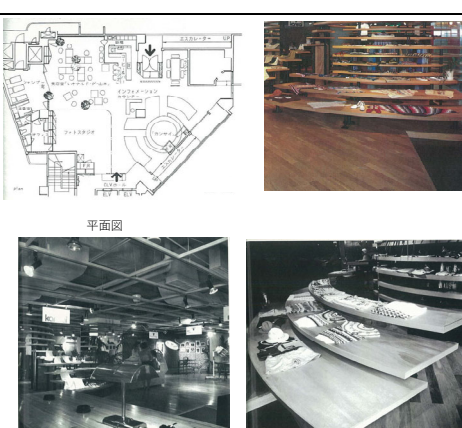
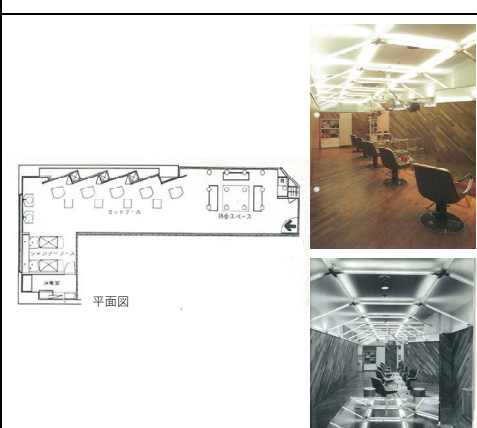
作品番号	P13	年代	1976年	作品番号	P14	年代	1977年
建築名	カッチャータカハシ青山店	用途	ヘアサロン	建築名	マラソクラブ	用途	ライブハウス
所在地	東京都港区青山5-1-3	商店建築	1977年3月号	所在地	東京都中野区中野5-63-1	商店建築	1978年2月号
工期	1976年11月10日~11月30日	面積	49.5m ²	工期	1977年7月4日~7月25日	面積	92.5m ² (改装床面積72m ²)
材料仕様	床 : アナ材フローリング 壁・天井 : 既存壁、天井に樹脂系塗料ローラ仕上げ (白) 壁一部 : ミラー貼りt=6mm その他 : 透明フロートガラスt=8mmFIX スチールパンチングメタルt=1mm二重貼り ステンレスt=1.5mm目地Vカット ステンレス・ワイヤー吊り (かしめ+ターンバックル止め) ハイミラーt=5mm貼り合わせ	材料仕様	床 : ステベニア下地 アビトンフローリング45' 貼り オイルフィッシュ3回仕上げ 壁 : 既存の上VP吹付仕上げ グレーチング貼り 一部下地木組PB貼り 天井 : 既存ビニルクロス貼り 一部PB貼り VP吹付仕上げ パーティション : アビトン テーブル・椅子 : 米松				
作者による作品解説	ディスプレイ・スペースとカウンターを全面に押し出しセット・スペースなどの作業スペースを奥へ引込めた平面構成とアナ材を目透かし貼りにした壁面・天井とステンレスのカウンターおよびボックススクリーンとの素材の対比が来客にコーションアップとアティックを足して2で割った印象を来客に与える。ビル全体のファッションブルで華やか雰囲気と融合したオープンな店舗構成ということで美容器具が外部から直接見えないうようなプランとし通路に面した接点にカウンターを中心としたコミュニケーション・スペースを配置している。店内の中央はワイヤ	作者による作品解説	空間を包み込むもうひとつの皮膚の存在がこの壁面に使用されている素材はグレーチングという。あの地下鉄の空気抜きやU字溝に使われている鉄のルーバーである。「建築の構造体と内部空間との接点を皮膚のような皮膚質で覆いつくす」抽象的なこの言葉がこの素材にいきつくまでの行程である。グレーチングは土木用に加工されるので精度は厳密な物ではなく施工グレードは難を要する。実測の上、工場において定寸に裁断されたものをあらかじめ壁面に取り付けた鉄骨柱にボルトで止め上げ、仕上がりがコストと時間の関係でVP塗装仕上げとなっている。				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	P15	年代	1978年	作品番号	P16	年代	1978年
建築名	ザ・バイブレーション	用途	複合スペース	建築名	コアフル石井	用途	ヘアサロン
所在地	東京都渋谷区神宮前6-4-1	商店建築	1978年7月号	所在地	福島県郡山市中町3-1	商店建築	1978年12月号
工期	1978年4月10日~5月14日	面積	275m ²	工期	1978年4月10日~4月29日	面積	57m ²
材料仕様	記載なし	材料仕様	床 : ナラフローリング ワックス仕上げ 壁 : ナラフローリング 一部クリアミラー 天井 : PBt=9VP仕上げ				
作者による作品解説	4つの店がそれぞれメッシュとなって揺動しあいさらに対しても電波を送るといのが名前の由来である。4つの店の相互浸透性ということ他に時間帯による相互浸透性が計画されている。8時の閉店後の利用方法が課題。単なるレンタルスペースとしてでなくもっとリラックスして使えぬ文化にたっても有意義なもの何か。(コミティ・メンバーによるフリーティングより:文芸編集部)	作者による作品解説	記憶の中の床屋の鏡、記憶の中を支配する床屋の物理的な空間というのはこの男って無き物体鏡に他ならない。はからずも記憶の中にはなく現実に美容室という場所を設定するハメに随って男はまったく異なる鏡に映る女性の自意識なども想いもよらなくも専門誌などをひっくりかえしながら鏡を置きその周囲を今風のデザインというオブラートで包みはしたものの果たして女性方の記憶にこの店の造作の印象が残るかどうかは知るどころではない。(飯島 直樹)				
図面・写真		図面・写真					

図4 P13~P16

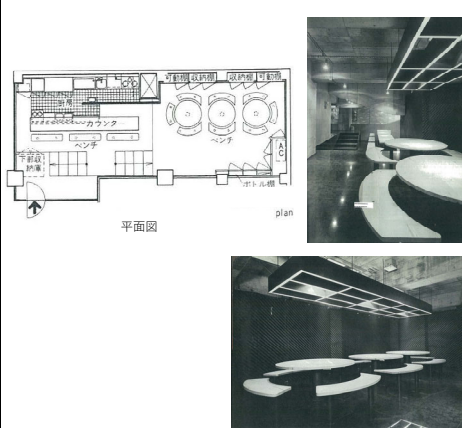


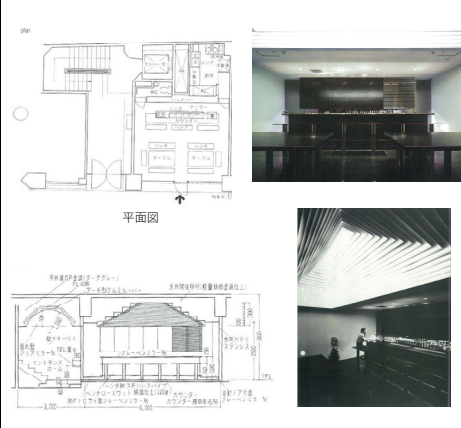
作品番号	P17	年代	1978年	作品番号	P18	年代	1979年
建築名	まる八	用途	バー	建築名	ナルセフロリスト ノブ	用途	フラワーショップ
所在地	東京都渋谷区東1-3-1	商店建築	1978年10月号	所在地	東京都渋谷区宇田川南15-1	商店建築	1979年5月号
工期	1978年7月10日～8月5日	面積	85m ²	工期	1979年2月10日～2月28日	面積	35m ²
材料仕様	床 : ブラジル産黒御影石貼り 壁・天井 : コンクリート打放し・スリムライン特注照明 1部ビームランプ直付け カウンター・テーブル・ベンチ : 南部産赤松ワックス仕上げ 造り付け収納棚 : メラミン化粧板貼り	材料仕様	壁 : ベニヤ下地クロス貼り 外壁 : 御影石野面仕上げ積み 外部床 : 錆石ブロック敷き 店内床 : ベニヤ下地ジュートン敷込み 巾木・天井 : 米松OS塗り				
作者による 作品解説	コンクリート打放しの空間の内側に部品のように仕掛けを嵌む たとえば深く重い黒御影石の床は鏡面状に磨かれることによって見る角度によっては天井の照明や床の上の物体を映し出し空間に上下関係の副次的効果を生む。 ごく普通の素材のごく普通の仕掛け(磨き上げ)が置かれる状況によってはその場の性格に偏心を与えることになる。 まる八の空間はそうした仕掛けのいくつかをコンクリート打放しの内側に部品のようにはめ込んでおりそれぞれの部品の表面が演じる強度の度合いを測ることがデザインのパフォーマンスであった。 (飯島 直樹)	作者による 作品解説	まず正面外装の仕上げ材を何にするかでした。それを契機として深入りしたといえる。店内の色調についても同様。その結果、外壁を御影石の野面積みを決めたが、その仕上げ材で入り口から店舗までトンネル状態のアプローチを作り、それも出来るだけ狭くし、その先に売り場を置く。ウィンドーの照明を自動化した。内部空間を占めるケース類を固定式とせず、可動式とし、時々配列度を変えることで店内の雰囲気を変えて使うことができるよう設計してある。(高橋 純治・建築家)				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	P19	年代	1979年	作品番号	P20	年代	1979年
建築名	ルナロード	用途	ヘアサロン	建築名	アゼリア	用途	バー
所在地	東京都渋谷区宇田川南15-1	商店建築	1979年6月号	所在地	東京都渋谷区北青山3-2-2	商店建築	1979年11月号 1981年9月号
工期	1979年2月1日～3月7日	面積	132m ²	工期	1979年7月2日～9月10日	面積	42.4m ²
材料仕様	床 : 200角タイル貼り 壁 : 亜鉛鉄板1.2目透貼り グレーベニミラー貼り 天井 : PBt=9 2枚貼り 巾木 : ステンレスヘアライン VP吹付け・イス・ベンチ : エクセース貼り その他 : クリヤミラーおよびダークミラー ステンレスヘアライン巻き	材料仕様	床 : モルタル下地黒御影石貼り (内装、床) : モルタル下地黒御影石貼り 壁 : スタック仕上げ (外装) : グレーベニガラスt=10 天井 : ラスガード下地スタック仕上げ 照明 : 特注間接照明・スチールメラミン焼き付け ベンチ・テーブル・バックバー : ローウッド 一部ステンレス丸パイプ横ルバーカウンター : 黒御影石				
作者による 作品解説	鏡の持つ「作動性」に空間をあげる 鏡の効用といえば、まず映ることによる媒介としての効用がある。人が鏡を見、自分の分身を見ること、この鏡の最も原始的な身振り。美容室の鏡は文字通りこの原始的な身振りを体現しているのだが、それは、たとえば座の空間という鏡の効用の空間への貢献といった風な手振(視線)にまみれて「空間」に順致する以前の、もっぱら映し出し視線をその表面に宙吊りにする鏡それ自身の作動性の体現ではないか。空間を部分と全体とが整合する有用性あるいは機能に依存させることよりも、部分の装置的な作動性、その全体に対する偏差の機構として捉えること。鏡の奇形性をそのままに放置し、その作動の高すところに空間を預けてしまうこと-空間-出来事企て。(飯島 直樹)	作者による 作品解説	デザイン論としては、数年間に手掛けたバーの話が1画面白い領域で文化等とそれぞれ説を立てたところでお互い深遠なりアトリーには事欠かない。裏を返せば、都市の環境計画あるいは商業空間の文化性、さらには地方文化の空間としての確立、等々、仕事、仕事といながら、あっちこっちとうろついているわけだけれども、つまるところこのデザインについての話におちつくわけがそこで評価が定まる。 考えて見ると、この数年間に数軒のバーをほぼ一年に一軒の割合で手掛けてきた。その数軒を順にしゃべることであれこれ決めつけられるのは、かなわない気もするけれど、いわれるままにたどって見たら、表現・技術に差があるにせよ、その類似性には、自分でも愕然とする。 思想、思想とはいながら、案外、ふるい記憶に沈着しているおぼろげな風景ともいようなことかも知れない。(杉本 貴志)				
図面・写真		図面・写真					

図5 P17~P20

作品番号	P21	年代	1979年	作品番号	P22	年代	1980年
建築名	フクダモーターズ	用途	車ショールーム	建築名	100%ファクトリー	用途	ブティック+美容院+サロンドイッチハウス
所在地	東京都港区赤坂2-10-10	商店建築	1980年4月号 1981年9月号	所在地	南取県米子角屋町1-27	商店建築	1981年2月号
工期	1979年9月25日～10月18日	面積	107.9㎡	工期	1980年4月10日～5月14日	面積	153㎡
材料仕様	外部床：モルタル下地 タイル貼り200角 (HS-2107-BL) 壁：亜鉛鉄板目透貼り 一部クリアミラー貼り 外壁：透明ガラススクリーン+12階部分一部スチールルーバー 天井：PBI-12 VP 塗装仕上げ 看板：スチールメラヤキ アクリル切文字 店頭プロセニウム：スチールメラヤキ 照明器具：基本照明・100Wダウンライト (大光D72-3843) 間接照明・FL40W×25本 バッグ収納：デコラ貼り ヘルメット展示棚：デコラ貼り カウンター：甲板・米松+50 藤・タイル貼り			床：ナラ材フローリング斜め貼 オイル拭き仕上げ 壁：ラスモルタル下地 しゃくい塗装&鉄板硝子 防錆仕上 一部ナラ材フローリング斜め貼 天井：既存天井撤去 軽石吹付仕上 巾木：スプルース材OP 吊パネル (ブティック用)：ステンレス板HL ディスプレイステージ：ステンレス板HL 円形テーブル&ベンチ：ナラ材ムク板寄せ斜め貼			
作者による作品解説	ハーレー・ダビッドソン・BMW・モトグッチなどの名車から国内各社のオートバイ、これらのマシンのショールーム兼ショッピングモールを兼ねた空間。各々の個性を持つマシンを一票に並べ、かつ美的に集められることなく、また何れもお客様にくつろいだ気持ちで心ゆくまでご覧いただけるショールーム兼ショッピングモールが欲しいと依頼を受け、設計。 今までオートバイショールームに対する概念を洗い直し、油のシミ一つ許されないような空間である。(福田晴次：オーナー)			商店街にあるごく普通の雑居ビルの二階に美容院、ブティック、サロンドイッチハウスの三店舗を経営的にも店舗の通りとしても一つの店舗展開して回らせようという企画。 全く別の三業種の寄せ集めが、一つの店舗展開を促すさまは、祭りの際の屋台の集合によって、騒動というまとまった商空間を形成する様子に似ている。実際に計画でも屋台の区画をしように150㎡の矩形の幅がりに線を引き並置することからはじまった。150㎡の幅がりを容納として設定し、全体におかれたり、宙につるされる装置部のカラーージュがそれぞれの機能を満たしながら、緑の境内のように一つに融合した場面を演出。 装置のカラーージュという、単純な手続きを介して、異なる業種の間に連続するランドスケープを与える試みであった。(スーパーボット/飯島直樹)			
図面・写真							
作品番号	P23	年代	1981年	作品番号	P24	年代	1981年
建築名	シルバートット	用途	カフェ	建築名	ショップスバイラル	用途	物販店
所在地	函館市梁川町9-3	商店建築	1981年11月号	所在地	東京都港区六本木5丁目17-1	商店建築	1981年11月号
工期	1981年1月15日～2月10日	面積	178.8㎡	工期	1981年8月31日～9月21日	面積	38㎡
材料仕様	床・巾木：ナラ材フローリング 壁：ラッカー塗装仕上 天井：PBI12下地 VP塗装仕上 (白) 照明器具：スチール曲げ加工メラミン樹脂付塗装 10Wタリア球内蔵 テーブル：甲板・サクラ集成材脚・ステンレス鏡面仕上 イス：アルフレックスAV-MGN&インターデコール カウンター：御影石 (黒) 本扉き130			床：黒御影石 壁・天井：PB白塗装 (水性) 照明：中央・KWハロゲンDL 壁面ボーダーライト・スチール折曲加工ハロゲン75W 500ピッチ 什器：t15強化ガラス脚部 米松漂白仕上および集梁仕上			
作者による作品解説	雪の前面にオープンした百貨店。その百貨店の全ての売り場を白いGRCの壁面で徹底して覆いつくすことを基本概念とした建築。シルバートットはマッシュパシオにおいて唯一「覗き見」することが許されたカフェテラス。つまり、建築の形態が発するイメージコンセプトのほかに、内部のショップイメージが街に露呈し、通りの人々とのコンタクトする唯一の接点として役割を果たす。 細長いテラスの天井は、エントランスから売り場の中心に至るメイン動線と天井照明と対応し光のトンネルを仕組んでいる。また、田中一光のデザインで壁面を色彩構成によるお面のレリーフで満たし、緩衝空間の空気を極力温める作業を施している。道にシークエンスを与えること、建築と雪との「白」と「白」の対比の中にミューチュアル・スペクテイター・シップ (見つけられつづの関係) を介入させることで建築の体内の温度を予感させる狙いがある。(新藤力)			「スバイラル」は様々な素材を高度な技術で加工し、高品質のオリジナルなインテリアアクセサリとして提案するショップである。比較的小さくて、大量にない商品をどう見せるか、ということがデザインのポイントとなった。マッスとしての材木をそのまま、空間の中に浮かせる手法で、空間に緊張感を与えるとともに、ディスプレイ棚としてのラインを明快に位置づけることとした。 また、商品は比較的質量が多いので、木の自然な肌合いとの対比も考慮している。 15ミリの強化ガラスを一部十字形にすることで、かなり重いムクの木材の全重量を支えている。(編集部)			
図面・写真							

図6 P21～P24

作品番号	P25	年代	1981年	作品番号	P26	年代	1981年
建築名	日本リクルートセンター銀座ビル ティーラウンジ	用途	ラウンジ	建築名	レディーボート	用途	バー
所在地	東京都中央区銀座8-4-17	商店建築	1981年11月号	所在地	神奈川県大和市中央2-4-4	商店建築	1982年1月号
工期	1981年3月20日～4月20日	面積	118.9m ²	工期	1981年9月7日～10月6日	面積	114.45m ²
材料仕様	床：大理石貼（白） 壁：大理石貼（白）&御影石ジェット仕上げ（黒） 天井：ステンレス鏡面パネル貼 厨房仕切りルーバー：ステンレスHL仕上げ プレート加工 下見板貼 特注天井スリット照明：ステンレス鏡面仕上げ	材料仕様	床：御影石（黒） 壁：コンクリート打放しサンダー仕上げ 厨房仕切り・御影石（黒） 丸テーブルルーバー・木下地 ラッカー吹付塗装仕上げ 天井：コンクリート打放しサンダー仕上げ 照明：天井・特注 スチール下地 メラニン地付塗装 ネオン管内蔵 バックパー・特注 蛍光アクリル スリム管内蔵				
作者による作品解説	リクルートビルのティーラウンジの設計は、ロビー環境のほとんどが建築計画として特づけられた後に、壁面の一部、家具、照明器具を算としましただけでかたち作ったものである。結果的に、壁面の一部、家具、照明器具のデザインワークであるが、単にパーツとしての家具や照明の設計ではなく、これらの部分からの働きかけによるロビー全体への顧慮と連関の接点にあらうじてインテリアの仕事*を成立させている。（飯島豊樹）	作者による作品解説	新宿から小田急線の急行に乗って約50分、大和駅に位置する。レディーボートは駅前ロータリーから少し横道に入った新築ビルの一階に位置し、階段を2.3段降りると、ガラス面ならんでツグの幅が5メートルのエントランスに沿って、向かい入ってくる。カウンターから中央の三段の御影石の階段を登ると円盤テーブルが並び、円盤を誘導するレーダーのごとくテーブルバックは同心円のルーバーがより一層テーブルの性格的な位置を引き立たせる。そのテーブル上のネオン光源は宇宙に浮遊する円盤が照らされているように、魅力的で神秘的な光				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	P27	年代	1981年	作品番号	P28	年代	1981年
建築名	モンジュ	用途	ジュエリーショップ	建築名	アイボリー	用途	ジュエリーショップ
所在地	愛知県名古屋市中村区名駅4-3-25	商店建築	1982年1月号	所在地	愛知県名古屋市中村区名駅4-3-25	商店建築	1982年1月号
工期	1981年9月20日～10月14日	面積	63.78m ²	工期	1981年9月20日～10月14日	面積	30m ²
材料仕様	床：赤ミカゲ右貼 一部カーペット敷 壁：赤ミカゲ右貼 ガラススクリーン&カラスステンレス（黒）貼 天井：PB下地 VP 接客椅子：皮貼 ガラスケース：枠・ステンレスHL	材料仕様	床：トラバーチン貼 壁：トラバーチン貼&色ラッカー吹付 天井：PB下地 VP カウンター：トラバーチン ガラスケース：枠・ステンレスHL 標：ステンレスHL				
作者による作品解説	人は「硬いもの」に対するどこか偏った憧れがある。その中で宝石は「硬いもの」の集まりで硬質なる事の美しさを物語っていると同時に、原石から磨かれ商品化される過程で、宝石はいくつかの神話の衣をまとうてゆく。宝石店はそんな神話の流通する場所であり、「硬いもの」物語がひそかに語られる場所である。ただ、多くは神話的な物語がハバをかき立てて、「硬いもの」物語は片隅に追いやられているのが実情。この店の設計では、店頭での販売よりショールーム的なあり様が求められたため、宝石の観せ方において、比較的宝石の「硬いもの」	作者による作品解説	アイボリーは名古屋駅前にあるシティホテルの二階ショッピングプラザ内に計画された。計画にあたり、ホテル側との環境的な立場での打ち合わせとともにクライアントの人間味ある具体的な店舗づくりへの打ち合わせを進めた。商品内容は象牙素材としての置物やアクセサリー類が主体である。今回の仕事は、物販店なので商品の性格を分析し、そのデータを基に商品の置き方、見え方を大事にし、デザイン作業を行った。デザイン作業をして完成した物は、良し悪しにかかわらず、現実に人間とのかかわりをもって存在する事実は、とてもスリリングな現象				
図面・写真		図面・写真					

図7 P25~P28

作品番号	P29	年代	1981年	作品番号	P30	年代	1981年
建築名	司	用途	日本料理店	建築名	目作	用途	日本料理店
所在地	東京都台東区神前2-31-7ビラゴリア地下2階	商店建築	1982年3月号	所在地	東京都台東区神前2-31-7ビラゴリア地下2階	商店建築	1982年3月号
工期	1981年9月25日～10月17日	面積	130㎡	工期	1981年9月20日～10月17日	面積	115㎡
材料仕様	床：カーペット敷 壁：タモ材練付け染色 ジュラク壁（和室） 天井：V P 照明：D L スリット照明特注 椅子：ジオボンティ（インターデコール） テーブル：トップ/白御影石 脚/スチールパイプメラミン焼付			床：真クロタイル（150角） 壁：米松練付け&シックイ壁&クロス貼（フジエキスタイル） 天井：V P 巾木：真クロタイル 照明：D L（大光電気） 椅子：特注品（アイデック） カウンター：米松練付けウレタン仕上			
作者による作品解説	表情と全体のバランスを保つために、各店に特有の表情を一度分解して、再度カラーージュする方法をとった。ある程度共通して使えそうな素材とディテールを任意に選び出し、ファサード相互のバランスを計り、あるいは予算に応じて加減したりして、それらの分布図を描くこと。いわば全体のゲームにゆだねる格好で各店のデザインが決定されている。 司は和食一般を食べさせる店であるが、和室を除いて格別和風の体をとっていない。白御影石とタモ材の質感、それに白と黒の配色で、「なんとなく和風」になっている。（飯島廣樹）			原意図としての和風。誰でも、自分の体験に置きがたく居る自分なりの和風の空間を持っている。布を振り回すだけで自然の一部を容れさせ濃密な空間を作る「障」には、機能的な空間区分以上に日本の空間意識の典型を見ることができる。特に日本のそれは、そのままの日本人の自然観、空間把握の仕方を示している。自然の文節。自然に分け入り、差異づける空間の原型。そんな自然との呼びにおいて、障幕の作る空間は、日本の空間意識のディビカルなあらわれであるといえる。（飯島廣樹）			
図面・写真							
作品番号	P31	年代	1982年	作品番号	P32	年代	1972年
建築名	ラジオ	用途	バー改装	建築名	テルース	用途	靴店
所在地	東京都渋谷区神宮前2-31-7ビラゴリア地下1階	商店建築	1982年7月号	所在地	東京都中央区銀座5-8-20コアビル地下1階	商店建築	1983年1月号
工期	1982年4月24日～5月16日	面積	32㎡	工期	1982年8月24日～9月2日	面積	74㎡
材料仕様	床：黒御影 本磨 壁：12.3および3.2鉄板 錆加工 ウォッシュプライマー塗装 C Lツヤ消仕上 天井：ルーバー・アルミ引抜き材 黒塗装 ドーム部分・鉄板 黒塗装 豆球650付灯 外壁：黒御影ジェット仕上 サイン・真鍮切文字 カウンター：桜 黒O S パックバー収納：桜焼付 黒O S			床：グレー御影石貼 一部ナラ材寄木貼 壁：グレー御影石貼&P B下地 色ラッカー吹付 絵画パネル・スチール板ペインティング仕上 天井：P B下地 V P仕上 巾木：堅木O P仕上 家具&カウンター：ナラ材&ラワン材寄木加工 什器：ラワン角材&透明ガラスBOXステー 照明器具：ビームダウンライト&ローボルトハロゲンダウンライト			
作者による作品解説	新しいラジオは、彫刻家の若林重さんの彫刻の壁で囲まれ、ソリッドな木材のテーブルが置かれる。やや薄暗い、鉄の壁は静かに詩を語り、テーブルは暖かく人の心を包む表情が存在している。人が彫刻を鑑賞するのを裏返したかのように彫刻が人を囲み込んでいる。照明は球体の胎内のようなオレンジ色の点を置き、これらのクリエイターの眺めを待ち構えているように見える。新「ラジオ」はかつて利休が茶に目指していた精神的空間への一つの糸口がかけられている。（たなか いっこう）			高い場所というのは、舞台のようなもの。交換という自体が、単に物と物、物と財貨の経済上の等価交換である以上に、物の象徴交換であり、人と人との相互作用であるから、元来が空居がかった。こうした非日常なコンテクストに変えられており、店舗は、いわばその舞台であるわけだ。 この店のスターは婦人靴で、ワキ役にバッグとプレタポルテという具合。いくつかの大道芸が台本に従って組み込まれた。客に飲物をサービスするディスプレイカウンターがBarの仕事を演ずれば、この立体的な大道芸の採算に絵画が描かれて、ギャラリーという場面が仕組まれるといったように。 絵画には絵画の自立した在りようがあり、対して我々は、この絵画が屏風のように空間に積極的に働きかける装置たることを目論んでいた。この差異は埋めようのない差異であるけれども、同時に大変スリリングで刺激的な台本でもあった。			
図面・写真							

図8 P29~P32

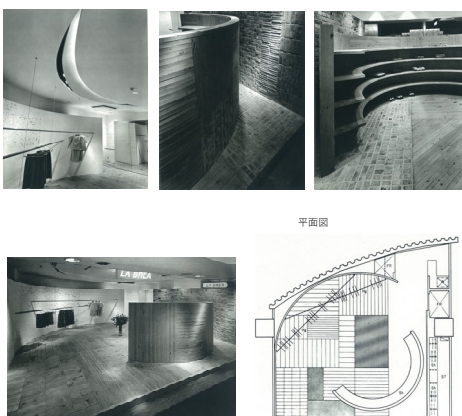
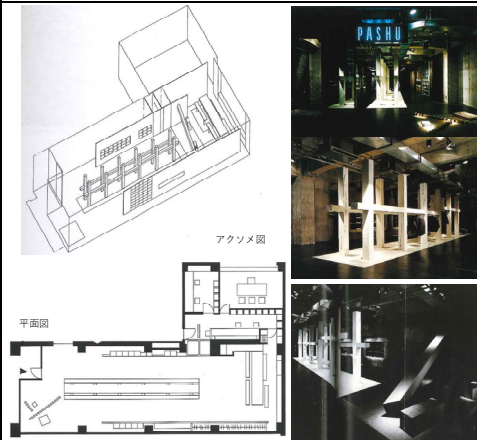
作品番号	P33	年代	1983年	作品番号	P34	年代	1983年
建築名	ラ・プレア	用途	ブティック	建築名	無印良品青山	用途	物販店
所在地	東京都渋谷区神宮前1-11-6ラフォーレ原宿3階	商店建築	1983年8月号	所在地	東京都港区南青山	商店建築	
工期	1983年5月9日～5月20日	面積	54.5㎡	工期		面積	
材料仕様	床：古木材乱貼ワックス仕上 一部古レンガ乱貼 壁：腐蝕鉄板EP塗装の上サンダーゲけ 一部古レンガ乱貼 (造紙解媒体材) 天井：P/B下地V/P塗装 一部型掘込 豆粒間接照明 照明器具：ウシオスペースス 半円型パーティション：古木材乱貼ワックス仕上 棚：松古木材ワックス仕上 サイン：スチールメラニン焼付 (照明内蔵)	材料仕様	床：古木材パターン張一部古レンガ張 壁：既存躯体の上塗装仕上げ一部古木材パターン張一部古レンガ張 天井：既存躯体のまま一部既成天井張				
作者による 作品解説	ファッションそのものが、過密化・先鋭化され豊富なカラーバリエーションやパターン、また異素材の組み合わせなどによって内容を濃くしている。「ラ・プレア」では、商品を念頭にいれず、空間を異素材に主眼を置き、風化した木や土などの自然材に加え、年月によって腐蝕した鉄という3要素のコラージュによりショップを演出している。 構成としては、2つのR壁と床につながる煉瓦壁で輪郭をつくり、それぞれを画面として素材を添附する。壁面は什器としての役割を果たすだけでなく、ショップ内の回遊性を促進し、パブリックゾーンとショップ空間を	作者による 作品解説	店内は、古木材、古レンガなどのいわゆる自然素材を再生し、素材の持つそれぞれのテクスチャーを組み合わせ、緊張感の表現を試みている。並行して、棚などの売り場の大半を占める機能以外に、荷葉桶、蓋籠といった、現在ではあまり日常的でなくなってしまうものを容器として再生させ、フレキシブルな機能、美しさの演出のための小道具として使用している。結果、全体的に形態感ではないラフな印象となっているが、商品群の持つイメージを共有できる売り場空間になり得たと思っている。<同本好可>				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	P35	年代	1983年	作品番号	P36	年代	1983年
建築名	パシュ札幌	用途	ブティック	建築名	パシュ ラボ	用途	ブティック
所在地	北海道札幌市中央区南三条西2丁目	商店建築	1983年7月号	所在地	東京都港区赤坂	商店建築	1983年10月号
工期	1983年2月13日～3月13日	面積	56.78㎡	工期	1983年7月1日～8月2日	面積	157㎡
材料仕様	(内装) 床：古木材乱貼OS塗装 乾燥後サンダー仕上 壁：古木材乱貼V/P塗装 一部腐蝕鉄板OP塗装 天井：P/B下地 V/P塗装仕上 照明器具：間接照明 20W/L取付 什器：棚板/古材OS塗装 一部OP塗装 カウンター・バックバー：古材OS塗装 一部OP塗装 (外装) 外壁・外部床：玄昌石貼 サイン：スチール照明内蔵	材料仕様	床：コンパネ下地 クリ古材 挽板貼 染色後ウレタン塗装 一部御影石本磨き、一部古鉄貼 壁：躯体 (スケルトン) コンクリート打放、軽鉄下地 コンパネ貼 古鉄板表面処理後ビス止 天井：躯体 (スケルトン) コンクリート打放 照明：直付DL ローボールテージSP SP一部特注スリット照明 その他：カウンター天板・クリ古材 挽板 集成 OS後オイルフィニッシュ カウンター壁・御影石本磨				
作者による 作品解説	「ポスト・モダン」以後、デザインにおける自由さ、という言葉が耳につくように思われる。自由というのはいったい何なのか。折にふれ、目にふれる言葉、あるいはそのように称する作品をみて、私には今もってそれが確のままである。 「デザイン上の立場」はともかくして、その空間の意味性という観点から現代デザインを考えてみると、まずは自己の文体とでもいべき構造体を支える言葉を持つ、推敲し、自分の言葉に化すべきなのは至極当然のことで、そうする努力を放棄することが自由といえるだろうか。形態を浮遊、連結させることで、むしろ狭隘な	作者による 作品解説	街づくりなど建築が社会の中でひとつのイメージメーカーだったときがあるが、今、その役割をコモディティが負いはじめている。最近の建築の考え方というのはつくづく形面性が強いと思う。□□△といった形態の意味論に熱中しているようである。 現在マテリアルは防災・環境面で細小制限されてきている。手持ちの素材で扱い方を変えていく方法はこれからも探求していく価値はあると思う。木は東北の民家を解体したものを半年ぐらいかけて集めた。鉄板は専門のスクラップ屋からプレスしてのばしたものを買ってきたため、意外とローコストである。				
図面・写真		図面・写真					

図9 P33~P36

作品番号	P37	年代	1983年	作品番号	P38	年代	1983年
建築名	無印良品アメリカ村	用途	物販店	建築名	オールドニュー	用途	カフェ&バー
所在地	大阪府大阪市南区南茨屋町38-2	商店建築	1984年4月号	所在地	東京都豊島区南池袋1-25東京観光ビル地下1階	商店建築	1984年2月号
工期	1983年3月20日～7月5日	面積	348㎡ (1階 176㎡/2階 172㎡)	工期	1983年11月10日～11月28日	面積	228㎡ (うち厨房37.3㎡)
材料仕様	床：米松集成材フローリング貼 壁：コンクリート打放 天井：PB下地AEP仕上 家具：米松CL仕上	材料仕様	床：コンパネ下地 松吉材洗板乱貼染色後CL塗装 一部黒御影石(赤・黒)ジェット仕上上げ 一部腐食鉄板乱貼W仕上 壁：躯体CR打放 本軸下地コンパネ貼 腐食鉄板表面処理後乱貼 一部赤御影石ジェット仕上上げ 天井：躯体CR打放 ダクト預OP塗装 照明器具：ローボルトLEDSP 大型サーチライト カウンター上部・特注スリット照明 家具：カウンター天板・桜陰集成材OSCL 壁・黒御影石ジェット仕上 丸テーブル天板&ベンチシート 桜陰集成材OSCL バックバー上部収納扉・南洋材(ピンカ) CL塗装				
作者による 作品解説	建物の2階部分を壁にし、面の意識を強く出し、古レンガをパターン的に貼ることで、ファサードに表情を与えた。エントランス部分では吹き抜けを作り、縦軸に対しての視覚的なつながりを取り入れている。店内は、躯体をフレキシブルボードで被覆させ、モントーンの空間として扱え、その中に古木材、古レンガなどのいわゆる自然素材を再生して、床、壁、棚などに使用している。そのほかに亜鉛鉄板、腐食した鉄などを使い、素材の持つそれぞれのテクスチャーを組み合わせ、緊張感の表現を試みている。並行して、棚などの売り場の大半を占める機能以外に、	作者による 作品解説	空間は時間や左右されるものではない、とはいえないが、この店名は偶然ながら、今の僕の空間への考え方、興味の持ち方を言い当てている。この数年來、空間の情報性ということが注目されているのだが、どういっわけか表現された、そのことについてゆっくり考え、吟味する前に、類似のものが集積された一つの様式として行くという、極めて奇妙な現象が存在するようには僕には思える。他者の地平をうかがうことではなく、自分のそれを冷静に見つめるという意味で、本来デザインは徹底的に孤立的な作業である。言い換えると、自己と他者には明確な思维的な開				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	P39	年代	1983年	作品番号	P40	年代	1983年
建築名	セウ	用途	バー	建築名	ビギン山ビル %th club & TAKEO KIKUC	用途	ブティック
所在地	東京都港区赤坂2-13-8 赤坂ロイヤルプラザB1F	商店建築	1983年10月号	所在地	東京都港区南青山6-6-22	商店建築	1983年11月号
工期	1983年1月10日～2月8日	面積	43㎡ (うち厨房7.2㎡)	工期	1983年6月20日～8月30日	面積	188 (フィフスフロア) 73.34㎡/2階 (サウナ&クラブ) 73.34㎡
材料仕様	床：カーペット敷 壁：木製(スプルース)ルーバー染色CL仕上 一部収納 壁面ソラード塗装仕上 天井：PB下地 パテ処理 VP (白) 塗装仕上 照明器具：スチールR型ルーバー 豆球取付 家具：カウンター/ブナ吉村集成材 染色ウレタン塗装	材料仕様	(1階・フィフスフロア内装) 床：RC洗出 一部松吉材乱貼ワックス仕上 壁：亜鉛鉄板1-1.6希塩酸塗布CL&松吉材乱貼ワックス仕上 一部RC打放 天井：PB下地 パテVP塗装(白) 棚板：松吉材集成材ワックス仕上 スリムライン間接照明 カウンター：甲板・黒御影石バーナー仕上 壁・RC打放ハツリ仕上 (2階・タケオキチ青山内装)				
作者による 作品解説	飲み屋の仕事は楽しんでやることを身上にしています。飲んでいる時の空間という意味は物理的な状況だけではないということは、飲む人ならすぐわかります。酒飲どころを選ばずの通りですが、多少人を選ぶことはあるようです。その飲み屋なりの人を選ぶのが空間の役割ということでしょうか。ここでハスプレス材を10色あまりに染色し、わずかにサンダーが消して淡い色調にしたルーバーでバックバー廻りの壁面を点描画のように構成しています。	作者による 作品解説	最近、テナント出店という形態が、建物のずさんな計画もあって、環境として見る限りアバシ化が著しい。コンクリートの箱の中に押し込められた平屋のようなコマ割りの空間は、インテリアデザインの工夫の際こそあれ、魅力的な環境とは程遠い。フィフスフロアは大規模ビル内に較べると、防災制限が緩やかなこと、天井面に複雑な設備の網羅を要しないこと、加えて天井がかなり高いこと等、路面店でしか入らない空間があらかじめ用意されていた。ただ、このあらかじめの条件には、6本の構造柱が活かされていた。室内に配された6本の円柱は、すでに				
図面・写真		図面・写真					

図10 P37~P40

作品番号	P41	年代	1984年	作品番号	P42	年代	1984年
建築名	パシュ井ファッション館	用途	ブティック	建築名	ビーイン	用途	バー
所在地	東京都新宿区新大塚3-30-16丸井新大塚ファッション館2階	商店建築	1984年7月号	所在地	大阪府大阪市南区東津波水町29番地	商店建築	1984年8月号
工期	1984年2月7日～2月10日	面積	28.05㎡	工期	1984年4月10日～6月10日	面積	1階 83.2㎡/2階 36.94㎡
材料仕様	床：白ラワン黒染色仕上 壁：一部亜鉛鉄板希塩酸処理CL仕上 天井：ジブトーン 巾木：コンパネ塗装（グレー） 什器：ハンガーパイプ スチール亜鉛メッキ仕上			材料仕様	床：1階 木染色仕上&黒御影石ジェット仕上/木染色仕上&亜鉛鉄板仕上 壁：1階 白塗装仕上/2階 レリーフ 天井：白塗装仕上 巾木：木染色仕上&黒御影石ジェット仕上 照明器具：DL（ユニバーサル型/大光電機） カウンター：ウォールナットワックス仕上		
作者による 作品解説	対等したいくつかのブティックの並びにあるこの空間を考えていく場合、一列に並んだブティックをどのようにして他店と差別化し、独自の世界を切り拓くかという点に我々の仕事は終始した。その結果として、単純なシンメトリーというものが、浮かび上がった。まず床だが、過度な緊張感を与えるために、1000mm/立ち上げた、このブース全体をステージとして扱った。このステージ上に3枚の亜鉛鉄板でできた壁でシンメトリーを構成した。この壁は、亜鉛鉄板を色々に貼りわけ、ビス止めとし、表情を作っている。この壁に大きな穴を開け、その中に機能を入れ込んでいる。3つの壁で空間をシンメトリーに囲んで内包し、さらに真ん中の軸線上にハンガーパイプを立てている。造形的処理を単純なシンメトリーの構造の中に消し去ることで、逆に様々な商品が、この環境の中から突出する効果を狙ったものである。<清田博典>			作者による 作品解説	この仕事は、'82「Radio」、'83「Pashu」、'84「Be-in」とつづく、三つの連続した計画として、ぼくの内にあった。この数年來、我々の周辺環境は、急速に変遷されたというか（途上かもしれないが）、デザイン化されつつあるとも言える。当然、ぼくも、その渦中から、発奮し、仕事を生かしてきているのだけれども、ずいぶん以前から、それに逆らう気持ちがあることも気づいていた。デパートの食品売り場より、下町の市場の方が馴染むし、カフェより、駅前の飲み屋だったり、寿司屋だったり、デザインという概念は同時に、そうでない部分も引きずってくるような気がする。それは、多分、一斉に陽がさして来たときに、それまで慣れた闇を振り返ることかもしれない。しかし、未知なものは闇の中にこそあるような気がしてならない。自分の内に存在する、なんたかよくわからないもの-未知-を切り出して空間化することが、この三つの仕事につながっている。		
図面・写真				図面・写真			
作品番号	P43	年代	1984年	作品番号	P44	年代	1984年
建築名	ジュン メン パルコ1店	用途	バー	建築名	木乃花	用途	バー
所在地	東京都渋谷区宇田川町15-1パルコ15階	商店建築	1984年12月号	所在地	東京都渋谷区宇田川町9-16-9パブパルコ4階	商店建築	1985年2月号
工期	1984年4月12日～4月26日	面積	75.8㎡	工期	1984年10月29日～11月30日	面積	158.1㎡（うち厨房21.8㎡）
材料仕様	床：黒御影石ジェット仕上 一部御影石本磨き&コンパネ下地 亜鉛鉄板 壁：モルタル金網仕上&スプレー材換色ルーバー加工 &亜鉛メッキ板（希塩酸処理）加工平ビス止 照明：DL・ハロゲン75W（ユニバーサル） スクリーン：亜鉛メッキ板（希塩酸処理）加工			材料仕様	床：大谷石貼 黒御影石貼 壁：シクイ壁 彫刻・ナラ材染色仕上 天井：PB下地パテVP 照明器具：ウルトラスーパービーム スケルトンスポット スーパービーム ハロゲンDL		
作者による 作品解説	23坪ほどの敷地は3方向を壁で囲まれた不定形をなしており、柱を持つ広い開口が通路に面していた。まずこの孤立した構造柱に6m近いスチールのパーティションを絡ませることで新たな面を創り出した。このパネルにより二分された空間は視覚を操りコントロールし、ファードに表情を與、またディスプレイスペースと店内での売り場機能を持つ壁面となっている。このように平面上はスクエアに捉えることで定形に近い空間の印象を与えるように整理したうえで、それぞれの面に対してエッセンスとしての素材を幾つか詰め込んでいる。床は黒御影のジェット仕上と本磨きの仕組み合わせ。壁面はコンクリートに設置させた木製ルーバーにプレーナ加工したものを使用している。亜鉛鉄板の使い方も製品のままの仕上げでなく、希塩酸を塗布することで亜鉛メッキされた表面に反応を起こさせ、さらにルーバーで磨き、より暖かな表情を創り出している。<岡本好司>			作者による 作品解説	作家の作品を素材化し、空間化する。The Bar「木乃花」という名で、この店は渋谷パルコ4階にオープンした。今回は積極的に作家を素材化し、空間化することを試みた。作品が作られて、周囲とうまく調和するのは、危険なことであると思う。それを避けるには、周囲から作品に移っていくところの境界面である表面を、はっきりしなければならない。あるいは、ぼやかさなければいけないのだ、と思う。作品では、表面は重要な問題である。そこそこ意識を集中させて、調和を避ける一方法を見つけなければならない、と思う。確かに、それまで自分の記憶していたものを通り越して、集中的な1点を見つけたように思えることがあれば、その1点だけで充分である。<高橋昌司>		
図面・写真				図面・写真			

図11 P41~P44


作品番号	P45	年代	1984年	作品番号	P46	年代	1985年
建築名	EX	用途	カフェ&バー	建築名	青山ティオー ジュンメン	用途	プチック
所在地	東京都渋谷区渋谷	商店建築	1985年2月号	所在地	東京都港区青山	商店建築	1985年6月号
工期		面積	403㎡	工期	1985年1月15日～2月28日	面積	121.53㎡
材料仕様	床・壁：黒御影石及び白御影石ジェット及び磨き うすくりウレタンツヤ消し 各種タイル ガラス 大理石 古鉄結 天井：躯体コンクリート打放			材料仕様	床：黒御影石貼りパーナー仕上 一部スチール平ビス止め磨き加工工2.3ウレタン塗装仕上 壁：コンクリート打放し&コンクリートブロック&古鉄磨き板平ビス止めCLツヤ消し仕上 スチールパイプルーバー磨き仕上 土壁 古材染色仕上タギ打ち止め 天井：コンクリート打放し 照明器具：ハロゲンスポット ローボルトハロゲンスポット 一部スリムライン（昼光色&ブルー）間接光		
作者による 作品解説	文章で自分の考えを表すことは、僕にとって至難の業である。年を経るに従い、高度に、複雑に進化しているようで、それらもろもろを、うまく表現するがキャパリティーを自分でみつけないと、自分の内部の風景を選びながら楽しむ、あるいははきむことになるのだろうが、1人で仕事をするとは、その風景へのコンストラクションを行うことになる。1人の人間として、やさしく、案に軽く存在したいのに、反対に危険で野蛮な思惟をひそかに置くことといえるかもしれない。			作者による 作品解説	階段を利用したスキップフロア構成になっているコンクリート打放しの空間。安藤忠雄独自の空間と呼応する方向で、売り場の動線も計画されており、豊富なレイアウトになっている。これに垂直、水平に空間を貫通するスチールタイプを付加することで、空気の流れを強くし、さらに空気だまりをかき混ぜる効果を与える。 内装の素材もそれぞれの素材の持つ表情を空間の中に散りばめてリズムを与えている。また、間接光、点光源を持ち込み、空間の中に共通した視覚的一体感を取り込むようにした。全体として、「空間を肌で感じる空気を作り出すこと」に終始した。		
図面・写真				図面・写真			
作品番号	P47	年代	1985年	作品番号	P48	年代	1985年
建築名	オールド・ニュー 北白河店	用途	レストラン	建築名	オールド・ニュー 田園調布店	用途	レストラン
所在地	京都府	商店建築	1985年6月号	所在地	東京都大田区田園調布	商店建築	1985年7月号
工期	1984年12月25日～1985年3月17日	面積	98.82㎡	工期	1984年12月1日～1985年5月4日	面積	938.34㎡
材料仕様	床：モルタル洗出し 古レンガ貼り 株駒席/アメリカンアッシュ材フローリング貼り 染色仕上 壁：モルタル掻落し 古レンガ貼り PB 白ツヤ消し塗装 天井：PB 白ツヤ消し塗装 照明：DL スポットライト 家具：テーブル/タモ継付板木染色仕上			材料仕様	床：御影石 フローリング 玉砂利洗出し 壁：木製パネル 古レンガシクイ 玉砂利洗出し 天井：PB貼りVP仕上 RC打放し 照明：DL スポットライト 家具：カッシーナジャパン（リマ、レオナルド） アンビエント（ノト）他		
作者による 作品解説	外食産業はメニュー、味、環境の演出で他にないものが求められ、多種多様を競っている。この差異の度合いのポテンシャルは昔の食堂と比べてはならない。しかし、外食の持っている非日常性と変遷しつみた体験を満足させるというコンセプトはまちの食堂から最新のレストランまで感応して変わらない。「ゲストハウス オールド・ニュー」はレストランの古い方法としても目新しい。新しいメニュー開発と環境のアップデートに包まれるスケルトンを抽出すれば、デパートの食堂と同様、メニューと環境のコンロマリット化であるから文字通り古くて新しい。周辺に同様の店舗が立ち並ぶ中で差異化の道標をどこに求めるかももちろんあったが、原型たるデパートの食堂は仲々イマイという気持ちも懐いていたことは確かだ。			作者による 作品解説	いくつかの業態のコンプレックスとそのコンプレックスの環境的な解の方法も北白河店に準拠している。一戸建ての店舗で、建物のデザインがダイロジカルな家（面）の縁相を見ていることだ。字義通りゲストハウスというべき露骨的な表現になっている。内部はあらかじめ業態を想定して区分されていたので、各ブロックの分節がよりはっきりしている。しかし、各ブロックは同一店舗の中で相互補完的な役割を果たしており、環境面でのコンプレックスが必要不可欠であった。使用する素材を互いに横断させること、RC造の構造と表面を積極的な内装材として組み入れることなど共通項として、各ブロック個別のデザインで多くを語らずに複合する全体で語ることを心がけた。		
図面・写真				図面・写真			

図12 P45~P48

作品番号	P49	年代	1985年	作品番号	P50	年代	1986年
建築名	セットオフ	用途	バー	建築名	バセットウォーカー 新宿店	用途	ブティック
所在地	東京都新宿区	商店建築	1986年2月	所在地	東京都新宿区	商店建築	1986年8月
工期	1985年10月1日～11月25日	面積	87.7㎡	工期	1986年3月10日～4月10日	面積	55.8㎡
材料仕様	床 : 1階/黒御影石貼りジェット仕上 2階/スチール板亜鉛メッキ稀塩酸処理CL&アメリカンアッシュ W150フローリング黒染色ウレタン 壁 : 1階/ウォールナットつき板貼り染色CL 一部黒御影石貼りジェット仕上 2階/黒塗装古鉄板貼り亜鉛メッキ稀塩酸処理CLパネ貼り 天井 : 軽鉄組みPB下地AEP 一部波板鉄板OP 照明 : 大光電機			床 : インド砂岩貼り 古材貼り 壁 : モルタルかき落し 一部亜鉛鉄板稀塩酸処理スチール下地メラミン換付塗装 天井 : コンクリート打放しのまま 照明 : ハロゲンスポット メタルハライドスポット 家具 : 古材、チーク材、ナラ材にヤスリ、サンダーがけの上染色、一部クリアラッカー吹付け			
作者による作品解説	新たに階段を作り、内部に吹き抜けを持たせることで1階と2階の独立したスペースを一つにまとめることからプランを始めた。1階はカウンターのみバー、2階はカウンターと丸テーブルの2要素の空間。ファサードは100角の面格子のより、外部の光を吹き抜けと客席に取り入れる装置を組み込んだ。素材は1階で石や木の構成で落ち着いた雰囲気を出し、2階は丸テーブルを囲むグレーゾーンとカウンターを含むブラックゾーンで作られた。			3階、3mに満たない開口のため、大型店に挟まれた印象の一角に立地している。与えられたなお客層もないロケーションや面積に対して、空間としての意志、意識を新たに表現することを試みた。具体的に、2階の半分近くをポイドとすることで免責不足が生じたが、補う空間・質の変化を主要な方向としている。店舗として必要な要件を明確にする過程で、線としてスチールロッドを中心に放射させ、各部と空間の関係を生じさせ、緊張・空気感を表す。組み合わせは別にしても、ここで用いた素材は特に新しいものではない。手による作業や探すための時間的なロスのような見えない工程を持つ素材に光、ディテールなどを加味させて、それぞれの表情を取り込むことでイメージの味付けを完了させている。			
図面・写真							
作品番号	P51	年代	1986年	作品番号	P52	年代	1986年
建築名	イー.エム.エイ	用途	バー	建築名	ヒロコオム	用途	ブティック
所在地	東京都港区六本木	商店建築	1986年10月	所在地	大阪府	商店建築	1987年2月号
工期	1986年6月1日～6月24日	面積	35㎡	工期	1986年8月13日～8月27日	面積	89.1㎡
材料仕様	床 & 壁 : 黒御影石ジェット仕上 一部黒御影石本磨き仕上 壁 : スチール磨き仕上 サビ鉄板CLツヤ消し 一部亜鉛メッキ加工 天井 : コンクリートあらわし ステンレスワイヤー張り 照明 : スポットライト 家具 : テーブル&ベンチ・くるみ材染色仕上 OS カウンター・黒御影石本磨き仕上			床 : 黒御影石ジェット仕上 壁 : コンクリート打放し コンクリートブロック積み 天井 : コンクリート打放し 照明 : スポットライト 家具 : ウォールナットムク材 OS 銅板緑青仕上の上CL			
作者による作品解説				今までのブティックにない大胆な切り口により贅沢な空間の使い方を試み、他店舗と差別化された。カウンター、コーディネートテーブルを兼ねた棚、逆側にスチールのハンガー機能および空間の両端を位置付ける関係を持たせるワイヤー、そして銅板の緑青仕上を表面に露出させた収納棚の3点で具体的に成り立っている。空間をナタでスバツと切り込んだものをポイントだけ少々切り刻んでいき、最後に薬味を入れて仕上げた空間。			
図面・写真							

図 13 P49~P52

作品番号	P53	年代	1986年	作品番号	P54	年代	1986年
建築名	上野 ティーオー	用途	ブティック	建築名	春&秋	用途	レストラン
所在地	東京都台東区上野	商店建築	1986年12月	所在地	東京都世田谷区三軒1丁目3-22	商店建築	1991年4月号
工期		面積	424.62㎡	工期	1986年8月20日～10月20日	面積	春79.2㎡ (厨房9㎡) 秋66㎡ (厨房5㎡)
材料仕様	床 : 1階/黒御影石バーナー仕上 箱田御影石バーナー仕上 2階/黒御影石バーナー仕上 3階/黒御影石バーナー仕上 4階/モザイクタイル貼り 5階/鏡孔峯石貼り 壁 : 1階/コンクリート打放し 2階/コンクリート下地漆喰塗り スチール焼付け塗装 (ボンスウェード塗装) 3階/コンクリート打放し スチール焼付け塗装 (ボンスウェード塗装) 4階/コンクリート下地VP	材料仕様	床 : 松材チョウナ仕上染色 御影石貼り分け 外部床 : : 壁 : コンクリート打放し 古鉄板貼り 天井 : コンクリート打放し 外壁 : コンクリート打放し 網入りガラス スチールサッシュ その他 : スチールメラミン焼付け1.6mmつや消し仕上 白アクリル切文字取り付け (FL内蔵) 配線ダクト式スポットライト (ハロゲンランプ/大光電機) 米松材 クルミ材チョウナ仕上染色				
作者による 作品解説	「ティーオー」は広小路に面した比較的多岐な街並みの中に立地しており、決して快適とは言えない回りの景観の中で白く塗装されている。歩道から少し戻って始まる1本の階段は4階の広場 (中庭に近い) へとつながり、この広場は5階への折り返し地点にある。光・風・緑といった自然が取り込まれており、(路地) 一広場 (中庭) 典型的で明快なまちのイメージを具体化している。 1階から3階にショップ、4階の広場にはカフェ、5階の事務所スペースへと続く階段が併設されている。このように一つの半ば閉じられた空間の中に (物販) - (飲食) -	作者による 作品解説	渋谷から三軒茶屋に向かう途中、三宮の交差点から少し入った住宅地にある「食」と「飲」の店。店内の極力単純な構成、および木、鉄、石という素材感は一貫しているが、木の中でも「春」は柔らかな松を使い、「秋」は堅い栗を使うといった材料の選定や「春」は茶系の染色、「秋」は黒系の染色をすることによってそれぞれ明確に区別し、バーの落ち着きを性格づけた。 チョウナ名人の松井氏があらゆる木部にチョウナを施す。(新藤 力)				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	P55	年代	1986年	作品番号	P56	年代	1987
建築名	オールドニュー六甲	用途	ゲストハウス	建築名	オールドニュー吉祥寺店	用途	カフェ&バー
所在地	兵庫県神戸市灘区六甲台6-2	商店建築	1987年5月号	所在地	東京都品川区吉祥寺本町1丁目1-1 旧ノボビルビル地下1階	商店建築	1988年4月号
工期	1985年11月30日～1986年12月23日	面積	806.49㎡ (うち厨房110㎡)	工期	1987年10月20日～12月1日	面積	247㎡ (うち厨房83㎡)
材料仕様	外部床 : 黒御影石貼り125ジェット仕上 外壁 : 合板型枠コンクリート打放し防水剤塗布 サッシュ : スチール防錆処理マリンペイント塗布 屋根 : スチールパネル貼り1.6 防錆処理フッ化樹脂塗料塗布	材料仕様	床 : 黒御影石本磨き仕上及びジェットバーナー仕上一部南洋材フローリングOS 壁 : モルタルかき落とし 鉄板錆出しの上サンドペーパー研磨CL 一部亜鉛メッキ希塩酸処理CL 亀甲形テションバー/スチールロッドφ6バーカラーライジング処理 天井 : PB下地VP吹付け 一部既存躯体のまま テションバー/スチールロッドφ6バーカラーライジング処理				
作者による 作品解説	空間を分析し連絡する中庭と回廊オールドニューは阪急六甲駅から山側へ15分ばかり歩いたところに建つレストラン・カフェ等の飲食のための複合商業施設である。建築の2階のバーからは、遙かに海のきらめきを見ることが出来る。 建築は、四つのレストランスペースが中央のヴォイドによって、分析されつつも連続している構成になっている。一階では、エントランスにつづく中庭とホールによって、イタリアン・レストランとカフェとの2つの空間が分析されている。2階では、そのホールの上部に架かる回廊が、和食とバーとを連続させている。(安藤)	作者による 作品解説	単独業態では4店舗を数える「カフェバー・オールドニュー」は、時間の経過により形態的な変化をするが、他店同様、その根底にあるテーマはいつも変わらない。内部を形態の異なる三つのコーナーに分け、飲食機能を持つ各エレメントを記号化してレイアウトし、コンクリート打放しのロフト空間に特異素材をカラーージュする。金属や天然木の腐材で構成された空間はやや重厚な印象を感じさせるが、今回は縦横に張りめぐらされたφ6mmのスチールロッドで独立しながらスペースとパーツを関与させ、視線の導入を促し、重い空気を弾き飛ばす。このデフォ				
図面・写真		図面・写真					

図14 P53~P56

作品番号	P57	年代	1987年	作品番号	P58	年代	1988年
建築名	オールドニュー新館ルミネ店	用途	カフェ&バー	建築名	バジュ松山	用途	ブティック
所在地	東京都新宿区新宿3丁目38-2	商店建築	1988年4月号	所在地	愛知県松山市一番町2丁目3	商店建築	1988年4月号
工期	1987年	面積	300㎡	工期	1983年11月17日～11月30日	面積	25㎡
材料仕様	床：石張り、フローリング張り 壁：鉄板張り、特殊塗装 天井AEP塗装、一部鉄板張り			材料仕様	床：黒御影石バーナー仕上 壁：黒御影石バーナー仕上 天井：軽鉄骨PBt12下地VP レジ、包装台、ストック、フィッティングルーム：木下地亜鉛鉄板平ビス貼りの上スチールメッシュ取り付け 棚：スチールプレートt1.6折曲げ加工パーカラライジング処理		
作者による作品解説	壁、天井とも単純な構成の面で包む 空間の構成は、それぞれの店舗を不透明、あるいは透過性のある面の組み合わせで仕切り、確固たる区画割りの意識を和らげて、面積の広がりや異なる空間の関連づけをしている。店内も、壁、天井ともに単純に構成された面で包み込み、視認面の粗度をあげ、重量感のある素材を用いながら静謐で冷たい空間にならぬよう務めた。 (小倉 義行)			作者による作品解説	メッシュで被覆された異なる機能を持つ4本の立方体ほぼ正方形の床面を持ち、3方向を壁で仕切られた約8坪のコンパクトな区画である。ハンガー、棚というボリュームを持つ機能を壁面に付置させているが、与えられた3つの壁面と床面を同一の黒御影石の素材で仕上げることでスケアな空間をそのまま表示している。 本来、バックヤードで処理することが一般的なストック、あるいはフィッティングルーム、レジまわり、包装台をそれぞれ分離させて、モジュールを同一にした立方体の中に取り込み、同一のメッシュで被覆し、異なる機能を持つ4本の立方		
図面・写真				図面・写真			
作品番号	P59	年代	1988年	作品番号	P60	年代	1989年
建築名	セプトレーディングホールーム	用途	ショールーム	建築名	オールド イン	用途	バー
所在地	東京都港区赤坂2丁目8-3	商店建築	1988年8月号	所在地	京都府京都市中京区三条通り河原町東入ル中橋	商店建築	1989年11月号
工期	1988年3月17日～5月2日	面積	1階245㎡ 2階137㎡ 合計382㎡	工期	1989年2月20日～4月10日	面積	
材料仕様	床：1階/黒御影石ジェットバーナー仕上 2階/黒御影石本磨き 大理石本磨き ウォルナットフローリングOS 壁：1階/黒御影石ジェットバーナー仕上 一部スチールパネルウレタン系塗装 (ボンヌウエード/武蔵塗料) 2階/黒御影石本磨き 大理石本磨き 天井：1階/コンクリート打放しのみ 2階/PBt=9クロス貼り その他：固定枠スチール角パイプ20×50 亜鉛メッキ希塩酸処理CL スチールパイプφ15・φ25亜鉛メッキ希塩酸処理CL φ35クロムメッキ ウォルナットムク材OS			材料仕様	床：コンパネ下地松古材フローリング貼り 一部大谷石・耐火レンガパターン貼り 壁：躯体コンクリート打放し 一部大谷石貼り 格子スクリーン/タモ材染色CL仕上 柱巻/モルタル金ゴテ押え 一部軽鉄骨下地ラスモルタル金ゴテ押え 天井：躯体コンクリート打放し 家具：アンティーク家具 (アイビー・インターナショナル) 大テーブル・ベンチシート・カウンター/ウォルナット材染色CL仕上		
作者による作品解説	「城」を発生させる透過スクリーン一階において抽象化されたストックに記されたスチールパイプのスクリーンはスタジオ的にもロケ的にも見えるが、実は半分可視化された屏風として製品群をその関連によって区切り、回遊する人々のシルエットを写し出す。透過性を持たせ、角度を揃えることによって空間の広がりを視覚化させ、区画によって存在自体を認知させた空間よりも、設置された展示品の「城」を発生させる装置なのである。2階でも基本的な考えは変わらず、個々の主要な強いクラシックな製品群に、角度を揃った共通の展示壁を付けることによって、			作者による作品解説	安心感やゆとりとした内空間を得るためにスクリーンを設けている。上階にあるバー「オネサイト」と手法は同様だが、「オネサイト」が硬質な金属パイプで骨格を形成したのに対して、「オールド イン」では木製で開口率の低い格子状のパターンで、より外景の侵入を遮断している。 店内の中央には、マントルピースを配し、テーブル、椅子、収納棚や壁は、イギリスから仕入れたかなり年数がたった骨董品である。単なる懐古趣味なコピー空間にならぬよう、天井や壁面はコンクリートの躯体を打放しの状態でスタジオ内に設定した「イギリス風民家のリビ		
図面・写真				図面・写真			

図15 P57~P60

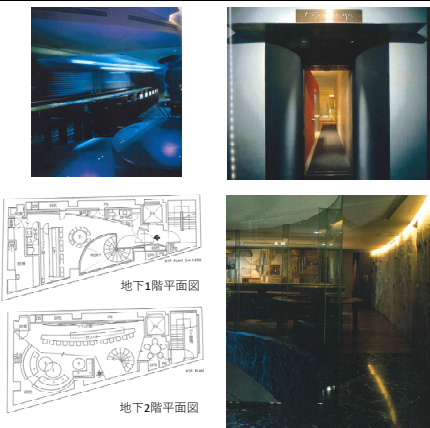
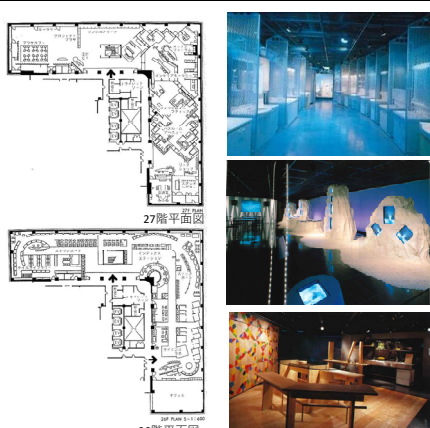
作品番号	P61	年代	1989年	作品番号	P62	年代	1989年
建築名	セット オフ ノイ	用途	バー	建築名	TOTOスーパースペース	用途	ショールーム
所在地	東京都新宿区新宿3丁目27-5	商店建築	1990年4月号	所在地	東京都新宿区新宿1丁目6-1	商店建築	1990年1月号
工期	1989年9月1日~10月20日	面積	173.2㎡ (うち厨房17.4㎡)	工期	1989年9月1日~10月31日	面積	2583.0㎡
材料仕様	床 : 地下1階/蛇紋岩125本磨き貼リ ナラフローリング染色ウレタンCL 地下2階/蛇紋岩125本磨き貼リ 壁 : 地下1階/白御影石140~150削岩機加工 一部モルタル掻落し 地下2階/蛇紋岩125本磨き貼リ 一部スチール板12.3パニング加工ウレタン系塗装 (ボンスエード/武蔵塗料) その他: ウォールナット無垢材ウレタンCL 吉材&ウォールナット無垢材&アンティーク部品 コラージュ貼リ 蛇紋岩125本磨き貼リ フロントガラス119	材料仕様	床 : 躯体床CL防塵塗装仕上 デッキ部/コンパネ下地ラバータイル貼リ (ニチマン) 壁 : PBR 12下地VP仕上 一部波板鉄板希希龍処理CL仕上 スクリーンパニングメタルメタリック焼付け塗装仕上げ 天井 : 躯体天井AEP吹付け仕上 スチールメッシュシステム天井メラミン焼付け塗装 一部躯体焼付け塗装 照明器具: 大光電機 ウシオスベック 家具 : カッシーナジャパン アンビエンテイインターナショナル				
作者による 作品解説	自然素材&光空間アプローチの階段に、自然のままの肌影の黒御影石を使い、地下空間へのプロフィールを設けている。店内は、地下1階と地下2階の二層にわかれて、地下1階は木と石という自然素材を用いている。木は、吉材・ウォールナットの無垢材・アンティーク部品を集積し、石は自然石をもう一度削岩機で削るといった作業を加えて、新たな素材を作り出した。それにより、木と石が今までは表しえなかったおのの性格を醸し出す空間ができた。光を追求した空間を作り、この構成要素は、ペーパークラフトを思わせる螺旋階段、パーティション、バ	作者による 作品解説					
図面・写真		図面・写真					

図 16 P61~P62

後期 (L1~L55) データシート

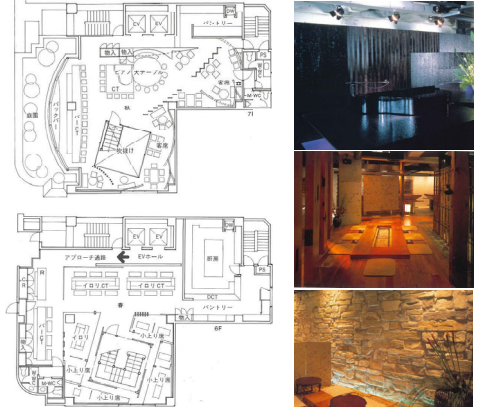

作品番号	L1	年代	1990年	作品番号	L2	年代	1990年
建築名	徳寿 カンパリ店	用途	焼肉店	建築名	春秋 赤坂	用途	レストラン
所在地	東京都渋谷区神南1丁目6-8	商店建築	1991年1月号	所在地	東京都港区赤坂2丁目16-19	商店建築	1991年4月号
工期	1990年1月17日~4月20日	面積	438.82㎡ (うち厨房82.79㎡)	工期	1990年7月25日~10月15日	面積	131.1㎡ (うち厨房14.1㎡)
材料仕様	床：大理石貼り400角 一部古木材貼りオイル仕上 壁：スチールプレートt1.6+合成ボード下地ネオブレイン粒子入りツヤ消し塗装 (ネクステル/住友スリーエム) 天井：PB9下地AEP テーブル：ワカシナット根柢付CL、大理石 無縫ロースター埋込み (東産業) レセプションカウンター：スチールプレートt1.6ネクステル吹付け塗装	材料仕様	床：東脚石400ヘブリ仕上 小上り床/豪脚根柢貼 壁：軽鉄組ラスタボード19下地土壁木ゴテ中塗り仕上 一部葉羽目板貼り 一部古木材貼り 鉄板グレーチングスクリーン 天井：軽鉄組PB12下地真竹 (選し竹) 貼り 家具：カウンター/素材t100手押の上特許オイル仕上層/神代杉t150手ガンナ仕上 椅子/カバ/板手ガンナの上置きうるし仕上 レセプションカウンター/ケヤキ手押の上特許オイル仕上 幅木：黒脚石 H=40				
作者による 作品解説	1階のオープンな飲食エリアと2階の個室エリアとに分かれているが、空間構成に関しては、外装と同様、一つのエレメントに絞り込んでいる。様々な曲面の集合体で構成されているが、それらは合わせ目のスリットから漏れる間接光のための隙役しかなかった。スリットの向こう側にもう一つの空間をよき感じさせ、それぞれの面は影絵のようになりその実体を持っていく。(橋本夕紀夫)	作者による 作品解説	いつの間にか記号化され、形式化された素材や形から、本来持つやさしさや、力や、温かさを引き出した。ここで目指したのは、イリュージョンの空間ではない。確かに安定した空間ではある、この空間には、辻 清明という傑出した陶芸家が必要であった。氏の作品をもとに発想の展開がなされた。陶器はその作家の力であると同時に、土と火という自然そのものの力の抵抗である。手の力であると同時に、そうではない何かがある。この空間も、設計された意思であると同時に、全く違った何か自然のようなものの意思とも言えるのかも知れない。				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L3	年代	1990年	作品番号	L4	年代	1991年
建築名	春秋 バイクロス 福岡店	用途	レストラン	建築名	TOTO東海陶器ショールーム	用途	ブース
所在地	福岡県福岡市中央区大名1丁目12-52	商店建築	1991年9月号	所在地	東京国際見本市会場	商店建築	1991年6月号
工期	1990年5月20日~7月10日	面積	399.83㎡ (うち厨房32.38㎡)	工期	1991年3月19日~3月21日	面積	180㎡
材料仕様	床：6階/白脚石貼りフロアボードパーナー仕上 自然石貼り 松、ケヤキ、栗フローリング貼り 小上り床・作庭：松、ケヤキ、栗貼り 7階/黒脚石貼りジェットパーナー仕上 カバ板フローリング貼り 壁：6階/白脚石貼り木骨仕上 土壁仕上 石灰石貼り (ライトムーン/アドヴァン) 松古材染色CL、和紙・和紙、竹組パーテーション 7階/大理石貼り木骨仕上 (ネリ・モンシェール) レンガタイル貼り アンティークタイル貼り 笠置壁貼り カバ板/下地/無縫ロースター埋込み 高バリエーション 遊脚ガラスパーテーション 天井：スチール 照明器具：配線ダクトスポットライト 家具：6階/ケヤキ材 松古材 7階/カバ板/和紙/和紙/黒脚石 アンティーク家具	材料仕様	床：本脚組コンパネ下地器質陶器タイル貼り (グレー&ブラウン/東海陶器) コムタイル貼り (アストロフェース・フレン/ニチマン商事) サク材染色CL スチール2層構造CL 壁：PB9下地/チシホキAEP 陶器質陶器タイル貼り (グレー&ブラウン/東海陶器) 天然石タイル貼り (ジオストーン/東海陶器) 一部土壁 スクリーン/スチールエキスパンドメタルOP 照明器具：ウソスペースック 什器：受付カウンター/ポリ合板フワッシュ仕上 展示用カウンター/タモ材手押し染色CL				
作者による 作品解説	6階は特級酒を集めた日本酒のバーカウンター、炭火で料理が楽しめるイロリテーブル、野だて感覚の小上がり床で構成される「森」である。7階は 300種からの洋酒を揃え、庭園が眺められるバーカウンター、黒人の弾き語りによるビブリアンテーブル、アンティーク家具を使ったテーブル席で構成される「秋」である。トップライトを持つ内部階段により自由に行き来ができ、キャッシャーは6階に設置されている。意匠的には、トータルなまとまりとしての印象度を欠くことなく、どの席に座っても違った景色が楽しめるような、ひだの深い空間づくりを目指した。(川上尊道)	作者による 作品解説	東海陶器の開発したグレー&ブラウンタイルの持つ微妙な色のニュアンスを、空間の中で展開させていくことを試みた。展示空間は、二つのゾーンに分割され、その一方は、円形に切り離された床面と列状で、微妙に色合いの異なるタイルの展示をダイナミックなグラデーションにより展開している。そしてもう一方では、単純な面の構成で、タイルの持つ色彩の微妙な味わいを、さまざまな素材や器具とのコンビネーションで見せていく方法をとっている。(黒川勉)				
図面・写真		図面・写真					

図17 L1~L4

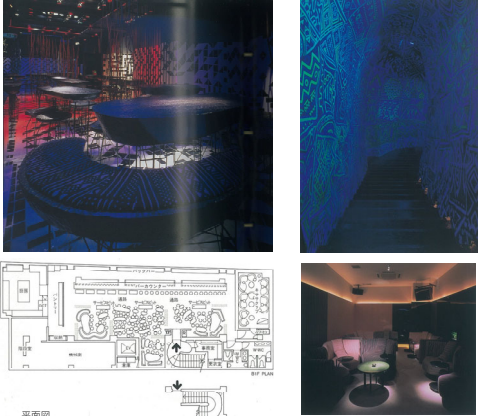
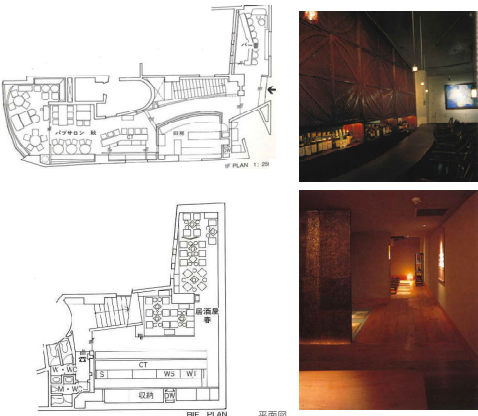
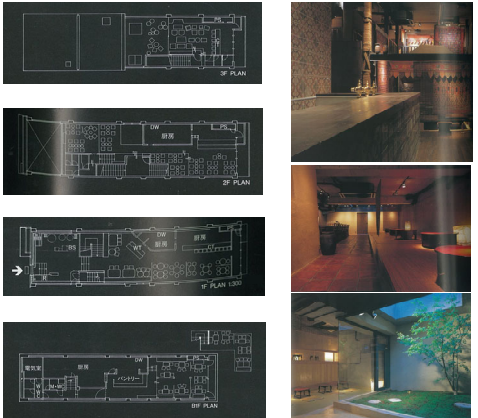
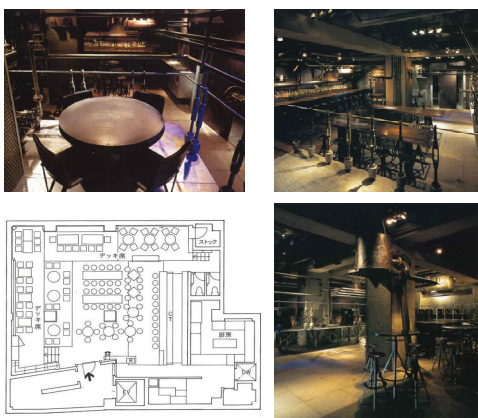
作品番号	L5	年代	1991年	作品番号	L6	年代	1992年
建築名	キササ	用途	レストラン	建築名	春秋 晋 西麻布	用途	レストラン
所在地	大阪府大阪市中央区東心斎橋2丁目8-26	商店建築	1992年2月号	所在地	東京都港区西麻生4丁目7-10	商店建築	1993年5月号/7月号
工期	1991年3月8日～4月13日	面積	305㎡ (うち厨房30㎡)	工期	1992年10月15日～12月15日	面積	230.3㎡ (うち厨房26.8㎡)
材料仕様	床: タイルパターン貼り (黒、白) キササクラブ/カーペット貼り 壁: タイルパターン貼り (黒、白) 古鉄板貼り キササクラブ/鏡面塗装仕上げ突き板貼り 天吊: 黒存天井塗装 (ダークグレー) 黒モルタル金ゴザ凹凸仕上げの上塗光塗料模様塗り 外周: 黒存天井塗装 (ダークグレー) キササクラブ/クロス貼り (ライトグレー) 照明器具: スポットライト キササクラブ/間接光 (FL) ダウンライト 家具: 松ノミ削り出し黒塗装 キササクラブ/ソバン (カッシーナジャパン) 外国産ストライプ模様布地貼り テーブル・鏡面塗装	材料仕様	床: 地下1階/コンパネ下地タキギ材フローリング 1階/杉材フローリング 階段/砂岩貼り 壁: 地下1階/土壁木ゴテ中塗り仕上げ (ワラ入り) 1階/古鉄板貼り レンガ貼り 土壁木ゴテ中塗り仕上げ (ワラ入り) 鏡鉄グレーチングスクリーン 天井: 地下1階/ 軽鉄組みコンパネ/スミアミ下地土壁木ゴテ中塗り仕上げ (ワラ入り) 1階/躯体コンクリート打ち直し 家具: 地下1階/アンティーク家具(韓国) 1階/アンティーク家具(ビービーエムコーポレーション) カウンター: ケヤキ材100特殊オイル仕上げ				
作者による作品解説	環境のテーマとして、「アフリカ」があった。アプローチ (階段) の壁・天井に塗料で描いた模様を始めとして (ブラックライトを当てて照度を得ている)。店内の仕上げの大半を占めるタイルのパターン、曲がった鉄筋 (鏡材) を伸ばして造ったパーティションや木をノミで削り出し黒塗装した家具等が、その表現となっている。照明もまた、照明を「赤」と「青」でとっている。唯一、完全に異なっているのが「キササクラブ」である。香煙を、ゆったりした一人用ソファだけで構成し、壁には鏡面塗装仕上げの突き板とソファと同一の布地を使用している	作者による作品解説	大空間であるよりは、むしろ居心地のいい狭さほしい。光もきらめかず、身近なやさしい灯を使い、人と人の距離が空間により分断されるのではなく、そのすき間を埋めるように層を寄せ席を設ける。デザインもラジカルであるよりは温かきがある素材で包まれ、なつかしい記憶を持つ取りまわりでありたい。そう思いつつ春秋「晋」の設計にあたった。鉄や木、石やレンガが、あるものは一度使われ、放置され風雨に削られながらそれぞれ長い時間が経過すると、ある共通性格を帯びるようになる。それはただ天然素材であることや単に古いということにとどまら				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L7	年代	1992年	作品番号	L8	年代	1993年
建築名	モルツクラブ 京都	用途	ビアレストラン	建築名	デポ 上野	用途	レストラン&バー
所在地	京都府京都市東山区福手通新橋東入ル	商店建築		所在地	東京都台東区上野2丁目12-11	商店建築	1994年4月号/9月号
工期	1992年	面積	374㎡ (うち厨房185㎡)	工期	1993年9月1日～11月30日	面積	234㎡ (うち厨房44㎡)
材料仕様	床: 古木材染色ウレタンツヤ消しクリア 陶板貼り ホワイトアッシュツヤ消しクリア 塗り床材塗布 (カラクリート/ABC商會) 壁: ラスボード+モルタル下地土壁塗り ラスボード下地本シックイ 角パイプ組み古サビ鉄板 各種タイル ガラス 大理石 古鉄板 天井: ラスボード下地本シックイ コンパネ下地竹染色クリア貼り	材料仕様	床: ホール/モルタル下地黒銅影石ジェットパターン仕上げ 一部角パイプ組み鉄板9貼り デッキ/コンパネ下地松古材貼り黒染色ウレタンクリア仕上げ 一部角パイプ組み黒銅影石鉄板9貼りおよび手コナードプレート 壁: コンクリート打ち直し 角パイプ組み古鉄板9貼りCL仕上げ 一部黒銅影石鉄板11.6貼りおよびエキスパンドメタル貼り 天井: コンクリート打ち直し 家具: 甲板/カバ板CL仕上げ 鉄板 鋼/スチールCL仕上げ 什器: ランパコア下地サビ鉄11.6貼り				
作者による作品解説	コンセプトは「家」。大小さまざまな住居空間の集積、または回遊性を表現するには絶好の物件であった。小上がり、バオ、焼き場 (台所)、応接間、テラス。スタイルは違えども必要最小単位のシーンで、家に招かれたように思わせる。日常生活の一部がグリミティブに表現されている。素材は、土、古木、古鉄、陶板を中心に。演出照明に至るまで、それをサポートするための役に就いており、デザインもまたしかりである。(佐藤一郎)	作者による作品解説	バーカウンターを中心としたホール席と、それを取り囲み、床が一段高くなっているデッキ席とに二分されるが、基本的にはオープンでどの席からも店内が見渡すことができる。素材はホールの床に石、デッキの床の一部と収納、テーブルトップに木を使った以外はすべて鉄を使用している。「鉄だけの空間」と聞くと、冷たく寒々しいイメージがあるようだが、今回は素材 (板材) と立体になっているパーツ類) を数多く使用することによって、見る人にとりそれ以外の何かを感じさせている。パーツ類は、都内某所にあった廃工場から直接解体して現場へ持ち込んだ				
図面・写真		図面・写真					

図18 L5~L8

作品番号	L13	年代	1996年	作品番号	L14	年代	1997年
建築名	春秋 鳥居坂店	用途	レストラン	建築名	二階倶楽部	用途	ホテル
所在地	東京都港区六本木5丁目16-47	商店建築	1996年4月号	所在地	那須塩原	商店建築	
工期	1996年6月1日～7月20日	面積	310㎡	工期		面積	
材料仕様	床：エントランス/モルタル下地黒御影石(25貼り600高)B「秋」/コンパネ下地けやき古木材フローリング(20色ワックス仕上げ)「春」/コンパネ下地松古木材フローリング(20色ワックス仕上げ) 壁：「秋」/PB下地古レンガ積み(京川建築)および土壁風塗材(ニーノジャパン)「春」/PB下地土壁風塗材および和紙貼り パーティション/鏡物グレーチング(晴耕社) 天井：既存躯体の上VP吹き付け 一部PB下部エマルジョン系塗材吹き付け(ジョリパット/アイカ工業) 家具：バー/イギリス製アンティークソファ	材料仕様	床：フローリング張 壁：鉄板張、木質パネル張、コンクリート打ち放し 天井：PBの上EP塗装				
作者による作品解説	さまざまな文化・情景・素材が空間をつくる。六本木の喧嘩から離れた、地下への階段を見下ろすと、小さな竹庭が覗えている。木の扉を開き、庵治石の庭を持つホールから「春」と「秋」の二つの空間は生まれている。ダイニングエリアを持つ鉄とガラスの建築、抜本的な天井、特異な形の円柱、こうした建築空間と「春秋」という言葉のイメージ、この二つが新たな環境をつくる上での指針となり、デザインはそれらの中からひとつひとつ答えを引き出す作業となった。原標題「春」と、「秋」からなる二つの空間は、独立した環境造りと営業時間上の配慮から	作者による作品解説	素材の自然な品質を表現する。プロンスパネルはざらざらしてはほとんど石のようで、滑らかで露出したコンクリートと並置されています。床から天井までのガラス、明るい白い布で覆われたシンプルな木製の格子とテーブルは、ダークウッドの床とコントラストを成す。ガラス壁でキッチンとダイニングエリアを仕切り、お客様は料理の準備を見ることができます。金属パネルの壁は上層階へ続いており、暖炉の背景として機能します。窓は自然を眺めることができるように設計されており、特別な外部照明が強調されています。上層階のスペースはバーエリア				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L15	年代	1997年	作品番号	L16	年代	1998年
建築名	桜 神戸	用途	ダイニングレストラン	建築名	メザナイン	用途	ホテル
所在地	兵庫県神戸市中央区三宮町1丁目10-1神戸交通センタービル10階	商店建築	1997年11月号	所在地	シンガポール	商店建築	掲載なし
工期	1997年5月5日～7月4日	面積	526㎡(うち厨房120㎡)	工期	1998年	面積	1600㎡
材料仕様	床：ナタおよび松古材フローリング 緑なし敷敷き 壁：本土壁荒壁仕上げ 手漉き和紙 古鉄板およびステールスクリーン手磨き仕上げ 天井：スケルトン天井の上吹き付け塗装 鉄板組みPB下地エマルジョン系吹き付け塗料塗布(ジョリパット/アイカ工業) 照明器具：ダウンライト スポットライト 竹カゴ和紙スタンド 銅板穴開けブラケットおよびペンダント	材料仕様	床：フローリング張 壁：木質パネル張、鉄板張、石割肌 天井：アルミ格子天井、内部EP塗装				
作者による作品解説	さまざまな表情を持つビジュアルを170坪の広さの中央にはオープンキッチンと生のかまどがあり、さまざまな料理はすべてここで作られている。活気あるこれらの様子にはシーを見ているように楽しく、そのまわりにはしっとりとした床がそれぞれの高橋を持ちながら展開している。三宮の夜を見下ろす日常空間の中に暖炉の暖、重畳の季節の風を眺む石、石の庭を眺む庭など、今では失われつつある豊かな日常がある。バーは緊張感のある気取った空間といえども、むしろ居心地の良いリビングルームのようであり、ソファの脇にはアジアカ	作者による作品解説	レストラン名「Mezza9」Mezzaは中二階レベルを意味します。キッチンの数9と組み合わせると、Mezza9となります。以前は、別々のフロアにレストランがありましたが、スーパーボットのデザインコンセプトとして、オープンキッチンを備えた「シアターレストラン」として再構成されています。顧客は彼らの料理が準備されているのを見て、シェフのスキルによって楽しめます。座席エリアは、さまざまなサイズのテーブル席、キッチンを間近に見渡せるカウンター席、プライベート席。料理はそれぞれ専門でシーフード、寿司、中国料理				
図面・写真		図面・写真					

図20 L13~L16

作品番号	L17	年代	1998年	作品番号	L18	年代	1999年
建築名	猿丸	用途	レストラン&バー	建築名	二期 六本木	用途	レストラン&バー
所在地	東京都渋谷区宇田川13-16 国際ビル地下1階	商店建築	1988年4月	所在地	東京都港区六本木4丁目11-4六本木ビル地下1階	商店建築	1999年4月
工期	1998年2月16日～3月27日	面積	147㎡(うち厨房27㎡)	工期	1998年4月26日～8月25日	面積	261㎡(うち厨房62㎡)
材料仕様	外壁：漆喰木目仕上げ 南浜石野積み サイン：スチールおよび行灯切り文字サイン 床：意匠鋼脚石シットプラスト タモ材フロアリングワックス仕上げ 壁：意匠鋼脚石シットプラスト タモ材フロアリングワックス仕上げ 扉：意匠鋼脚石シットプラスト タモ材フロアリングワックス仕上げ 天井：鋼板塗装仕上げ 古銅色ステンレス貼り 意匠石野積み 土壁 タモ材突板貼り 和紙貼り 天井：鋼板塗装仕上げ 古銅色ステンレス貼り 意匠石野積み 土壁 タモ材突板貼り 和紙貼り 家具：テーブル&椅子/照明/天井/ウォールナット材(インターナショナル) イギリス製アンティークチェスト 照明器具：竹籠	材料仕様	外壁：鋼脚石野積み サイン：ステンレス車線 (1階)床：壁：鋼脚石野積み 天井：スチール 家具：イス、ローテーブル/インドネシアアンティーク テーブル/脚板 (地下1階)床：タモ材フロアリングワックス 壁：意匠鋼脚石シットプラスト 一部鋼脚石野積み 古銅色 鋼脚石野積み 天井：鋼脚石野積み仕上げ材吹き付け(ジュリバット/アイエ工業) 家具：ホールイス/床：ウォールナット 青・コートバン ホールテーブル/ウォールナット 子上がり/意匠・吉村生地 照明器具：行灯/				
作者による 作品解説	「猿丸」の入り口は若者の行きかう通りのビルの地下へと続く行灯の設けられた階段を下りたガラス扉の先に奥へと続く路地の先である。路地を抜けると天井の高い吹き抜け空間が現れ、そこには土、吉木、石、和紙、銅板などで構成された炭火焼のあるカウンター、テーブル席、中2階の子上がり席、石の壁に壁面座敷の3つのシーンが共有している。素材そのものの「実態」と、素材の持つ懐かしい記憶、または作られるまでの過程や、意識という「非実態」であり、それらは空間の中で一体化され、微妙に表情を変えながら全体を包み込み、心地よい空間を作り	作者による 作品解説	1階をあえてメーンキッチンにし、ガラスで仕切ることにより、訪れた客ばかりでなく、通りを行きかう人にも積極的に料理の過程を見せている。 客席のある地下はもともと高さ5mのコンクリートの駐車場であったが、コンクリートを一部残しながら、鉄板や木材で微妙に表情を変えながら、全体を包み込み、心地よい空気を作り出している。素材の実態ではなく、においのようなもので表現したかった。そのため複雑な形態は徹底的に排除し、灯りと闇により濃厚な味付けをしている。アートもまた素材化され、心地よさの要因として空間に溶け込んでいる。闇				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L19	年代	1999年	作品番号	L20	年代	2000年
建築名	銀座二期	用途	飲食店	建築名	無印良品&カフェムジ 青葉台	用途	物販店
所在地	東京都中央区銀座7丁目4-14 光ビル地下1階	商店建築	2000年5月	所在地	神奈川県横浜市青葉区青葉台2丁目1-1 青葉台	商店建築	2001年11月
工期	1999年10月1日～12月1日	面積	109㎡(うち厨房24㎡)	工期	2000年9月上旬～10月31日	面積	298(261㎡)うち「カフェムジ」331㎡ 3階1950㎡ 合計3211㎡
材料仕様	床：ウォールナット材フロアリング貼り 壁：躯体表し土壁風塗装 銅板着色仕上げ ウォールナット突き板貼り(サンフォット/北三) ステンレスHL 中国産白彫石JB 天井：躯体表し 一部アルミアルマイト仕上げサンフォット貼り	材料仕様	床：2階/コンパネt12.5下地AEP ホワイトバーチ突き板貼り(サンフォット/北三) アルミマイト貼り 光壁/鉄骨下地フロストガラスt8+乳半シート貼り ガラススクリーン/クリアガラスt8飛散防止フィルム貼り 天井：軽鉄組PBt12.5下地AEP 一部スチールAEP				
作者による 作品解説	店内へのアプローチは地下の倉庫へ通じることがよく、やがて狭い狭い飲食店である。ガラス扉越しに店内をのぞくとワインセラーや冷蔵庫など木箱の集積が目に入ってくる。カウンター越しにオープンキッチンがあり、隣接する形でシェフステールがある。ガラス越しに調理人の足元まで見ることができ、さながらキッチンの中で食事のとれる特等席となる。 またワインバーでありながら、オープンキッチンを取り入れることで黒田ジェフ率いる調理人、カウンターに立つ若菜氏の動きが重なり、約30坪のワンルーム空間に臨場感を与えている。	作者による 作品解説	大空間で商品ラインナップの広がりを見せることと売り場の中の透明感ということを意識した。なるべく遊戯物を作らないで、明るく広く感じられるようにした。商品のコンセプト同様、素材を生かしたデザインといった点は一貫しているが、間接照明を多様化するなど「軽さ」や「明るさ」が新しい「無印」の特徴といえる。MDの面では、商品自体がディスプレイであるという考え方で、ボリューム陳列を基本としてきたが、それだけでなく中間領域も増やして、個々の商品をしっかりとアピールできるスペース、提案できる環境を整えていく方向にした。こうした				
図面・写真		図面・写真					

図 2 1 L17~L20

作品番号	L21	年代	2000年	作品番号	L22	年代	2000年
建築名	春秋 渋谷文化村	用途	ショールーム	建築名	スーパーダイニング シバング	用途	レストラン
所在地	東京都渋谷区神宮前	商店建築	2000年10月号	所在地	Shanilla Hotel Kuala Lumpur 2F	商店建築	2000年4月号
工期	2000年3月27日～5月15日	面積	600㎡(うち厨房120㎡)	工期	2000年	面積	1030㎡(うち厨房210㎡)
材料仕様	<p>床：木軸組みコンパネ下地フローリング120染色ワックス仕上げ(ホワイテアッシュ/塗油) パー/向仕上げ(ホワイテオーク/塗油)</p> <p>壁：PB下地ステンレスHL 土壁風塗装 吉木風塗装 吉木格子風(和泉屋石材) パー/PB下地古レンガ積み(深川建材工業)</p> <p>天井：スケルトンにVP 一部PB下地樹脂床裏面仕上げ材(ジョイバット/アイカ工業)</p> <p>家具：ホール/カバ板材 ニレ材 クルミ材 パーニス、テーブル・インドネシアアンティーク (精耕社) ソファ・タイシルク張り (スタンダード) オープンキッチンカウンター(麗池)</p>			<p>床：スチール角パイプ組コンパネ115二重貼り下地ホワイトオーク材フローリング120染色ウレタンクリア仕上げ 御影石125挿入り18仕上げ 壁：御影石張り鏡入り割肌、ドリル目、本磨き仕上げ 格和紙草木染め十透明強化ガラス119 土壁塗装仕上げ 天井：アルミニウムルーバー吹き付け塗装 一部PB吹き付けゆず肌仕上げ 家具：ホワイトオーク染色ウレタンクリア仕上げ</p> <p>什器：非司カウンター/ヒノキ無垢材ウレタンクリア カウンター/御影石鏡入り本磨き一部自然肌残し 照明器具：和紙張りフロアスタンド</p>			
作者による作品解説	<p>限定的な演出で展開してきた「春秋」シリーズ最大の床面積と、上空という初のロケーションを与えられ、L字形の平面を利用したシークエンスの獲得と、天と地の狭間がもたらす浮遊感を、いかに取り込むかが設計テーマとなった。物語はスカイロビーに用意されたガラスの箱の扉を開くことから始まる。シガーラウンジを右手に、「静」としてのバーコーナーを造り、レンガペーを落とすと、吉木組の格子が染みこみかかってくるシーンへと繋げる。ゲストの視線を導くよう、斜に置かれた庵治石のカウンターが映画の大ホール「動」の空間。[In The</p>			<p>「ジャングリラホテル区アランプール」の全面改装で、それにとりもぬ施設内にある商業運営の和食レストランのリニューアル計画、伝統的な内装やオペレーションも一新し、東京で好評を得たカジュアルダイニングの「シバング」が海外分店となった。</p> <p>シンプルで機能的なフロアプランで、透明性をもった素材・ガラスのワイン・日本酒セラー、木製ルーバー・ガラススクリーンなどを使用することにより様々な景色が見え隠れするように計画している。そして、現代和風を表現するために自然観を持った庭園レストランをコンセプトにした。石と水と緑の庭園を内部</p>			
図面・写真							
作品番号	L23	年代	2001年	作品番号	L24	年代	2001年
建築名	由庵 恵比寿	用途	日本料理店	建築名	カフェテラー	用途	レストラン
所在地	東京都渋谷区恵比寿南1丁目5-5 アトレ恵比寿6階	商店建築	2001年10月号	所在地	東京都港区赤坂 アイランドシティホテル 7階	商店建築	2002年1月号
工期	2001年5月4日～6月7日	面積	189㎡(うち厨房58㎡)	工期	2001年6月1日～9月30日	面積	870㎡(うち厨房300㎡)
材料仕様	<p>床：砂セメント下地サビ石(25厚)仕上げ</p> <p>壁：PBの上ラスタット下地土壁風モルタル(高壁/ニノシヤパン)</p> <p>天井：石貼り</p> <p>光沢/ガラス15+18染色板挟み込み+ミニレフ25W</p> <p>天井：スケルトンに吹き付け 一部PB下地樹脂床裏面仕上げ材 (ジョイバット/アイカ工業)</p> <p>家具：メープル材 カバ板無垢材</p> <p>什器：レジカカウンター/サビ石本磨き+フロントガラス110内訳式 大テーブル/庵治石水磨き180 一部自然肌まま</p>			<p>床：システムフロア+合板112下地ホワイトオーク材2フロアリング染色ウレタンCL 一部御影石120水磨き</p> <p>壁：スチールベース地タテアガガラス15パネル加工乾燥塗材詰め 一部ホワイトオーク材突き板貼り</p> <p>柱/御影石R組工アッシュカウンター仕上げ</p> <p>天板：アルミと押し出し材ルーバー</p> <p>家具：ホワイトオーク染色ウレタンCL</p> <p>照明器具：アクリルクリスタルスタンド(和紙・突き板・布挟み込み)</p> <p>光柱/アクリルパイプ</p>			
作者による作品解説	<p>JR恵比寿駅の駅ビルである「アトレ」の6階には、和、洋、中のさまざまなジャンルの飲食店が点在している。恵比寿の駅ビルという土地柄、ビジネスマンや女性客、外国人が多く集まる場所であるため、多種多様な人々が、一人でも多く人数でも対応できるように、また、夜の営業を感じさせつつランチタイムとディナータイムを全く違う表情を奏することが不可欠と考え、その手段として光をつの要素に取り込んだ。店のファサードは、ガラス張りでありながら過度に透らぬ、入り口には大きな職人が下がっている。豆腐を作る工程は壁の位置から下の作業が多く</p>			<p>インターナショナルブランドのブティックが立ち並び、外国人ビジネスマンが多い香港アイランド、日本人観光客にも人気のフィリスターホテル「アイランド・ジャングリラ 香港」内に「カフェテラー」はオープンした。</p> <p>最近のレストランではブティックのように明るくカジュアルで、軽快な感じが強くなっている傾向にある。それをここでは、白木のフローリングやペーパージュの石などの明るくナチュラルな素材をベースにして、ガラスでできた発光するカウンターや発光、光るパイプのスクリーンなどを使って光による軽快なリズム感を与えている。</p> <p>そして</p>			
図面・写真							

図 2 2 L21~L24

作品番号	L25	年代	2001年	作品番号	L26	年代	2001年
建築名	響 丸の内店	用途	飲食店	建築名	無印良品有楽町	用途	物販店
所在地	東京都千代田区丸の内1丁目2-1	商店建築	2001年11月号	所在地	東京都千代田区丸の内3丁目8-3	商店建築	2001年11月号
工期	2001年9月1日～10月23日	面積	511.5㎡	工期	2001年8月20日～10月15日	面積	3500㎡
材料仕様	床：モルタルコテ押さ下地サビ入り御影石ビシャン仕上げ 小仕上げ/木軸組み合板下地ホワイトオーク板木材フローリング(望透) 壁：スチールパイプ組み合板下地石積み(和泉家石付) 軽鉄組4PB下地サビ入り御影石本磨き 一部ステンレス+1SHL 光柱/フロントガラス内部AEP塗装 天井：PB下地樹脂系仕上げ材吹き付け(ジョリパット/アイカ工業) 小上がり/PB下地杉突き板貼り(サンフット/北三) 家具：イス・テーブル/タモ材 個室テーブル/楓材 パーカウンター：トップ/スチールベース+光拡散シート	材料仕様	床：t=12コンパネ下地 1階・パーケットフロア一貼 2階・NCバンチカーペット貼 壁：1階・t=9PB下地 ビニールクロス貼 2階・t=7ラスボード下地 プラスター塗装 木ズリ仕上げ 天井：木下地 1階・t=9PB VP塗装 松ルーバー 2階・t=10スプルス板+t=9PB VP塗装 家具：椅子・カラプランカ ダイナステイ(村田合同) テーブル・唐松集成材(北見唐松センター) 什器：ステージ・セン合板+コルクタイル貼 収納棚：t=21ランバーコア材 その他：WAGAMI				
作者による作品解説	オフィス街に光る箱。都内でも有数の歴史あるオフィス街「丸の内」の一角。銀座の客層が求める新しい飲食店の空気感を採る作業ではありませんが、今回飲食といえど地下レストランが思い浮かぶオフィス街に、路面店としての新しい「響」のあり方を提案することが設計の主題となりました。外観は周辺環境との調和を守り、意図的なサインは設けていません。国際性を意識して「HIBIKI」の文字のみです。3.2mピッチに整列した柱に挟まれたガラスの箱は、街路から店内の賑やかさが垣間見られ、夜は光が溢れるオフィス街の行灯となります。(作者による作品解説	倉庫風インテリアに盛り込まれた新企画。川ノ上氏は「空間」の重要さにも触れた。「『無印』というブランドはターゲットである働く女性に一定の安心感、信頼感を持っていると自負しています。それゆえに女性が1人で安心して入れる空間の提供は欠かせませんでした」。シンプル&ナチュラルな素材構成に5m近い天井高は快適さを提供し、「想定よりもイートインが多い」ため、昼時は行列が絶えない。設計にあたってスーパードトでは倉庫感を強調し、あえて耐火被覆だけの大梁を見せる方向を採った。集積のディスプレイやボリューム展示によるMDも				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L27	年代	2002年	作品番号	L28	年代	2002年
建築名	キッチン・L・ゆんじゅう 銀座	用途	飲食店	建築名	ZUMA	用途	飲食店
所在地	東京都中央区銀座2丁目6-9	商店建築	2002年11月号	所在地	ロンドン	商店建築	掲載なし
工期	2002年	面積	201.73㎡	工期	2002年	面積	270㎡
材料仕様	床：モルタル防塵塗装(ツヤあり) 一部タイルカーペット貼り ナラ材フローリング寄せ木貼り ナラ材フローリング寄せ木貼り 壁：PBt=12.5地下クロス貼り(ジャンガ/マナトレーディング) 一部米松(油絵)OSCL貼りAEP 天井：スケルトンAEP 家具：ニヤト-OACL 什器：大テーブル/天板・ニヤト-OACL 腰・スチール格子焼き付け塗装 照明器具：スチールクロムメッキ仕上げ	材料仕様	床：石張 壁：吉材瓦張り、木格子 天井：スケルトン天井				
作者による作品解説	極めて日常的なもの。エレベーターでたどり着くと、食器と果実酒で集積されたエントランスの正面に、オープンキッチンが迎える。このキッチンは洗浄スペース以外、客からの視線が遮られるところはない。細長い建築の中に入りきりまで、客とシェフの距離を縮めた。オープンキッチンの右手は、テーブル席となっており、果実酒の他に、食材の集積面を覆っている。食材を利用して生まれた自然観を確認してほしい。左手はシェフズテーブル、ベンチシート席を経て、セミプライベート席となっている。吉材の柱と梁、パネルで構築された個室の周りは新聞	作者による作品解説	杉本隆は、この新しい空間を「癒が立ち上るような」と説明している。繊細さは入り口から始まる。ガラスの壁に設置された重い木製のドアは、滑らかな石とガラスのカウンターで作られたレセプションエリアに通じており、隣接するパーエリアとその向こうのレストランをのぞくことができよう。素材と照明は空間から空間へとわずかに変化し、各エリアに明確でありながら繊細的な雰囲気を与えます。壁に消えるように濃い灰色に塗られた木出しの天井と石の床だけが連続しています。最初に見えるのは、半透明のガラスパネルが点在し、繊細で薄いガラスの				
図面・写真		図面・写真					

図 2 3 L25~L28


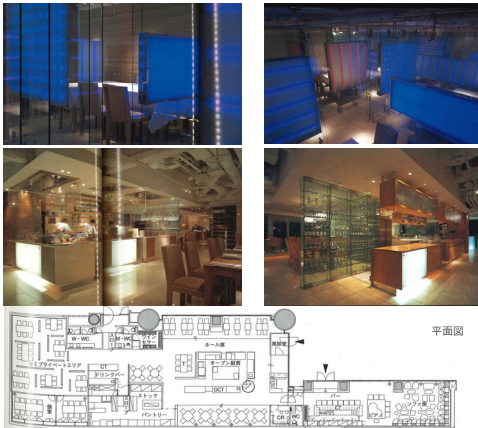

作品番号	L29	年代	2003年	作品番号	L30	年代	2003年
建築名	旬房 六緑 六本木	用途	飲食店	建築名	ケセラ	用途	バー/飲食店
所在地	東京都港区六本木6丁目10-3	商店建築	2003年4月号	所在地	東京都港区六本木1丁目6-1	商店建築	2003年10月号
工期	2002年12月1日～2003年3月30日	面積	990㎡	工期	2003年8月10日～10月15日	面積	520㎡
材料仕様	床：フリーフロア下地南治石小叩き仕上げ 木軸組み縁無し珪藻土張り 離れ/木軸組み畳張り 吉野松無垢材張り 壁：鉄骨組み崖治石自然肌 一部加工仕上げ LGS組みPB下地土壁中塗り仕上げ 和紙張り 天井：LGS組み樹脂系複層仕上げ材仕上げ(ジュリパット軸子肌/アイカ工業) 木軸組みタモ材天井板張り 家具：樟炭無垢材ウレタンクリア仕上げ 什器：寿司カウンター/吉野松無垢材無塗装仕上げ 照明器具：樺竹下地和紙張り仕上げ	材料仕様	床：モルタル下地大理石600角貼り(クレママーフィル) ホワイトオーク材フローリングt=20 バー/ウォールナット材フローリングt=20 壁：LGS組みPB下地クレママーフィル600角貼り 本土壁張工法 本漆喰塗り パーティション/クリア強化ガラス 一部フロント加工LED内蔵 バー/ウォールナットt=10 天井：樹脂系複層仕上げ材吹き付け(ジュリパット/アイカ工業) 家具：ホワイトオーク無垢材 ウォールナット無垢材				
作者による 作品解説	新たなコミュニケーションの形、「旬房」と「六緑」はそれぞれが独立した建物でもある。しかし、これら二つのレストランは外壁としての透明ガラス、内部と外部で隔ることなく設置された石、建物内部にまで入り込んだ樹々により、建物としての内外の境界をなくしている。またそれらは、レストランのゲストと外を歩くゲストとの境界までもなくし、新たなコミュニケーションとしての形を提示することとなる。(谷山直毅)	作者による 作品解説	ライキッチンと光のパーティション。泉ガーデンテラスの内の中央広場に面した3階にあり、バーとレストランのおの独立したエントランスを持つ。ウエーティングも兼ねるバーは、ピアノバーという大きな特徴があり、空間はピアノを中心として左右にカウンターとソファ席で構成される。バーとして重厚感をもたらすための一つとして、材料はすべてウォールナットの無垢材を使用した。ソファ席の壁面に縦にスリット状の飾り帯を設け、歴史的価値の高い美術品を陳列、目と目で楽しむ空間を目指した。(若岡真紀)				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L31	年代	2003年	作品番号	L32	年代	2003年
建築名	ROKA and Shouhu Lounge	用途	バー/飲食店	建築名	ハウスガラス	用途	バー&カフェ
所在地	ロンドン	商店建築	掲載なし	所在地	東京都港区六本木5丁目5-1 六本木ロアビル12階	商店建築	2003年9月号
工期	2003年	面積	320㎡	工期	2003年7月28日～9月8日	面積	760㎡(うち厨房100㎡)
材料仕様	床：古材フローリング張、タイル張 壁：木板パネル 石張 テキススタイル巻き 天井PBの上EP塗装、スカルトン天井	材料仕様	床：ホワイトアッシュ材フローリング貼り モルタルコテ仕上げ 一部ビニルタイル張り エントランス/22角白タイル貼り オープンキッチン/450角白タイル貼り (モンテビアンコ) 絨毯ルーム/コンパネ下地防炎毛絨毯敷き込み 壁：既存モルタル補修の上AEP白 一部ガラスボックスに乾燥食材・古布など集積 エントランス/スチール曲げ加工下地グラフィックシート貼り 天井：LGS組み寒冷紗パチゴキの上AEP白				
作者による 作品解説	ロンドンのにぎやかな地区の一角にあるロカの静かなファサードは、メニューを表示するニッチと美しく彫られた木製のドアによってのみ構成され、レストラン内の豊かな空間とさまざまな素材を示唆しています。フラッシュドメタルパネルのクールなグレイは、ガラスで満たされた大きな開口部と交互になっており、レストランの内外の景色を眺めることができます。暖かい日は、ガラスの壁が開き、テーブルや椅子が歩道に出され、レストランの内部と街の境界がぼやけます。インテリアのオープンスペースには、はっきりとしたラインとビュアなフォルムのエ	作者による 作品解説	「家」を構成する機能を分解して、ゆっくりとしたスペースの中で平等にゾーニングし、各シーンを緩やかにつなぐ、「+α」の要素として、古着や手作り雑貨の物販スペース・CD視聴できるように点在させたアートピースといった、今では当たり前のコミュニケーションの手段を繕り交せている。これによって、「人が人とコミュニケーションできる環境の心地よさ、あるいは人の気配を感じることのできる楽しい店に」という杉本貴志さんの考えをダイレクトに表現。				
図面・写真		図面・写真					

図 2 4 L29~L32

作品番号	L33	年代	2004年	作品番号	L34	年代	2004年
建築名	グランドハイアットシンガポールダイニング	用途	カフェ	建築名	分とく山	用途	カフェ
所在地	シンガポール	商店建築	掲載なし	所在地	東京都港区南麻布5丁目1-5	商店建築	2004年3月号
工期	2004年	面積	820㎡	工期	2003年10月1日～2004年3月1日	面積	149.66㎡(うち厨房51.7㎡)
材料仕様	床：フローリング張 壁：レンガ積 天井：スケルトン天井			材料仕様	床：1階/LGS組みコア床を上下地脚影石SP600貼付 2階/アメリカンチェリー材フローリング貼付(巻造) 壁：1階/LGS組みコア床下地を板目張り付け 2階/LGS組みコア床下地を板目張り・五・古舞踊入り土壁仕上げ/LGS組みコア床下地を板目張り 一部塗壁/珪藻土(自然調)貼付 天井：LGS組みコア床下地脚影石SP600貼付(ジョリバット/アイカ工業)吹き付け建築 トリムレスニアボックス内蔵 家具・什器：L字型カウンター天板/ノキ無垢材 カウンターバック観音/タモ無垢材		
作者による 作品解説				作者による 作品解説	街並みと連続性を意識した建築は、注意深く配置されたアスロックという名のコンクリートの存在によって通行人々に柔らかな敷地境界線を示しつつ、向かわざるを得ない都市レストランの宿命である。外部からレストラン内部への視線をコントロールしている。その配慮により、レストラン内部から最大限に開く開口部を確保することが可能になり、敷地内に残された木の存在をレストランの内部に引き込むことができた。 意図的な意匠などは極力避け、天井照明は全て間接照明とし、料理の色彩、内装仕上げに施された無垢材、土、石などの自然素材の		
図面・写真				図面・写真			
作品番号	L35	年代	2005年	作品番号	L36	年代	2006年
建築名	春秋 ツギハギ	用途	カフェ	建築名	ハイアトリートリートンズ京都	用途	カフェ
所在地	東京都千代田区有楽町1丁目1-1 日本生命ビル地下	商店建築	2005年9月号	所在地	京都府京都市東山区三十三間堂通り644-2	商店建築	2006年3月号
工期	2005年6月6日～8月20日	面積	910㎡(うち厨房180㎡)	工期	2005年9月～2006年2月	面積	2777358.96㎡
材料仕様	床：モルタル下地/白影石貼りJB コンパネ下地/丸 古材フローリング貼り 壁/無垢材フローリング貼り カーペット敷き 壁：白影石/ペンタ仕上げ 古舞踊入り 塗料/珪藻土壁 電気/自然調珪藻土 ガラスブロック積み(ガラス/日本電機硝子) 産材集積アート壁画 古材組みパーテーション 天井：角パイプ下地/鉄線ルーバー 不燃内装材ルーバー塗装仕上げ(モイスト/システム) 一部スケルトンにAEP カウンター/高・個室/LGS組みコア床下地脚影石SP600貼付(ジョリバット/アイカ工業) 家具・什器			材料仕様	<東山> レストラン/床：中国産産地石小叩き上げ 壁：鉄格子パターン貼り 天井：AEPグレー塗装 パーエリア/床：ウォールナット無垢材フローリング 壁：古材集積(木、鉄、本) 木格子パターン貼り 錆竹φ30 土壁ワラスサ入り 天井：AEPグレー塗装 錆竹貼り φ30		
作者による 作品解説	鉄の産材で出来た半個室が点在し、その奥にはインドネシア・スラウェシ島のトラジャ様式の伝統家具を再構成した半個室がある。そのまた奥に奥に4人のアーティストとコラボレーションした四つの個室がある。メーンの空間から離れたところには、路地のような道があり、伝統的な和を感じさせる茶室の部屋が二つ存在している。ジャバニーズスタイル、インドネシアスタイル、ヨーロッパスタイル、アメリカンスタイル、これらが混ざり合い、個性的な融合された空間になっている。			作者による 作品解説	ハイアットの持つ現代的な地域文化と融合し、京都という街に流れる時間、その土地に残された記憶や文化に寄り添い、同じくられる「現代における和」が今回のコンセプト。これをデザインとして具現化する際に、様々な時代の古布からの情報を抽出した。布は、その時代特有の文様や色、素材、人の手で作られた温もりがある。それらをデザインに取り込むことにより、人間味感じられる温かな空間を生み出すと同時に、シンプルで原点に戻る部分がありながらも、それらを編集し、提供することで今までになかった空間を提案。 格子や小紋などのパターン		
図面・写真				図面・写真			

図 25 L33~L36

作品番号	L37	年代	2006年	作品番号	L38	年代	2007年
建築名	マナーハウス 島津重信社	用途	カフェ	建築名	MUJI	用途	物販店
所在地	鹿児島県鹿児島市清水町31-7	商店建築	2006年11月号	所在地	六本木	商店建築	2007年3月号
工期	2006年8月3日～11月6日	面積	3293.93㎡ (うち厨下185.50㎡)	工期	2007年	面積	720㎡ (うち倉庫60㎡)
材料仕様	床 : パンケット/モルタル金ゴテ押さの上特注カーペット敷き (H島織物) フレンチレストラン/オークフローリング貼り (壁造) 壁 : パンケット/PB二重貼り寒冷紗バテしきAEPツヤ消し塗装の上ホワイトオークパー白木用フレタン塗布 コンパネ二重貼り下地和紙パネル貼り フレンチレストラン/修復、美装 天井 : PB二重貼り下地寒冷紗バテしきAEPツヤ消し塗装 パンケット/セン格子白木用フレタン塗布 フレンチレストラン/修復、美装	材料仕様	床 : モルタル下地白御影石600角仕上げ コンパネ下地吉村フローリング貼りオイル仕上げ (壁造) 壁 : 古鉄板4.5貼り 吉村不燃結露バターン貼り 光り壁/タスベリーガラス 天井 : PB下地AEP 照明器具 : 家具、雑貨コーナー/ダウンスポット (DDH-2046KW/大光電機) 衣服コーナー/ダウンスポット (SK-LD153-GP+SL-B2662D/クノオスベックス) 木材壁面、柱のウォールウォッシャー用ダウンスポット (NDS15301SK/松下電工)				
作者による 作品解説	地元で親近的に依たれている、格式高い施設イメージや、歴史的な建物などをすべてを造り直すのではなく、保存、修復、増築を行いながら、将来的には国内のみではなく近隣諸国も商圏に見据えたグローバルな現代化を目指して計画。 保存した屋敷以外には、田舎、地域、宗教などの意識を極力取り除き、光、形態、素材のテクスチャーを簡易な表現にすることで、日本建築とは相容れない教会やフレンチレストランと違和感なく融合。また、新設の宴会場やチャペルを通して、伝統と現代が織り成す独自の施設を手掛けた。	作者による 作品解説	衣服を扱う空間では、高級感を兼ね「鉄そのもの」を感じるよう、できるだけ素直な仕上げでダイナミックに壁や什器を使用し、鉄と石の空間に、家具を扱う空間では、吉村で構成された「木そのもの」を感じられる木の空間に、雑貨・小物陳列を扱う空間では、商品の持つ素材感がガラスや光を通して浮かぶ上がつくってくるような光の空間に設計。無印の思想を体現するにふさわしく大胆に構成し融合させることで、ある種素朴な感じが空気と共通の統一感・緊張感を与え、どこからでも素材を感じることができる。				
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L39	年代	2008年	作品番号	L40	年代	2009年
建築名	MUJI 新館	用途	物販店	建築名	豊秋ユタリ	用途	レストラン
所在地	新館	商店建築	掲載なし	所在地	東京都渋谷区恵比寿南1丁目7-8	商店建築	2009年
工期	2008年	面積	1419㎡	工期	2009年	面積	296.82㎡
材料仕様	2F/床 : 吉村フローリング/バターン張り白亜布仕上げ 壁 : 原材ベニヤ張り、布張 1F/床 : 吉村フローリング/バターン張りグレー塗装仕上げ 壁 : 古鉄板張り、本漆喰 1MF/床 : 吉村フローリング/バターン張り 壁 : PB+AEP B1F/床 : 吉村フローリング/バターン張り 壁 : 土壁、吉村バターン張り	材料仕様	床 : モルタル下地オーク無垢材フローリング貼り (壁造) 木製れ日エリア/白御影石水磨き貼り 波紋エリア/白御影石8貼り 壁 : LGS組みPB下地ウレタン入り無垢材覆層仕上げ材吹き付け塗装 (ジュリパット 奥土/アイカ工業) 白御影石水磨き張り 木製れ日エリア/本漆喰張り 壁面/白材染貼り 布張露スチール丸欄まの上CL吹き付け塗装 天井 : LGS組みPB下地AEP 木製れ日エリア/スチールボツ調板レーザーバターンカットの上焼き付け塗装 家具 : 木製れ日エリア/カウンター・サウラ無垢材 (板製作所)				
作者による 作品解説		作者による 作品解説	大きく二つに分かれた店内には、開放的なガラスファサードから吹き抜ける光が注ぎ込む、二つの空間のテーマを木製れ日と波紋とした。光を中心のエレメントとして用いて、光の効果を高めるために素材感を極力取り込んだ。従来の豊秋のイメージである素材感のパッチワークではない新たな試みで、進化した豊秋を表現した。木製れ日の空間は、木と鉄を基調とした温かく柔らかなある壁面や床面に、あらゆる個所から注がれる光の粒で空間を包み込む。石とガラスを基調にした波紋の空間は、メーンキッチンとなる石のオープンカウンターとワインセラーを				
図面・写真		図面・写真					

図 2 6 L37~L40

作品番号	L41	年代	2010年	作品番号	L42	年代	2011年
建築名	コレド室町	用途	商業ビル	建築名	カフェ&ミール MUJI 南青山	用途	カフェ
所在地	東京都中央区日本橋室町2丁目3-1	商店建築	2010年	所在地	東京都港区南青山5丁目11-9	商店建築	2012年3月号
工期	2010年	面積	16,166.19	工期	2011年4月25日~6月1日	面積	231㎡
材料仕様	<p>（コレド室町）</p> <p>床：地下1階/花道前張り、無垢ホワイトオーク材フロアリング張り、1、2階/スライレン張り 無垢ホワイトオーク材フロアリング張り 壁：地下1階/特注スライレンがターン張り 花道前張り 1階/特注大理石パタン張り/特注スライレンがターン張り 天井：地下1階/AEP（白塗） 1階/AEPアルミニウムキャスト特注仕上げ2階/AEP（コレド室町） 付器：地下階/オーク材フロアリング張り、1階/アビビジャン仕上げ、2階仕上げ 平家・ビジャン仕上げ、3、4階/</p>	<p>床：コンパネ下地オーク材フロアリング張りの上UC仕上げ 壁：LGS組APB下地土壁ワラス入り仕上げ 木材本無垢焼バータム張り グラフィックシート張り 天井：LGS組APB下地AEP 一部未松材突き板張り（サンフト/灰三） 染色仕上げ 家具：ダイニングチェア、ソファ/オリジナル仕様（無印良品） ハイスツール（ゲートジャパン） ビッグテーブル、バン台/吉村オイル仕上げ 照明器具：大光電機 その他：シャンデリア/陶材（無印良品）利用オリジナルディスプレイ/泉美酒瓶、オイル瓶、香卓料瓶</p>					
作者による 作品解説	<p>明治時代のエネルギーを現代に表現する 今回の「コレド室町2」では「明治時代」をモチーフに地下1階から地上2階までの商業施設共同部のデザインを担った。「明治時代」は江戸文化を引継ぎながらも、西洋の新しい文化を取り入れ、日本が大幅へと変化した時代だった。そうした「明治時代」と「現代」がこの地で会い、にぎわいのある新しい文化へのよみがえりとなる商業空間を創出した。その空間の立ち立ちは建築家として歴史にスタイルを残した。スタイルは明治時代から大正時代にかけて多用されてきた建築材料、気取った感じ</p>	<p>壁面には無印の「素の食」を表す野菜の巨大スケールビジュアルと、無印の商品でつくられたビッグシャンデリアが出迎えるリセールベアリーとなっている。 ベアリーを抜けると右手にはシーレスキッチンとデリケース、中央に古木のビッグテーブルを設けたメインホールが広がり、厨房から伝わる熱気や躍動感が楽しい食のシーンを演出している。その奥にはベンチシートやソファシートを配したカンファタブルな席や、窓に面するハイカウンター席、トップライトの光が降り注ぐダイニングテーブル席など、カラスキームや席の在り方に変化を与える</p>					
図面・写真							
作品番号	L43	年代	2011年	作品番号	L44	年代	2012年
建築名	MUJIテラスモール湘南店	用途	物販店	建築名	アンダーズホテル	用途	ホテル
所在地	神奈川県湘南	商店建築	なし	所在地	上海	商店建築	なし
工期	2011年	面積	1240㎡	工期	2012	面積	680㎡
材料仕様	<p>床：フローリング張 一部鉄板張り 壁：PBの上EP塗装 一部スケルトンの上EP塗装 一部古木材張り 天井：スケルトン天井EP塗装 付器：古鉄板加工、半管パイプ組立加工</p>	<p>床：磁器質タイル張、一部石本磨き、一部フロアリング張 壁：PBの上EP塗装、一部木レンガ積 天井：PBの上EP塗装、一部スチールパネル張</p>					
作者による 作品解説		作者による 作品解説					
図面・写真							

図 27 L41~L44


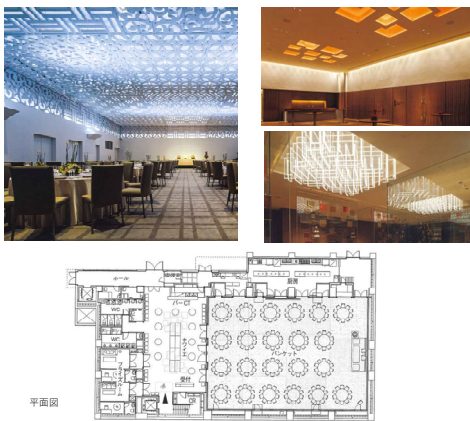

作品番号	L45	年代	2013年	作品番号	L46	年代	2014年	
建築名	パークハイアット釜山	用途	ホテル	建築名	マナーハウス島津 重演荘	用途	ウェディング施設	
所在地	51, Marine City 1-ro, Haeundae-gu, Busan, South Korea	商店建築	2013年6月号	所在地	鹿児島県鹿児島市清水町31-7	商店建築	2016年8月号	
工期	2013年	面積	3万4963.6㎡	工期	2013年12月1日～2014年11月5日	面積	1401.69㎡	
材料仕様	床：中国産湖粉石本磨き仕上げ オーク材フロアリング貼り染色、1階ミーティングルーム/ ウォールナット材フロアリング貼り ガストルーム、3階トリートメントルーム/ オーク材フロアリング貼り 33階/オーク材フロアリング貼ターン貼り 壁：中国産湖粉石 オーク突き彩色、1階ロビー/高さ調整可能な仕上げ (岐阜産石材) 扉：2階ホール/木枠入り (ベニヤ) ガストルーム/オーク突き彩色グレー染色、32階/ 古本、鉄板、古材、古瓦、ガラス、骨董集積 33階/レンガタイル貼り 天井： 天吊：	床：パンケット/モルタル下地床タイルカーペット貼り (川島織物セルコン) ホワイト/オーク材染色加工フロアリング貼り (壁造) サロニー一部/コンクリート下地/オーク材染色加工フロアリング貼り (壁造) 扉：LGS組みPBH2.5下地AEP (RAL-9003) 天吊：LGS組みPBH2.5下地AEP (RAL-9003) パンケット/アルミキャスト格子 ホワイト/スチール網ボックス吹き付け建築 サロン/アクリルパネル430 織木：パンケット/オー	このホテルのエントランスでは、ランドスケープの景色を取り込んださまざまな木々や巨大な自然石の壁、また発光するガラスブロックなどを配し現代の枯山水をイメージした。 ゲストルームでは、カラスキームを環境に馴染ませ、極力採光を取ることによってオーシャンビューを最大限に生かした居心地の良い開放的な空間となった。 全体を通してこのホテルの一つの家 (レジデンス) と見立て、個々のフロアにレジデンスの要素を散りばめることで、ゲストがまるで家の中を回遊していくような居心地の良さや楽しみが持てる空間になったのではないだろうか。	備前藩、島津入光公の別邸であったこの場所では、歴史的背景を踏すことのないようなデザインが求められ「和と光の融合」をコンセプトとしている。多様化への解答として、定型化された光だけではなく、あらゆるシーンを創造することができる可能性から計画をスタートした。 多様なシーンに対応できるように、天井造作内には無数の色合いがよにも変化するRGBライトを配陣し、また小型照明器具を天井に取り付けることで、人生の節目となるウェディングシーンにキラメキを与える星空を表現した。天井造作は和を想起させる着物の柄からパターンを抽	図面・写真		図面・写真	
作品番号	L47	年代	2015年	作品番号	L48	年代	2015年	
建築名	ライトオン MOZOワンダーシティ店	用途	ブティック	建築名	AZIA	用途	レストラン	
所在地	愛知県名古屋西区二方町40	商店建築	2016年6月号	所在地	Mikhailovskaya Ulitsa1/7 St.Petersburg,Russia	商店建築	2016年2月号	
工期	2015年7月27日～9月3日	面積	580㎡	工期	2013年11月1日～2015年4月30日	面積	700㎡	
材料仕様	床：オーク材フロアリング (HS Oak 155/壁造) 貼りUCツヤ消し塗装 壁：LGS組みPBH12.5下地AEP (RAL-9003) 天井：ツヤ消し塗装 (白) 織木：木エッカー塗装 (壁面同色) 什器：木什器/スチール/スチール/ステンレス/スチール特殊塗装 鉄什器/鉄板クリアツヤ消し特殊塗装 (黒) 梁・柱/古材/木加工 鉄インスタレーション/スチール特殊塗装	床：ヨーロッパオーク無垢材染色UCツヤ消し仕上げ、大理石(セルベジャンテ)本磨き仕上げ 壁：特注ロングタイル貼り(ジョイントセラムミック)、大理石(クレママーフィ)本磨き削削ボーダー貼り仕上げ、ヨーロッパオーク突き彩色UCツヤ消し仕上げ 天井：ガラス繊維強化石膏特仕(パターン)特注色塗装ツヤ消し、AEP(グレー) 什器：ヨーロッパオーク無垢材染色UCツヤ消し、一部ウォールナット無垢材 シェード、SUSミラー その他：パーカウンター/ガラスブロック	資材置き場、工場の持つ空間をコンセプトとして構築。ファサードの一部には、実際に店舗で利用、販売しているジーンズ約300着を使用した集積のアート壁を制作。建造物や重機などを撤去した際に出る、鉄を主体とした産材、H鋼、L型鋼、丸パイプ、重機の部材などを利用したバーゴラのインсталレーションを製作し、産材のメーターや鉄のバルブを使用したバーティカルで空間を仕切った。 鉄の産材、木の古材を再利用、再構築することで、ジーンズそのものが持つイメージをショップの全体の魅力として表現している。(間庭 坂/スーパーボテ	ネオクラシカル様式の外観、アール・ヌーボー様式の内装が施されたホテルである。グランドフロアに備えていたチャイニーズおよびイタリアンレストランを統合し、アジアンミュージンレストランへと改装するという依頼から、デザインコンセプトを「OLD&NEW」と設定し、そのコントラストの魅力を感じながら食事を楽しむ空間を目指した。 柔らかな光を帯びたキャストガラスカウンター、ワインボトルに囲まれたドリンクバーエリアに迎え入れられる。隣接するアジアンキッチンエリアは、ガラスとステンレスのミニマルな仕上げの中に、自然光を残し	図面・写真			

図 2 8 L45~L48



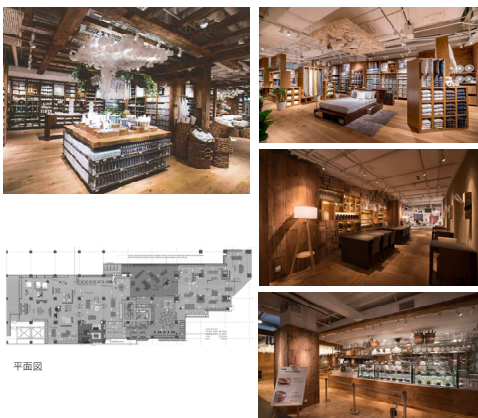
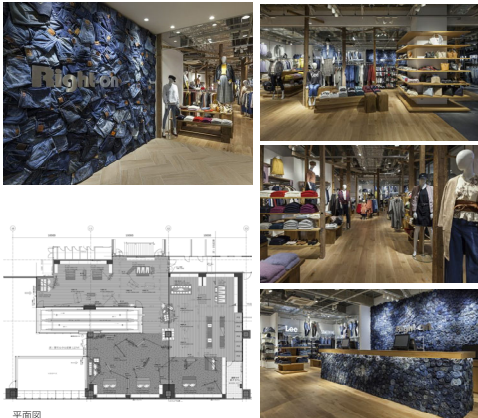
作品番号	L49	年代	2016年	作品番号	L50	年代	2017年
建築名	MUJI 上海	用途	物販店	建築名	パークハイアットソウルダイニング	用途	ホテル
所在地	上海 中国	商店建築	なし	所在地	ソウル特別市	商店建築	2017年
工期	2016年	面積	1650㎡	工期	20017年	面積	520㎡
材料仕様	床：フローリング張、磁器質タイル張 壁：PBの上EP塗装、鉄板張、古木張 天井：スケルトン天井EP塗装			材料仕様	床：中間層部を切り取り敷し仕上げ500mm貼り、ティンバーハウス/磁器質材料張の上アンティークワックス仕上げ、ゲストルーム/ホワイトオーク無垢材フローリング貼り、ウオールトップ無垢材フローリング貼り 壁：無垢材張床フェニックス材仕上げ防汚無垢材、ラワン材/花崗・大理石、コーナーストーン/ホワイトオーク無垢材カーバー仕上げ、ティンバーハウス(古木・古瓦・鉄板無垢、木調子パターン貼り、ミーティングルーム/貼り壁・タペストリーガラス、124反射シート、ステンレスカーバーH/L、ゲストルーム/ウオールトップ		
作者による 作品解説				作者による 作品解説	パークハイアットソウルは、ハイアットが運営するインターナショナルホテルである。このホテルが目指したのは、豪華さではなく新しいコミュニケーションである。このホテルは都会の真ん中に位置しているのが、ゲストルームは落ち着いて、休まる空間でなくてはならない。まず、バスルームを重かにし、部屋全体も広く、かつて古い時代のプリミティブでナチュラルな空気をイメージしている。このホテル全体がスパホテルという運営コンセプトに基づき、リラクゼーションできる部屋を目指した。(新谷)		
図面・写真				図面・写真			
作品番号	L51	年代	2017年	作品番号	L52	年代	2017年
建築名	無印良品 プラザシンガポール	用途	物販店	建築名	ライトオン渋谷	用途	ブティック
所在地	シンガポール	商店建築	掲載なし	所在地	東京都調布市布田4丁目4-22 A館3F	商店建築	掲載なし
工期	2017年	面積	950㎡	工期	2017年	面積	1760㎡
材料仕様	床：フローリング張 壁：PBの上EP塗装、古材乱張り 天井：スケルトン天井EP塗装			材料仕様	床：フローリング張、一部タイル張 壁：PBの上EP塗装 天井：スケルトン天井EP塗装		
作者による 作品解説				作者による 作品解説			
図面・写真				図面・写真			

図 29 L49~L52

作品番号	L53	年代	2017年	作品番号	L54	年代	2018年
建築名	星野リゾート 界 アンジンダイニング	用途	ホテル	建築名	無印良品 大阪	用途	物販店
所在地	静岡県伊東市清町5-12	商店建築	2017年8月号	所在地	大阪	商店建築	掲載なし
工期	2015年9月30日～2017年2月10日	面積	建築面積：4240㎡ 床面積：4121㎡	工期	2018年	面積	1340㎡
材料仕様	床：木船組みコンパネ地下スチール防水の上パワモルタル均し仕上げ、1階/玄關石貼り オーク無垢材フローリング貼り染色オイル仕上げ 2階/御影石貼(カレドニア) 3～7階/ウォールナット無垢材フローリング貼り染色オイル仕上げ 御影石本磨き仕上げ(カレドニア) 欄干：1、2階/オーク無垢材フローリング貼り染色オイル仕上げ 3～7階/ウォールナット無垢材フローリング貼り染色オイル仕上げ 壁：LGS貼+PB地下土壁フラスコ入り金ゴテ仕上げ 3～7階/ウォールナット切突き板張目張り 船版系板磨き仕上げ材仕上げ	材料仕様	床：モルタル金網防塵塗装 壁：スケルトンの上EP塗装 天井：スケルトンの上EP塗装				
作者による 作品解説	全客室から伊東の海を一望する8回建ての建物からなり、濃いグレーの印象的なファサードを持つ。1階エントランスロビーでは、古い木船を解体し再構築したアートウォールがゲストを迎える。古民家から回収した欄間のスクリーンや、船の解体材を使用したアートパネルが開口部に広がる海と段々なびんでいくような空間に仕上げた。ゲストが湯上がり後に休憩できるスペースとして船の甲板をテーマにしたオープンエアのデッキを設けた。館内全体に点在したアートが、海の景色と溶け合い、船旅という一つのストーリーを語る。(橋谷)	作者による 作品解説					
図面・写真		図面・写真					
作品番号	L55	年代	2018年				
建築名	MUJI HOTEL SHENZHENダイニング	用途	ホテル				
所在地	中国広東省深圳市福田區華富街道華富路5001深業上城內	商店建築	2018年6月号				
工期	2017年6月～2018年1月	面積	1万237㎡ (うち厨房130㎡)				
材料仕様	床：ロビー、ダイニング/オーク材フローリング貼り 無印良品/白御影石JP貼り 染色オーク材フローリング貼り 客室/オーク材フローリング貼り 壁：PB下地裏すき入り土壁金ゴテ仕上げ ロビー、ダイニング/古材集積 古鉄板磨き染色仕上げ 無印良品/染色古材貼り 客室/PB下地珪藻土金ゴテ仕上げ織物クロス貼り 天井：PB下地樹脂系複層仕上げ材吹き掛け(ジョリパッドゆず肌/アイカ工業) 家具：オーク無垢材						
作者による 作品解説	79室の客室を持つホテルと800坪の物販店舗、それをつなぐダイナーが一体となって計画された。無印良品、MUJI Diner、MUJI HOTELにより、MUJIのあるライフスタイルの世界観を一度に体験できる施設である。ホテルに必要な不可欠な機能的要素を絞り込む作業を全体ゾーニングからディテールに至るまで徹底して行い、茶室のような研ぎ澄まされた空間づくりを狙った。ホテル全体では、木や土などのナチュラルで素朴な素材を基調とし、ホテルのロビーやダイナーには現地で手に入れた古木材や船の甲板などをインスタレーションと						
図面・写真							

図 30 L53~L55

安井秀夫

デザイン要素分析による
杉本貴志の商環境デザイン作品のインテリア特性研究

名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻，博士論文

2024年1月

Hideo YASUI

Research on Interior Characteristics of Takashi Sugimoto's Commercial Environmental
Design Works Through Design Element Analysis

Doctoral dissertation for Graduate School of Socio Engineering , Nagoya Institute of Technology

January 2024